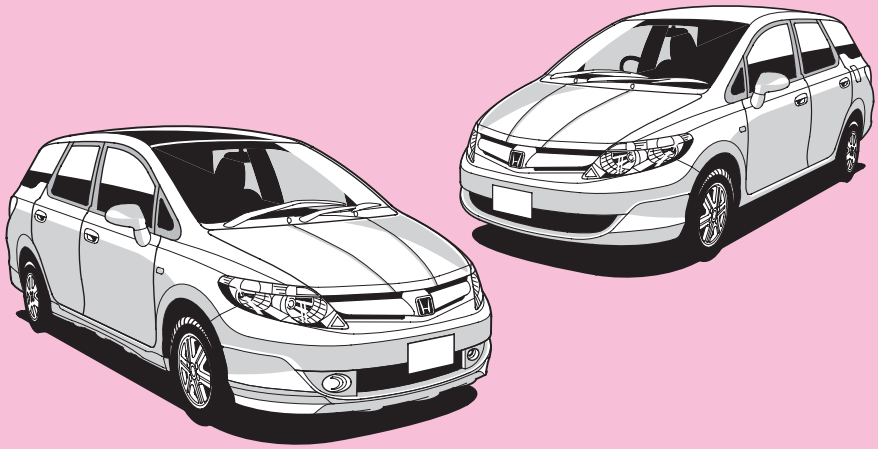
取扱説明書

ご使用の前に
よくお読みください。

AIRWAVE

このたびはHonda車をお買い上げいただき、ありがとうございます。

この本は AIRWAVE の取り扱いについて
必要事項を説明しています。
安全で快適なドライブをお楽しみいただくために、
ご使用前に必ずお読みください。



●運転はルールを守り、マナーよく。 ・シートベルトを着用しましょう。 ・法定速度を守りましょう。 ・子供やお年寄りをいたわりましょう。 ・駐停車は、ルールに従いましょう。 ・迷惑運転はやめましょう。 ・自然環境保護に気をくばりましょう。	●お車に“ ⚠ 📖 ”の表示があるところは、ご使用前に本書の記載を確認してください。 ●取扱説明書は、メンテナンスノートと共に、いつもお車に保管してください。 ●お車をゆずられるときは、つぎに所有されるかたのためにこの取扱説明書およびメンテナンスノートを車につけておいてください。
●保証や点検整備に関することはメンテナンスノートに記載しておりますので、ご使用前に必ずお読みください。	●ご不明な点は、担当セールスマンにおたずねください。

車の仕様などの変更により、この本の内容と実車が一致しない場合がありますのでご了承ください。

本書の読みかた

この本はドライバーの動作に沿って各部の取り扱いを説明しています。
また、装備、万一のときの応急処置、お車の手入れなど、必要な情報を説明しています。

「安全ドライブのための必読 6 ポイント」

重要ですので、しっかりお読みください。

安全に関する表示

「運転者や他の人が傷害を受ける可能性のあること」を回避方法と共に、下記の表示で記載しています。これらは重要ですので、しっかりお読みください。

⚠危険
指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至るもの

⚠警告
指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの

⚠注意
指示に従わないと、傷害を受ける可能性があるもの

その他の表示

お車に関することや、その他のアドバイスは下記の表示を使って記載しています。

アドバイス
お車のために守っていただきたいこと
（車が故障・破損するのを防ぐためのアドバイス、異常事態の処置方法を記載しています）

知 識
知っておいていただきたいこと
知っておくと便利なこと

タイトル
階層ごとにデザインを
変えてあります

ヘッダー
ページの内容を
示しています

**ページ
インデックス**
（→4ページ）

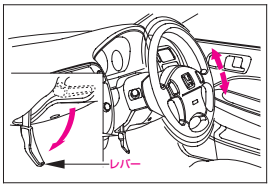
ハンドル・バックミラーの調節

チルトステアリング

ハンドルの高さを適切な位置に変えることができます。

▼

レバーを押し下げ、ハンドルの高さを適切な位置にして、レバーを元の位置まで確実に引き上げて固定します。



⚠注意

- 走行中に調節するとハンドルが必要以上に動くことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあります。調節は走行する前に行い、ハンドルに上下方向の力を加え固定されていることを確認してください。

ルームミラー

知 識

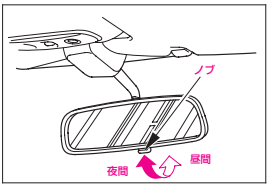
- 走行中はミラーの調節を行わないでください。

●防眩式ルームミラー

夜間走行時、後続車のライトがまぶしいときにライトの反射を弱くできます。

▼

ノブを動かして切り換えます。



角度調節はノブを昼間の位置にして行ってください。

●長期間使わないで屋外におくとき

塗装面の保護とドアまわりの凍結を防ぐために、ボディカバーを使ってください。

⚠注意

- 格納するとき、エンジン部を毛布で覆ったり、ラジエーターのまわりに段ボールや新聞紙をはさみ込んだりしないでください。そのまま走行すると、火災のおそれがあります。

説明文
装置／機構について

解説
▼
操作方法

に分けて記載しています。

安全に関する表示

※このページはサンプルページですので、記載されている内容と実車は異なります。

本書の上手な使いかた

知りたい項目の説明がすぐ探せるように、いろいろな引きかたが用意されています。



タイトルから探すとき

目次（P.6）

ページインデックス：
目次と対応しているので、目的のページが辞書を引くように探せます。



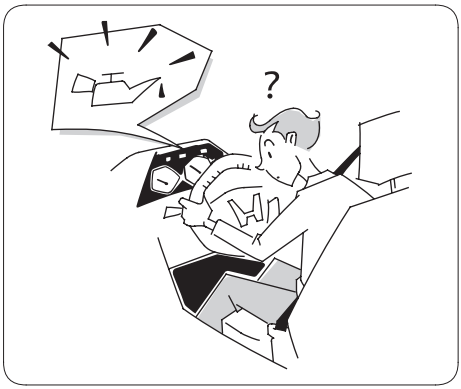
スイッチ類などの名称が
わからないとき

ビジュアル目次
（P.8〜P.11）



名称から探すとき

さくいん
（P.342〜351）



メーター内にランプ(警告灯)が
点灯したとき

警告灯目次(P.12)



故障かな、と思ったときや
万一のとき

さくいん(赤色文字)
(P.342〜351)
「こんなことでお困りのとき」
(巻末)

目　次

◆安全ドライブのための必読 6 ポイント

1. 車を運転する前に

2. 車を運転するときに

3. 安全装備

4. ドライブを快適にする装備

5. 万一のとき

6. 車の手入れ

7. 車との上手なつきあいかた

・サービスデータ

・さくいん

・こんなことでお困りのとき

1．お出かけまえに 14
3．正しい知識で最適運転 20
5．駐車や停車はしっかりと 26
2．お子さまに思いやりを 16
4．オートマチック車の注意ポイント 22
6．こんなことにも注意をしよう 28
13

・各部の開閉 36
・シートの調節 60
・シートベルト 80
・セキュリティーシステム 58
・ハンドル・バックミラーの調節 74
・チャイルドシート固定装置 92
35

・メーター 98
・警告灯 110
・運転のしかた 138
・表示灯 104
・スイッチの使いかた 118
97

・SRSエアバッグシステム 164
・シートベルトプリテンショナー 184
・四輪駆動機構（4WD） 188
・サイドエアバッグシステム 172
・アンチロックブレーキシステム（ABS） 186
・その他の安全装備 189
163

・エアコン 192
・室内照明 238
・オーディオ 210
・室内装備品 244
191

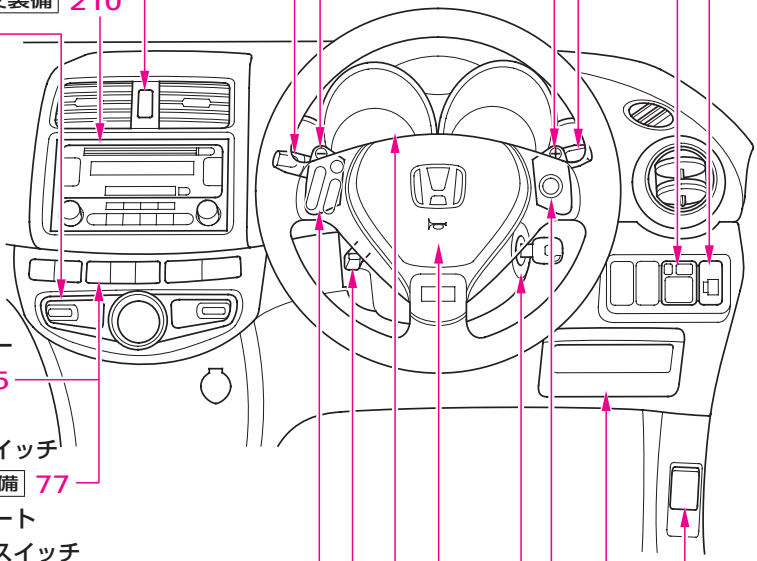
・工具・スペアタイヤ・発炎筒 256
・けん引 262
・電気系統が異常のとき 278
・故障したとき 258
・パンクしたとき 266
・事故が起きたとき 260
・オーバーヒートしたとき 276
255

・点検・整備について 300
・日常の手入れ 302
・車にあった部品の使用 314
299

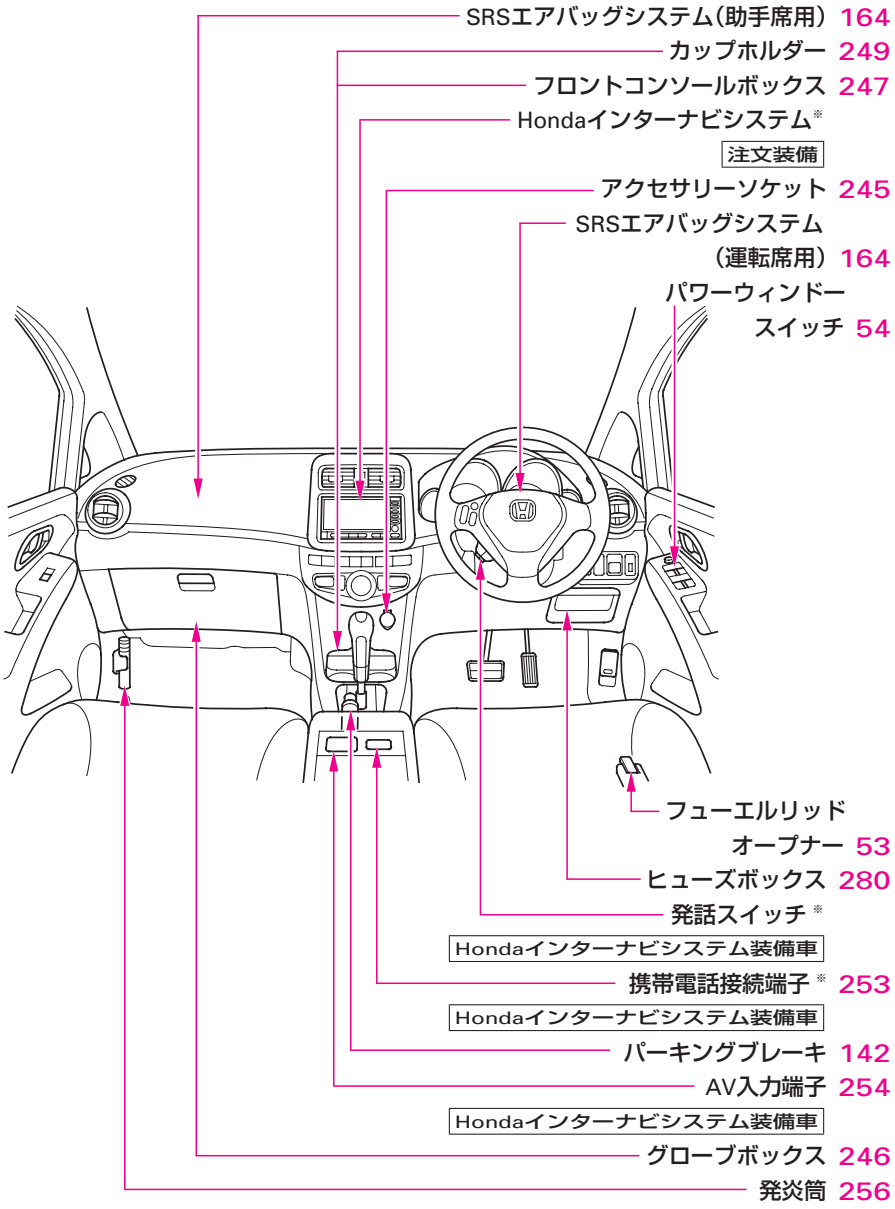
・積雪・寒冷時の取り扱い 316
・環境にやさしい省エネドライブをするために 330
・こんなときは 326
315

334
342
巻末

ビジュアル目次

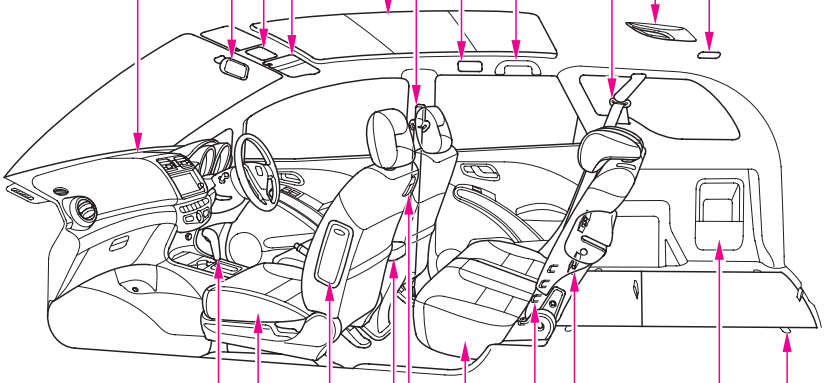


ヘッドライトレベリングダイヤル ハロゲンヘッドライト装備車 131
ドアミラー調節スイッチ 77
ライト／方向指示器(ウィンカー)スイッチ 129、132
フォグライトスイッチ フォグライト装備車 132
7速モードシフトスイッチ
タイプ別装備 146
ワイパー／ウォッシャースイッチ 133
非常点滅表示灯(ハザード)
スイッチ 137
オーディオ 注文装備 210
エアコン 192
リヤデフロスター
スイッチ 135
ヒーテッド
ドアミラースイッチ
タイプ別装備 77
オーディオリモート
コントロールスイッチ
Hondaインターナビシステム装備車、
FM/AMラジオ一体式CD/MDステレオ装備車 236
チルトステアリングレバー 74
メーター 98
表示灯 104
警告灯 110
ホーンスイッチ 137
エンジンスイッチ 118
7速モードメインスイッチ タイプ別装備 146
コインポケット 246
ボンネット解錠ノブ 50



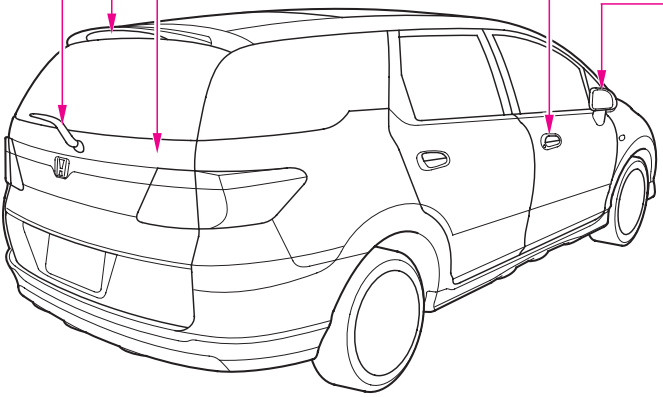
※：別冊のHondaインターナビシステム取扱説明書をご覧ください。

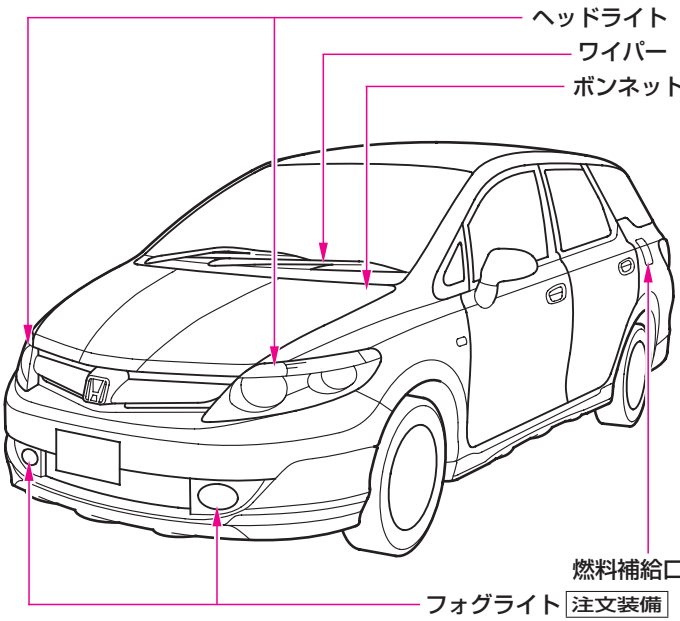
ビジュアル目次



カーゴルーム照明灯 243
シートベルト(チャイルドシート固定機構付き) 92
グラブレール 252
後席室内灯／マップランプ
スカイルーフ装備車 239
室内灯 スカイルーフ非装備車 241
シートベルト 80
サンシェード スカイルーフ装備車 56
サンバイザー 244
前席室内灯／マップランプ 239
ルームミラー 75
センターアッパー
ボックス 246

セレクトレバー 144、150
フロントシート 64
サイドエアバッグシステム
注文装備 172
リヤコンソールボックス 247
コンビニフック 252
リヤシート 66
ISO FIXテザータイプチャイルドシート固定装置 94
カーゴサイドポケット 248
カーゴフック 251


リヤワイパー 135
ハイマウントストップランプ 189
テールゲート 49
ドアの施錠・解錠 41
ドアミラー 76


ヘッドライト 129
ワイパー 133
ボンネット 50
燃料補給口 52
フォグライト 注文装備 132

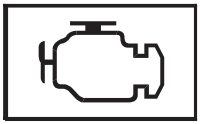
警告灯目次



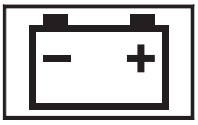
ブレーキ警告灯
→112ページ



油圧警告灯
→113ページ



PGM-FI警告灯
→113ページ



充電警告灯
→113ページ



トランスミッション
警告灯
→114ページ



燃料残量警告灯
→114ページ



シートベルト非着用
警告灯
→114ページ



ドア／テールゲート
開閉警告灯
→115ページ



SRSエアバッグシステム
警告灯
→115ページ



アンチロックブレーキ
システム（ABS）
警告灯　→115ページ



エレクトリックパワー
ステアリング（EPS）
警告灯　→116ページ



Hondaスマートキー
システム警告灯
→117ページ

安全ドライブのための
必読6ポイント

ご使用の前に知っておいていただきたいこと、
守っていただきたいことをまとめてあります。

POINTS 6

●お出かけまえに …… 14
●お子さまに思いやりを …… 16
●正しい知識で最適運転 …… 20
●オートマチック車の注意ポイント … 22
●駐車や停車はしっかりと …… 26
●こんなことにも注意をしよう …… 28

1 お出かけまえに・・・

点検をわすれずに。
＜メンテナンスノート参照＞

- 道路運送車両法により、法定定期点検と日常点検が義務づけられています。
  安全・快適にお使いいただくために、Hondaの点検要領に従って必ず点検してください。
  日常点検は車の使用状況に応じて、お客様の判断で適時行う点検で、お客様自身で実施が可能な項目となっています。
- 普段と違う点に気づいたら、Honda販売店で点検を受けてください。
  （音、におい、ブレーキ液の不足、地面に油のあとが残っている時・・・）
- 走行中も車の状態に気を配り、いつもと違う音やにおい、運転感覚などを感じたら早めに点検しましょう。

シートベルトを正しく着用。
＜81ページ参照＞

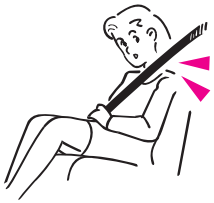
- 運転する人はもちろん、同乗する人にも必ず着用させてください。
- シートに深く腰かけ、背もたれは必要以上に倒さないでください。
- 腰骨のできるだけ低い位置に着用してください。



- ベルトにねじれがないか確かめてください。



- ベルトがくび、あご、顔などに当たらないようにしてください。



- 一本のベルトを二人以上で使用しないでください。



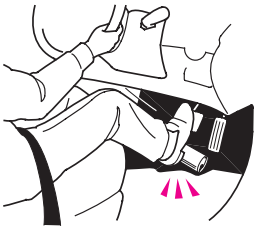
燃料の入った容器やスプレー缶などはのせないで。

引火、爆発のおそれがあります。

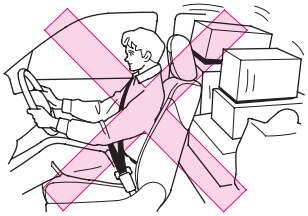


運転の妨げになる物には注意を。

- **運転者の足もとに、物を置かないでください。**
- **フロアマットが、ペダルに引っかからないように注意してください。**
  ブレーキやアクセルのペダル操作が、確実にできないおそれがあります。

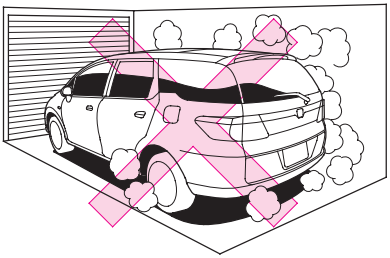


- **手荷物はシートの高さを越えないようにしましょう。**
  後方視界を妨げたり、急ブレーキのときなどに荷物がとび出すおそれがあります。



排気ガスには十分に気をつけて。

- **排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素が含まれているため、吸い込むと一酸化炭素中毒のおそれがあります。**
- **車庫や屋内などの換気の悪いところでは、エンジンをかけたままにしないでください。**
  車内や屋内などに排気ガスが充満し一酸化炭素中毒のおそれがあります。



- **排気管に穴や亀裂があったり、排気音の異常に気づいたらHonda販売店で点検を受けてください。**
  車内に排気ガスが侵入するおそれがあります。

2 お子さまに思いやりを

お子さまは、うしろの席に。

●**助手席にのせるのは避けましょう。**

・不意の動作が気になったり、スイッチ・レバー類のいたずらなど運転の妨げになるおそれがあります。また、事故が起きた場合、後席のほうが安全といわれています。

・インストルメントパネルに手をついたり、顔や胸を近づけた状態での乗車は、SRSエアバッグが膨らむ際、強い衝撃を受けるおそれがあり危険です。

・サイドエアバッグ装備車では、フロントドアに寄りかかった状態での乗車は、サイドエアバッグが膨らむ際、強い衝撃を受けるおそれがあり危険です。

・お子さまを後席に乗せることができなく、やむをえず助手席に乗せるときは、一番大きなお子さまを乗せてください。

お子さまにもシートベルトを。

●**お子さまにも必ずシートベルトを着用させるか、チャイルドシート※をお使いください。**

お子さまを抱いていても、衝突したときなどに支えることができず危険です。



※：乳児用シート、幼児用シート、学童用シートをまとめた総称として「チャイルドシート」と呼んでいます。

●**お子さまのくびやあごにシートベルトがあたる場合や腰骨にかからない場合は、幼児用シートや学童用シートを使用してください。**

・シートベルトをそのまま使うと衝突のときに腹部などに強い圧迫を受けるおそれがあります。
また、ひとりですわることのできない小さなお子さまは乳児用シートを使用してください。

・チャイルドシートは安全装備です。国土交通大臣が型式を指定または認定したマークが付いているもの、もしくはアメリカやヨーロッパなどの安全基準に合格しているものを必ず選んでください。

・シート形状などにより、チャイルドシートを正しく取り付けできない席があります。このようなときは、他の席で試してください。または、この車に合ったチャイルドシートを使用してください。

・この車には、ISO FIX テザータイプのチャイルドシートを固定するための固定専用バーとテザーアンカーが装備されています。
この車用に認可を取得したチャイルドシートのみ固定し、使用することができます。

ISO FIXテザータイプ
チャイルドシート固定装置
→94ページ

・Honda純正品のチャイルドシートをご用意しています。ご購入、ご使用に際してはHonda販売店にご相談ください。

《選択の目安》
詳しくはチャイルドシートに付属の取扱説明書をご覧ください。

ISO FIX タイプを除く

	体重(kg)	参考身長(cm)	参考年令
乳児用(ベビー)シート	～10	～75	～12か月
幼児用(チャイルド)シート	9～18	70～100	9か月～4才
学童用(ジュニア)シート	15～32	100～135	4才～10才

ISO FIX テザータイプ

	体重(kg)	参考身長(cm)	参考年令
乳児用(ベビー)シート	～9	～70	～9か月
幼児用(チャイルド)シート	9～18	70～100	9か月～4才

●**チャイルドシートは確実に取り付けてください。**

お子さまを乗せるときは、チャイルドシートが車に確実に取り付けられていることを確認してください。

また、お子さまの体をチャイルドシートにきちんと固定してください。

・ISO FIX対応以外のチャイルドシートは、シートベルトの種類やチャイルドシートの種類と取り付けの向きによっては、固定金具(ロッキングクリップ)が必要になることがあります。

シートベルトの種類　→82ページ
チャイルドシート固定機構付きシートベルト　→92ページ

・ISO FIX テザータイプのチャイルドシートは、固定専用バーとテザーアンカーを用いて固定します。

テザーアンカーにテザーストラップを結合することにより、チャイルドシートを確実に固定することができます。

チャイルドシートを前向きに取り付けるときは、このバーとテザーアンカーを用いて固定します。

後ろ向きに取り付けるときは、テザーアンカーは使用しません。

・ISO FIX テザータイプのチャイルドシートは、シートベルトで固定する必要はありません。

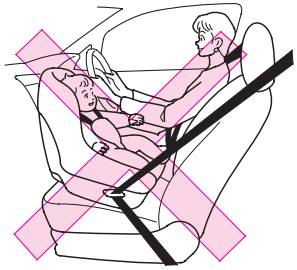
ISO FIXテザータイプチャイルドシート固定装置　→94ページ

・詳しくはチャイルドシートに付属の取扱説明書をご覧ください。

●**助手席には乳児用シートを取り付けないでください。また、幼児用シートを後ろ向きに取り付けないでください。**

・SRSエアバッグが膨らむ際、乳児用シートや、幼児用シートの背面に強い衝撃を受け危険です。

・やむをえず幼児用シートを前向きに取り付ける場合は、SRSエアバッグから遠ざけるため、シートを一番後ろに下げてください。



●**チャイルドシートを取り外したまま車内に放置しないでください。**

ブレーキや衝突のときなどにチャイルドシートがとび出し傷害を受けるおそれがあります。

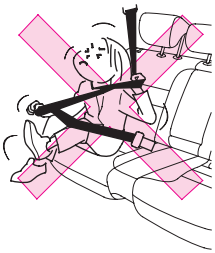
お子さまを乗せないときでも確実に取り付けるか、家などに保管してください。

ドア、ウィンドー、シートの操作は必ず大人が。

- **手、足、顔などをはさまないよう、気をつけてください。**
- **走行する前にすべてのドアが完全に閉まっていることを確認してください。**
  ドアが完全に閉まっていないと走行中にドアが開き、思わぬ事故の原因となります。
- **チャイルドプルーフを使って後席ドアを車内から開かないようにしてください。**
  <48ページ参照>
  走行中にドアを開けると、お子さまが車外に放り出されるおそれがあります。
- **パワーウィンドーのメインスイッチは、“OFF”にしておきましょう。**
  <54ページ参照>
- **走行中、一時停止のときなど、窓から手や頭、物などを出さないよう、注意してください。**
  思わぬ障害物で事故のおそれがあります。

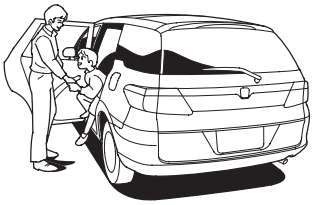
お子さまをシートベルトで遊ばせないで。

- **チャイルドシート固定機構付きシートベルトでは、ベルトをすべて引き出すと完全にベルトを戻すまでは引き出し方向には動きません。**
  ベルトを身体に巻きつけたりして遊んでいると、固定機構が作動してベルトがゆるまなくなり、窒息などの重大な傷害を受けるおそれがあります。
  万一ベルトをゆるめることができなくなった場合は、はさみなどでベルトを切断してください。



車から離れるときは、お子さまも一緒に連れて。

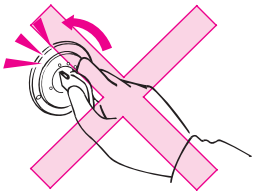
- **お子さまだけを車内に残さないでください。**
  - 炎天下の車内は、高温になり危険です。
  - お子さまのいたずらにより車の発進、火災などの思わぬ事故につながるおそれがあります。



3 正しい知識で最適運転

●**走行中ハンドルの中に手を入れて、スイッチを操作しないでください。**
ハンドル操作の妨げになり大変危険です。

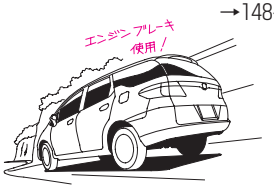
●**走行中はエンジンを止めないでください。**
・ブレーキ倍力装置が作用しないため、ブレーキの効きが悪くなります。
・パワーステアリングのパワー装置がはたらかなくなり、ハンドル操作が重くなります。



長い下り坂ではエンジンブレーキを。

●**ブレーキペダルを踏み続けて走行するとブレーキが過熱して、効きが悪くなることがあります。**

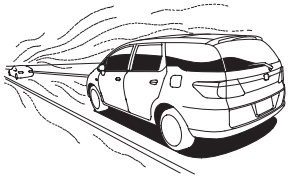
●**長い下り坂では、Sにして、エンジンブレーキを使用してください。**
Sのままで速度が出すぎるときはLにし、さらに強いエンジンブレーキを使用してください。
Lタイプで7速マニュアルシフトモードのときには、走行速度に合わせて、変速段を一段ずつ落としてください。
7速マニュアルシフトモード
→148ページ



エンジンブレーキ：
走行中アクセルペダルを戻したときにかかるブレーキ力のことで、低速ギヤほどよく効きます。

霧が出たときは。

●**霧が出たときは、視界が悪くなります。昼間でもヘッドライトを下向きで点灯し、中央線、ガードレールや前の車の尾灯などをめやすにして、速度を落として運転してください。**



横風の強い日は。

●**横風を受け、車が横に流されるようなときは、ハンドルをしっかり握り、スピードを徐々に下げて進路を立て直してください。**

トンネルの出口、橋・土手の上、山を削った切り通し、大型トラックを追い越したり、追い越されたりするときなどには、特に横風の影響を受けやすいので十分注意してください。



雨天時の走行には注意を。

●**雨天時やぬれた道路では、路面が滑りやすくなっておりタイヤのグリップ力が低下するため、通常より注意深い運転が必要です。**

急加速、急ブレーキや急ハンドルを避け、スピードを落として安全運転に心がけてください。

●**わだちなどの水のたまりやすい場所では、ハイドロプレーニング現象を起こしやすくなります。**

ハイドロプレーニング現象とは

→326ページ

●**冠水路などの深い水たまりは走行しないでください。**

エンジンの破損や電装品の故障および車両故障につながるおそれがあります。

水たまりに入ったあとはブレーキの効き具合を確認。

●**水たまり走行後や洗車後は、低速で走行しながらブレーキペダルを軽く踏んで効き具合を確認してください。**

ぬれたブレーキは効きが悪かったり、ぬれていない片側だけが効いてハンドルをとられることがあります。

●**ブレーキの効きが悪いときは、前後の車に十分注意しながら低速で走行し、ブレーキの効きが回復するまで、繰り返しブレーキペダルを踏んでください。**

走行中異常があったら。

●**警告灯が点灯したら、ただちに安全な場所に停車し処置をしてください。****＜110ページ参照＞**

点灯したまま走行を続けると、思わぬ事故のもとになったり、エンジンなどを損傷するおそれがあります。

●**走行中にタイヤがパンクやバースト(破裂)してもあわてずに、ハンドルをしっかり握り、徐々にブレーキをかけてスピードを落とし、安全な場所に停車してください。**

急ブレーキや急ハンドルは車のコントロールを失うことがあり危険です。

●**床下に強い衝撃を受けたときは、ただちに車を止めて、ブレーキ液や燃料の漏れ、各部に損傷がないかを確認してください。**

ブレーキ液や燃料の漏れ、損傷などにより思わぬ事故につながるおそれがあります。

4 オートマチック車の注意ポイント

オートマチック車は、その特性や操作上の注意をよく理解することが大切です。
「オートマチック車の運転のしかた」もあわせてお読みください。
＜154ページ参照＞

オートマチックについて

AIRWAVEのオートマチックには、ホンダマルチマチックを採用しています。

ホンダマルチマチックは、２つの可変プーリーに金属ベルトを組み合わせ、低速から高速まで無段階に変速するオートマチックトランスミッションです。

オートマチック車の特性を正しく理解。

クリープ現象とは

- エンジンがかかっているとき、セレクトレバーがPN以外に入っていると、動力がつながった状態になり、アクセルペダルを踏まなくても車がゆっくりと動き出します。
  これをクリープ現象といいます。
- ホンダマルチマチック車は、燃費向上や停車時の振動およびブレーキ踏力の低減のため、前進時はブレーキペダルを踏んでいるときのクリープ力を弱く設定しています。ただし、状況によりクリープ力が変化しますのでアクセルペダル操作は慎重に行ってください。

キックダウンとは

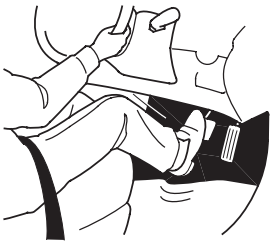
- DまたはSで走行中にアクセルペダルをいっぱいに踏み込むと、自動的に変速比が変わり、エンジンの回転数が上がって、力強い加速を得ることができます。
  これをキックダウンといいます。

1 ブレーキは右足で。

- ブレーキペダルは右足で踏む習慣をつけましょう。
  不慣れな左足では、適切なブレーキ操作ができません。

2 エンジンをかけるまえに。

- ペダルの踏みまちがいのないよう、右足でペダルの位置を確認しておきましょう。



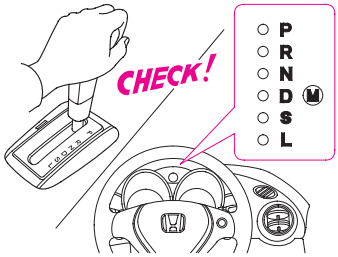
3 エンジンをかけるとき。

- 安全のため、セレクトレバーは駆動輪が固定されるPでエンジンをかけましょう。



4 スタートするとき。

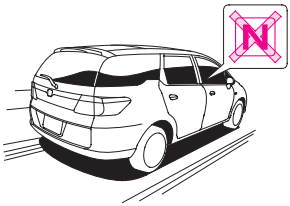
- 思いちがいを防ぐため、セレクトレバーの位置を目で確認しましょう。



- 発進時のセレクトレバーの操作は、右足でブレーキペダルをしっかり踏み、車が動かないようにして行いましょう。
- アクセルペダルを踏んだまま、セレクトレバーを操作しないでください。
  急発進して思わぬ事故のもとになります。
- エンジン始動直後は、自動的にエンジンの回転が上がり、クリープ現象が強くなりますので、ブレーキペダルはしっかり踏んでいてください。
  エアコン作動時も同じです。
- 坂道での発進は車が後退しないように必ずパーキングブレーキを併用し、先にブレーキペダルを離してアクセルペダルに踏みかえてから、パーキングブレーキを解除してください。

5 走行しているとき。

●**走行中は、セレクトレバーをⓃにしないでください。**
エンジンブレーキが全く効かず、思わぬ事故のもとになります。



●**上り坂で、速度を保とうとしてアクセルペダルを踏み込んだとき、キックダウンにより、急にエンジン回転が上がり、思ったより速度が出てしまうことがあります。**
アクセルペダルは、慎重に操作してください。
また、すべりやすい路面やカーブでは、急激なアクセルペダル操作は避けてください。

●**下り坂では、エンジンブレーキも使いましょう。**
フットブレーキを使いすぎると、ブレーキが過熱して、ブレーキの効きが悪くなるおそれがあります。

エンジンブレーキ　→20ページ

6 停車しているとき。

●**車が動かないようにブレーキペダルをしっかりと踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけましょう。**

●**停車中の空ぶかしは、やめましょう。**
万一、セレクトレバーがⓅⓃ以外のとき、思わぬ急発進のもとになります。

7 駐車するとき。

●**駐車するときは、パーキングブレーキをかけてセレクトレバーをⓅに入れ、エンジンを止めましょう。**
万一、セレクトレバーがⓅⓃ以外に入っていると、クリープ現象で車が動き出したり、乗り込むときに、誤ってアクセルペダルを踏み込んで急発進したりするおそれがあります。



ほかに気をつけたいこと。

- **セレクトレバーは正しい位置で使用してください。**
  坂道などで、前進(Ⓓ、Ⓢ、Ⓛ)の位置にしたまま惰性で後退したり、後退(Ⓡ)の位置にしたまま前進したりすると、エンジンが停止してブレーキの効きが悪くなったり、ハンドル操作が重くなり、思わぬ事故の原因となるおそれがあります。
- **後退したあとは、すぐⓇからⓃにもどす習慣をつけましょう。**
  ちょっと後退したときなど、Ⓡに入れたことを忘れてしまうことがあります。
- **前進から後退、後退から前進するときは車を完全に止め、ブレーキペダルを踏んだままセレクトレバーを操作してください。**
  車が完全に止まらないうちにレバーを操作すると、トランスミッション破損のおそれがあります。
- **車が完全に止まらないうちに、Ⓟに入れないでください。**
  急停止して危険であるばかりでなく、トランスミッション破損のもとになります。

シフトロック装置の正しい理解を。

- **ブレーキペダルを踏んでいないと、Ⓟからのセレクトレバー操作はできません。**
  - エンジンスイッチが、“Ⅰ”または“0”のときには、ブレーキペダルを踏んでも、レバーは操作できません。
  - セレクトレバーボタンを押したままブレーキペダルを踏んだ場合、レバーの操作ができないことがあります。先にブレーキペダルを踏んでください。
- **Ⓟ以外では、エンジンスイッチからキーは抜けません。**
  Ⓟ以外では、キーが“Ⅰ”から“0”に回りません。
- **Ⓡに入れるとブザーが鳴ります。**
  - セレクトレバーがⓇのときにブザーが鳴り、Ⓡに入っていることを運転者に知らせます。
  - 車外の人には音が聞こえませんので、ご注意ください。
- **万一、Ⓟからセレクトレバーが操作できないときは:**
  - カバーを外し、

→157ページ

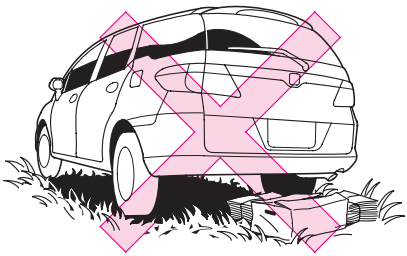
  - キーをシフトロック解除穴に差し込み、
  - キーを押しながら、セレクトレバーを操作します。



5 駐車や停車はしっかりと

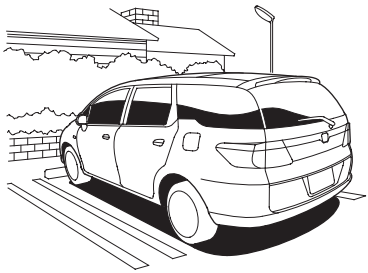
可燃物には注意を。

●**枯草や紙、油、木材など燃えやすい物があるところには、駐停車しないでください。**
排気管や排気ガスの熱により、着火するおそれがあります。



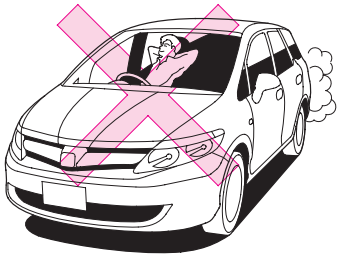
植込みなどにも注意して。

●**植込みなどの近くに駐停車するときには、排気ガスが当たらないように、車の向きを決めましょう。**



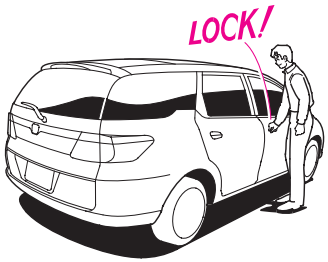
仮眠するときはエンジンを止める。

●**エンジンを必ず止めてください。**
無意識にセレクトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、思わぬ事故を起こすおそれがあります。
また、無意識にアクセルペダルを踏み続けたりした場合、オーバーヒートなどを起こしたり、エンジンや排気管などの異常過熱による火災事故が発生するおそれがあります。
さらに風向や周囲の状況等によっては、車内に排気ガスが侵入し一酸化炭素中毒のおそれもあります。



車から離れるときには施錠を。

●**必ずパーキングブレーキをかけ、エンジンを止め、ドアを施錠してください。**
●**車内の見えるところに、貴重品などを置かないようにしましょう。**
●**お子さまも連れていきましょう。**



車の移動はエンジンをかけて。

●**車を移動するときは、必ずエンジンをかけてください。**
下り坂を利用しての移動などは、思わぬ事故を招くことがあります。

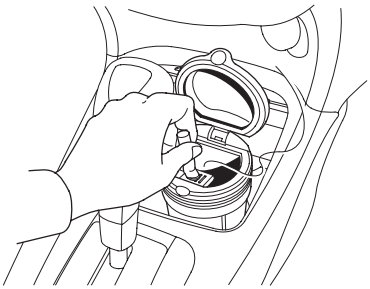
坂道での駐車は。

●**パーキングブレーキをかけ、セレクトレバーを[P]に入れてください。**
さらに、タイヤに輪止めをすると効果があります。

6 こんなことにも注意をしよう

タバコの吸いがらは火を消して。

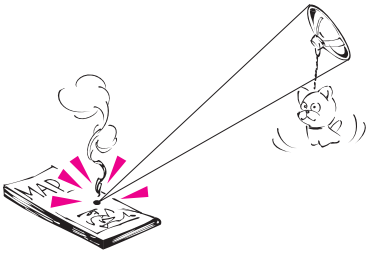
- **タバコ、マッチなどは、確実に火を消してから灰皿に捨て、灰皿は必ず閉めてください。**
- **灰皿の中に吸いがらをため過ぎたり、燃えやすい物を入れたりしないでください。**



（灰皿は別売りです。）

アクセサリーの取り付けには注意を。

- **運転視界の中にアクセサリーなどを取り付けないでください。**
  - ・視界の妨げにより思わぬ事故のもとになります。
  - ・アクセサリーなどの揺れる動きが、車外の状況認識を遅らせることがあります。
- **ガラス面にアクセサリーなどを取り付けないでください。**
  - ・吸盤がレンズのはたらきをして火災につながるおそれがあります。



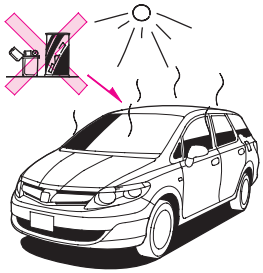
飲み物などを電装品にこぼさないように注意して。

オーディオやスイッチなどの電装品に飲み物がかかると、故障の原因となったり、車両火災につながるおそれがあります。

万一、電装品に飲み物をこぼしたときは、Honda販売店にご相談ください。

車内にライターや炭酸飲料缶などを放置しないで。

炎天下での駐車などで車内温度が上昇すると、ライターなどの可燃物は自然発火したり、缶などは破裂したりするおそれがあります。



ラジエーターキャップに気をつけて。

- **ラジエーターキャップが熱いときは、外さないでください。**

  蒸気や熱湯が吹き出し危険です。



動物を乗せるときは、動きまわらないように注意して。

運転の妨げになったり、急ブレーキのときなどに思わぬ事故につながるおそれがあります。

携帯電話の使用は停車中に。

- **運転者は、携帯電話を走行中に使用しないでください。**
  - 運転者が運転中にハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を使用することは、法律で禁止されています。
  - 運転中の使用により周囲の状況に対する注意が不十分になると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

改造はしない。

- **Honda純正部品以外の、車の性能や機能に適さない部品を、使用しないでください。**
  - 適正な性能や機能を発揮しなかったり、思わぬ事故のもとになったりすることがあります。
  - Hondaが国土交通省に届け出をした部品以外の物を装着すると、違反になることがあります。
- **ホイールは、AIRWAVE専用品をご使用ください。**

  専用品以外のホイールを使うと、走行装置やブレーキ装置に支障をきたすことがあります。

  Honda販売店にご相談ください。
- **無線装置や自動車電話などの取り付けの際には、必ずHonda販売店にご相談ください。**

  装置や取り付け方法が適切でない場合、電子機器部品に悪影響をおよぼすことがあります。

●**運転席および助手席に、SRSエアバッグシステムが装備されています。ハンドルを交換したり、パッドにステッカー類を貼ったりしないでください。**

インストルメントパネル上面には、ステッカー類を貼ったり、アクセサリーや芳香剤など物を置かないでください。

また、フロントガラスにアクセサリーなどを取り付けたり、ルームミラーにワイドミラーを取り付けたりしないでください。

・SRSエアバッグが正常に機能しなくなります。

・作動時にこれらの物が飛ぶことがあり危険です。

・次の場合は、必ず、Honda販売店にご相談ください。

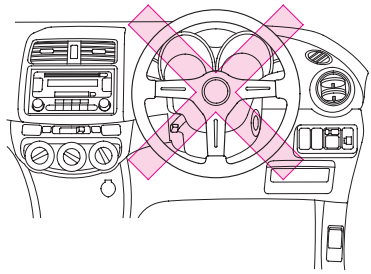
①ハンドルまわりの修理

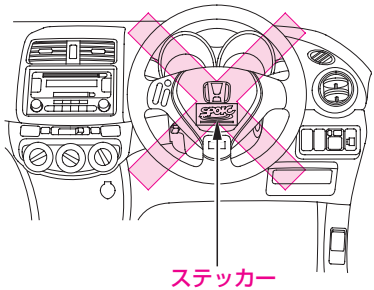
②センターコンソール付近の修理

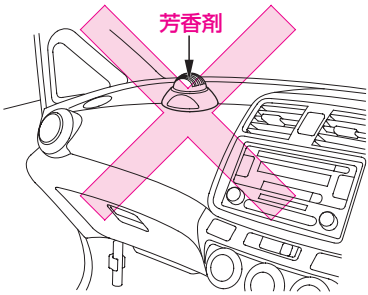
③カーステレオ等用品の取り付け

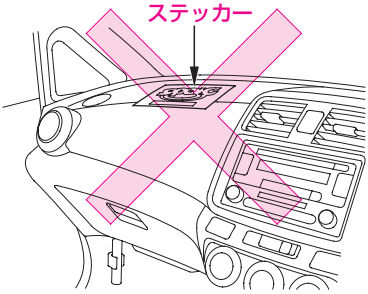
④ダッシュボード周辺の板金塗装および修理

⑤インストルメントパネルまわりの修理



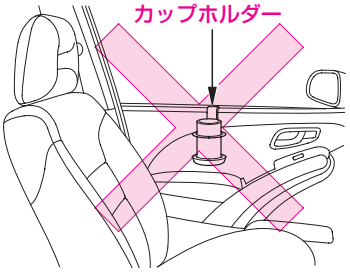






●**運転席および助手席用サイドエアバッグシステム装備車は、フロントドアやその周辺にカップホルダーなどの用品を取り付けたりしないでください。**
フロントシートとドアの間付近に傘などの物を置かないでください。
フロントシートにシートカバーを取り付けないでください。
また、新車時についているビニールのシートカバーは、必ず外してください。

・サイドエアバッグが正常に機能しなくなります。
・作動時にこれらの物が飛ぶことがあります。
・次の場合は、必ず、Honda販売店にご相談ください。
①フロントシートまわりの修理
②センターコンソール付近の修理
③カーステレオ等用品の取り付け
④センターピラーまわりの修理

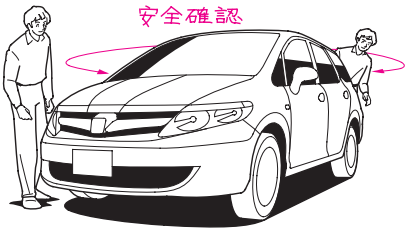




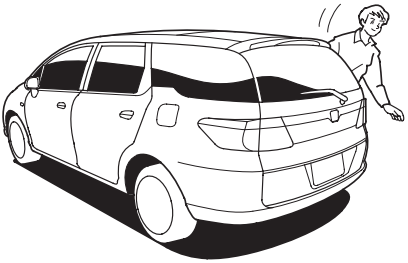
発進するときは、まわりの状況に十分注意して。

車のまわりには運転席から見えないところ(死角)があります。発進するときは子供や障害物など車のまわりの状況に十分注意してください。

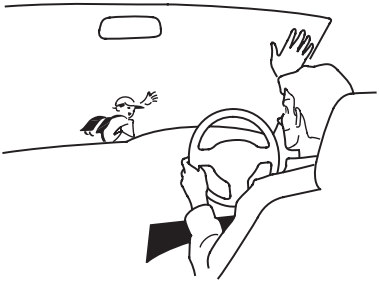
- 駐車後に発進するときは、車のまわりの安全確認を十分に行ってください。



- 後退するときに十分な視界が得られない場合は、車から降りて後方を確認してください。
  バックミラーでは確認しきれない死角(車の直後など)があります。



- 信号待ちなどの停車後に発進するときは、つねにまわりの状況に目を配り、安全確認を十分に行ってください。

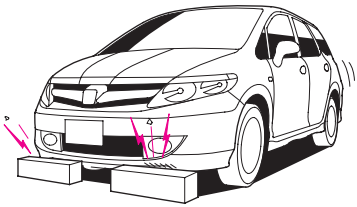


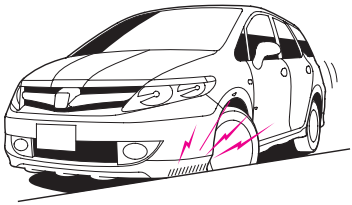
車止めなどに注意して。

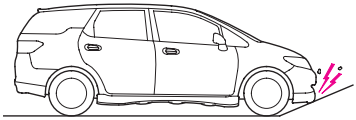
アンダースポイラー装備車

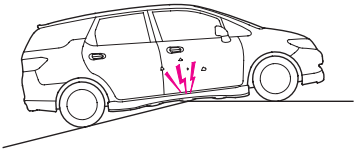
●次のような場合には、アンダースポイラーを損傷するおそれがありますので、十分に注意してください。

- 車止めのある場所への駐車
- 路肩に沿っての駐車
- 平坦路から上り坂・下り坂および上り坂・下り坂から平坦路への乗り入れ
- 路肩等段差のある場所への乗り降り
- 凹凸やわだちのある道路の走行
- くぼみ(穴)のある個所の通過









1

車を運転する前に

●各部の開閉
キーの種類……36
ドア、テールゲートの施錠・解錠……41
テールゲートの開閉……49
ボンネット……50
燃料補給口……52
パワーウィンドー……54
スカイルーフ……56

●セキュリティーシステム
イモビライザーシステムについて……58

●シートの調節
正しい運転姿勢……60
シートアレンジインデックス…62
フロントシート……64
リヤシート……66
フラットシート……70
カーゴスペースの作りかた……72

●ハンドル・バックミラーの調節
チルトステアリング……74
ルームミラー……75
ドアミラー……76

●シートベルト
シートベルト……80
着用のしかた……87

●チャイルドシート固定装置
チャイルドシート固定機構付きシートベルト……92
ISO FIXテザータイプチャイルドシート固定装置…94

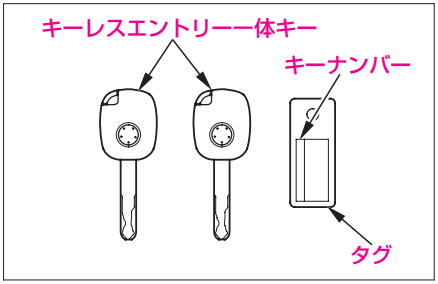
各部の開閉

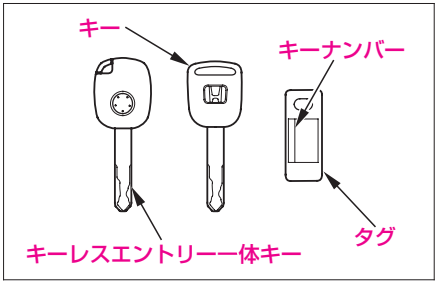
キーの種類

この車には、以下のキーが付いています。すべてのキーには、イモビライザー機能（車両盗難防止装置）が付いています。

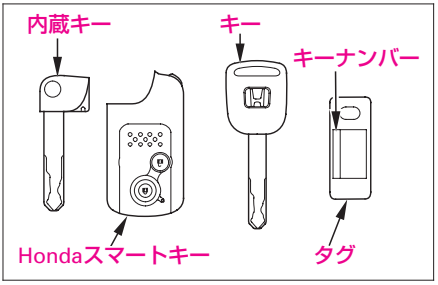
イモビライザーシステムについて
→58ページ

キーレスエントリー一体キー装備車





Hondaスマートキーシステム装備車



知 識

- タグにはキーナンバーが表示してあります。キーを購入する際に必要となりますので、紛失しないように、キーとは別に車両以外の場所に大切に保管してください。
- キーを紛失したときや、追加したいときは、Honda販売店へご連絡ください。

●キー

キーはエンジンの始動、停止のほかに、すべてのドアとテールゲートの施錠・解錠に使えます。

ドア、テールゲートの施錠・解錠 →41ページ
エンジンのかけかた →138ページ

●キーレスエントリー一体キー

キーレスエントリー一体キー装備車

キーはエンジンの始動、停止のほかに、すべてのドアとテールゲートの施錠・解錠に使えます。
キーレスエントリーでは、すべてのドアとテールゲートの施錠・解錠ができます。

ドア、テールゲートの施錠・解錠 →41ページ
エンジンのかけかた →138ページ

アドバイス

- キーには、信号を発信するための精密な電子部品が組み込まれています。
  電子部品の故障を防ぐため、次のことをお守りください。
  - 直射日光が当たるところ、高温、多湿になるところには置かないでください。
  - 衝撃を与えないでください。
  - 水にぬらさないでください。
  - 分解しないでください。
  - 火であぶったりしないでください。
- 電子部品が故障すると、エンジンの始動ができなくなったり、キーレスエントリーが正常に作動しなくなったりします。
  そのようなときは、Honda販売店にご連絡ください。

知 識

- キーレスエントリーは微弱電波を使用しているため、周囲の状況により作動範囲が変化することがあります。

●Hondaスマートキー（キーレスエントリー機能付き）

Hondaスマートキーシステム装備車

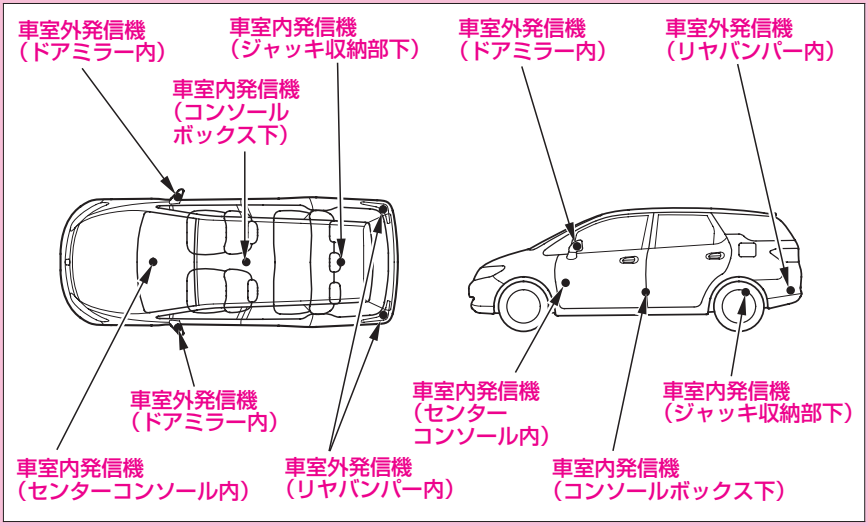
Hondaスマートキーを携帯することで、ドアとテールゲートの施錠・解錠やエンジンの始動、停止ができます。

キーレスエントリーでは、ドアとテールゲートの施錠・解錠ができます。

ドア、テールゲートの施錠・解錠　→41ページ
エンジンのかけかた　→138ページ

⚠注意

- ドアやテールゲートを施錠・解錠するときやエンジンスイッチを操作するときなどに車両からHondaスマートキーシステムの電波が発信されます。
  その際、植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器の作動に影響を与える可能性があります。
  車両に搭載されている発信機から22cm以内に植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器が近づかないようにしてください。
  その他の医療用電子機器を使用しているかたは、医師や医療用機器製造者に影響を確認してからご使用ください。



●内蔵キー

Hondaスマートキーシステム装備車

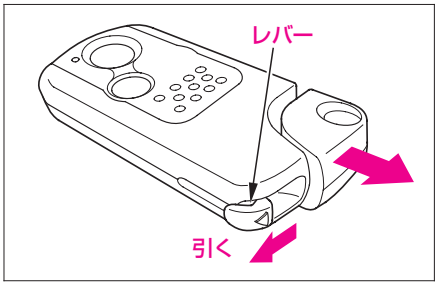
内蔵キーはエンジンの始動、停止のほかに、ドアとテールゲートの施錠・解錠に使えます。

ドア、テールゲートの施錠・解錠 →41ページ
エンジンのかけかた →138ページ

Hondaスマートキーの電池が消耗したときや故障したときなどを考慮して、内蔵キーはHondaスマートキーに収納した状態で携帯してください。

取り出すとき

レバーを引きながら取り出します。



収納するとき

“カチッ”と音がするまで差し込みます。

アドバイス

- Hondaスマートキーおよび内蔵キーには、信号を発信するための精密な電子部品が組み込まれています。電子部品の故障を防ぐため、次のことをお守りください。
  - ・直射日光が当たるところ、高温、多湿になるところには置かないでください。
  - ・衝撃を与えないでください。
  - ・水にぬらさないでください。
  - ・分解しないでください。
  - ・火であぶったりしないでください。
  - ・磁気を帯びたキーホルダーなどを付けないでください。
  - ・テレビ、オーディオなど磁気を帯びた機器の近くに置かないでください。
- 電子部品が故障すると、エンジンの始動ができなくなったり、Hondaスマートキーシステムおよびキーレスエントリーが正常に作動しなくなったりします。そのようなときは、Honda販売店にご連絡ください。

知 識

- Hondaスマートキーシステムは、車両とHondaスマートキーとの電子照合を行うときに微弱な電波を使用しています。
  次のような場合、正常に作動しなかったり、不安定な動作となることがあります。
  - ・近くに強い電波を発する設備があるとき。
  - ・Hondaスマートキーを携帯電話や無線機などの通信機器やノートパソコンなどと一緒に携帯しているとき。
  - ・Hondaスマートキーが金属物に触れていたり覆われているとき。
- Hondaスマートキーは常に電波を受信しているため、強い電波を受信し続けた場合は、電池を著しく消耗することがあります。
  テレビやパソコンなどの電化製品の近くには置かないでください。
- Hondaスマートキーは車両との通信のために常時受信動作をしているため、常に電池を消耗しています。電池寿命は、使用状況によりますが約2年です。

電池消耗警告　→128ページ
電池交換のしかた　→297ページ

ドア、テールゲートの施錠・解錠

●キーで施錠・解錠するとき ……42
●キーレスエントリーで施錠・解錠するとき ……42
●Hondaスマートキーで施錠・解錠するとき ……44
●車内から施錠・解錠するとき ……47
●キーを使わないで施錠するとき ……47
●チャイルドプルーフ ……48

⚠注意

●走行する前にすべてのドアが完全に閉まっていることを確認してください。完全に閉まっていないと、走行中にドアが開き思わぬ事故の原因になるおそれがあります。

知 識

●ドアは不用意に開けると後続車などがぶつかることがあるので周囲の安全を確かめてから開けてください。
●強風時にドアを開閉するときは、風にあおられないよう注意してください。
●車から離れるときは、エンジンを止め、ドアを必ず施錠してください。また、車内の見えるところに、貴重品などを置かないようにしましょう。
●運転席ドアの解錠・施錠に連動して、室内灯が点灯・消灯します。

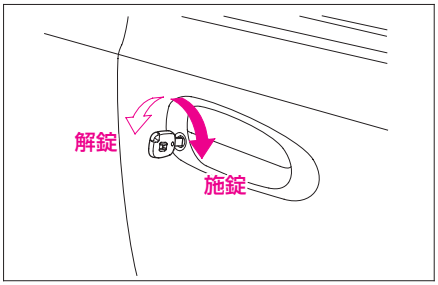
室内灯　→239ページ

パワードアロック

運転席ドアを施錠(解錠)すると、他のすべてのドアとテールゲートも同時に施錠(解錠)します。

●キーで施錠・解錠するとき

キーを確実に差し込んで回します。



Hondaスマートキーシステム装備車

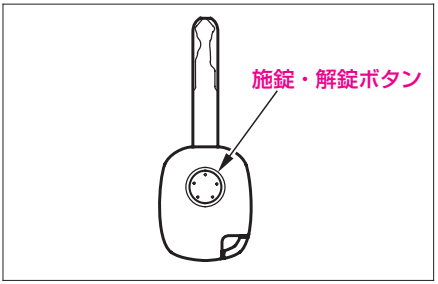
内蔵キーを使用するときは、Hondaスマートキーから取り出します。

内蔵キー　→39ページ

●キーレスエントリーで施錠・解錠するとき

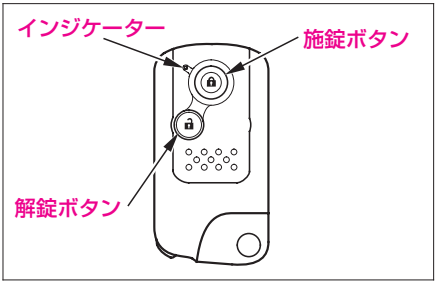
キーレスエントリー一体キー装備車

ボタンを押すとすべてのドアとテールゲートが施錠(解錠)され、もう1度ボタンを押すとすべてのドアとテールゲートが解錠(施錠)されます。

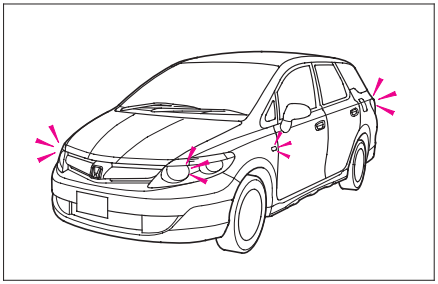


Hondaスマートキーシステム装備車

施錠ボタンを押すとすべてのドアとテールゲートが施錠され、解錠ボタンを押すとすべてのドアとテールゲートが解錠されます。



キーレスエントリーで施錠・解錠を行うと、非常点滅表示灯が施錠時は1回、解錠時は2回点滅します。



知 識

- 作動距離が不安定になった場合は、電池の消耗が考えられますので、早めに電池を交換してください。
  電池交換のしかた →297ページ

  Hondaスマートキーシステム装備車

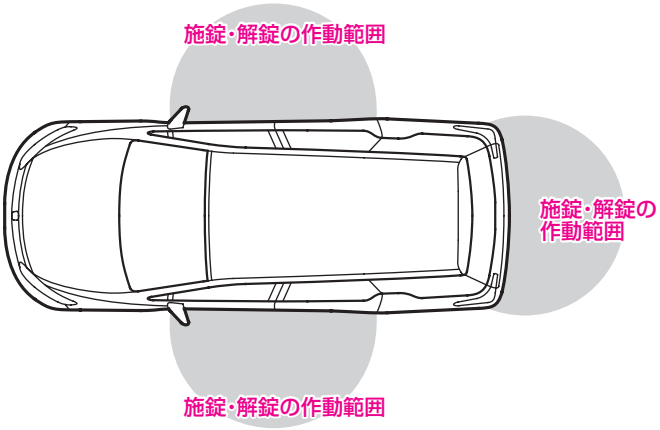
  ボタンを押したときにインジケーターが点灯しない場合は電池切れです。
- キーレスエントリーで解錠してから約30秒以内にドア、テールゲートを開けなかった場合は、自動的に再度施錠されます。
- 次の場合、キーレスエントリーは作動しません。
  - エンジンスイッチが“0”以外のとき。
  - エンジンスイッチにキーが差し込まれているとき。
  - ドアまたはテールゲートが開いているとき（施錠時のみ）

●Hondaスマートキーで施錠・解錠するとき

Hondaスマートキーシステム装備車

ドア、テールゲートの施錠・解錠の作動範囲

ドア、テールゲートの施錠・解錠が作動する範囲は、運転席ドアハンドル、助手席ドアハンドル、テールゲートハンドルから周囲約80cmの範囲です。



ドアやドアガラス、テールゲートに近づき過ぎている場合などは、作動しないことがあります。

Hondaスマートキーは運転者が携帯してください。車内にHondaスマートキーを残したまま降車しないでください。

知 識

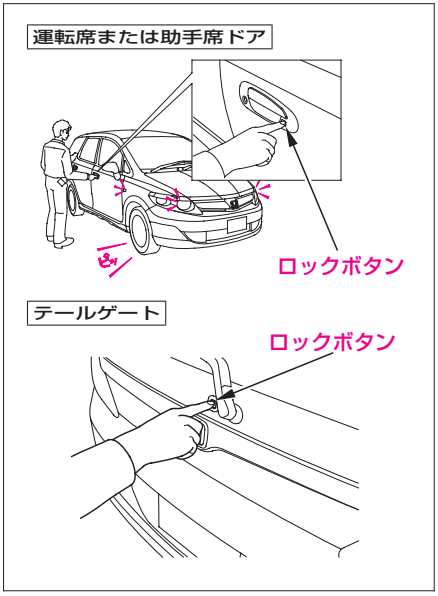
- Hondaスマートキーの電池が消耗しているときや、強い電波、ノイズのある場所などでは、作動範囲が狭くなったり、作動が不安定になることがあります。そのようなときは、キーを使用してください。

キーで施錠・解錠するとき →42ページ

- ドアハンドルおよびテールゲートハンドルより約80cm以内の距離でも、Hondaスマートキーが地面の近くや高い位置にある場合は、作動しないことがあります。
- 運転席ドアが施錠されているときに、テールゲートを閉めると、テールゲートも施錠されます。
  Hondaスマートキーをカーゴスペース内に置き忘れないでください。

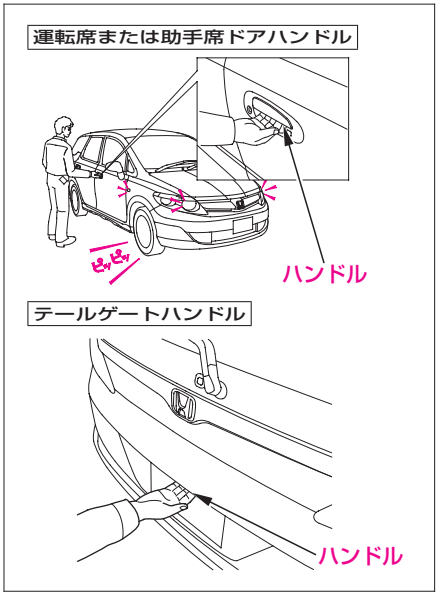
ドア、テールゲートの施錠

すべてのドアとテールゲートが閉まっているのを確認します。運転席ドアまたは助手席ドア、テールゲートのロックボタンを押すと、すべてのドアとテールゲートが施錠されます。このとき、アンサーバックブザーが“ピッ”と鳴り、非常点滅表示灯が1回点滅します。



ドア、テールゲートの解錠

運転席ドアまたは助手席ドア、テールゲートのハンドルの内側に触れると、すべてのドアとテールゲートが解錠されます。このとき、アンサーバックブザーが“ピピッ”と鳴り、非常点滅表示灯が2回点滅します。



知 識

- Hondaスマートキーで解錠してから約30秒以内にドア、テールゲートを開けなかった場合は、自動的に再度施錠されます。
- Hondaスマートキーを携帯している人が同じ側の作動範囲内にいるときは、Hondaスマートキーを携帯していない人がロックボタンを押しても施錠され、運転席ドアまたは助手席ドア、テールゲートのハンドルの内側に触れると解錠されます。
- 革製やスキー用の手袋などをつけてドアハンドル、テールゲートハンドルの内側に触れた場合などは、解錠が遅れたり、解錠されないことがあります。
- ドアハンドルやテールゲートハンドルの内側に触れた直後にドアハンドルまたはテールゲートハンドルを引くと、ドアまたはテールゲートが開かないことがあります。ドアハンドルまたはテールゲートハンドルの内側に触れ直して、解錠されていることを確認してから引いてください。
- Hondaスマートキーが、施錠 ・ 解錠の作動範囲内にある場合、大雨や洗車などでドアハンドルやテールゲートハンドルに多量の水がかかると、ドアとテールゲートが解錠されることがあります。解錠してから約30秒以内にドアやテールゲートを開けなかった場合は、自動的に再度施錠されます。
- ドア、テールゲートを施錠後、約 2 秒間はドアハンドル、テールゲートハンドルの内側に触れても、ドア、テールゲートが解錠しないようになっています。
- 施錠・解錠時のブザー(アンサーバックブザー)の音量を変えることや、ブザーが鳴らないようにすることができます。(カスタマイズ機能)

カスタマイズ機能

Hondaスマートキーシステムでは、以下の機能の設定を変更することができます。

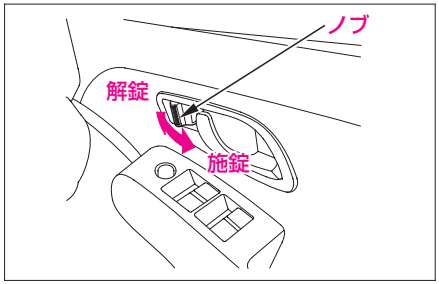
機能	工場出荷時の設定	変更できる設定内容
アンサーバックブザー音量 (→45ページ)	大	小
アンサーバックブザー作動 (→45ページ)	作動	非作動

カスタマイズ機能の詳細については、Honda販売店にご相談ください。

●車内から施錠・解錠するとき

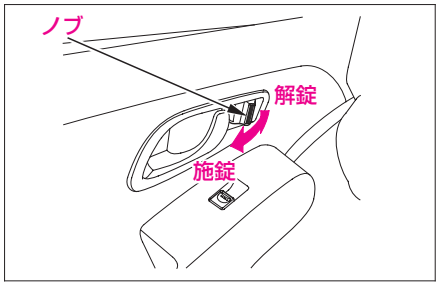
運転席ドア

ノブを矢印の方向に動かします。
運転席ドア部のノブを操作すればすべてのドアとテールゲートの施錠(解錠)ができます。



その他のドア

ノブを施錠(解錠)の方向に動かします。



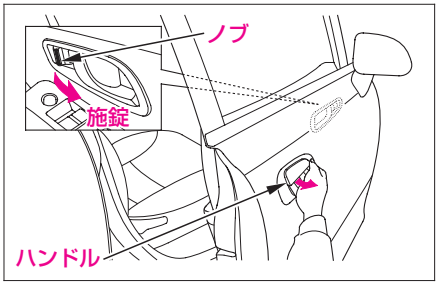
●キーを使わないで施錠するとき

知 識

- キー閉じ込み防止のため、キーを持っていることを確認してから施錠しましょう。

運転席ドア

①ドアのハンドルを引いたままノブを施錠の方向に動かします。



②ドアを閉めます。
運転席ドアを施錠すると、他のすべてのドアとテールゲートも同時に施錠されます。

・キー閉じ込み防止装置

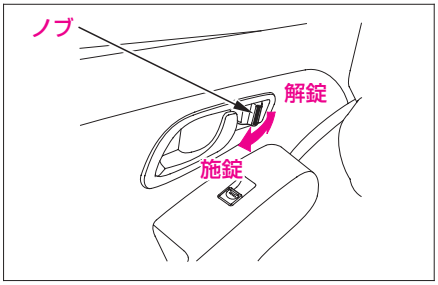
キーがエンジンスイッチに差し込まれたままだと、施錠できません。

Hondaスマートキー装備車は、Hondaスマートキーが車内の作動範囲内に置いてあると、施錠できません。

エンジン始動の作動範囲　→122ページ

その他のドア

ノブを施錠の方向に動かしてドアを閉めます。

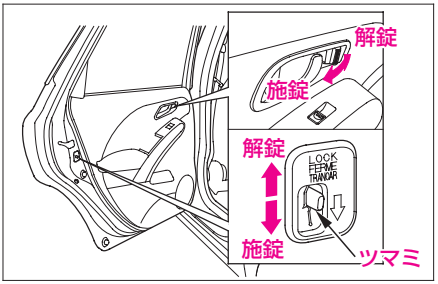


●チャイルドプルーフ

ノブの位置に関係なく、後席ドアが車内から開かなくなります。お子さまを乗せるときなどにお使いください。

▼

ツマミを施錠の位置にしてドアを閉めます。



ドアを開く場合は、外側のドアハンドルで開けます。

知　識

●車内から開けたい場合は、ノブを解錠状態にして後席ウィンドーを下げ、窓から手を出して外側のドアハンドルを引いてください。

テールゲートの開閉

⚠注意

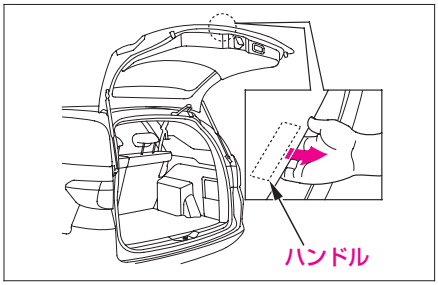
- テールゲートを閉めるときは頭をぶつけたり、手などをはさまないように注意してください。
- エンジンをかけた状態で手荷物を出し入れするときは、排気管の後方に立たないでください。
  やけどなど思わぬけがをすることがあります。
- カーゴスペース内には人を乗せないでください。
  ブレーキや加速、衝突のときなどにけがをするおそれがあります。

アドバイス

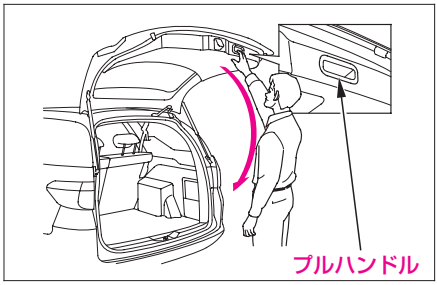
- テールゲートの解錠ができないとき

→296ページ

テールゲートを解錠してから、ハンドルを引き静かに引き上げて開けます。



閉めるときはプルハンドルを利用してください。



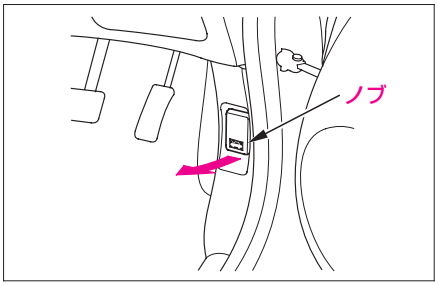
知 識

- テールゲートを開けたまま走行しないでください。車内に排気ガスが侵入するおそれがあります。
- 運転席ドアを施錠したあとにテールゲートを閉めると、施錠されてテールゲートが開かなくなります。

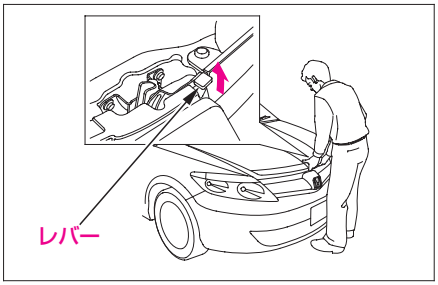
ボンネット

●開けかた

①運転席足元のノブを引きます。



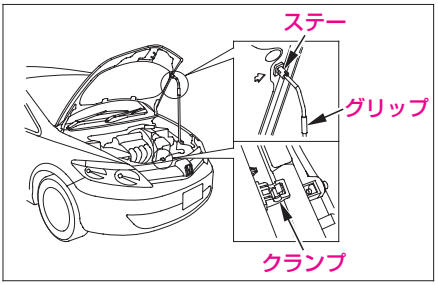
②ボンネット前部が少し浮き上がるので、レバーを押し上げながら開けます。



知 識

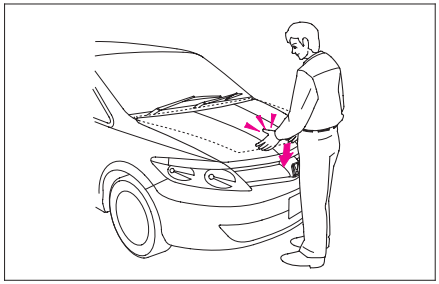
- ワイパーアームを起こした状態でボンネットを開けないでください。ボンネットがワイパーに当たり、ボンネットやワイパーが損傷します。

③ステーをかけるときは、グリップ部を持ち、確実に固定します。



●閉めかた

ステーを外し、クランプに納めます。
ボンネットを静かに下げ、手を離します。



ボンネットが完全に閉まっていることを確認します。

⚠注意

- ボンネットを閉めるときは、手などをはさまないように注意してください。

知 識

- ボンネットを開けているときに、風にあおられてステーが外れることがあります。特に風の強いときは、ご注意ください。
- ボンネットが完全に閉まっていないままで走行すると開くことがあります。走行前に必ず確認してください。

燃料補給口

燃料補給口は車の左側後方にあります。

指定燃料：無鉛レギュラーガソリン
（無鉛ハイオクも使用可能）

タンク容量：42ℓ

アドバイス

- 必ず無鉛ガソリンを補給してください。補給するときは、無鉛ガソリンであることを確認してください。
  - 有鉛ガソリンを補給すると、触媒装置などを損ないます。
  - 高濃度アルコール含有燃料を補給すると、エンジンや燃料系などを損傷する原因となります。
  - 軽油や粗悪ガソリンを補給したり、不適切な燃料添加剤を使うと、エンジンなどに悪影響を与えます。

●燃料補給のしかた

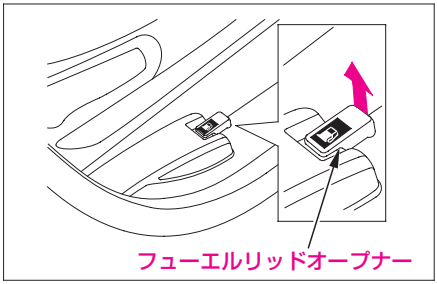
⚠警告

- 燃料補給時は火気厳禁です。
  燃料は引火しやすいため火災や爆発のおそれがあります。
  - エンジンは必ず止めてください。
  - タバコなどの火気を近づけないでください。
  - こぼれた燃料はすみやかに拭き取ってください。
  - 燃料の取り扱いは、屋外で行ってください。
- 燃料補給作業は身体の静電気を除去してから行ってください。
  静電気の放電による火花により気化したガソリンに引火し、やけどを負うおそれがあります。

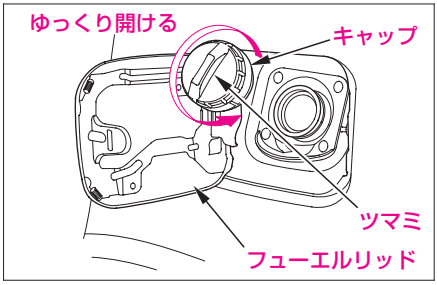
知 識

- 車体や給油機などの金属部分に触れると、静電気を放電することができます。
- 燃料補給作業は、静電気を放電した人のみで行ってください。
- 燃料補給中に車内にもどったりすると再び帯電することがあります。再度、静電気を除去してください。
- ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項を守ってください。

①運転席右下にあるフューエルリッドオープナーを引き上げてリッドを開けます。



②フューエルキャップを開ける前に、身体の静電気除去を行います。
③ツマミを持ってキャップをゆっくり回して開けます。



⚠注意

- キャップはゆっくり開けてください。
  急激に開けると燃料補給口より吹き返しが発生し、火災になるおそれがあります。

④給油ノズルを奥まで差し込んで補給します。
燃料タンクが満タンになると給油ノズルの自動停止がはたらき、給油が停止します。

⚠注意

- 給油ノズルの自動停止後は、追加補給しないでください。
  気温などの変化により燃料があふれ、火災になるおそれがあります。

知 識

- 気温などの変化により燃料があふれないように、タンク容量に達すると燃料タンクに空間を残して給油ノズルの自動停止がはたらくようになっています。

⑤キャップを“カチッ”という音が2回以上するまで締め付けます。フューエルリッドは手で押さえつければ閉まります。

⚠注意

- キャップが確実に閉まっていることを確認してください。
  確実に閉まっていないと走行中に燃料がもれ、火災になるおそれがあります。

パワーウィンドー

エンジンスイッチが“II”のとき、ウィンドーの開閉ができます。

▼

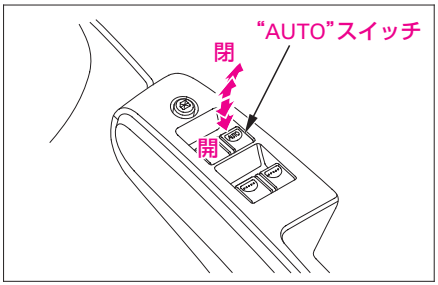
開閉は、それぞれのドアにあるスイッチで操作します。

・運転席スイッチは、助手席および後席ウィンドーも操作できます。

●運転席ウィンドーの開閉

スイッチを軽く操作している間、作動します。
強く操作すると、自動で全開(全閉)します。

開けるとき･･･スイッチを押します。
閉めるとき･･･スイッチを引き上げます。



自動開閉中にウィンドーを停止させるときは、スイッチを作動方向とは逆へ軽く操作します。

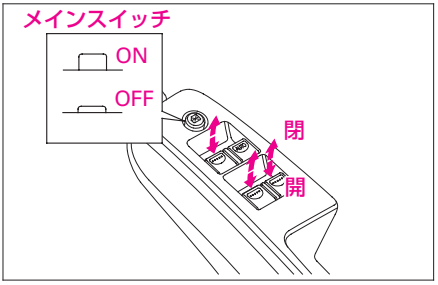
●運転席以外のウィンドーの開閉

メインスイッチを“ON”にしてから、スイッチを操作します。
メインスイッチを押すごとに“ON”↔“OFF”が切り換わります。

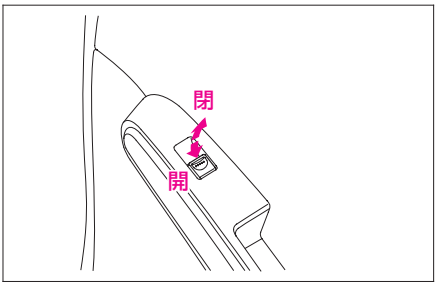
スイッチを操作している間、作動します。

開けるとき･･･スイッチを押します。
閉めるとき･･･スイッチを引き上げます。

・運転席ドアスイッチ



・その他のドアスイッチ



運転席以外のウィンドーを動かなくしたいとき(メインスイッチ)

メインスイッチを“OFF”にしておけば、運転席以外のウィンドーは作動しません。

⚠警告

- パワーウィンドーを閉めるときは、手や顔などをはさまないようにしてください。
  ドアガラスにはさまれて重大な傷害を受けるおそれがあります。
  特にお子さまには気をつけてください。

⚠注意

- 車から離れるときはキーを抜き、お子さまも一緒に連れて行ってください。
  いたずらなど誤った操作をして思わぬ事故につながるおそれがあります。

知 識

- ウィンドーの開閉はお子さまではなく大人が操作するようにしてください。
- 小さなお子さまが同乗しているときは、お子さまが誤って操作しないよう、メインスイッチを“OFF”にしておきましょう。
- 後席(左、右)のウィンドーは、全開しません。

●はさみ込み防止機構(運転席のみ)

運転席ウィンドーを自動で閉じているときに、窓枠とドアガラスの間に異物のはさみ込みを検知するとはさみ込み防止機構が作動し、ドアガラスの上昇が停止して自動で下降します。

⚠注意

- ウィンドーを確実に閉めるため、閉めきる直前の部分では、はさみ込みを検知できない領域があります。指などをはさまないように注意してください。

知 識

- 故障などではさみ込み防止機構が作動してしまい、ウィンドーを自動で閉めることができなくなったときは、スイッチを軽く引き上げ続けると閉めることができます。
- 環境や走行条件による衝撃などで、はさみ込み防止機構が作動することがあります。
- バッテリーやヒューズを交換した場合は、オート作動ができなくなります。
  その場合は、エンジンを始動しドアガラスを一番下まで下げてから、スイッチを引き上げ続け、ウィンドーを閉め切った状態で、約1秒間スイッチを保持すると機能が復帰します。

スカイルーフ

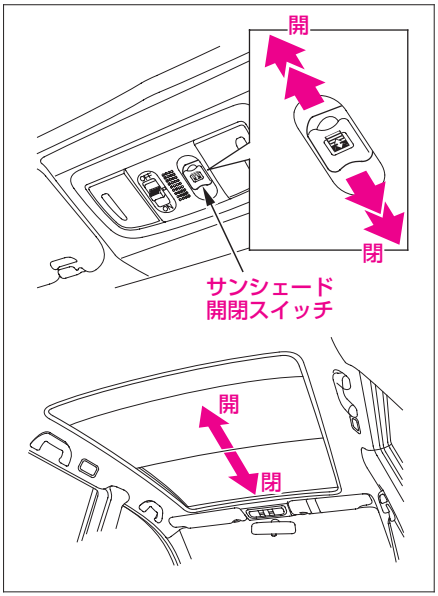
注文装備

●サンシェードの開閉

エンジンスイッチが“II”のときサンシェードの開閉ができます。

▼

サンシェード開閉スイッチを軽く操作している間、サンシェードが作動します。強く操作すると自動で全開(全閉)します。



サンシェードが自動開閉中に、スイッチを操作すると停止します。

⚠注意

- サンシェードを開閉するときは手などをはさまないようにしてください。

アドバイス

- スカイルーフの上に荷物を乗せるなどの大きな力を加えないでください。スカイルーフが破損するおそれがあります。
- サンシェードや開口部の縁に手をかけたり、重いものをかけたりしないでください。破損や変形の原因となります。
- ルーフキャリアを取り付けるときは、取り付け部がスカイルーフのガラスにかかるものは使用しないでください。
  スカイルーフのガラスが破損するおそれがあります。

知 識

- 炎天下に長時間駐車するときは、サンシェードを閉めてください。
  サンシェードを開けたままにしていると車内が高温になります。

●はさみ込み防止機構

サンシェードを閉じているときに、枠とサンシェードの間に異物のはさみ込みを検知するとはさみ込み防止機構が作動し、サンシェードの前進が停止して自動で後退します。

⚠注意

- はさみ込みの状況によっては、はさみ込みを検知できないことがあります。指などをはさまないように注意してください。

知 識

- 環境や走行条件による衝撃などで、はさみ込み防止機構が作動することがあります。
- 故障などではさみ込み防止機構が作動してしまい、サンシェードを閉めることができなくなったときは、応急処置としてスイッチを軽く閉方向に約15秒間押し続けると、はさみ込み防止機構が解除され、断続的にサンシェードを閉めることができます。
  サンシェードが完全に閉まるまで、そのままスイッチを押し続けてください。
  応急処置後はHonda販売店で点検を受けてください。

セキュリティーシステム

セキュリティー(盗難防止)システムは、イモビライザーシステムにより、お車を盗難から守るための装置です。

イモビライザーシステムについて

キーに信号を発信する電子部品があり、あらかじめ登録されたキーでないとエンジンの始動ができないようにしたシステムです。

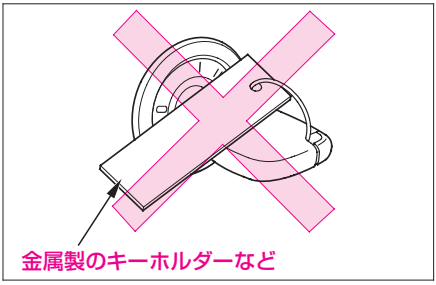
アドバイス

- システムを改造したりしないでください。
  エンジンシステムが故障するおそれがあります。

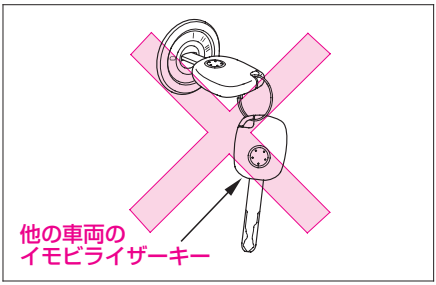
イモビライザーシステムは、車両とキーとの電子照合を行うとき、微弱な電波を使用しています。次のような場合、車両がキーからの信号を正確に受信できず、エンジンの始動ができないことがあります。

イモビライザーシステム表示灯
→108ページ

- 近くに強い電波を発する設備があるとき。
- キーグリップ部が金属物に触れたり覆われているとき



- 他の車両のイモビライザーシステム用のキーが近くにあるとき。

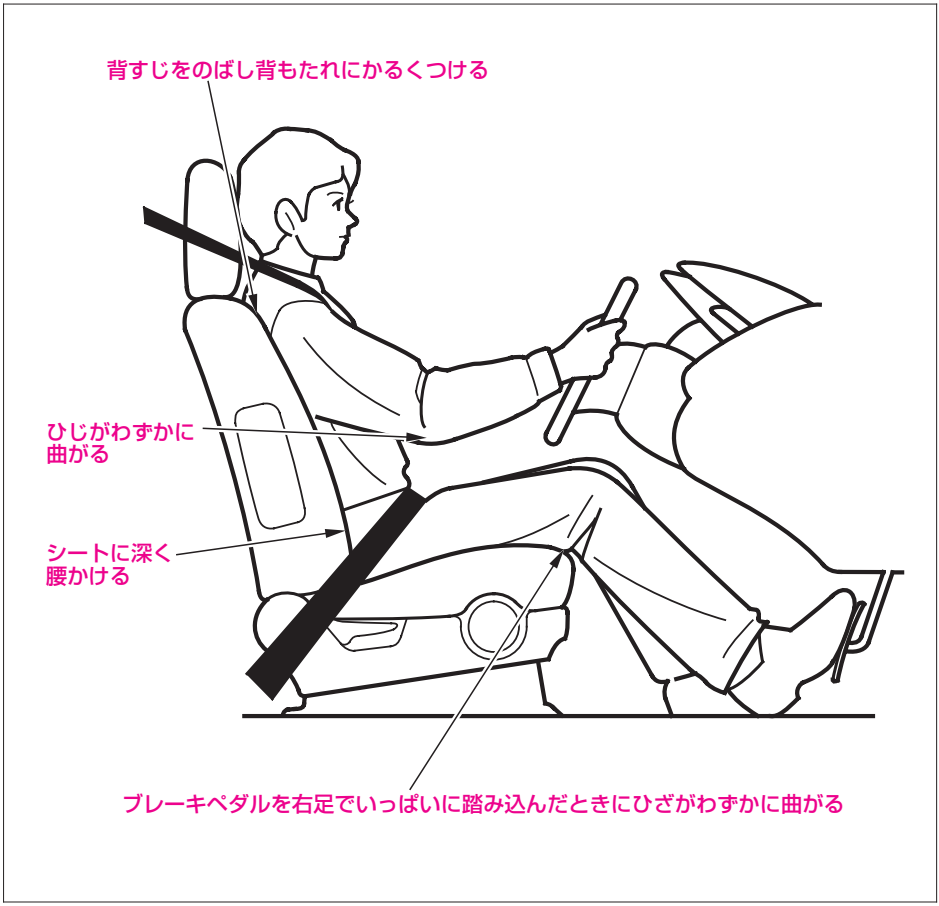




シートの調節

正しい運転姿勢

運転者は正しい運転姿勢がとれるようにシートを調節します。
正しい運転姿勢とは、シートに深く腰かけた状態で、背もたれから背を離すことなくペダルを十分に踏み込め、ハンドルが楽に操作できる姿勢をいいます。



同乗者も、シートに深く腰かけ、背もたれから背を離さないようにしてください。
助手席同乗者はインストルメントパネルに顔や胸が必要以上に近づかないように、シートを後ろに下げます。

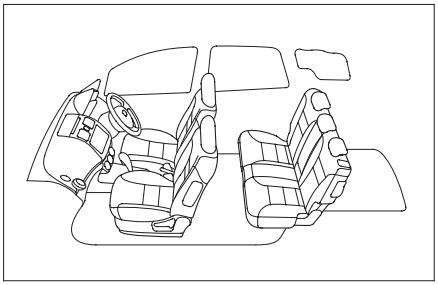
⚠警告

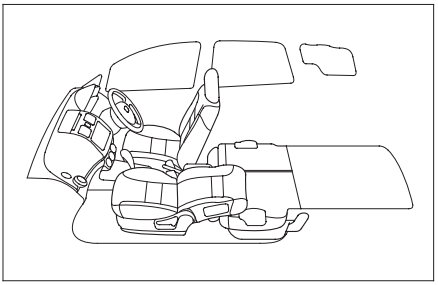
- シートに深く腰かけてください。
  また、背もたれは必要以上に倒さないでください。
  寝そべった姿勢では、衝突したときなどにシートベルトの下に滑り込んだりして、重大な傷害を受けるおそれがあります。
- SRSエアバッグに必要以上に近づくと、SRSエアバッグが膨らむ際、強い衝撃を受け、重大な傷害を受けるおそれがあります。
  - ・運転者は正しい運転姿勢がとれる範囲で、シートを後ろに下げてください。
  - ・助手席同乗者はインストルメントパネルに近づかないように、シートを後ろに下げてください。

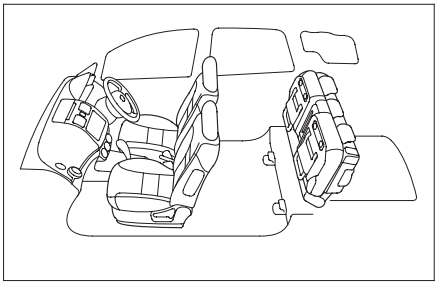
⚠注意

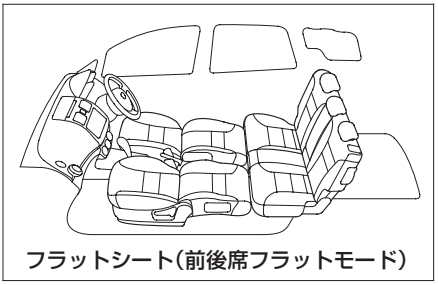
- 走行中に調節するとシートが必要以上に動くことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあります。
  調節は走行する前に行い、シートを前後にゆすって確実に固定されていることを確認してください。
- 背もたれと背中の間にクッションなどをいれないでください。
  正しい運転姿勢がとれないばかりか、シートベルトなどの効果が十分に発揮されないおそれがあります。
- シートを操作するときは、操作する人やまわりの人の手や足などをはさまないように十分注意してください。
- フロントシートの下に物を置かないでください。
  物がはさまってシートが固定されず思わぬ事故につながるおそれがあります。

シートアレンジインデックス

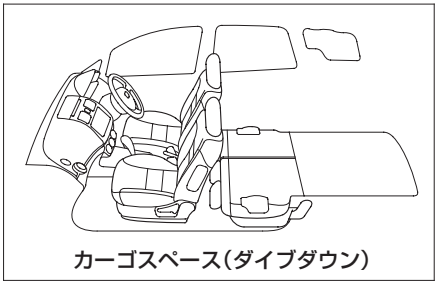








フラットシート（前後席フラットモード）



カーゴスペース（ダイブダウン）



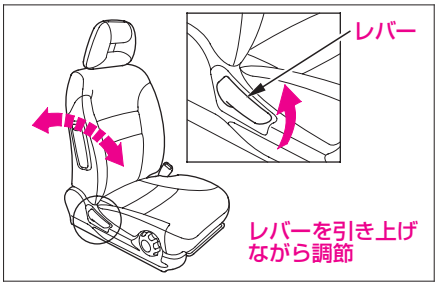
フロントシート……64
リヤシート……66
フラットシート……70
カーゴスペースの作りかた……72

フロントシート

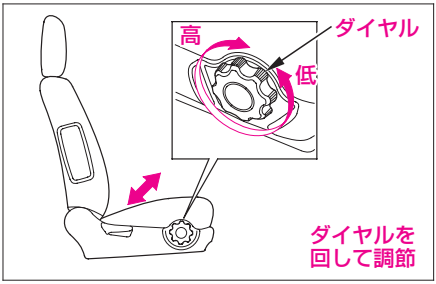
●前後位置の調節



●背もたれの調節



●高さの調節（運転席のみ）

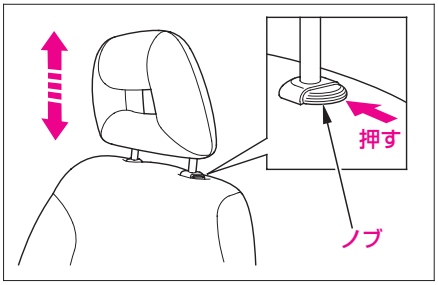


●ヘッドレストの調節

走行する前に耳とヘッドレストの中心が同じ高さになるように調節し、確実に固定します。
背が高い人は、固定できる範囲で一番高い位置にしてお使いください。

▼

高くするときは、ヘッドレストを持ち上げます。
低くするときはノブを押しながらヘッドレストを下げます。



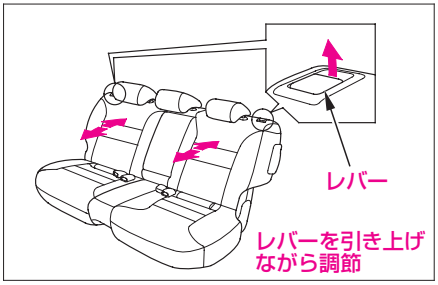
⚠警告

●ヘッドレストを外した状態で走行しないでください。また、固定できる高さを越えて使わないでください。
衝突のときなどに重大な傷害を受けるおそれがあります。
走行前に必ず正しい位置に調節してください。

リヤシート

●背もたれの調節

レバーを引き上げながら、背もたれの角度を調節します。



片側ずつ独立して行えます。

●ヘッドレストの調節

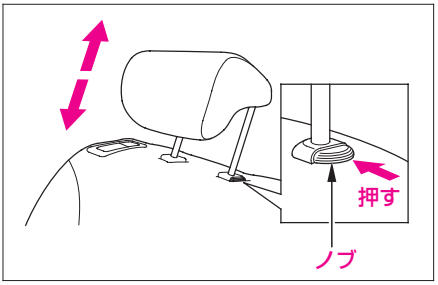
走行する前に耳とヘッドレストの中心が同じ高さになるように調節し、確実に固定します。

背が高い人は、高い位置にしてお使いください。

▼

高くするときは、ヘッドレストを持ち上げます。

低くするときはノブを押しながらヘッドレストを下げます。

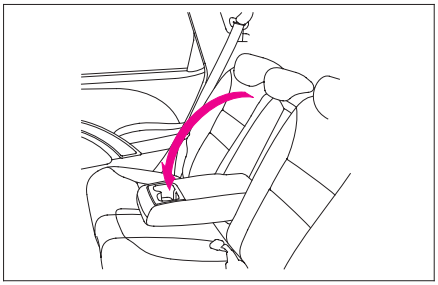


⚠警告

- ヘッドレストを外した状態で走行しないでください。また、固定できる高さを越えて使わないでください。
  衝突のときなどに重大な傷害を受けるおそれがあります。
  走行前に必ず正しい位置に調節してください。

●アームレスト

前に倒して使います。



⚠注意

●シートベルト着用時にアームレストに引っかけると、万一のときシートベルトの機能が発揮できないことがあります。
シートベルトは正しく着用してください。

アドバイス

●アームレストに腰をかけたり荷物をのせるなどの大きな力を加えないでください。アームレストが破損するおそれがあります。

●座面をはね上げて固定するとき（チップアップ）

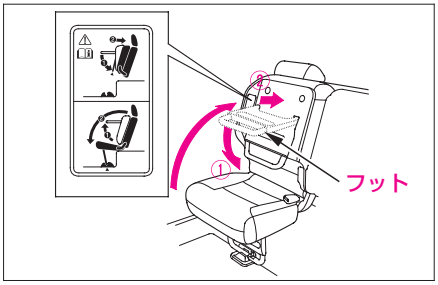
片側ずつ独立して行えます。

シートクッションのはね上げかた

シートクッションを引き上げます。

①フットを格納します。

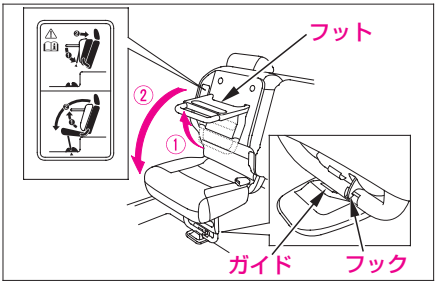
②シートクッションを背もたれに押しつけると固定されます。



戻しかた

①シートクッションを押さえながら、フットをいっぱいに開きます。

②シートクッションを静かに前方に倒して、フットをガイドに入れます。ガイドからフックが出ていることを確認します。



⚠注意

- 操作するときは、手や足などをはさまないように十分注意してください。
- クッションをはね上げたときは、クッションを前後にゆすって確実に固定されていることを確認してください。固定されていないとクッションが前に倒れるおそれがあります。
- シートを元に戻すときは、ガイド周辺に荷物や異物がないこと、フロアマットがズレてガイドに乗り上げていないことを確認して、フットをガイドに入れてください。異物をかみ込んだり、フットがガイドにきちんと入っていないとシートが確実に固定されず、走行中にシートがはね上がり思わぬ事故につながるおそれがあります。

知 識

- シートクッションを元に戻すときは、シートの下に物やシートベルトを置いたまま操作しないでください。
- シートクッションを元に戻すときは、前に倒れ込むので手を添えて操作してください。
- フットを格納した状態でクッションを倒さないでください。
- シートを元に戻したときは、シートを前後にゆすって確実に固定されていることを確認してください。
- 左側のシートをはね上げるときは、あらかじめ中央の三点式シートベルトを分離収納してください。

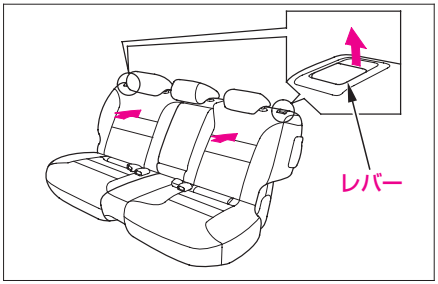
シートベルトの分離収納
→91ページ

フラットシート

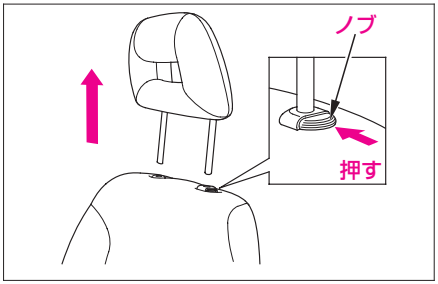
フロントシート(運転席、助手席)の背もたれを倒すと、リヤシートとフラットな状態にできます。

▼

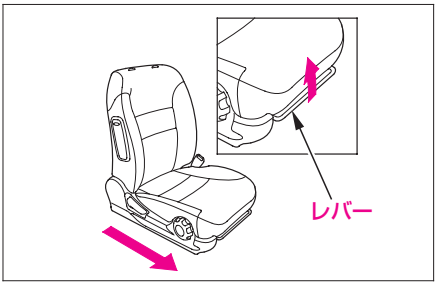
①リヤシートの背もたれ調節レバーを引き上げながら、背もたれを後ろへ倒して固定します。



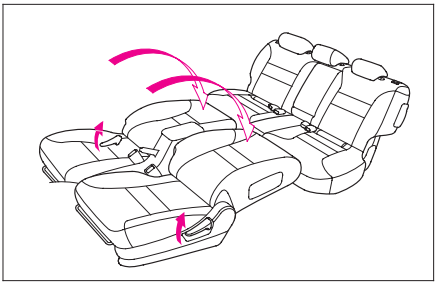
②ノブを押して、フロントシートのヘッドレストを外します。



③レバーを引き上げながらフロントシートを前方いっぱいに動かします。



④背もたれ調節レバーを引き上げながら背もたれを後ろに倒して固定します。



元に戻すときは逆の手順で行います。

⚠注意

- フラットな状態で、人や荷物などを乗せたまま走行しないでください。
  ブレーキをかけたときなどに、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- フラットな状態で、シートの上を走り回らないでください。
  また、シートの上を移動するときは、シートの中央を踏んでゆっくりと移動してください。
  シートの端を踏むと足を踏み外すおそれがあります。
- 操作するときは、手や足などをはさまないように十分注意してください。
- 背もたれが急に戻り、顔などにけがをするおそれがあります。背もたれを起こすときは、必ず背もたれに手を添えて操作してください。

知 識

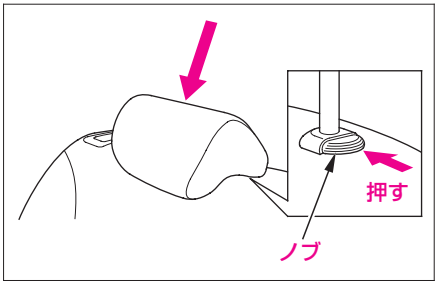
- フラットにしたときや元に戻したときは、シートを前後にゆすって確実に固定されていることを確認してください。

カーゴスペースの作りかた

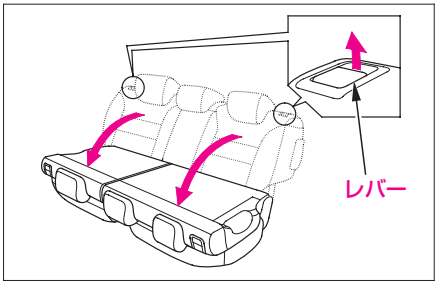
リヤシートを格納するとカーゴスペースを広くすることができます。
片側ずつ独立して行えます。

●格納のしかた

①ノブを押しながら、リヤシートのヘッドレストを下げます。

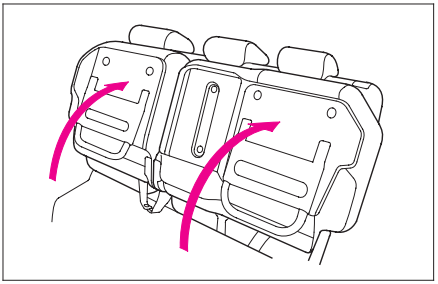


②床に荷物などがないことを確認し、リヤシートの背もたれ調節レバーを引き上げながら、背もたれを静かに前に倒します。

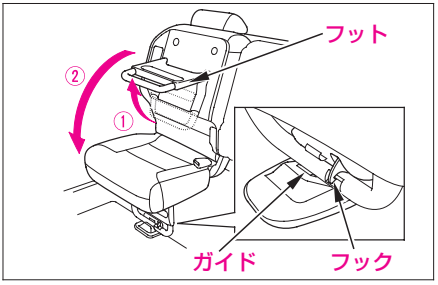


●戻しかた

①リヤシートを起こし、後ろへ押しつけて固定します。



②フットをいっぱいに開いてから、シートクッションを静かに前方に倒して、フットをガイドに入れます。
ガイドからフックが出ていることを確認します。

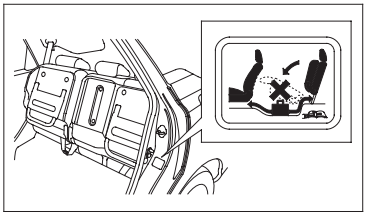


⚠注意

- 操作するときは、手や足などをはさまないように十分注意してください。
- 格納したリヤシートの背もたれの上やカーゴスペースには人を乗せて走行しないでください。
  ブレーキや加速、衝突のときなどにけがをするおそれがあります。
- 格納したリヤシートの背もたれの上やカーゴスペース内を走り回らないでください。
  思わぬけがをすることがあります。
- シートを元に戻すときは、ガイド周辺に荷物や異物がないこと、フロアマットがズレてガイドに乗り上げていないことを確認して、フットをガイドに入れてください。
  異物をかみ込んだり、フットがガイドにきちんと入っていないとシートが確実に固定されず、走行中にシートがはね上がり思わぬ事故につながるおそれがあります。

知 識

- フロントシートの背もたれを後ろに倒したり、シートバックポケットに物が入ったままリヤシートを格納するときは、ヘッドレストがシートバックポケットに引っかかりやすいので注意してください。
- シートを格納するときは、シートの下に物やシートベルトを置いたまま操作しないでください。



- 左側のシートを格納するときは、あらかじめ中央の三点式シートベルトを分離収納してください。
  シートベルトの分離収納
  →91ページ
- シートクッションを元に戻すときは、前に倒れ込むので手を添えて操作してください。
- フットを格納した状態でクッションを倒さないでください。
- 背もたれを起こすときは、シートベルトを背もたれではさみ込まないようにしましょう。はさまれると正しく着用できません。
- シートを元に戻したときは、シートを前後にゆすって確実に固定されていることを確認してください。

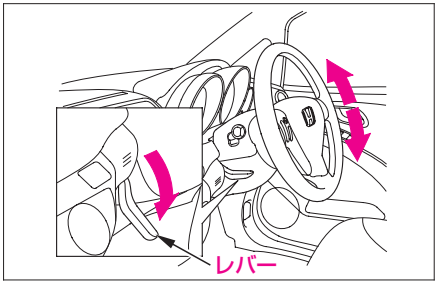
ハンドル・バックミラーの調節

チルトステアリング

ハンドルの高さを適切な位置に変えることができます。

▼

レバーを押し下げ、ハンドルの高さを適切な位置にして、レバーを元の位置まで確実に引き上げて固定します。



⚠注意

- 走行中に調節するとハンドルが必要以上に動くことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあります。調節は走行する前に行い、ハンドルに上下方向の力を加え固定されていることを確認してください。

ルームミラー

知 識

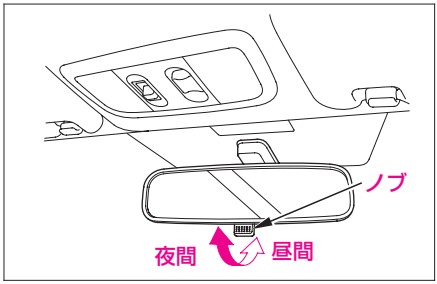
- 走行中はミラーの調節を行わないでください。

●防眩式ルームミラー

夜間走行時、後続車のライトがまぶしいときにライトの反射を弱くできます。

▼

ノブを動かして切り換えます。



角度調節はノブを昼間の位置にして行ってください。

ドアミラー

知 識

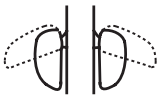
- ミラーを格納したまま走行しないでください。また、走行中はミラーの調節を行わないでください。
- ミラーを格納するときは、周囲の人の手などをはさまないようにしてください。

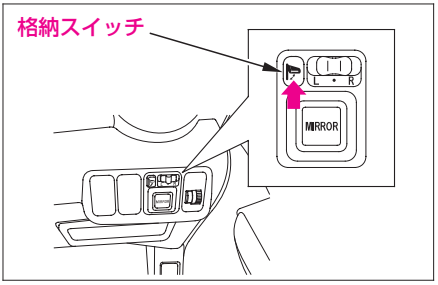
●格納のしかた

エンジンスイッチが“II”のとき、スイッチで左右のミラーをたたむことができます。

▼

格納スイッチを押すごとに“ON”↔“OFF”が切り換わります。

	格納スイッチの状態	ミラーの状態
ON		
OFF		



知 識

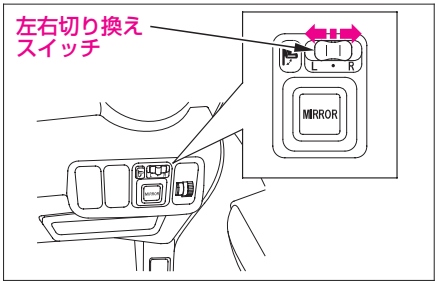
- 次の場合は手動で操作しても、ミラーは自動的に格納スイッチの状態に戻ります。
  - ・手動で操作したあとにエンジンスイッチを“II”にしたとき。

●角度調節のしかた

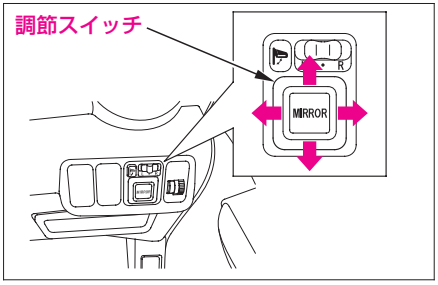
エンジンスイッチが“II”のときスイッチを操作すると、ミラーの角度調節ができます。

▼

①左右切り換えスイッチを調節したい方に動かします。



②調節スイッチで角度を調節します。



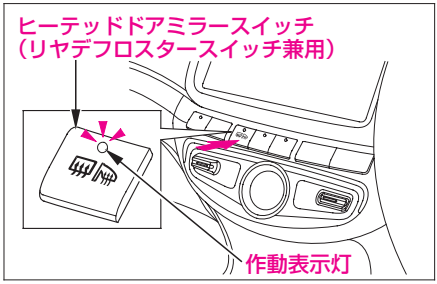
直接手で鏡面を動かして角度を調節することもできます。

●ヒーテッドドアミラー

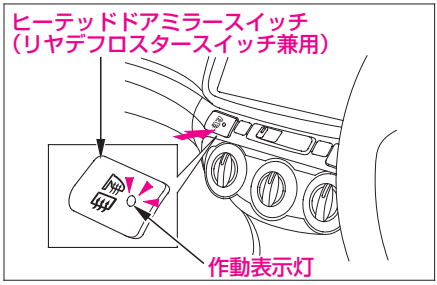
タイプ別装備

ヒーテッドドアミラースイッチ(リヤデフロスタースイッチ兼用)を押すとミラーが暖められ曇りが取れます。

オートエアコン装備車



マニュアルエアコン装備車



エンジンスイッチが“II”のとき、スイッチを押すと“ON”になり、同時に作動表示灯が点灯します。もう一度スイッチを押すと“OFF”になり、作動表示灯は消灯します。

知 識

- ヒーテッドドアミラースイッチを押すと、リヤガラスの曇り取りも同時に機能します。
  リヤデフロスター →135ページ
- この装置は消費電力が大きいので曇りが取れたら“OFF”にしてください。また、エンジンの回転が低いとき長時間使わないでください。バッテリー容量が低下し、エンジン始動に影響することがあります。

●アクアクリーンミラー（親水ミラー）

タイプ別装備

ミラー表面には、付着した雨滴を膜のように広げる親水効果を持つコーティングをほどこしており、雨天時などにおける後方視認性を向上させます。

ミラー表面に汚れなどが付着して親水効果が低くなったときは、水道水をかけて洗い流し、太陽光を当てることにより効果が回復します。

親水効果を早く回復させたいとき
→306ページ

アドバイス

- フロントドアガラスに撥水剤やボディにワックスを塗布するときは、ミラー表面に撥水剤やワックスが付着しないようにドアミラーを布などで覆ってください。
  ミラー表面にこれらの物が付着すると親水効果を失います。
- ミラー表面が凍結しているときは、ヒーテッドドアミラースイッチを“ON”にするか、温水や水道水を使って溶かしてください。解氷剤を使ったり、プラスチックの板を使って削り落とすと、ミラー表面に傷が付き、親水効果を失います。
- 砂の付いた布や油膜取り剤（コンパウンドなど）でミラー表面をこすらないでください。
  ミラー表面に傷が付き、親水効果を失います。

知識

- 汚れや水滴を拭き取るときは、きれいな布で拭き取ってください。
- 水洗いでミラーの汚れが落ちない場合は、家庭用中性洗剤を使って柔らかい布でミラー表面を拭き取ることで回復できます。
- 次のようなときは、一時的に親水効果が低下しますが異常ではありません。親水効果は数日間の日射で回復します。
  - 素手でミラーに触れたり油のついた布などでミラー表面を拭き取ったとき。
  - 自動洗車機のワックスがミラー表面に付着したとき。
  - 長期間、地下駐車場など日の当たらないところに駐車したとき。

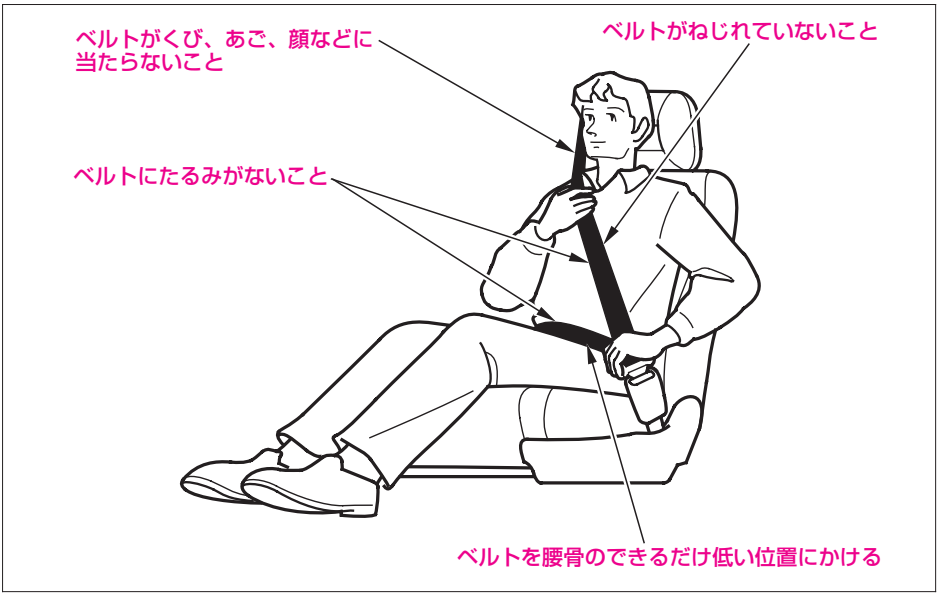
  親水効果を早く回復させたいとき　→307ページ
- 自動洗車機で洗車するときは、ミラー表面に洗剤やワックスが付着しないようドアミラーを格納してください。

  格納のしかた　→76ページ

シートベルト

シートベルト

シートベルトは、車を運転するまえに運転者は正しい運転姿勢で着用し、同乗者にも必ず着用させてください。

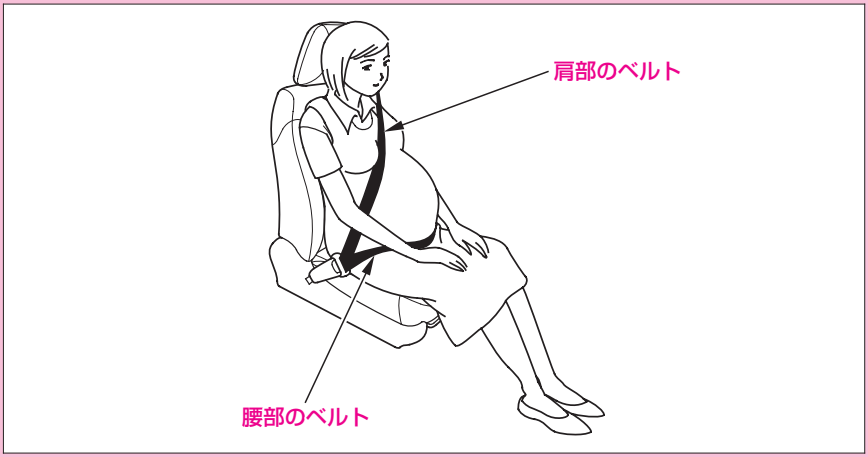


⚠警告

- シートベルトは全員が着用してください。
  着用しないと、衝突したときなどに重大な傷害を受けたり死亡することがあります。
- シートに深く腰かけてください。また、背もたれは必要以上に倒さないでください。
  寝そべった姿勢では、衝突したときなどにシートベルトの下に滑り込んだりして、重大な傷害を受けるおそれがあります。
- お子さまにもシートベルトを着用させるか、チャイルドシートをお使いください。
  お子さまを抱いていても、衝突したときなどに支えることができず、お子さまが重大な傷害を受けたり死亡するおそれがあります。

⚠注意

- シートベルトを正しく着用していないと本来の機能をはたさず、衝突のときなどにけがをするおそれがあります。
  - 腰部のベルトは必ず腰骨のできるだけ低い位置にぴったり着用してください。
    ベルトが腰骨からずれていると腹部などに強い圧迫を受けます。
  - ベルトはねじれがないように着用してください。
    ねじれがあるとベルトの幅が狭くなり、局部的に強い力がかかります。
  - ベルトがくび、あご、顔などに当たらないように着用してください。
  - 一本のベルトを二人以上で使用しないでください。
  - 三点式シートベルトは腕の下に通して着用しないでください。
    ベルトが肩に十分かかっていないと前方に投げ出されるおそれがあります。
  - ベルトにはクリップや洗たくばさみなどでたるみをつけないでください。
- 妊娠中のかたや疾患のあるかたもシートベルトを着用してください。
  ただし、万一のとき腹部、胸部、肩部などに圧迫を受けることがありますので、医師に確認してください。
  - 妊娠中のかたは、三点式シートベルトを使用してください。
  - 妊娠中のかたは、ベルトを着用するときは、腰部のベルトを腹部からさけて腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにして身体に密着させてください。
    また、肩部のベルトは腹部からさけて胸部にかかるようにしてください。



●シートベルトの種類

シート	シートベルトの種類
フロントシート	ELR付三点式シートベルト
リヤシート	ELR･ALR付三点式シートベルト

ELR付三点式シートベルト:
体の動きにあわせて伸縮し、強い衝撃を受けるとベルトが自動的にロックします。

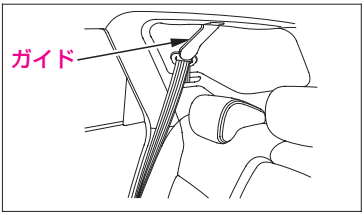
ELR･ALR付三点式シートベルト:
通常はELRシートベルトとして機能します。
ALRはチャイルドシートを固定する機構です。

チャイルドシート固定機構付きシートベルト　→92ページ

●三点式シートベルト

知 識

- 後席のシートベルトのショルダーアンカー部のガイドを引っぱったりして、シートベルト引き出し方向以外に強い力をかけないでください。
  ガイドが変形することがあります。



- 後席のシートベルトのバックルをループ(ゴムバンド)から外さないでください。
  シートアレンジなどのときにバックルがシートクッションの下に落ちることがあります。



シートベルトリマインダー(非着用警報装置)

エンジンスイッチを“II”にすると、運転席シートベルトを着用するまでシートベルトリマインダーが作動し、メーター内のシートベルト非着用警告灯が点灯し続けます。
また、エンジンスイッチを“II”にしたときや走行したときは、運転席シートベルトを着用するまで、数秒間ブザーが鳴ります。(ブザーが鳴っている間は、警告灯が点滅します。)

知 識

- 運転席シートベルトを着用していない場合でも、停車すると、ブザーは止まります。また、走行しているときでも、一定回数を超えるとブザーは止まります。
- セレクトレバーをRに入れたときは、後退位置警報装置のブザーが鳴り、シートベルト非着用警告ブザーは鳴りません。

チャイルドシート固定機構付きシートベルト(後席)

→92ページ

知 識

- 後席シートベルトを着用した状態で上体を大きく動かしたときに、シートベルトがすべて引き出されてチャイルドシート固定機構が作動することがあります。
  このときは、チャイルドシート固定機構を解除してから再度シートベルトを着用してください。
  解除のしかた →93ページ

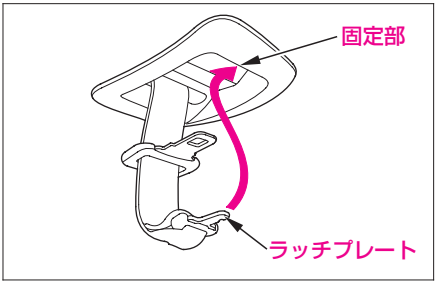
シートベルトプリテンショナー(前席のみ)

→184ページ

分離収納式シートベルト(後列中央席)

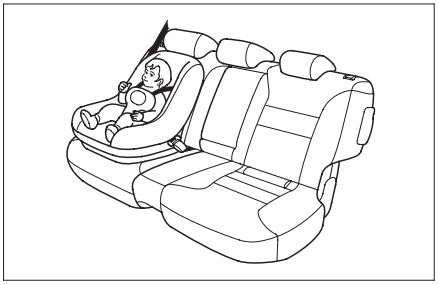
使用しないときに、シートベルトを分離して収納することができます。

シートベルトを使わないときは、ラッチプレートの先端を天井の固定部に差し込み収納します。



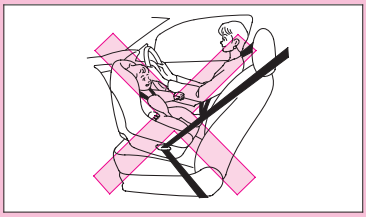
●お子さまを乗せるときは

お子さまは、後席に乗せシートベルトを着用させてください。
ただし、装備されているシートベルトは大人用ですので、ベルトがくびやあごに当たる場合や腰骨にかからない場合は、幼児用シートや学童用シートを使用してください。シートベルトをそのまま使うと、衝突のときに腹部などに強い圧迫を受けるおそれがあります。
また、ひとりですわることのできない小さなお子さまは乳児用シートを使用してください。
お子さまを後席に乗せることができなく、やむをえず助手席に乗せるときは、一番大きなお子さまを乗せてください。



⚠警告

- 助手席には乳児用シートを取り付けないでください。また、幼児用シートを後ろ向きに取り付けないでください。SRSエアバッグが膨らむ際、乳児用シートや、幼児用シートの背面に強い衝撃を受け、重大な傷害を受けたり、死亡するおそれがあります。
  また、やむをえず幼児用シートを前向きに取り付ける場合は、SRSエアバッグから遠ざけるため、シートを一番後ろに下げてください。



知 識

- 乳児用シート、幼児用シート、学童用シートは、お子さまの体重や身長によりお使いになれるタイプや取り付け方法が異なります。
- ISO FIX対応以外のチャイルドシートは、シート形状などにより、チャイルドシートを正しく取り付けできない席があります。このようなときは、他の席で試してください。または、この車に合ったチャイルドシートを使用してください。
- ISO FIXテザータイプのチャイルドシートは、固定専用バーとテザーアンカーを用いて固定します。テザーアンカーにテザーストラップを結合することにより、チャイルドシートを確実に固定することができます。
  チャイルドシートを前向きに取り付けるときは、このバーとテザーアンカーを用いて固定します。
  後ろ向きに取り付けるときは、テザーアンカーは使用しません。
- ISO FIXテザータイプのチャイルドシートは、シートベルトで固定する必要はありません。

ISO FIXテザータイプチャイルドシート固定装置　→94ページ

- Honda純正品のチャイルドシートをご用意しています。ご購入、ご使用に際してはHonda販売店にご相談ください。

《選択の目安》
詳しくはチャイルドシートに付属の取扱説明書をご覧ください。

ISO FIX タイプを除く

	体重(kg)	参考身長(cm)	参考年令
乳児用(ベビー)シート	～10	～75	～12か月
幼児用(チャイルド)シート	9～18	70～100	9か月～4才
学童用(ジュニア)シート	15～32	100～135	4才～10才

ISO FIX テザータイプ

	体重(kg)	参考身長(cm)	参考年令
乳児用(ベビー)シート	～9	～70	～9か月
幼児用(チャイルド)シート	9～18	70～100	9か月～4才

●シートベルトの取り扱い、手入れ

- 次のような場合はベルト一式を交換してください。
  - ・ベルトを着用した状態で事故にあったとき。
  - ・シートベルトプリテンショナーが作動したとき。
    シートベルトプリテンショナー
    →184ページ
  - ・ベルトにほつれ、すりきれ、破れなどができたとき。
- シートベルトを十分に機能させるために、バックルおよび自動巻き取り装置の内部に異物を入れないようにしてください。
- ベルトが汚れた場合は、中性洗剤を溶かしたぬるま湯に布をひたして拭き取り乾かしてください。薬剤を使ったり漂白や染色は絶対しないでください。ベルトを弱めます。

着用のしかた

●フロントシート、リヤシート外側2座席(三点式シートベルト)

①正しい運転姿勢でシートにすわります。
(→60ページ)

②タングプレートをつかみ、ゆっくり引き出します。



③ベルトにねじれがないようにし、タングプレートをバックルの中へ“カチリ”と音がするまで差し込みます。



④ベルトがねじれたり、引っかかったりしていないかを確認します。

⑤ベルトを腰骨のできるだけ低い位置にかかるように引き、たるみがないように身体に密着させます。



⑥外すときはバックルの“PRESS”ボタンを押します。
ベルトが自動的に収納されますので、ひっかかったり、ねじれたりしていないかを確認します。

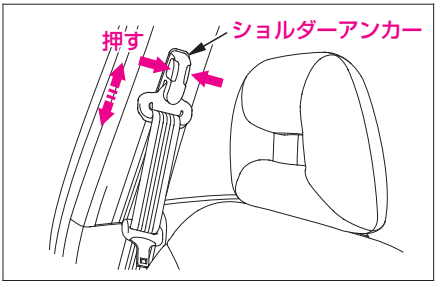


ショルダーアンカーの高さ調節（前席のみ）

座高に合わせて、ショルダーアンカーの高さを調節できます。

▼

通常はベルトが肩から外れないように最上段で使いますが、ベルトがくびに当たるときは、一段ずつ下げて調節してください。



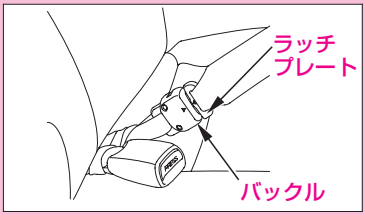
⚠注意

- 調節後は、ショルダーアンカーが確実に固定されていることを確認してください。

●リヤシート中央席（三点式シートベルト）

⚠警告

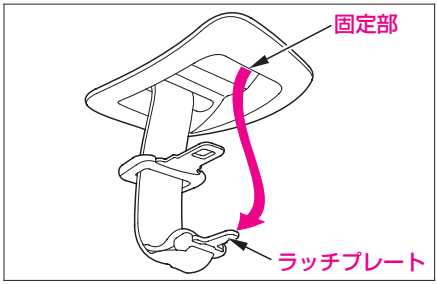
●分離収納式のシートベルトを使用するときは、必ずラッチプレートとバックルを結合してください。ラッチプレートとバックルを結合しないで使用すると、衝突したときなどに重大な傷害を受けたり死亡することがあります。



シートベルトの着用

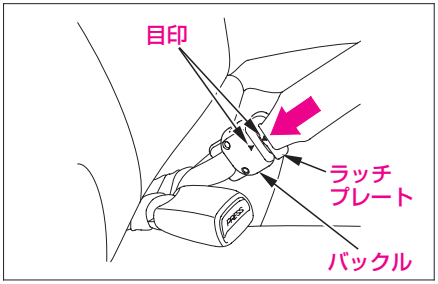
後列中央席には、分離収納式のシートベルトを装備しています。シートベルトが分離されているときは結合して、ベルトを着用します。

①シートベルトのラッチプレートを天井の固定部から引き抜き外します。



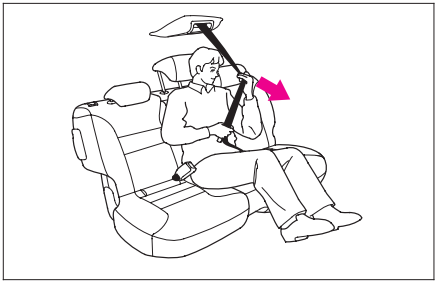
②“▼”（目印）表示のあるラッチプレートをつかみ、ベルトをゆっくり引き出します。

③ベルトにねじれがないようにシートベルトのラッチプレートを“▲”（目印）表示のあるバックルの中に“▼”（目印）表示を合わせて“カチリ”と音がするまで差し込みます。

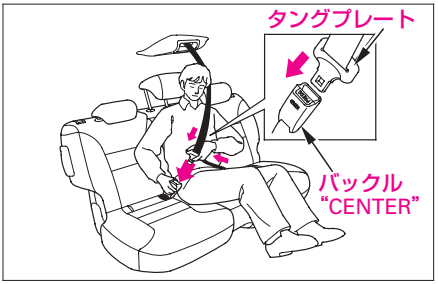


④正しい乗車姿勢でシートにすわります。
→60ページ

⑤タングプレートをつかみ、ゆっくり引き出します。



⑥ベルトにねじれがないようにし、タングプレートをバックルの中へ“カチリ”と音がするまで差し込みます。
タングプレートは差し込む相手を間違えないようにしてください。バックルに“CENTER”（センター）の表示があります。

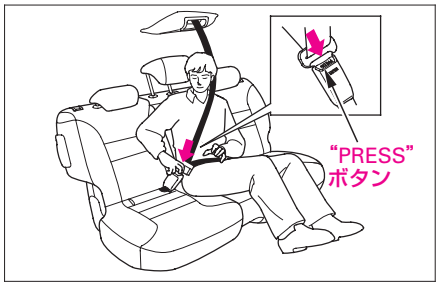


⑦ベルトがねじれたり、引っかかったりしていないかを確認します。

⑧ベルトを腰骨のできるだけ低い位置にかかるように引き、たるみがないように身体に密着させます。

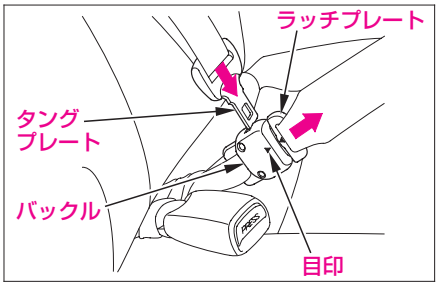


⑨外すときはバックルの“PRESS”ボタンを押します。
ベルトが自動的に収納されますので、ひっかかったり、ねじれたりしていないかを確認します。

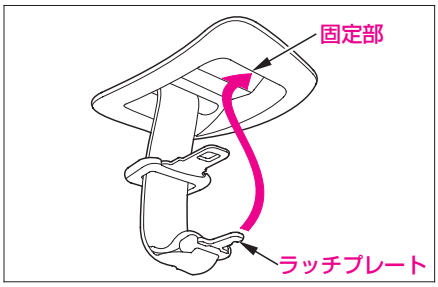


シートベルトの分離収納

①“▲”(目印)表示のあるバックルの溝にシートベルトのタングプレートまたはキーを差し込むとラッチプレートが外れます。



②ベルトを巻き取らせてラッチプレートの先端を天井の固定部に差し込み収納します。



知 識

- シートベルトを巻き取らせるときは、ラッチプレートに手を添えて戻してください。
- シートの格納を行うときは、ラッチプレートをバックルから外してシートベルトを収納、固定してください。

チャイルドシート固定装置

チャイルドシート固定機構付きシートベルト(後席)

後席の三点式シートベルトには、チャイルドシート固定機構がついています。シートベルトを引き出し方向に動かないようにできるため、チャイルドシートを固定することができます。
取り付けかたは、チャイルドシートの形状、取り付け方法によって異なります。チャイルドシートに付属の取扱説明書にしたがって取り付けてください。

⚠警告

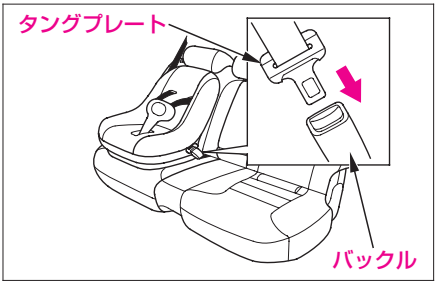
- お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。
  固定機構が作動するとベルトがゆるまなくなり、窒息などの重大な傷害を受けるおそれがあります。
  万一ベルトをゆるめることができなくなった場合は、はさみなどでベルトを切断してください。

知 識

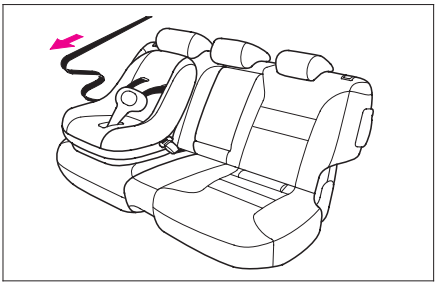
- ISO FIX対応のチャイルドシートを取り付けるとき
  ISO FIXテザータイプチャイルドシート固定装置 →94ページ

●チャイルドシートを取り付けるとき

①チャイルドシートをリヤシートに置きます。
②ベルトにねじれがないことを確認し、タングプレートをバックルの中へ“カチリ”と音がするまで差し込みます。



③ベルトをゆっくりと引き出します。すべて引き出すと、チャイルドシート固定機構が作動します。

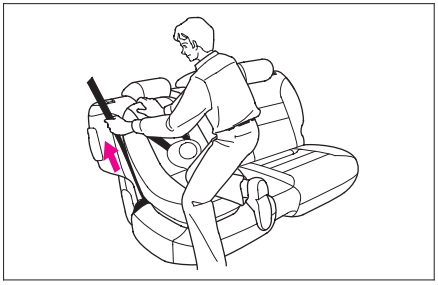


④ベルトを少し巻き取らせます。その後、ベルトをゆっくりと引き、ベルトが引き出し方向に動かないことを確認します。ベルトが引き出し方向に動く場合は、再度ベルトをすべて引き出してください。

⚠注意

- 必ずベルトが引き出し方向に動かないことを確認してください。
  ベルトが引き出し方向に動く状態では、チャイルドシート固定機構が作動していないので、ブレーキや衝突のときなどにチャイルドシートがとび出し傷害を受けるおそれがあります。

⑤チャイルドシートに体重をかけてリヤシートに押しつけながら、ベルトを巻き取らせ、しっかりと固定します。



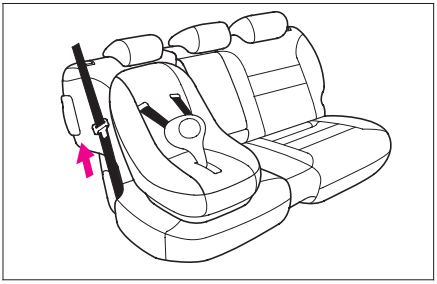
⚠注意

- チャイルドシートを前後左右にゆすって確実に固定されていることを確認してください。
  確実に固定されていないとブレーキや衝突のときなどにチャイルドシートがとび出し傷害を受けるおそれがあります。

●解除のしかた

①チャイルドシートからベルトを外します。

②ベルトをいっぱいまで巻き取らせると、チャイルドシート固定機構は解除されます。



ISO FIX テザータイプ チャイルドシート固定装置（後席外側 2 座席）

後席外側の 2 座席には、ISO FIXテザータイプのチャイルドシートを固定するための固定専用バーとテザーアンカーが装備されています。

この車用に認可を取得したチャイルドシートのみ固定し、使用することができます。
チャイルドシートを前向きに取り付けるときは、このバーとテザーアンカーを用いて固定します。
後ろ向きに取り付けるときは、テザーアンカーは使用しません。
チャイルドシートは、シートベルトで固定する必要はありません。
Honda純正品のチャイルドシートをご用意しています。ご購入、ご使用に際してはHonda販売店にご相談ください。

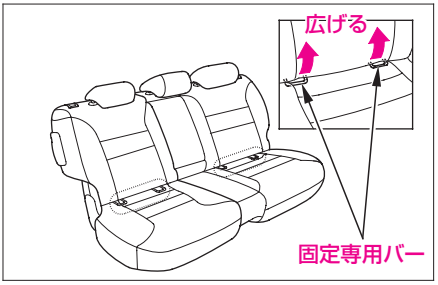
知 識

●チャイルドシート固定機構付きシートベルトを使って取り付けるとき

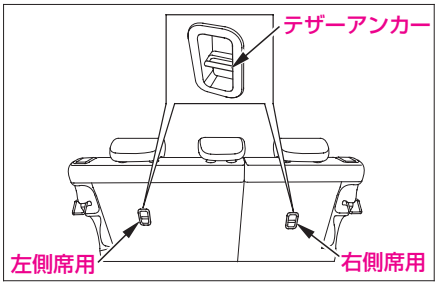
チャイルドシート固定機構付きシートベルト →92ページ

●チャイルドシートを取り付けるとき

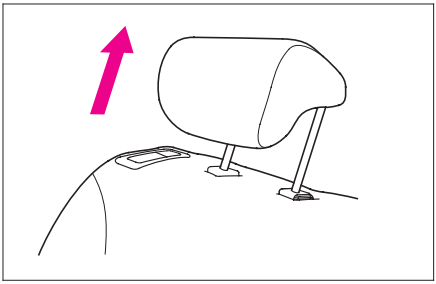
①シートクッションと背もたれのすき間を少し広げて、固定専用バーの位置を確認します。



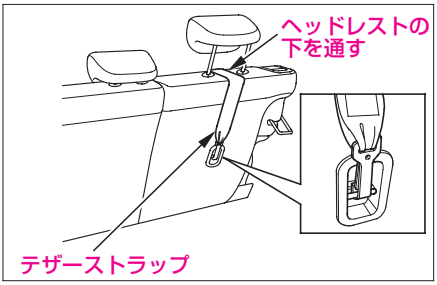
②背もたれの後側にあるテザーアンカーの位置を確認します。



③リヤシートのヘッドレストを持ち上げて固定し、テザーストラップはヘッドレストの下を通します。



④チャイルドシートとテザーストラップをチャイルドシートに付属の取扱説明書にしたがって取り付けます。



⚠注意

- チャイルドシートを取り付けるときは、固定専用バー周辺に異物がないこと、シートベルトなどのかみ込みがないことを確認してください。
  異物やシートベルトなどをかみ込むとチャイルドシートが確実に固定されず、ブレーキや衝突のときなどにチャイルドシートがとび出し傷害を受けるおそれがあります。
- チャイルドシートを前後左右にゆすって確実に固定されていることを確認してください。
  確実に固定されていないとブレーキや衝突のときなどにチャイルドシートがとび出し傷害を受けるおそれがあります。

●取り外すとき

チャイルドシートに付属の取扱説明書にしたがって取り外します。

2

車を運転するときに

●メーター ……98
イルミネーション
　コントロール ……102

●表示灯 ……104

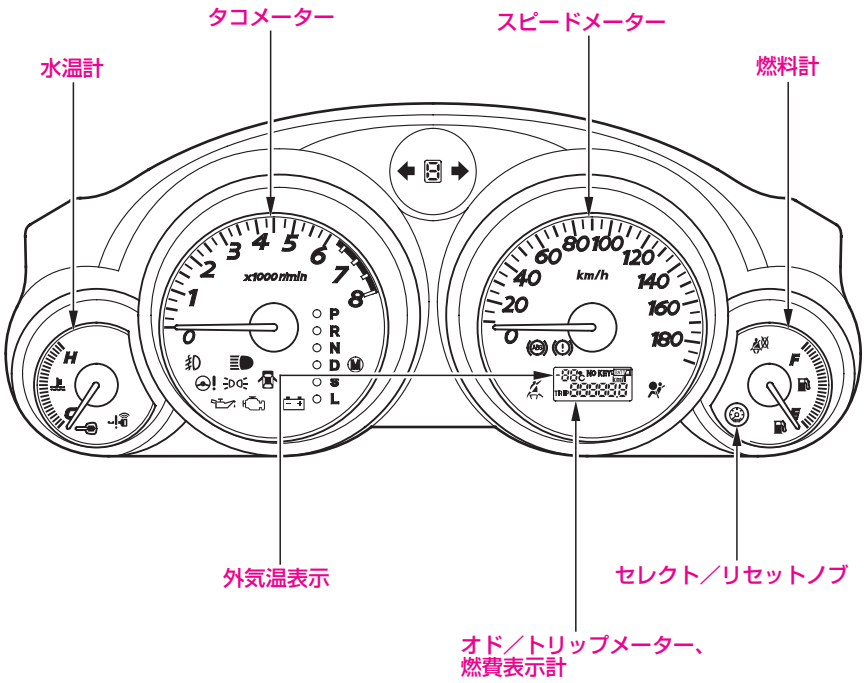
●警告灯 ……110
警告灯の電球切れの点検 ……117

●スイッチの使いかた
エンジンスイッチ ……118
ライトスイッチ ……129
フォグライトスイッチ ……132
方向指示器(ウィンカー)
　スイッチ ……132
ワイパー／ウォッシャー
　スイッチ ……133
リヤデフロスタースイッチ …135
非常点滅表示灯(ハザード)
　スイッチ ……137
ホーンスイッチ ……137

●運転のしかた
エンジンのかけかた ……138
パーキングブレーキ ……142
セレクトレバーの
　操作 ……144・150
オートマチック車の運転の
　しかた ……154

メーター

イラストは代表例を掲載しています。





知 識

● **イルミネーションコントロール装備車**

運転席ドアを開けるとメーターの目盛りが点灯します。
（ウェルカムメーター照明）
エンジンスイッチを“II”にするとメーターが点灯します。

スピードメーター

走行速度をkm/hで示します。

タコメーター

1分間あたりのエンジン回転数を示します。

アドバイス

● エンジン故障の原因となりますので、限界回転数以上（レッドゾーン）に入らないように運転してください。特に高速走行時、変速（シフトダウン）するときには注意してください。
　限界回転数……6,300rpm
● 停車中の空ぶかしは、エンジン回転数が5,000rpmになると燃料供給が停止されます。

燃料計

エンジンスイッチが“II”のとき、燃料の残量を示します。
“E”に近づいたら早めに補給してください。

燃料の補給について　→52ページ

水温計

エンジンスイッチが“II”のとき、エンジン冷却水の温度を示します。
走行中は“H”の目盛より下側をさすのが正常です。

アドバイス

● 針が“H”の目盛に入った場合はオーバーヒートのおそれがあります。ただちに安全な場所に停めてエンジンを冷やしてください。
そのまま走行を続けるとエンジン故障の原因となります。
　オーバーヒートしたとき
→276ページ

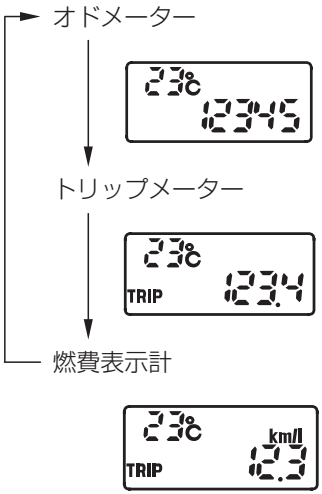
オド／トリップメーター、燃費表示計

エンジンスイッチを“II”にするとオドメーター、トリップメーターまたは燃費表示計が表示されます。

▼

表示の切り換え

セレクト／リセットノブを押すごとに表示が切り換わります。



オドメーター

走行距離の累計をkmで示します。

トリップメーター

リセットしてからの走行距離をkmで表示します。

・リセットのしかた

①セレクト／リセットノブを押して“TRIP”（区間距離表示）を選びます。

②セレクト／リセットノブをメーター表示が“0”になるまで押し続けて、リセットします。

知 識

- 走行距離が999.9kmを超えると0kmに戻ります。

燃費表示計

リセットされてからの平均燃費を一定時間ごとに更新して、km/lで示します。区間距離表示がリセットされると、燃費表示も一緒にリセットされます。

知 識

- 表示される平均燃費は、実際に走行した燃費と異なる場合があります。
- 燃費表示計のときは、リセットができません。
- 停車時または低速走行中にリセットしたときは、走行を始めてから燃費の計算を開始します。

外気温表示　オートエアコン装備車

走行中(車速約30km/h以上)の外気温を測定し表示します。また、エンジンスイッチを“II”にしたときはそのときの外気温を表示し、走行(車速約30km/h以上)するまでその表示を続けます。
外気温が下がってきて3 °C以下になったとき、外気温を数回点滅して表示します。

知 識

- フロントバンパー付近の外気温を測定しているため、エンジンルームや路面の熱の影響を受けやすい停車中や渋滞中など(約30km/h以下)は正しい外気温を表示しないことがあります。
- 外気温の点滅表示は、エンジンスイッチを“II”にしてから最初に3 °C以下に下がったときにのみ作動します。

外気温補正の設定

外気温表示の表示温度に補正をかけることができます。
＋3 °Cから－3 °Cの間で設定できます。

①セレクト／リセットノブを押してオドメーターを表示させます。
②セレクト／リセットノブを押し続けると(約10秒)、外気温の補正表示に切り換わります。数字は約1秒毎に“0→1→2→3→－3→－2→－1→0”の順に切り換わります。
③補正をかけたい温度の数字が表示されたらセレクト／リセットノブから手を離します。

イルミネーション コントロール

タイプ別装備

セレクト／リセットノブを回すと、メーター表示の明るさが、車幅灯点灯時と消灯時にそれぞれ別々に調節できます。

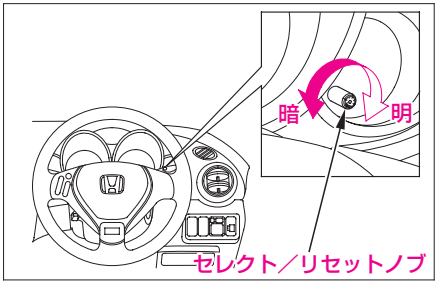
▼

エンジンスイッチが“II”のときノブを回して明るさを調節します。

明るくするとき…
ノブを右に回します。明るさが最大になると“ピッ”という電子音がなります。

暗くするとき…
ノブを左に回します。明るさが最小になると“ピッ”という電子音がなります。

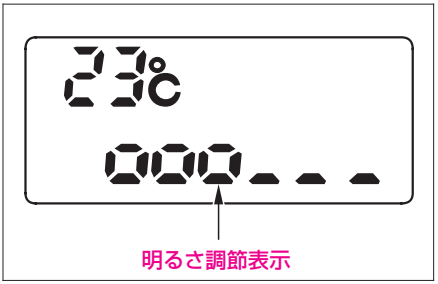
車外の明るさに応じてお好みで調節してください。



明るさ調節表示

ノブを回して明るさを調節すると、オドメーター、トリップメーターまたは燃費表示計が明るさ調節表示に切り換わります。

が右に増えて行くほど、メーターが明るく表示されます。



知 識

- 次の動作をしたときは、オドメーター、トリップメーターまたは燃費表示計に切り換わります。
  - ・調節後約 5 秒すぎたとき
  - ・セレクト／リセットノブを押したとき
- 車幅灯点灯時に、 がすべて表示されるまでノブを右に回すと、車幅灯点灯時の減光が解除され、“ピッ”という電子音がなります。
- 運転席ドアを開けるとメーターの目盛りが点灯します。（ウェルカムメーター照明）

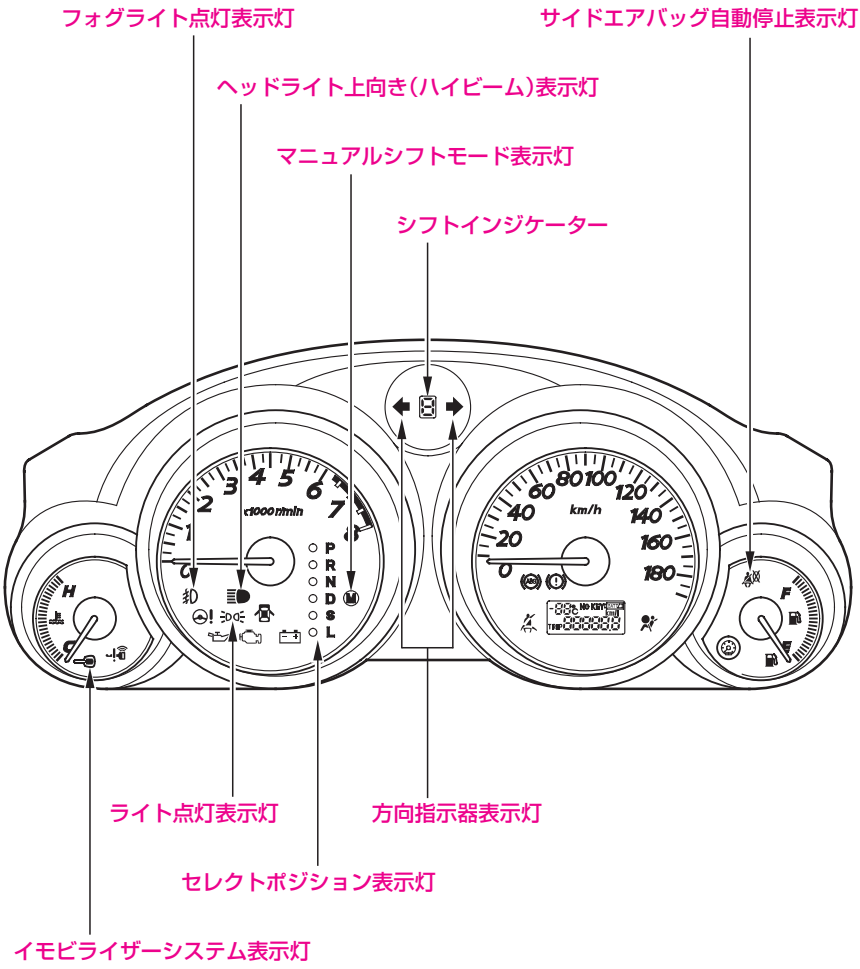
知 識

- 次のようなとき、メーターの照明は消灯します。
  - ・運転席ドアを開けてから、何もせずに約 3 分経過したとき。
  - ・運転席ドアを閉めてから、何もせずに約30秒経過したとき。
  - ・エンジンスイッチにキーを差し込んだまま、約10秒経過したとき。
  - ・エンジンスイッチを“II”から“I”または“0”に回してから、約10秒経過したとき。
- エンジンスイッチからキーを抜いたときは、メーターの照明はすぐに消灯します。
- **Hondaスマートキーシステム装備車**

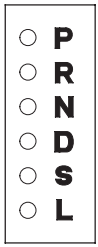
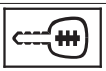
  エンジンスイッチを“0”（プッシュオフ）にしたときは、メーターの照明はすぐに消灯します。

表示灯

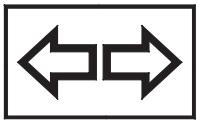
イラストは代表例を掲載しています。



表示灯はタイプ等により、装備の有無があります。下表の装備一覧をご覧ください。

表示灯		タイプ	
		L	G
	方向指示器表示灯	○	○
	ヘッドライト上向き(ハイビーム)表示灯	○	○
	ライト点灯表示灯	○	○
	フォグライト点灯表示灯	△	△
	セレクトポジション表示灯	○	○
	シフトインジケーター	○	−
	マニュアルシフトモード表示灯	○	−
	イモビライザーシステム表示灯	○	○
	サイドエアバッグ自動停止表示灯	△	△

○：標準装備
△：注文装備



方向指示器表示灯

方向指示器のランプの点滅状態を表示します。

知 識

- 電球が切れたときや、ワット(W)数の違った物を使ったときは、表示灯の点滅周期が異常になります。

電球(バルブ)の交換
→289、291ページ
電球(バルブ)のワット数
→336ページ



ヘッドライト上向き(ハイビーム)表示灯

ヘッドライトが上向きのときに点灯します。



ライト点灯表示灯

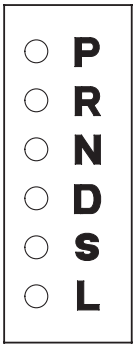
ライトスイッチが“OFF”以外のときに点灯します。



フォグライト点灯表示灯

フォグライト装備車

フォグライトが点灯しているときに点灯します。

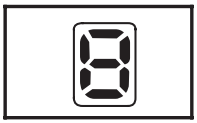


セレクトポジション表示灯（トランスミッション警告灯兼用）

使用中のセレクトレバー位置が表示されます。

トランスミッションが異常のときには、⊡が点滅します。

トランスミッション警告灯　→114ページ



シフトインジケーター　L

7速モード時は、シフトインジケーターに変速段が表示されます。

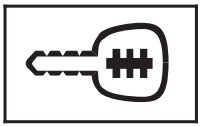
7速オートシフトモード　→147ページ
7速マニュアルシフトモード　→148ページ



マニュアルシフトモード表示灯　L

7速マニュアルシフトモードのときに点灯します。

7速マニュアルシフトモード　→148ページ



イモビライザーシステム表示灯

エンジンスイッチを“II”にすると、数秒間点灯してから消灯します。点灯中は車両とキーとの電子照合を行っています。

点滅したときは

システムがキーの信号を認識していないので、エンジンを始動することはできません。

- キーを使っているときは、エンジンスイッチを“0”へ回しキーを抜いてから、もう一度エンジンスイッチに差し込み“II”にしてください。
- Hondaスマートキーシステム装備車で、Hondaスマートキーを使っているときは、エンジンスイッチノブを“0”(プッシュオフ)にしてから、もう一度エンジンスイッチノブを押し込んで、エンジンスイッチノブを“II”にしてください。

エンジンスイッチを次のようにしたときも、数回点滅します。

- キーを使ってエンジンスイッチを“II”から“I”または“0”にしたとき
- Hondaスマートキーシステム装備車で、Hondaスマートキーを使ってエンジンスイッチを“II”から“0”(プッシュオフ)にしたとき

イモビライザーシステムについて
→58ページ

アドバイス

- エンジンスイッチを“II”にしても表示灯が点灯しないときや、頻繁に表示灯の点滅を繰り返す場合は、システムの異常が考えられますので、Honda販売店で点検を受けてください。



サイドエアバッグ自動停止表示灯

サイドエアバッグシステム装備車

乗員姿勢検知システムにより、助手席用サイドエアバッグの作動を自動停止しているときに点灯します。

▼

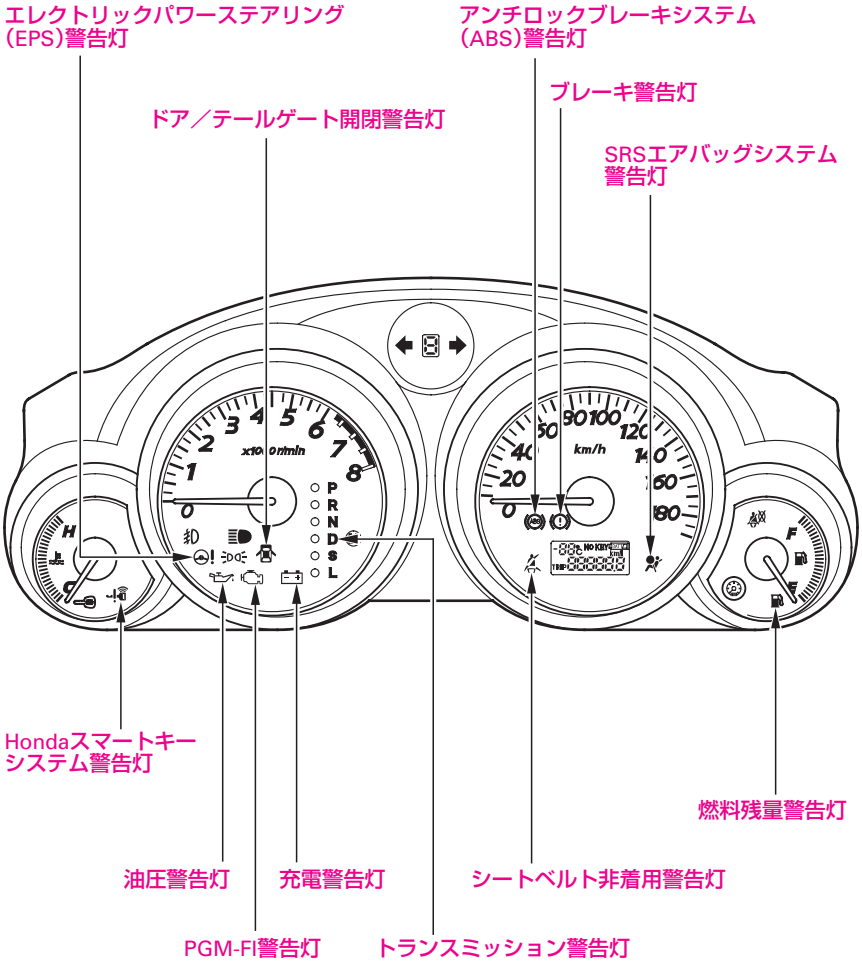
点灯したときは

上体を起こして座ってください。また、小さなお子さまの場合は、後席に乗せてください。

乗員姿勢検知システム　→179ページ

警告灯

イラストは代表例を掲載しています。



警告灯は下表の装備一覧をご覧ください。

警告灯	タイプ	
	L	G
 ブレーキ警告灯	○	○
 油圧警告灯	○	○
 PGM-FI警告灯	○	○
 充電警告灯	○	○
 トランスミッション警告灯 （セレクトポジション表示灯兼用）	○	○
 燃料残量警告灯	○	○
 シートベルト非着用警告灯	○	○
 ドア／テールゲート開閉警告灯	○	○
 SRSエアバッグシステム警告灯	○	○
 アンチロックブレーキシステム（ABS） 警告灯	○	○
 エレクトリックパワーステアリング（EPS） 警告灯	○	○
 Hondaスマートキーシステム警告灯	△	△

○：標準装備
△：注文装備



ブレーキ警告灯

パーキングブレーキが完全に解除されていないときに点灯します。この状態で走行するとブザーが鳴ります。

パーキングブレーキ戻し忘れ警告ブザー →143ページ

ブレーキ液量がいちじるしく減少しているときにも点灯します。また、ABSが異常のときABS警告灯と同時に点灯することがあります。

▼

点灯したときは

走行中点灯したときやパーキングブレーキを解除しても消灯しないときは、

①ブレーキ液量を点検します。

②下限より下がっていたらただちにHonda販売店へご連絡ください。

ブレーキ液量が下限以下になっていないのに点灯するときや、パーキングブレーキをかけても点灯しないときは、お早めにHonda販売店で点検を受けてください。

ABS警告灯と同時に点灯したときは

ブレーキ液量が正常で、アンチロックブレーキシステム（ABS）警告灯と同時に点灯したときは、アンチロックブレーキシステム（ABS）の異常が考えられます。高速走行や急ブレーキを避けて、ただちにHonda販売店で点検を受けてください。

ABS警告灯 →187ページ



油圧警告灯

エンジン回転中、エンジン内部を潤滑しているオイルの圧力が低下すると点灯します。

▼

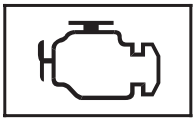
点灯したときは

エンジン回転中に点灯した場合は、ただちに安全な場所に停車してエンジンを止め、エンジンオイル量を点検してください。

エンジンオイルが減っていないのに点灯しているときや、エンジンオイルを補給しても点灯するときは、ただちにHonda販売店へご連絡ください。

アドバイス

- 点灯したまま走行しないでください。エンジンが破損するおそれがあります。



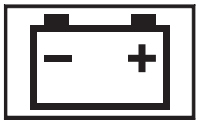
PGM-FI警告灯

エンジン制御システムが異常のときに点灯します。

▼

点灯したときは

運転中に点灯した場合は、高速走行を避けて、ただちにHonda販売店で点検を受けてください。



充電警告灯

充電系統が異常のときに点灯します。

▼

点灯したときは

運転中に点灯した場合は、電気の消費を減らすため、エアコンスイッチ、リヤデフロスタースイッチを“OFF”にして、ただちにHonda販売店で点検を受けてください。



トランスミッション警告灯（セレクトポジション表示灯兼用）

トランスミッションが異常のときに点滅します。

▼

点滅したときは

運転中に点滅した場合は、急発進、急加速を避けて、ただちにHonda販売店で点検を受けてください。



燃料残量警告灯

燃料タンク内のガソリン残量が7 ℓ前後になったときに点灯します。

燃料の補給　→52ページ



シートベルト非着用警告灯

エンジンスイッチを“II”にすると、運転席シートベルトを着用するまでシートベルトリマインダー（非着用警報装置）が作動し、点灯し続けます。

また、エンジンスイッチを“II”にしたときや走行したときは、運転席シートベルトを着用するまで、数秒間ブザーが鳴ります。

（ブザーが鳴っている間は、警告灯が点滅します。）

知　識

- 運転席シートベルトを着用していない場合でも、停車すると、ブザーは止まります。また、走行しているときでも一定回数を超えると、ブザーは止まります。
- セレクトレバーを[R]に入れたときは、後退位置警報装置のブザーが鳴り、シートベルト非着用警告ブザーは鳴りません。



ドア／テールゲート開閉警告灯

ドア、テールゲートが完全に閉まっていないときに点灯します。

▼

ドア、テールゲートを完全に閉めてください。



SRSエアバッグシステム警告灯（エアバッグシステムとシートベルトプリテンショナー警告灯兼用）

SRSユニットがシステムの異常を検出すると点灯します。

SRSエアバッグシステム　→164ページ
サイドエアバッグシステム　→172ページ
シートベルトプリテンショナー　→184ページ



アンチロックブレーキシステム（ABS）警告灯

ABSが異常のときに点灯します。

→187ページ



エレクトリックパワーステアリング(EPS)警告灯

EPSが異常のときに点灯します。

▼

点灯したときは

運転中に点灯したとき(安全な場所に停車してからエンジンを再始動し、その後走行中に消灯していれば正常です。)は、システムの異常が考えられますので、すみやかにHonda販売店で点検を受けてください。

知 識

- 警告灯が点灯しているときは、パワー装置のはたらきを制限するので、ハンドル操作が重くなります。
- 停車中にエンジンの空ぶかしを行うと、警告灯が点灯しハンドル操作が重くなる場合があります。このときは、エンジンを再始動すると警告灯が消灯します。
- 停車中または極低速でハンドル操作をくり返したときなどシステムの温度が上昇すると、システム保護のためパワー装置のはたらきを制限するので、ハンドル操作が徐々に重くなります。
  システムの温度が下がると復帰します。
  システム保護がはたらくような使いかたを連続的にくり返すと、システム破損の原因となります。



Hondaスマートキーシステム警告灯

Hondaスマートキーシステム装備車

Hondaスマートキーシステムが異常のときに点灯します。

▼

警告灯が次のような状態になったときは、システムの異常が考えられますので、すみやかにHonda販売店で点検を受けてください。

・運転中に点灯したとき。
・エンジンスイッチを“II”にしても点灯しないとき、あるいは数秒経過しても消灯しないとき。
・エンジンスイッチが“0”のときに数秒間点灯したとき。

アドバイス

●警告灯が点灯した場合は、Hondaスマートキーを使わずに、キーを使ってください。
キーを使うとき　→120ページ
内蔵キーの差し込みかた
→298ページ

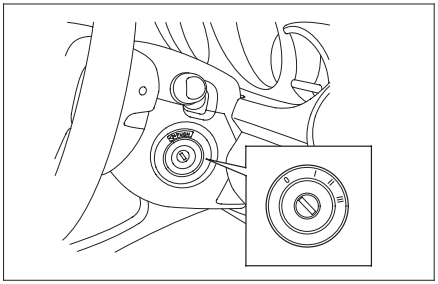
警告灯の電球切れの点検

エンジンスイッチを“II”にしたとき、下記の警告灯類が点灯するのが正常です。点灯しないときは、Honda販売店へご連絡ください。

●**ブレーキ警告灯**
（パーキングブレーキが解除されているときは数秒後消灯）
（パーキングブレーキをかけているときは完全に解除すると消灯）
●**油圧警告灯**
（エンジン始動後消灯）
●**PGM-FI警告灯**
（数秒後消灯）
●**充電警告灯**
（エンジン始動後消灯）
●**トランスミッション警告灯**
（数秒後消灯）
●**SRSエアバッグシステム警告灯**
（約 6 秒後消灯）
●**アンチロックブレーキシステム（ABS）警告灯**
（数秒後消灯）
●**エレクトリックパワーステアリング（EPS）警告灯**
（エンジン始動後消灯）
●**Hondaスマートキーシステム警告灯**
（数秒後消灯）

スイッチの使いかた

エンジンスイッチ（キーを使った操作）



0

キーを抜き差しする位置です。

I

エンジンをかけずにラジオなどのアクセサリーを使用するときの位置です。

II

運転するときの位置です。

III

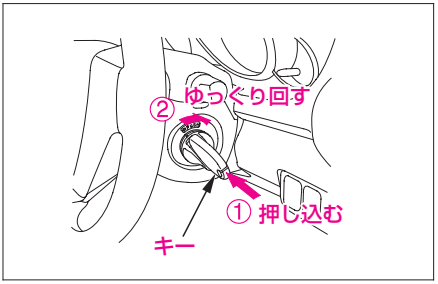
エンジン始動位置です。
始動したら、キーから手を離してください。自動的に“II”に戻ります。

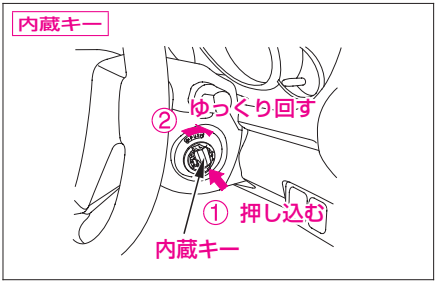
エンジンスイッチを“0”から“I”へ回すとき

Hondaスマートキーシステム装備車

キーを押し込んで、ゆっくり回します。

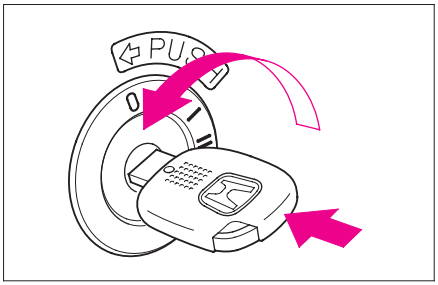
キーを使うとき →120ページ
内蔵キーの差し込みかた →298ページ





キーを抜くとき

・セレクトレバーをPに入れます。
・“I”でキーを押し込んで“0”まで回してキーを抜きます。



知 識

- キーを抜くとハンドルがロックされます。
- セレクトレバーがP以外のときは、エンジンスイッチが“0”まで回らないので、キーを抜くことができません。
- **Hondaスマートキーシステム装備車**

  Hondaスマートキーを使ったエンジンスイッチの操作

  →121ページ

“0”から“I”にキーが回らないとき（ハンドルロックの解除）

ハンドルを左右に回しながらキーを回せば容易に回ります。

知 識

- エンジンスイッチを“0”にするときは、途中の位置で止めずに“0”まで回してください。
- エンジンを止めた状態で“I”または“II”のまま、長時間放置しないでください。
  バッテリー容量が低下し、エンジンがかからなくなることがあります。
- 車から離れるときは、バッテリー保護のため必ず“0”にしてください。

●キー抜き忘れ警告ブザー

エンジンスイッチが“I”または“0”でキーを差し込んだまま車を離れようとしたとき（運転席ドアを開けたとき）、ブザーが鳴りキーの抜き忘れを知らせます。

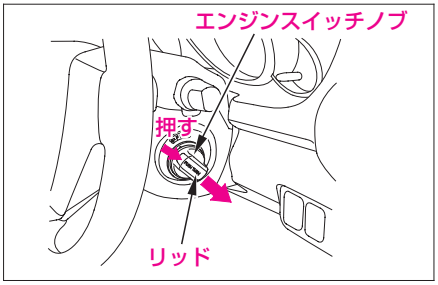
●キーを使うとき

Hondaスマートキーシステム装備車

キーを使って、エンジンの始動や、ハンドルロックの解除をするときは、エンジンスイッチノブのリッドを取り外します。

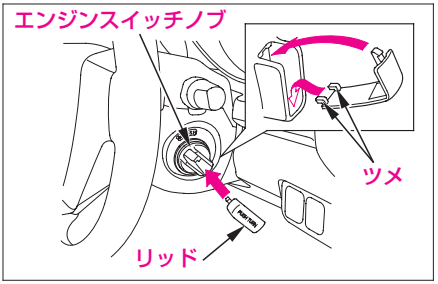
取り外すとき

リッドの手前側を押しながら、リッドを外します。



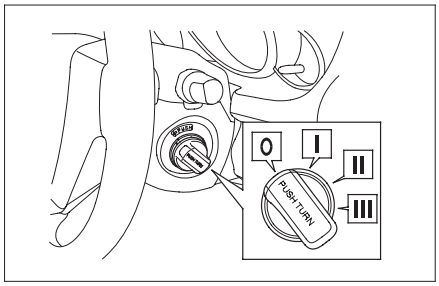
取り付けるとき

リッドのツメをエンジンスイッチノブに引っかけて、取り付けます。



エンジンスイッチ（Hondaスマートキーを使った操作）

Hondaスマートキーシステム装備車

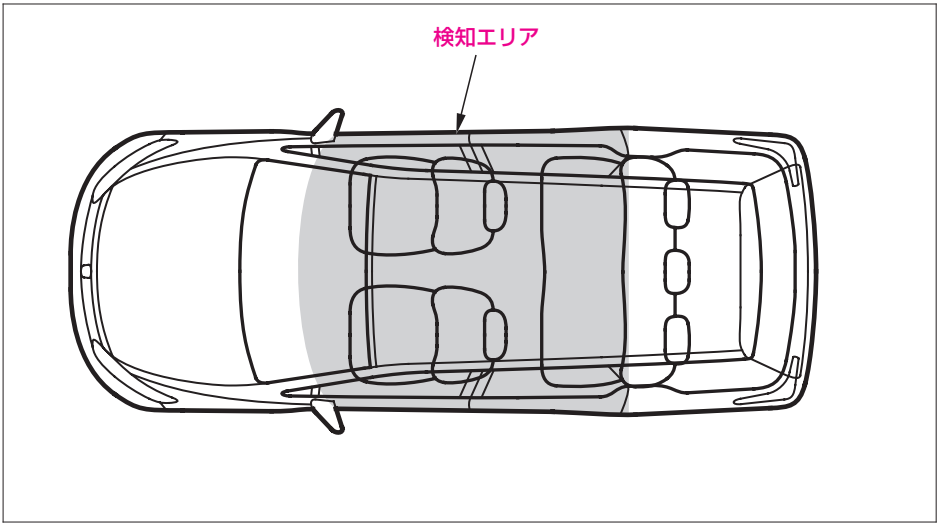


0	（プッシュオフ） エンジンスイッチがロックされる位置です。
0	（プッシュオン） エンジンスイッチノブを押すと、ロックが解除されエンジンスイッチを回すことができます。
I	エンジンをかけずにラジオなどのアクセサリーを使用するときの位置です。
II	運転するときの位置です。
III	エンジン始動位置です。 始動したら、エンジンスイッチノブから手を離してください。自動的に“II”に戻ります。

●エンジン始動の作動範囲

エンジン始動の機能が作動する範囲は、インストルメントパネル上、カーゴルームやグローブボックス、ドアポケットなどの各種小物入れを除く車内です。

エンジンのかけかた　→138ページ

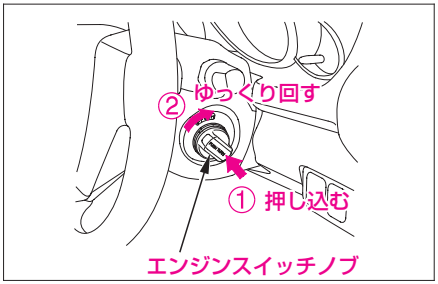


知 識

- Hondaスマートキーの電池が消耗しているときや、強い電波、ノイズのある場所などでは、作動範囲が狭くなったり、作動が不安定になることがあります。
- 次のような場合、システムがHondaスマートキーを認識できないため、エンジンスイッチの操作ができず、エンジンの始動ができないことがあります。
  - ・インストルメントパネル上、カーゴルームやグローブボックス、ドアポケットなどの各種小物入れにHondaスマートキーを置いたとき。
  - ・Hondaスマートキーを入れている物（バッグやポケット）の中に、携帯端末などの電波を発する物やノイズを発する物があるとき。
- 車外にHondaスマートキーがあっても、ドアやドアガラスに近づき過ぎている場合は、エンジンの始動ができることがあります。

エンジンスイッチを“0”から“I”へ回すとき

エンジンスイッチノブを押し込みます。エンジンスイッチのロックが解除されると、“ピッ”とブザーが鳴ります。ブザーが鳴ったら、エンジンスイッチをゆっくりと回します。



エンジンスイッチが“0”から“I”に回らないとき

（ハンドルロックの解除）

ハンドルを左右に回しながらエンジンスイッチを回せば容易に回ります。

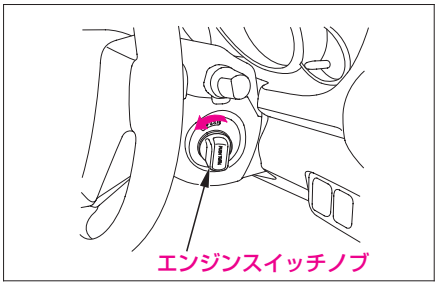
もし、エンジンスイッチが回らない場合は、もう一度エンジンスイッチノブを押し直してゆっくりと回してください。

Hondaスマートキーの作動不良などにより、エンジンスイッチが回せない場合は、エンジンスイッチをいったん戻し、キーを挿入してエンジンスイッチを回してください。

キーを使うとき　→120ページ
内蔵キーの差し込みかた　→298ページ

エンジンスイッチを“0”に回すとき

・セレクトレバーをPにします。
・エンジンスイッチノブを“0”に回します。



車から離れるときは、エンジンスイッチを“0”にしてから離れるようにしてください。

知 識

- エンジンスイッチを“0”にするときは、途中の位置で止めずに“0”まで回してください。
- エンジンを止めた状態で“I”または“II”のまま、長時間放置しないでください。
  バッテリー容量が低下し、エンジンがかからなくなることがあります。
- エンジンスイッチが“0”以外では、Hondaスマートキーで施錠できません。
  車から降りてドアを閉めたときに警告ブザー(ピピピピピピ)が鳴ったときは、車の状態を確認してください。
  Hondaスマートキー持ち去り警告
  →125ページ
- エンジンスイッチを“0”にするとハンドルがロックされます。
- セレクトレバーがP以外のときは、エンジンスイッチが“0”まで回りません。

●エンジンスイッチ警告ブザー

エンジンスイッチが“Ⅰ”で、車を離れようとしたとき(運転席ドアを開けたとき)、ブザーが鳴りエンジンスイッチを“0”にしていないことを知らせます。

知 識

- エンジンスイッチが“0”の位置で、エンジンスイッチノブを押し込んでいるときに、運転席ドアを開けた場合にもブザーが鳴ります。

●Hondaスマートキー持ち去り警告

誤操作や車両盗難防止のために、警告音を鳴らしたり、メーター内に警告を表示します。警告音が鳴ったり、警告表示が出た場合は、必ず車両およびHondaスマートキーの確認を行ってください。

▼

Hondaスマートキーをエンジン始動の作動範囲外に持ち出してドアを閉めると、Hondaスマートキー持ち去り警告が作動します。

エンジン始動の作動範囲　→122ページ

警告ブザーの種類

警告ブザーは、車内警告ブザーと車外警告ブザーの2種類があります。

・車内警告ブザー

“ピーッピーッピーッピーッピーッピーッ”と6回鳴ります。

・車外警告ブザー

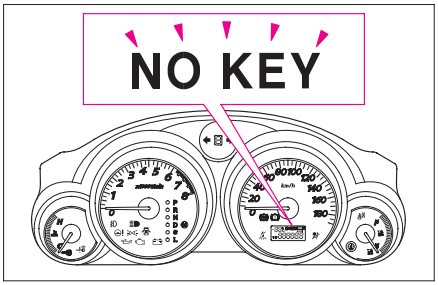
“ピピピピピピ”と6回鳴ります。

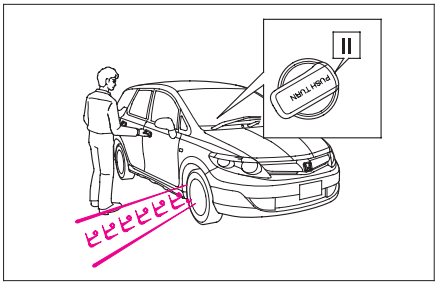
知 識

- Hondaスマートキーを持ち出した状態で、エンジンスイッチを“0”(プッシュオフ)にすると、エンジンスイッチの操作ができなくなります。
  エンジンスイッチを操作するときは、Hondaスマートキーを持っていることを確認してください。
- 窓からの受け渡しでは、Hondaスマートキーの持ち去りを検知せず、警告は作動しません。
- エンジン始動の作動範囲内にHondaスマートキーがあってもHondaスマートキーの携帯状態や周囲の環境、電波状態などにより、Hondaスマートキーの位置を認識できないときも、警告が行われます。
  故障ではありませんが、Hondaスマートキーを携帯していることを確認してください。

エンジンスイッチが“II”のとき

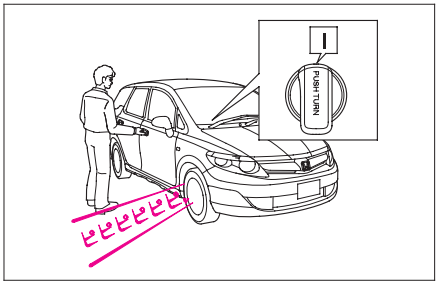
メーター内の“NO KEY”表示が点滅し、車内警告ブザーと車外警告ブザーが鳴ります。





エンジンスイッチが“ I ”または“ 0 ”(プッシュオン)のとき

車外警告ブザーが鳴ります。



Hondaスマートキー持ち去り警告が出たときは

エンジン始動の作動範囲内にHondaスマートキーを戻して、ドアを閉めると警告が解除されます。

エンジン始動の作動範囲内であってもHondaスマートキーの位置や状態、周囲の環境や電波状態などにより、警告が解除されず、再度Hondaスマートキー持ち去り警告が行われることがあります。故障ではありませんが、Hondaスマートキーを携帯していることを確認してください。

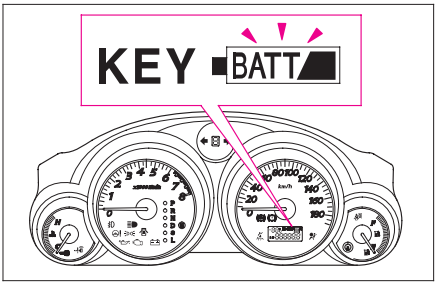
警告状態が続く場合は、Hondaスマートキーの携帯位置を変更することをお勧めします。

●Hondaスマートキー電池消耗警告

電池の残量が少なくなったときに、警告音を鳴らし、メーター内に警告を表示して知らせます。

▼

エンジンスイッチを“II”にしたときに、メーター内に“KEY BATT”(“BATT”は点滅)が表示され、車内警告ブザーが鳴ります。



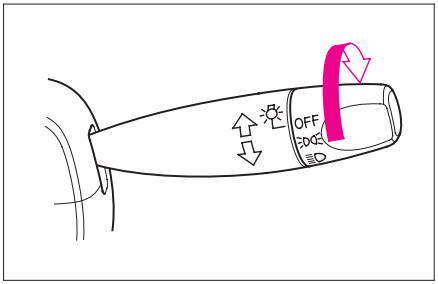
“KEY BATT”が表示されたときは、早めにHondaスマートキーの電池を交換してください。

電池交換のしかた　→297ページ

ライトスイッチ

●ライトの点灯・消灯

エンジンスイッチの位置に関係なく次のように点灯、消灯します。



スイッチの位置	≡D○≡	≡D
ヘッドライト	—	点灯
計器類照明 車幅灯・尾灯 番号灯	点灯	点灯

ライト類が点灯すると、メーター内の表示灯が点灯します。

ライト点灯表示灯　→106ページ

知 識

- エンジンが止まっている状態で、ライト類を点灯したままにしないでください。バッテリーあがりの原因となります。

●ライト消し忘れ警告ブザー

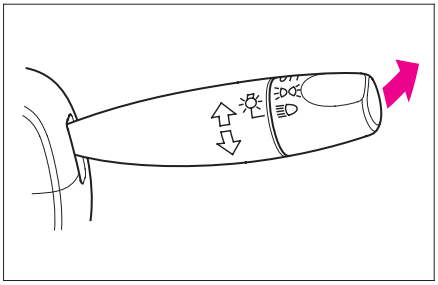
次の場合に、ブザーが鳴りライトの消し忘れを知らせます。

- ライトを点灯したままエンジンスイッチからキーを抜いて、車を離れようとしたとき(運転席ドアを開けたとき)。
- Hondaスマートキーシステム装備車
  ライトを点灯したままエンジンスイッチを“0”(プッシュオフ)にして、車を離れようとしたとき(運転席ドアを開けたとき)。

●ヘッドライトの上向き（ハイビーム）と下向き（ロービーム）の切り換え

レバーを前方へ押すと上向きになります。戻すと下向きになります。
上向きのときは、メーター内の表示灯が点灯します。

ヘッドライト上向き（ハイビーム）表示灯 →106ページ

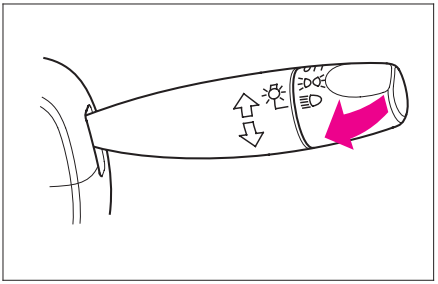


知 識

- 対向車のあるときや市街地走行など、上向きが不適切なときは下向きにします。

●追越合図（パッシング）

レバーを手前に引いている間、上向きが点灯します。



●オートレベリング機能

ディスチャージヘッドライト装備車

ヘッドライトには、積載時などの車両の姿勢の変化に応じて光軸の上下方向を自動的に調節するオートレベリング機能が装備されています。

知 識

- ヘッドライト光軸の上下方向に異常を感じたときはHonda販売店で点検を受けてください。

●ヘッドライトレベリングダイヤル

ハロゲンヘッドライト装備車

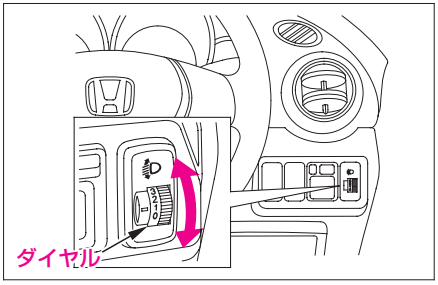
エンジンスイッチが“II”のとき、ヘッドライトの照らす方向(光軸)を下向きに調節することができます。
乗員や荷物が多いときなど、ヘッドライトが通常より上を向いているときは、ヘッドライトの光軸を下向きにしてください。

▼

光軸の調節はダイヤルを回して行います。

下方向へ回すとヘッドライトの光軸は下向きに変わります。

ダイヤルの数字が大きいほど光軸は下向きになります。



乗員の人数や荷物の量に応じて、下記の表を目安にダイヤル位置を調節してください。

《ダイヤル位置の目安》

乗員やカーゴスペースの積載状況	ダイヤル位置
運転席のみ乗車時	0
運転席と助手席に乗車時	
5名乗車時	1
5名乗車でカーゴスペース満載時	2
運転席のみ乗車でカーゴスペース満載時	3

知 識

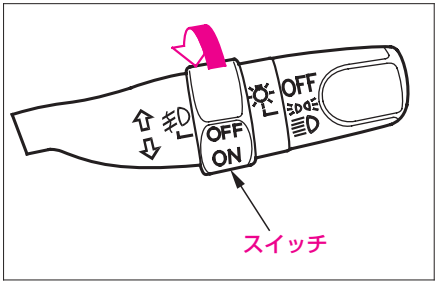
- 車検などで光軸調整をするときは、ダイヤルを“0”の位置に戻してから行ってください。

フォグライトスイッチ

フォグライト装備車

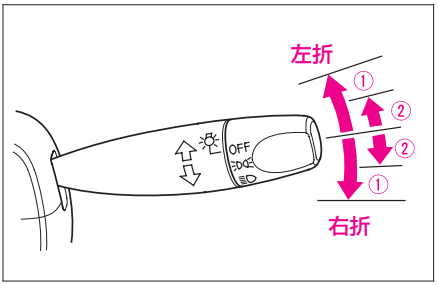
ライトスイッチが“OFF”以外のときスイッチを“ON”にするとフォグライトが点灯します。
同時にメーター内の表示灯が点灯します。

フォグライト点灯表示灯　→106ページ



方向指示器(ウィンカー)スイッチ

エンジンスイッチが“II”のとき使えます。
ふだんは①の位置で使います。
この位置ではハンドルの切り角が小さいときには戻らない場合もあります。戻らないときは手で戻してください。
車線変更などでは②の位置に軽く手で押さえながら使います。



ワイパー／ウォッシャースイッチ

⚠注意

- 寒冷時はフロントガラスが暖まるまでウォッシャー液を噴射しないでください。
  ウォッシャー液が凍りついて視界の妨げとなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

知 識

- 乾拭きをしないでください。ガラス面に傷をつけたり、ブレード（ゴム部）を傷めたりします。
- ウォッシャー液が出ないときはウォッシャースイッチを切ってください。
  ウォッシャー液がないままで動かすとポンプの故障の原因となります。
- 寒冷時、ブレード（ゴム部）がガラス面に張りつくことがありますのでデフロスターを使ってフロントガラスを暖めてください。
  凍りついたまま動かすとブレード（ゴム部）を傷めたり、ワイパーモーターの故障の原因となります。

デフロスター　→200、205ページ

知 識

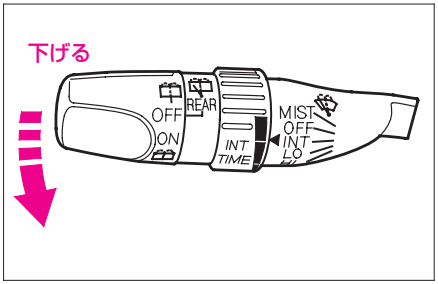
- ワイパーを作動中にガラスに雪などがたまりワイパーが停止したときは、安全な場所に停車してワイパースイッチを“OFF”、エンジンスイッチを“0”または“I”にしてワイパーが作動できるように雪などの障害物を取り除いてください。
- ワイパーモーターには、保護機能としてブレーカーを内蔵しています。
  モーターの負荷が大きい状態が続いたときなどには、ブレーカーが作動し、一時的にモーターが止まることがあります。
  数分ほどすると、ブレーカーが復帰して通常通り使用できるようになります。
- ワイパーアームを起こすときは、運転席側を先に起こしてください。また、倒すときは、助手席側を先に倒してください。

ワイパーアームの起こしかた
→327ページ

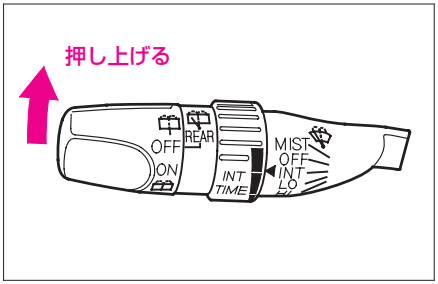
エンジンスイッチが“II”のとき使えます。

●フロントガラス

ワイパースイッチ



OFF ・・・・・・・・・・・・・・・ 停止
INT（間欠） ・・・・・・・・・ 雨量の少ないとき
LO（低速） ・・・・・・・・・・ 普通雨量のとき
HI（高速） ・・・・・・・・・・・ 雨量の多いとき



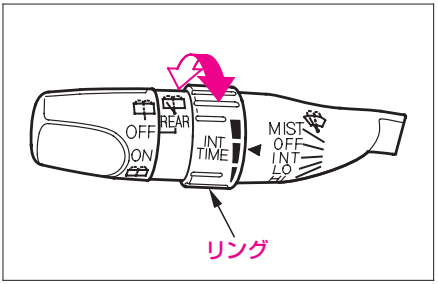
MIST ・・・・・・・・・・・・・・
レバーを押し上げている間、高速で作動します。
霧や小雨のときなどに使うと便利です。

間欠時間の調節

ワイパーの間欠作動の間隔を調節できます。

▼

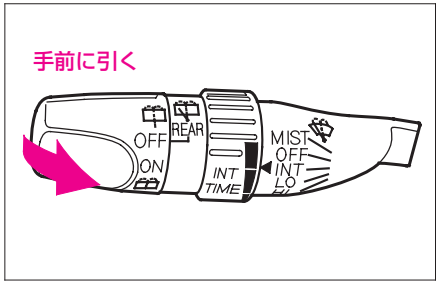
間隔のセットはリングを回して行います。



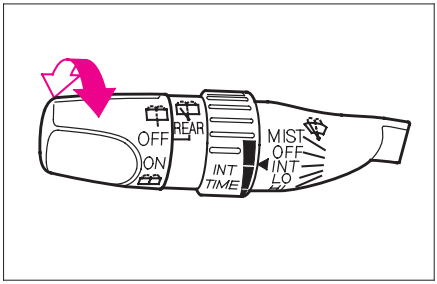
位置	間隔
	長い ↕ 短い

ウォッシャースイッチ

レバーを手前に引くとウォッシャー液が噴射します。レバーを引いている間はワイパーが作動し、レバーを離した後さらに 2 ～ 3 回作動します。



●リヤガラス



OFF ····· 停止
ON ····· ワイパーが作動します。
⛲ ····· スイッチを回している間、ウォッシャー液が噴射します。

リヤデフロスタースイッチ

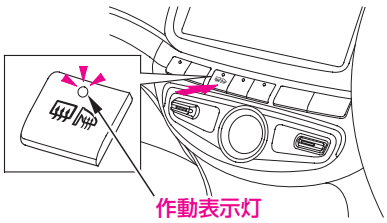
リヤガラスを暖め、曇りを取ることができます。

▼

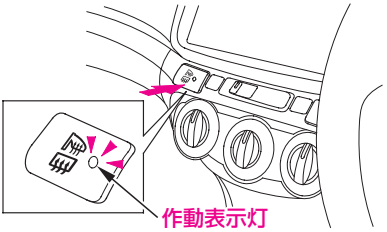
エンジンスイッチが“II”のときスイッチを押すと“ON”になり、同時に作動表示灯が点灯します。もう一度スイッチを押すと“OFF”になり、作動表示灯は消灯します。

ヒーテッドドアミラー装備車

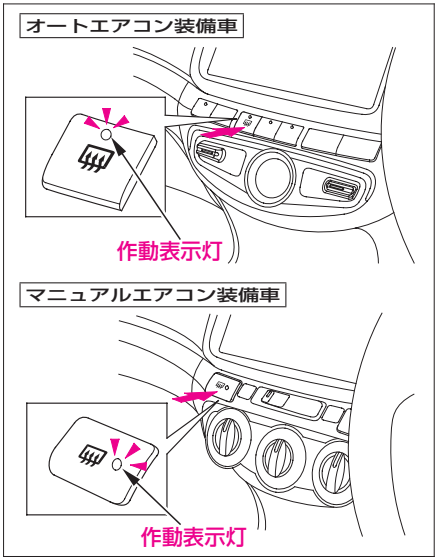
オートエアコン装備車



マニュアルエアコン装備車



ヒーテッドドアミラー非装備車

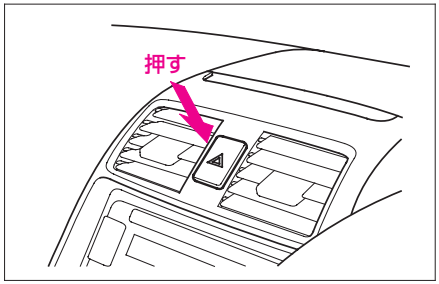


知 識

- この装置は消費電力が大きいので曇りが取れたら“OFF”にしてください。また、エンジンの回転が低いとき長時間使わないでください。バッテリー容量が低下し、エンジン始動に影響することがあります。
- リヤガラスの内側に電熱線が装着されています。電熱線は傷つきやすいので清掃のときは電熱線に沿ってやわらかい布で拭いてください。また、手荷物などで傷つけないようにしてください。
- **ヒーテッドドアミラー装備車**
  リヤデフロスタースイッチを押すと、ドアミラーの曇り取りも同時に機能します。
  ヒーテッドドアミラー
  →77ページ

非常点滅表示灯(ハザード)スイッチ

スイッチを押すとすべての方向指示器のランプが点滅します。
故障でやむをえず路上駐車するときに使います。

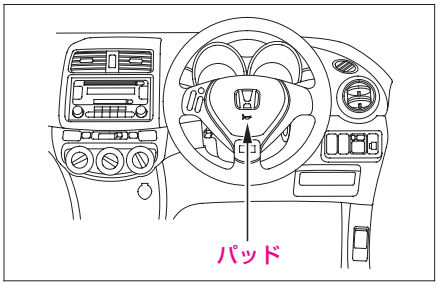


知 識

- 非常時にのみお使いください。
  完全充電の新しいバッテリーでも約2時間以上使うとバッテリー容量が低下し、エンジンの始動ができなくなります。

ホーンスイッチ

ハンドルのパッドを押すとホーンが鳴ります。



運転のしかた

エンジンのかけかた

⚠警告

- バッテリー液が不足しているときは、エンジンの始動をしないでください。
  バッテリーが破裂するおそれがあります。
- 車庫や屋内などの換気の悪いところでは、エンジンをかけたままにしないでください。
  車内や屋内などに排気ガスが充満し、一酸化炭素中毒のおそれがあります。

⚠注意

- エンジンを始動するときは、ブレーキペダルをしっかりと踏んでください。

アドバイス

- 排気音が変わったり、車内でガソリンや排気ガスのにおいが消えない場合は、排気系や燃料系の異常が考えられますので、必ずHonda販売店で点検を受けてください。

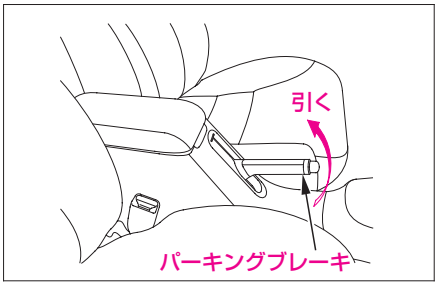
Hondaスマートキーシステム装備車は、Hondaスマートキーを運転者が携帯し、車内にHondaスマートキーを残したまま降車しないでください。
また、電池の消耗などでHondaスマートキーが正常に作動しないときは、キーを使ってエンジンを始動してください。

キーを使うとき →120ページ
内蔵キーの差し込みかた →298ページ

①パーキングブレーキがかかっていることを確認します。

パーキングブレーキの操作

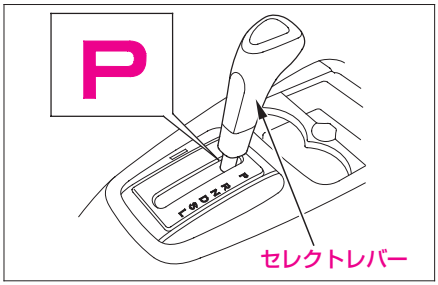
→142ページ



②セレクトレバーがPの位置にあることを確認してください。

セレクトレバーの操作

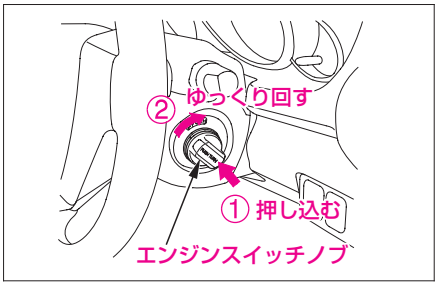
→144、150ページ



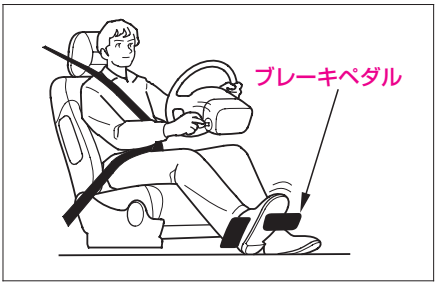
③ブレーキペダルをしっかりと踏みます。

④ **Hondaスマートキーシステム装備車**

エンジンスイッチノブを押し込みます。“ピッ”というブザーが鳴ってから、ゆっくりと回してください。



⑤アクセルペダルを踏まずに、エンジンスイッチをゆっくりと“III”まで回し、エンジンが始動したら手を離してください。自動的に“II”に戻ります。





知 識

- 消費電力の大きいライト類、エアコン、リヤデフロスターのスイッチは“OFF”にした方が始動は容易になります。
- バッテリーあがりを防ぐため、エンジンスイッチは連続して15秒以上回さないでください。15秒回してもエンジンが始動しなかったときは、一度エンジンスイッチを“Ⅰ”に戻して10秒以上待ってから再始動してください。
- 周囲の電波状態などによりエンジンが始動できないことがあります。

イモビライザーシステムについて　→58ページ

- エンジンスイッチを“Ⅱ”にした直後（イモビライザーシステム表示灯点灯中）は、エンジンが始動できないことがありますので、表示灯が消灯するのを確認してから、スターターを回すことをおすすめします。

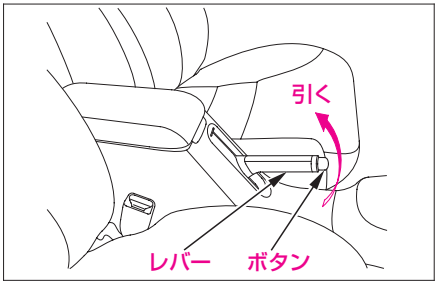
イモビライザーシステム表示灯　→108ページ

- エンジンがあたたまっていると始動に時間がかかることがあります。アクセルペダルを半分程度踏み込んだまま、エンジンスイッチを回してください。エンジンが始動したらアクセルペダルを徐々に戻してください。
- エンジン始動後は、エンジン制御システムの働きによりエンジン回転が高くなりますが、自動的に適正回転に下がります。

パーキングブレーキ

かけるとき

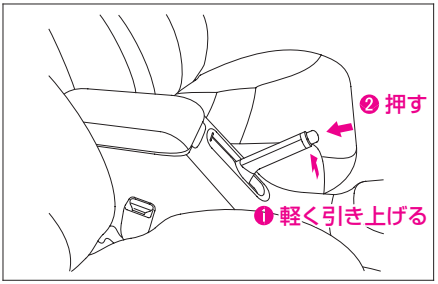
ボタンを押さずにレバーをいっぱいに引きます。



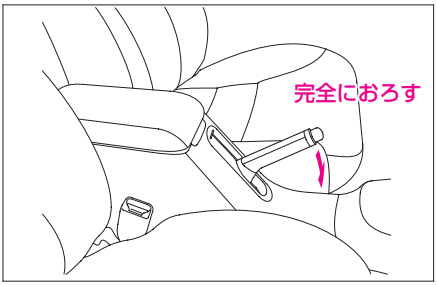
後輪ブレーキが効きます。

解除するとき

①レバーを軽く引き上げながら、ボタンを押します。



②ボタンを押したまま、レバーを下に完全におろします。





⚠注意

●パーキングブレーキをかけたまま走行しないでください。
ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

知 識

●駐車するときは、車が動き出さないように必ずパーキングブレーキをかけてください。

寒冷時のパーキングブレーキの取り扱い　→322ページ

パーキングブレーキ戻し忘れ警告ブザー

パーキングブレーキが完全に解除されていない状態で走行（車速約 7 km/h以上）するとブザーが鳴り、パーキングブレーキの戻し忘れを知らせます。パーキングブレーキを完全に解除するとブザーは止まります。

ブレーキ警告灯　→112ページ

知 識

●停車（車速約 3 km/h以下）するとブザーによる警告は一旦止まります。

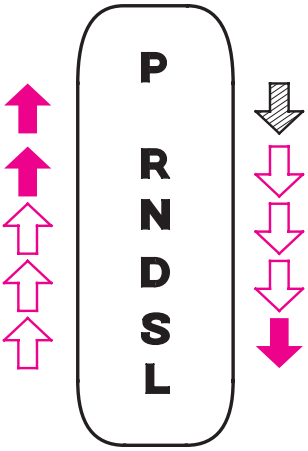
セレクトレバーの操作

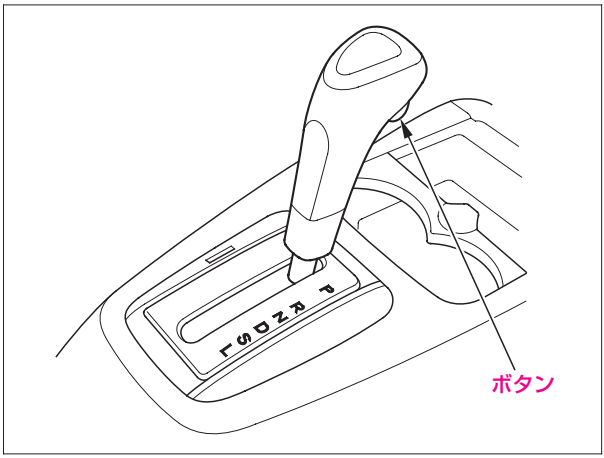
L（ホンダマルチマチック 7 速モード車）

●それぞれの位置のはたらき

P	パーキング	駐車およびエンジンを始動する位置。 キーを抜く位置。 **知 識** ● セレクトレバーがPI以外のときは、エンジンスイッチが“0”まで回らないので、キーを抜くことができません。
R	リバース	車を後退（バック）させる位置。 ブザーが鳴り、セレクトレバーがRに入っていることを運転者に知らせます。
N	ニュートラル	中立位置。 （エンジン始動できますが、安全のためPで行ってください。）
D	ドライブ	通常の走行をする位置。 7 速モード（7 速オートシフトモード、7 速マニュアルシフトモード）にすることができます。
S		上り坂、下り坂に使う位置。 （高回転領域を有効に使用できます。） 7 速モード（7 速オートシフトモード、7 速マニュアルシフトモード）にすることができます。
L	ロー	エンジンブレーキが必要なときに使う位置。

●セレクトレバーの動かしかた





ブレーキペダルを踏んだまま、ボタンを押してレバーを操作します。

ボタンを押さずにレバーを操作します。

ボタンを押してレバーを操作します。

知 識

- セレクトレバーの操作は誤操作防止のため各位置ごとに節度をつけ、確実に行ってください。
- Pのときは、ボタンを押したままブレーキペダルを踏んだ場合、レバーの操作ができないことがあります。先にブレーキペダルを踏んでください。
- エンジンスイッチが“I”または“0”のときは、ブレーキペダルを踏んでもPから他の位置に切り換えられません。
- いつもボタンを押して操作すると意に反してPRLに入れてしまうおそれがあります。
  ⇧ ⇩ の操作は、ボタンを押さずに動かす習慣をつけてください。

⚠注意

- 滑りやすい路面では、急激なエンジンブレーキがタイヤのスリップを招くことがあります。
  シフトダウンする際の車速には、十分注意してください。

知 識

- 法定速度を守って走行してください。
- 1,000km走行するまではエンジンや駆動系の保護のため急発進、急加速を避け控えめな運転をしてください。

● 7速モード

7速モードにするとトランスミッションの変速比を1速から7速に設定します。
7速オートシフトモードと7速マニュアルシフトモードを選択できます。

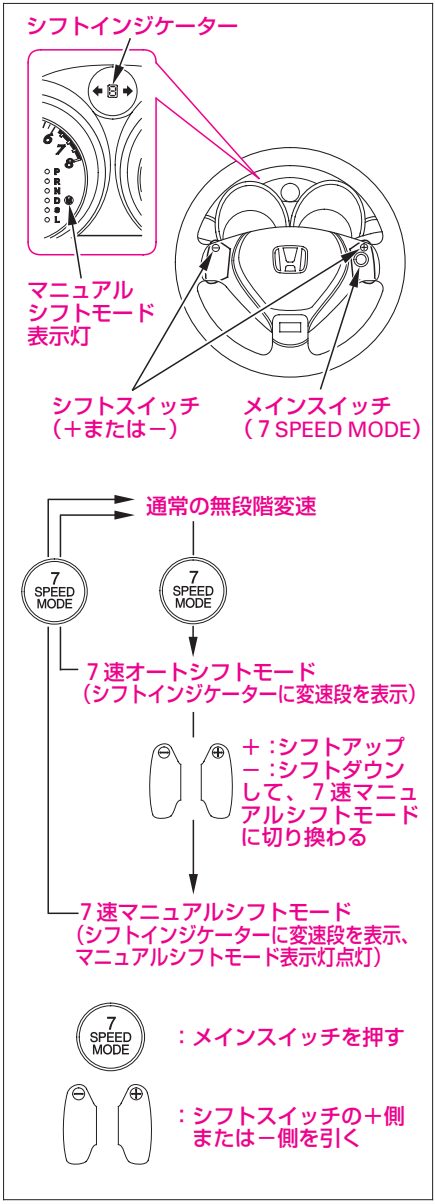
7速オートシフトモード →147ページ
7速マニュアルシフトモード →148ページ

モードの切り換え

セレクトレバーがⒹまたはⓈのとき、メインスイッチを押すと7速オートシフトモードに切り換わります。（シフトインジケーターに変速段を表示）
7速オートシフトモードのときにシフトスイッチを引くと7速マニュアルシフトモードに切り換わります。（シフトインジケーターに変速段を表示、マニュアルシフトモード表示灯点灯）
解除するときは、メインスイッチを押します。

知 識

- 次の場合、7速オートシフトモードまたは、7速マニュアルシフトモードは、自動的に解除されます。
  - セレクトレバーを操作したとき。
  - エンジンスイッチを”I”にしたとき。



7速オートシフトモード

7速オートシフトモードは、1速から7速まで自動変速します。

知 識

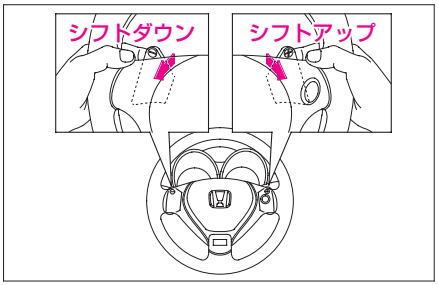
- セレクトレバーの位置がⓈのときは、Ⓓのときより高回転領域を有効に使用できます。
- セレクトレバーの位置がⒹのときで、シフトインジケーターが7速を表示中に条件を満たすと燃費向上のため、さらに高速の変速比に切り換わります。このとき、シフトインジケーターは7速のままとなります。

7速マニュアルシフトモード

7速マニュアルシフトモードは、ハンドルから手を離さずにマニュアルシフト操作ができます。

スイッチの＋側を引くとシフトアップ（高速側に変速）
スイッチの－側を引くとシフトダウン（低速側に変速）します。

モードの切り換え　→146ページ



知 識

- シフトスイッチの操作1回で、変速段を1段変速します。連続して操作したときは、変速段を連続して変速します。シフトスイッチを引いたままでは、連続変速しません。続けて変速するときは、一旦シフトスイッチから指を離してから操作してください。
- シフトスイッチを引いたまま、もう一方のシフトスイッチを引いても変速しません。
- シフトスイッチの＋側と－側を同時に引いても変速しません。

・1速の使いかた

シフトスイッチを操作しないで停止すると自動的に2速までシフトダウンします。下り坂や上り坂での発進時に1速を使用するときは、シフトスイッチの－側を引いて1速に変速してください。

・操作受け付けエンジン回転数

7速マニュアルシフトモードでは、以下の条件のときにシフトスイッチを操作すると変速します。

シフトアップ･･･
　変速後のエンジン回転数が1,400rpm以上になるとき
シフトダウン･･･
　変速後のエンジン回転数が6,000rpm以下になるとき

知 識

- 7速マニュアルシフトモードでは、発進は2速または1速で行えます。
- 以下の場合、自動的に変速します。
  - ・エンジン回転数が6,000rpm以上になるとシフトアップします。
  - ・エンジン回転数が1,400rpm以下になるとシフトダウンします。
- セレクトレバーの位置が㊀のときで、シフトインジケーターが7速を表示中に条件を満たすと燃費向上のため、さらに高速の変速比に切り換わります。このとき、シフトインジケーターは7速のままとなります。

セレクトレバーの操作

G(ホンダマルチマチック車)

●それぞれの位置のはたらき

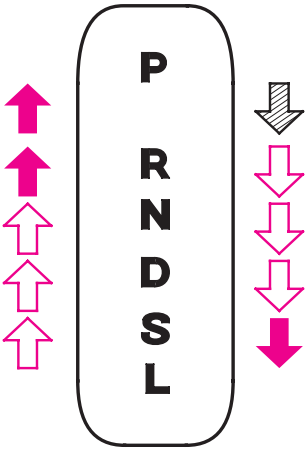
P	パーキング	駐車およびエンジンを始動する位置。 キーを抜く位置。

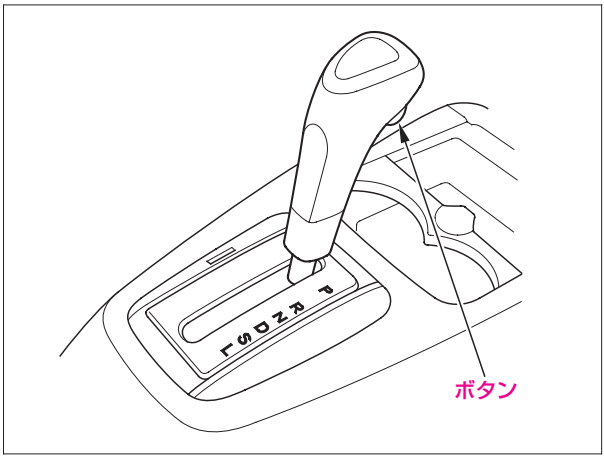
知 識

- セレクトレバーがPi以外のときは、エンジンスイッチが“0”まで回らないので、キーを抜くことができません。

R	リバース	車を後退(バック)させる位置。 ブザーが鳴り、セレクトレバーがRに入っていることを運転者に知らせます。
N	ニュートラル	中立位置。 (エンジン始動できますが、安全のためPで行ってください。)
D	ドライブ	通常の走行をする位置。
S		上り坂、下り坂に使う位置。 (高回転領域を有効に使用できます。)
L	ロー	エンジンブレーキが必要なときに使う位置。

●セレクトレバーの動かしかた





ブレーキペダルを踏んだまま、ボタンを押してレバーを操作します。

ボタンを押さずにレバーを操作します。

ボタンを押してレバーを操作します。

知 識

- セレクトレバーの操作は誤操作防止のため各位置ごとに節度をつけ、確実に行ってください。
- Pのときは、ボタンを押したままブレーキペダルを踏んだ場合、レバーの操作ができないことがあります。先にブレーキペダルを踏んでください。
- エンジンスイッチが“I”または“0”のときは、ブレーキペダルを踏んでもPから他の位置に切り換えられません。
- いつもボタンを押して操作すると意に反してPRLに入れてしまうおそれがあります。
  ⇧ ⇩ の操作は、ボタンを押さずに動かす習慣をつけてください。

⚠注意

- 滑りやすい路面では、急激なエンジンブレーキがタイヤのスリップを招くことがあります。
  シフトダウンする際の車速には、十分注意してください。

知 識

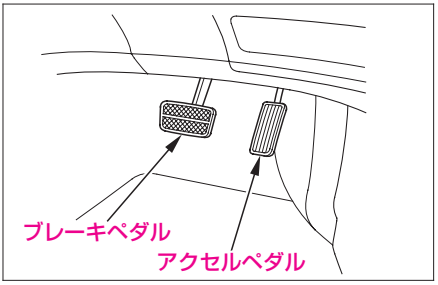
- 法定速度を守って走行してください。
- 1,000km走行するまではエンジンや駆動系の保護のため急発進、急加速を避け控えめな運転をしてください。

オートマチック車の運転のしかた

オートマチック車は、クラッチ操作とギヤの切り換えを自動化したもので、その分、操作の負担が軽くなり、運転が楽になりますが、運転の基本を十分理解し、正しく操作する習慣をつけてください。

エンジンをかける前に

正しい運転姿勢をとり、右足でアクセルペダルとブレーキペダルが確実に踏めるか確認します。



知 識

- ペダルの踏みまちがいを防ぐため、ペダルの位置を実際に踏んでみて足におぼえさせておくことが重要です。
  また、不慣れな左足では、適切なブレーキ操作ができません。
- 車を少し移動させるときにもペダルが確実に踏めるように、正しい運転姿勢をとりましょう。

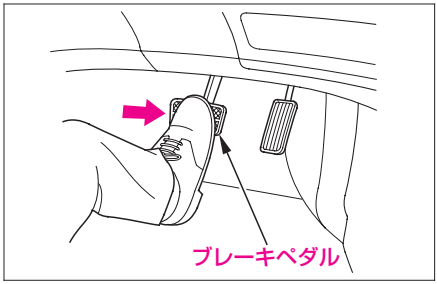
エンジン始動

①パーキングブレーキがかかっていることを確認。
②セレクトレバーがPに入っていることを確認。

知 識

- Nでも始動できますが、安全のため駆動輪が固定されるPで行ってください。

③ブレーキペダルを右足で踏んで始動。

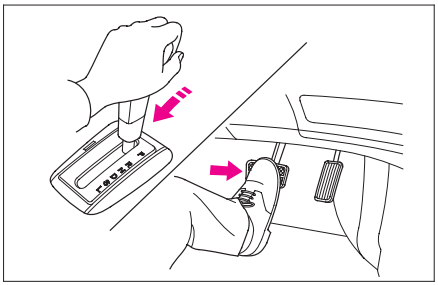


知 識

- イモビライザーシステム表示灯が点滅しているときはエンジンを始動することができません。
  イモビライザーシステムについて →58ページ
  イモビライザーシステム表示灯 →108ページ
- 始動時にアクセルペダル操作が必要な場合は、始動後、右足でブレーキペダルを踏んでください。

発進

①右足でブレーキペダルを踏んだまま、セレクトレバーを前進はⒹ、後退はⓇに入れる。



⚠注意

●アクセルペダルを踏んだまま、セレクトレバーを操作しないでください。急発進して思わぬ事故の原因になります。

②レバーの位置を目で再確認。
③パーキングブレーキを解除する。
④ブレーキ警告灯が消灯したことを確認。
(→112ページ)
⑤ブレーキペダルを徐々に離して、アクセルペダルをゆっくりと踏む。

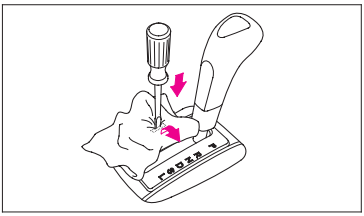
知 識

●セレクトレバーをⓅⓃ以外に入れると、クリープ現象により、アクセルペダルを踏まなくても車が動き出します。ブレーキペダルを踏んでいてください。
●エンジン始動直後は、自動的にエンジンの回転が上がり、クリープ現象が強くなりますので、ブレーキペダルはしっかり踏んでいてください。
●セレクトレバーボタンを押したままブレーキペダルを踏んだ場合、レバーの操作ができないことがあります。先にブレーキペダルを踏んでください。
●オートマチック車は、発進時の速度をアクセル操作のみで調節するので、アクセル操作は慎重に行ってください。

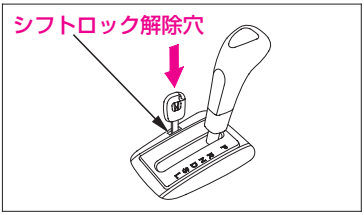
知 識

●万一、ブレーキペダルを踏んでもPから他の位置に切り換えられないときは、

①ドライバーの先端に布等をまいてシフトロック解除穴のカバーを外します。



②シフトロック解除穴にキーを差し込み、押しながらレバーを操作してください。



坂道での発進

セレクトレバーの位置を目で確認し、
・パーキングブレーキをかけたままブレーキペダルから足を離し、
・アクセルペダルをゆっくり踏んで、
・車が動き出す感触を確認しながら、
・パーキングブレーキを解除して発進。

知 識

●ホンダマルチマチック車は、燃費向上や停車時の振動およびブレーキ踏力の低減のため、前進時はブレーキペダルを踏んでいるときのクリープ力を弱く設定しています。ただし、状況によりクリープ力が変化します。
坂道での発進は必ずパーキングブレーキを併用し、車が後退しないように先にブレーキペダルを離してアクセルペダルに踏みかえてから、パーキングブレーキを解除してください。

走行

走行中はセレクトレバーをⓃにしないでください。

知 識

- Ⓝにするとエンジンブレーキが全く効かなくなるため思わぬ事故の原因になります。
  またⓃにしても燃費の差はほとんどありません。



⚠注意

- フットブレーキを使いすぎると、ブレーキが過熱して効きが悪くなるおそれがあります。長い下り坂や急な下り坂では、必ずエンジンブレーキを併用してください。

エンジンブレーキ →20ページ

通常走行

セレクトレバーをⒹにして走行します。アクセルペダルの踏み加減と走行速度により、低速から高速まで自動的に変速されます。

Ⓛ

・7速オートシフトモード走行

アクセルペダルの踏み加減と走行速度により、1速から7速まで自動的に変速されます。

モードの切り換え →146ページ
7速オートシフトモード →147ページ

・7速マニュアルシフトモード走行

マニュアルシフト操作ができます。走行状況に合わせ、シフトスイッチを使って変速段を選択して走行します。

モードの切り換え →146ページ
7速マニュアルシフトモード →148ページ

急加速したいとき
アクセルペダルをいっぱいに踏み込むと、キックダウンして急加速します。

上り坂走行
坂の勾配に応じ、セレクトレバーをⓈまたはⓁにしておくと、より力強い走行ができます。

下り坂走行
下り坂をⒹのまま走行すると、エンジンブレーキの効きが弱く、速度が出すぎてしまうことがあります。このようなときには、セレクトレバーをⓈにして、エンジンブレーキを使用してください。Ⓢのままで速度が出すぎるときはⓁにし、さらに強いエンジンブレーキを使用してください。

L
7速マニュアルシフトモードのときには、走行速度に合わせ、変速段を一段ずつ落としてエンジンブレーキを併用してください。

停車

①Dのままブレーキペダルをしっかりと踏んでおく。
必要に応じてパーキングブレーキをかける。

アドバイス

- アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだり、上り坂でPN以外に入れた状態で、アクセルをふかしながら車を停止させたりしないでください。
トランスミッションが過熱し、故障の原因となります。

知 識

- 上り坂での停車はクリープ現象で前へ進もうとする力よりも車が後退しようとする力の方が大きくなり、車が後退することがあります。ブレーキペダルを踏み、パーキングブレーキをかけてください。
- セレクトレバーがPN以外でエアコンスイッチが入っている場合などは、エンジン回転数が断続的に高くなりクリープ現象が強まります。ブレーキペダルを特にしっかりと踏み込んでください。

②停車時間が長くなるときはセレクトレバーをNに入れる。

⚠注意

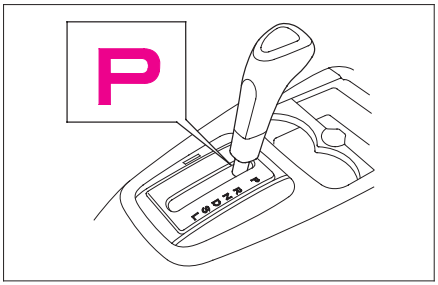
- 停車中、空ぶかしをしないでください。
万一、セレクトレバーがPN以外のとき、思わぬ急発進の原因になります。

知 識

- 停車後、再発進するときは、思い違いのないようセレクトレバーがDにあることを確認してください。
- セレクトレバーがNでもエンジンが冷えているときは、トランスミッションオイルの粘性により車がわずかに動き出すことがありますので、ブレーキペダルをしっかりと踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

駐車

①車を完全に止める。
②ブレーキペダルを踏んだまま、パーキングブレーキをかける。
③セレクトレバーをPに入れる。



知 識
- 駐車の際は、セレクトレバーが必ずPに入っていることを確認してください。セレクトレバーがPのときは、駆動輪が固定されるため、車が動き出す心配がなく安全です。

④エンジンを止める。

⚠注意
- エンジンをかけたままにしておくと、万一、セレクトレバーがPN以外に入っていたとき、クリープ現象で車がひとりでに動き出したり、乗り込むときに誤ってアクセルペダルを踏み急発進するおそれがあります。

アドバイス
- 車が完全に止まらないうちにPに入れないでください。トランスミッション破損の原因となります。

知 識
- 環境保護のため駐車時にはエンジンを止めましょう。

ほかに気をつけたいこと

⚠注意

- セレクトレバーは正しい位置で使用してください。
  坂道などで、前進(Ⓓ、Ⓢ、Ⓛ)の位置にしたまま惰性で後退したり、後退(Ⓡ)の位置にしたまま前進したりすると、エンジンが停止してブレーキの効きが悪くなったり、ハンドル操作が重くなり、思わぬ事故の原因となるおそれがあります。

車を少し移動させるとき

このような場合でも、正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。

車を後退させるとき

この場合、体をうしろにひねった姿勢になり、ペダルの操作がしにくくなります。ブレーキペダルは確実に踏めるよう注意してください。

3

安全装備

●SRSエアバッグシステム
SRSエアバッグシステムの
しくみ……164
作動するとき……166
作動しないとき……167
SRSエアバッグシステムの
効果を十分に発揮させる
ために……168
お子さまを乗せるときは……169
取り扱いについて……170

●サイドエアバッグシステム
サイドエアバッグシステムの
しくみ……172
作動するとき……174
作動しないとき……176
サイドエアバッグシステムの
効果を十分に発揮させる
ために……177
乗員姿勢検知システム……179
お子さまを乗せるときは……181
取り扱いについて……182

**●シートベルト
プリテンショナー**
シートベルトプリテンショナーの
しくみ……184
取り扱いについて……185

**●アンチロックブレーキシステム
（ABS）**
ABSのしくみ……186
運転のしかた……186
取り扱いについて……187

●四輪駆動機構（4WD）
運転するときは……188
取り扱いについて……188

●その他の安全装備……189

SRSエアバッグシステム（運転席／助手席用シートベルト補助乗員保護装置）

SRSエアバッグシステムのしくみ

●SRSエアバッグシステムとは

前方向からの衝突により、SRSエアバッグが膨らんで運転者および助手席同乗者の顔面への衝撃を緩和する装置です。

SRSエアバッグシステムはシートベルトに代わるものではありません。必ず、シートベルトを着用してください。

⚠警告

- SRSエアバッグシステム装備車であっても、必ずシートベルトを着用してください。
  シートベルトを正しく着用し、正しい乗車姿勢をとらないと衝突などのときSRSエアバッグの効果が十分に発揮されず、重大な傷害や死亡などの危険性が高くなります。

*SRS：サプリメンタルレストレイントシステム（Supplemental Restraint System）の略でシートベルトの補助拘束装置の意味

●どのように作動するか

エンジンスイッチが“II”のとき、前方向からの衝突により、センサーが一定以上の衝撃（正しくシートベルトを着用していてもハンドルに顔面があたり、けがをするような場合）を感知するとシステムが作動し、SRSエアバッグが膨らんで運転者および助手席同乗者の顔面への衝撃を緩和します。

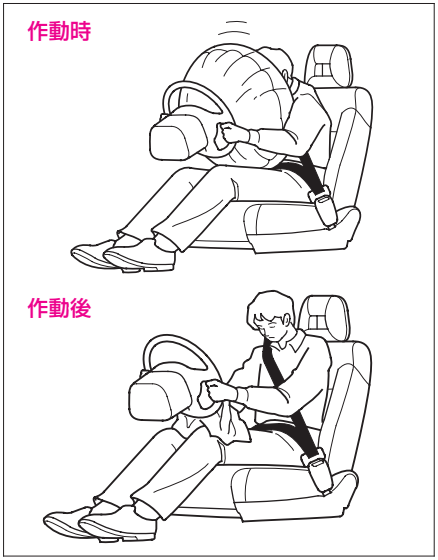
⚠注意

- SRSエアバッグが膨らんだ直後は、SRSエアバッグ構成部品に触れないでください。
  構成部品が熱くなっているため、やけどなど思わぬけがをすることがあります。

知 識

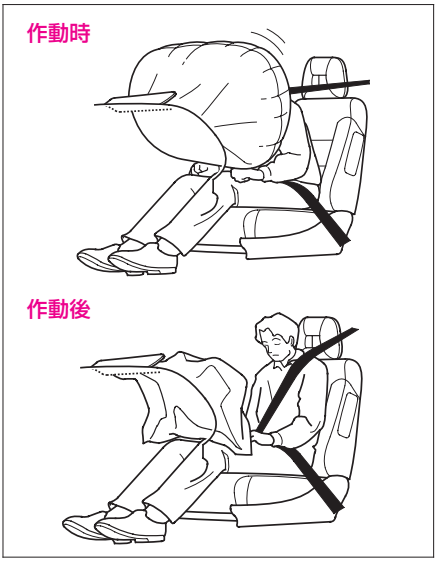
- 車体が衝撃を十分に吸収できた場合、システムは作動しません。
- SRSエアバッグは非常に速い速度で膨らむため、SRSエアバッグとの接触によりすり傷、やけど、打撲などを受けることがあります。
- 膨らんだSRSエアバッグはすぐにしぼみます。視界を妨げません。
- SRSエアバッグが膨らむと白煙が出ますが、火災ではありません。また、人体への影響もありません。ただし、残留物(カスなど)が目や皮膚などに付着したときには、できるだけ早く水で洗い流してください。
  皮膚の弱いかたなどは、まれに皮膚を刺激することがあります。
- SRSエアバッグは一度膨らむと再使用できません。
  Honda販売店で交換してください。

運転席用SRSエアバッグシステム



助手席用SRSエアバッグシステム

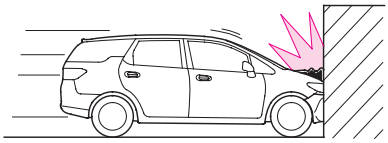
助手席用SRSエアバッグシステムは、同乗者がいなくても作動します。



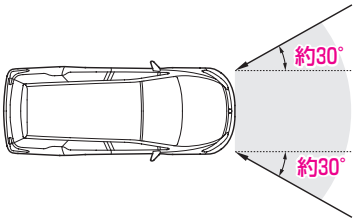
作動するとき

次のような場合に作動します。

20～30km/h以上の速度で、きわめて厚い固定されたコンクリートの壁に真正面から衝突したときと同等か、それ以上の衝撃を受けたとき



車両の前方左右約30度以内の方向から強い衝撃を受けたとき

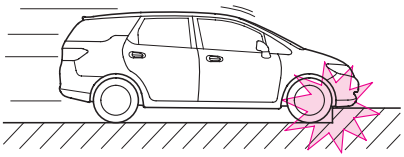


知 識

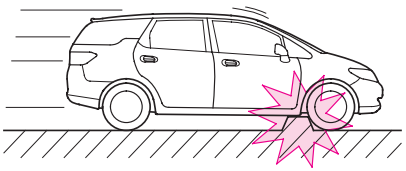
- 衝撃を吸収できる物（車やガードレールのように変形する物）に衝突した場合、SRSエアバッグが作動するときの速度（車速）は高くなります。

次のような場合、車両下部に強い衝撃を受けたとき作動することがあります。車両に衝撃を受けないように十分に速度を落とし障害物をさけて走行してください。

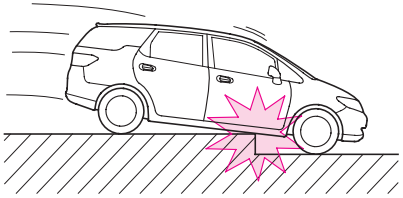
縁石などに衝突したとき



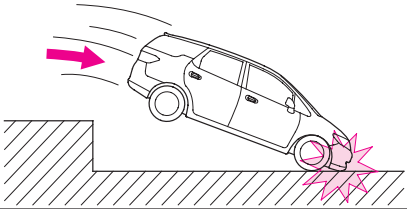
突起物などに衝突したとき



深い穴や溝などに落ちたとき



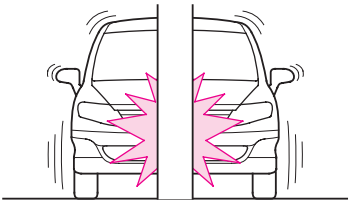
高いところから落ちたとき



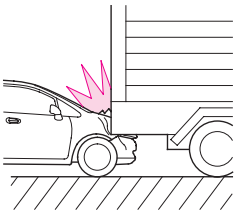
作動しないとき

衝突の位置、衝撃の度合い、角度によって、作動しないことがあります。

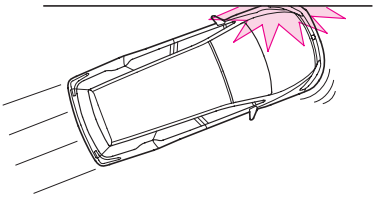
電柱、立木などへの衝突



トラックなどへの潜り込み



部分的な衝突や斜め方向からの衝突

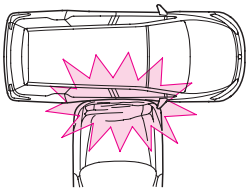


知 識

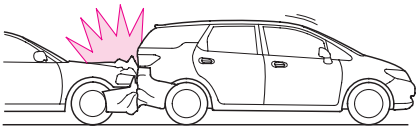
- 車体の部位によって衝撃の吸収度合いが異なりますので、損傷状態の大小とSRSエアバッグの作動は必ずしも一致しません。

シートベルトだけで乗員を保護できるような低い速度での衝突や次のような場合、乗員保護の効果がないので作動しません。

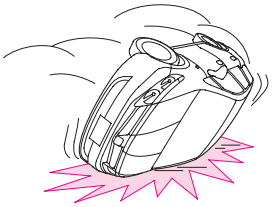
横方向からの衝突



後部からの衝突



横転または転覆



知 識

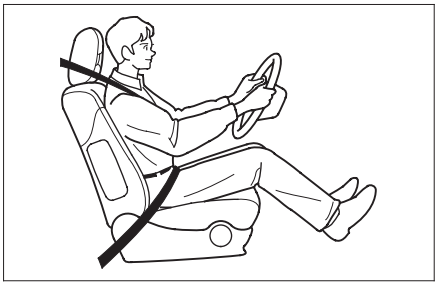
- 事故の状況、形態によっては、SRSエアバッグが作動することがあります。

SRSエアバッグシステムの効果を十分に発揮させるために

●正しい乗車姿勢で

運転席

正しい運転姿勢（シートに深く腰かけた状態で、背もたれから背を離すことなくペダルを十分に踏み込め、ハンドルが楽に操作できる状態）がとれる範囲で、シートを後ろに下げます。

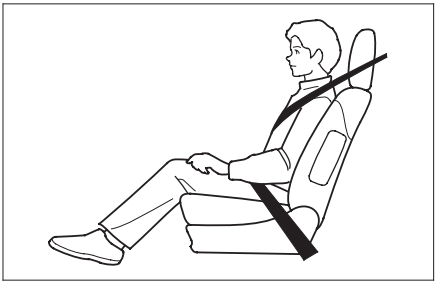


⚠警告

- ハンドルに顔や胸などを近づけていると、SRSエアバッグが膨らむ際、強い衝撃を受け、重大な傷害を受けるおそれがあります。

助手席

シートを後ろに下げて深く腰かけ、背中を背もたれから離さないようにします。



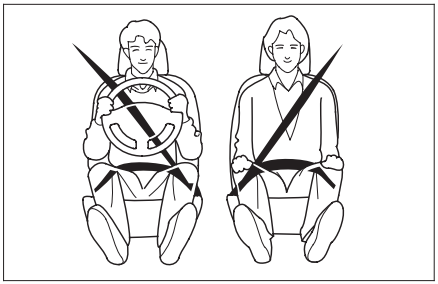
⚠警告

- インストルメントパネルに顔や胸などが近づかないようにシートを後ろに下げてください。また、インストルメントパネルに手や足などを置かないでください。
  SRSエアバッグが膨らむ際、強い衝撃を受け、重大な傷害を受けるおそれがあります。

お子さまを乗せるときは

●シートベルトは必ず着用

このシステムは、シートベルトと併用することでその効果を発揮します。
必ず、シートベルトを着用してください。

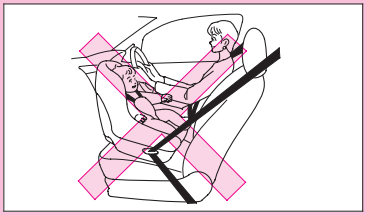


お子さまは、後席に乗せ必ずシートベルトを着用させてください。
正しく着用できない小さなお子さまは、体格に合わせてチャイルドシートをお使いください。

●チャイルドシートの取り付けについて

⚠警告

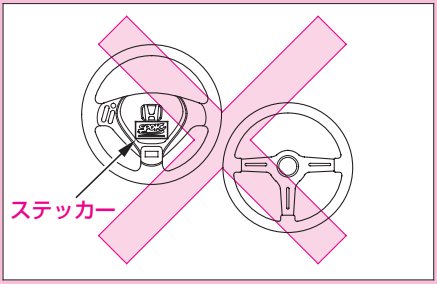
- 助手席には乳児用シートを取り付けないでください。また、幼児用シートを後ろ向きに取り付けないでください。SRSエアバッグが膨らむ際、乳児用シートや、幼児用シートの背面に強い衝撃を受け、重大な傷害を受けたり、死亡するおそれがあります。
  また、やむをえず幼児用シートを前向きに取り付ける場合は、SRSエアバッグから遠ざけるため、シートを一番後ろに下げてください。



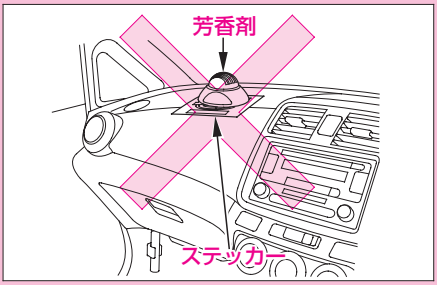
取り扱いについて

⚠注意

- SRSエアバッグの取り外し、分解などはしないでください。
  不適切に扱うと誤って作動したり、正常に機能しなくなります。
- ハンドルを交換したり、パッドにステッカー類を貼ったりすると正常に機能しなくなります。



- インストルメントパネル上面にステッカー類を貼ったり、アクセサリーや芳香剤など物を置かないでください。
  フロントガラスにアクセサリーなどを取り付けたり、ルームミラーにワイドミラーを取り付けたりしないでください。
  また、SRSエアバッグと乗員との間にテレビなどの用品を取り付けたり、物を置いたりしないでください。
  正常に機能しなくなったり、作動時にこれらの物が飛ぶことがあります。

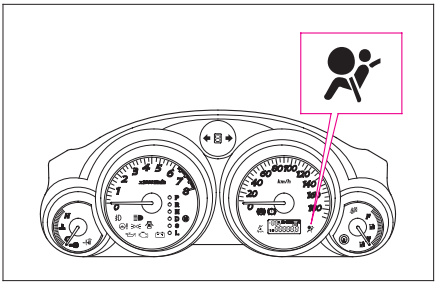


知 識

- ハンドルまわり、インストルメントパネルまわりやセンターコンソール付近の修理、オーディオ等用品の取り付けおよびダッシュボード周辺の板金塗装および修理をする場合は、SRSエアバッグシステムに影響を及ぼすおそれがありますので、必ずHonda販売店にご相談ください。
- SRSエアバッグシステム装備車を廃棄するときは必ずHonda販売店にご相談ください。正しく取り扱わないとSRSエアバッグシステムが思いがけなく作動することがあります。
- サスペンションの改造をしないでください。車高やサスペンションの硬さが変わるとSRSエアバッグの誤作動につながります。（Honda純正品を除く）

●SRSエアバッグシステム警告灯

メーター内に組み込まれており、SRSユニットがシステムの異常を検出すると点灯します。



エンジンスイッチを“II”にしたときに約6秒間点灯して消えるのが正常です。

アドバイス

- 警告灯が次のような状態になったときは、システムの異常が考えられますので、すみやかにHonda販売店で点検を受けてください。
  - 運転中に点灯したとき。
  - エンジンスイッチを“II”にしても点灯しないとき、あるいは約6秒経過しても消灯しないとき。

必要なときにSRSエアバッグが膨らまないおそれがあります。

サイドエアバッグシステム

注文装備

サイドエアバッグシステムのしくみ

●サイドエアバッグシステムとは

側面からの衝突により、サイドエアバッグが膨らんで乗員(運転者または助手席同乗者)とドアの間に入り込むことにより、ドアと乗員の胸部などが衝突するときの衝撃を緩和する装置です。

サイドエアバッグシステムはシートベルトに代わるものではありません。必ず、シートベルトを着用してください。

⚠警告

- サイドエアバッグシステム装備車であっても、必ずシートベルトを着用してください。
  シートベルトを正しく着用し、正しい乗車姿勢をとらないと衝突などのときエアバッグの効果が十分に発揮されず、重大な傷害や死亡などの危険性が高くなります。

●どのように作動するか

エンジンスイッチが"II"のとき、側面からの衝突により、センサーが一定以上の衝撃(胸部に重傷を及ぼすような場合)を感知するとシステムが作動し、衝撃を受けた側のサイドエアバッグが膨らんで乗員(運転者または助手席同乗者)とドアの間に入り込むことにより、ドアと乗員の胸部などが衝突するときの衝撃を緩和します。
助手席側は乗員姿勢検知システムが乗車姿勢を不適切であると判断した場合は、サイドエアバッグの作動を自動停止します。

乗員姿勢検知システム　→179ページ

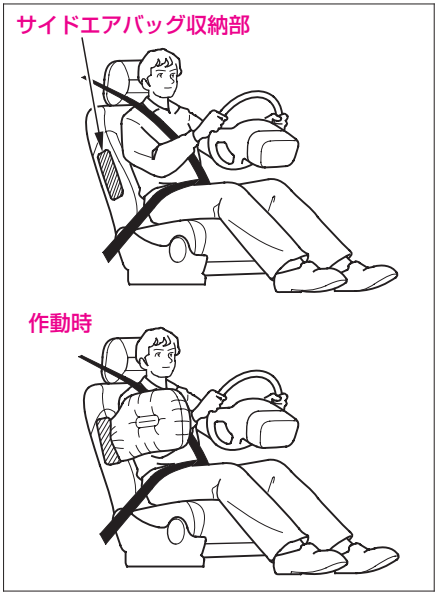
⚠注意

- サイドエアバッグが膨らんだ直後は、サイドエアバッグ構成部品に触れないでください。
  構成部品が熱くなっているため、やけどなど思わぬけがをすることがあります。

知 識

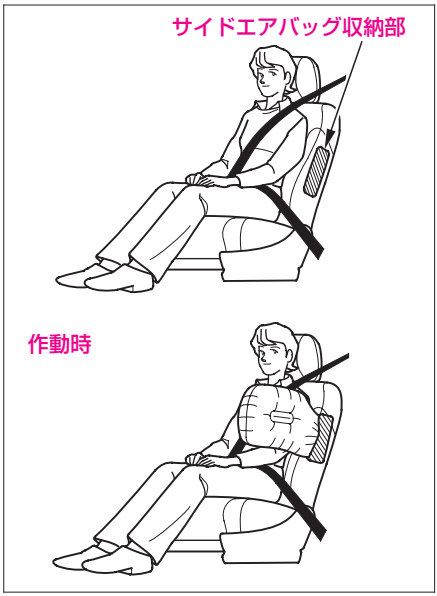
- サイドエアバッグは非常に速い速度で膨らむため、サイドエアバッグとの接触によりすり傷、やけど、打撲などを受けることがあります。
- 膨らんだサイドエアバッグはすぐにしぼみます。
- サイドエアバッグが膨らむと白煙が出ますが、火災ではありません。また、人体への影響もありません。ただし、残留物(カスなど)が目や皮膚などに付着したときには、できるだけ早く水で洗い流してください。
  皮膚の弱いかたなどは、まれに皮膚を刺激することがあります。
- サイドエアバッグは一度膨らむと再使用できません。
  Honda販売店で交換してください。

運転席サイドエアバッグシステム



助手席サイドエアバッグシステム

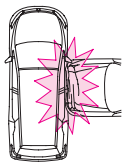
助手席用サイドエアバッグシステムは、同乗者がいなくても作動します。



作動するとき

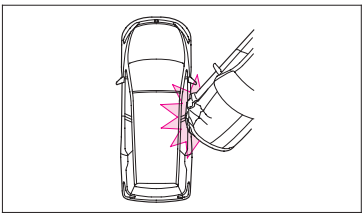
次のような場合に作動します。

約30km/h以上の速度で自車と同等の車が真横から側面衝突したときと同等かそれ以上の衝撃を受けたとき



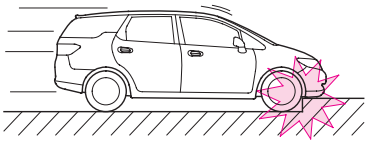
知 識

- 側面に斜め方向から衝突された場合、サイドエアバッグが作動するときの速度(車速)は高くなります。

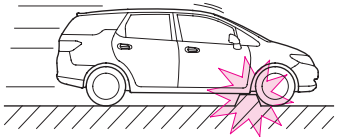


次のような場合、車両下部に強い衝撃を受けたとき作動することがあります。車両に衝撃を受けないように十分に速度を落とし障害物をさけて走行してください。

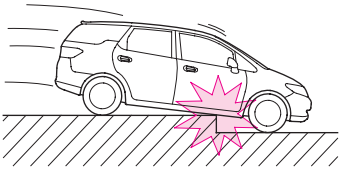
縁石などに衝突したとき



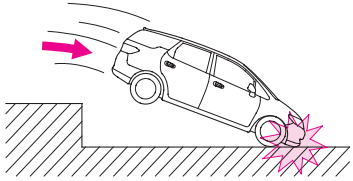
突起物などに衝突したとき



深い穴や溝などに落ちたとき

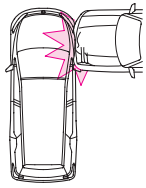


高いところから落ちたとき

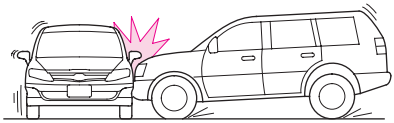


次のような場合、作動しないことがあります。

前席乗員付近以外の側面に衝突されたとき



車高の高い車に側面衝突されたとき



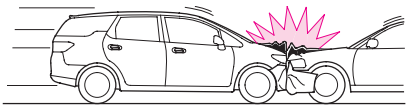
知　識

- サイドエアバッグは乗員の受ける衝撃の大きさによって作動するようになっていますので車両の損傷状態の大小とサイドエアバッグの作動は必ずしも一致しません。

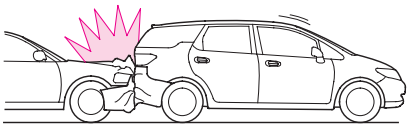
作動しないとき

低い速度での衝突や次のような場合、サイドエアバッグが膨らんでも乗員保護の効果がないので作動しません。

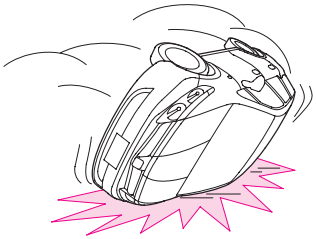
正面衝突



後部からの衝突



横転または転覆



知 識

- 事故の状況、形態によっては、サイドエアバッグが作動することがあります。

助手席側は、乗員姿勢検知システムが乗車姿勢を不適切であると判断した場合は、サイドエアバッグの作動を自動停止します。

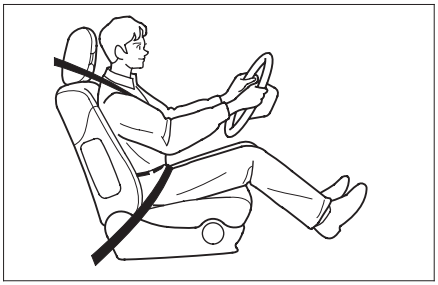
乗員姿勢検知システム　→179ページ

サイドエアバッグシステムの効果を十分に発揮させるために

●正しい乗車姿勢で

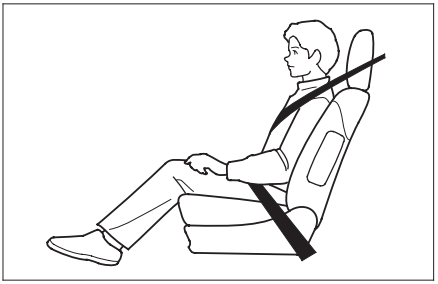
運転席

正しい運転姿勢（シートに深く腰かけた状態で、背もたれから背を離すことなくペダルを十分に踏み込め、ハンドルが楽に操作できる状態）がとれる範囲で、シートを後ろに下げます。



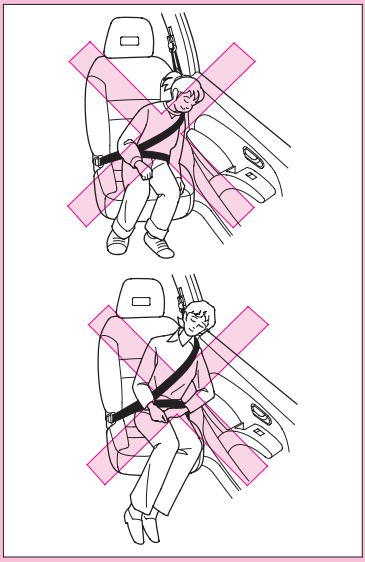
助手席

シートを後ろに下げて深く腰かけ、背中を背もたれから離さないようにします。



⚠注意

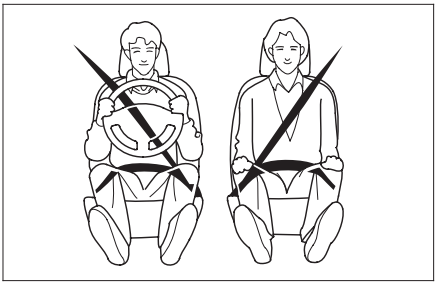
- フロントドアに寄りかからないようにしてください。サイドエアバッグが膨らむ際、強い衝撃を受け、傷害を受けるおそれがあります。



- サイドエアバッグ収納部に手や顔などを必要以上に近づけないでください。また、後席同乗者は前席の背もたれを抱えないでください。サイドエアバッグが膨らむ際、強い衝撃を受け、傷害を受けるおそれがあります。

●シートベルトは必ず着用

このシステムは、シートベルトと併用することでその効果を発揮します。
必ず、シートベルトを着用してください。



乗員姿勢検知システム（助手席のみ）

●乗員姿勢検知システムとは

乗車時の姿勢が不適切な場合、サイドエアバッグが膨らむことにより重大な傷害を受けるおそれがあるため、助手席乗員の姿勢を検知し、サイドエアバッグの作動を自動的に停止する装置です。



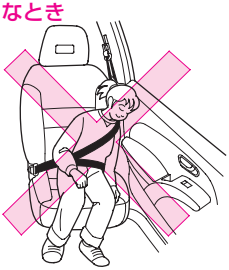
知　識

- シート表皮の裏にセンサーが取り付けられているため、次のような場合には、乗員姿勢検知システムが正常に機能しないおそれがあります。
  - ・シートの背もたれがぬれているとき。
  - ・金属など電気を通す物が接しているとき。
  - ・シートにクッションなどを装着しているとき。
  - ・ダウンジャケット等の厚い上着を着ているとき。
  - ・水分を含んだ物を助手席に置いているとき。

●サイドエアバッグの作動を自動停止するとき

次のような場合、サイドエアバッグの作動を自動停止します。このときメーター内のサイドエアバッグ自動停止表示灯が点灯します。

小さなお子さまがドアに寄りかかって、サイドエアバッグがとび出す付近に頭があるようなとき



知 識

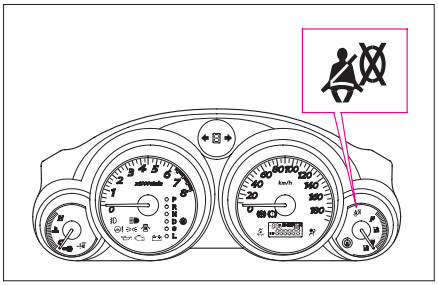
●次のような場合でも、サイドエアバッグの作動を自動停止することがあります。

・小柄な大人の方が左のイラストと同じような姿勢をとったとき。

・大人の方が前かがみになるまたは、寝そべっていて、ドア側に寄りかかっているとき。

●サイドエアバッグ自動停止表示灯

メーター内に組み込まれており、乗員姿勢検知システムが乗車姿勢を不適切であると判断し、サイドエアバッグの作動を自動停止しているときに点灯します。
表示灯が点灯したときは、上体を起こして座ってください。また、小さなお子さまの場合は、後席に乗せてください。



エンジンスイッチを“II”にしたときに約5秒間点灯して消えるのが正常です。

アドバイス

- 表示灯が次のような状態になったときは、乗員姿勢検知システムの異常が考えられますので、すみやかにHonda販売店で点検を受けてください。
  - ・正しい乗車姿勢をとっても消灯しないとき、あるいは助手席に乗員がいないのに消灯しないとき。
  - ・エンジンスイッチを“II”にしても点灯しないとき、あるいは約5秒経過しても消灯しないとき。

知 識

- 次のような場合は、表示灯が点灯することがあります。表示灯が点灯しているときは、サイドエアバッグの作動を自動停止します。
  - ・シートの背もたれがぬれているとき。
  - ・金属など電気を通す物が接しているとき。
  - ・水分を含んだ物を助手席に置いているとき。

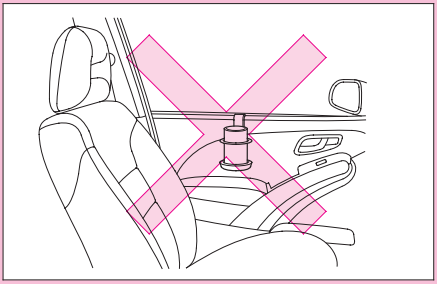
お子さまを乗せるときは

お子さまは、後席に乗せ必ずシートベルトを着用させてください。
正しく着用できない小さなお子さまは、体格に合わせてチャイルドシートをお使いください。

取り扱いについて

⚠注意

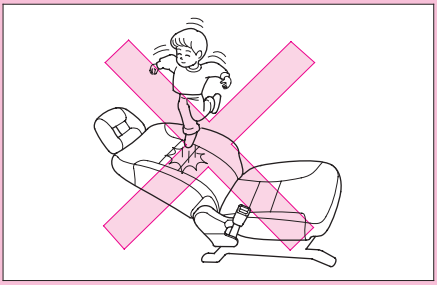
- サイドエアバッグの取り外し、分解などはしないでください。
  不適切に扱うと誤って作動したり、正常に機能しなくなります。
- フロントドアやその周辺にカップホルダーなどの用品を取り付けないでください。
  また、フロントシートとドアの間付近に傘などの物を置かないでください。
  サイドエアバッグはドアに沿って膨らむため、正常に機能しなくなったり、作動時にこれらの物が飛ぶことがあります。



- フロントシートにシートカバーを取り付けないでください。サイドエアバッグはシートの背もたれ外側に収納されていて、エアバッグ収納部のカバーを破って膨らむため、正常に機能しなくなるおそれがあります。



- フロントシートの背もたれを倒した状態でとびはねるなど、サイドエアバッグ収納部に無理な力を加えないでください。

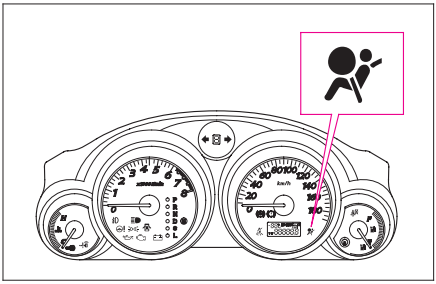


知 識

- フロントシートまわり、センターピラーまわりやセンターコンソール付近の修理、オーディオ等用品を取り付ける場合は、サイドエアバッグシステムに影響を及ぼすおそれがありますので、必ずHonda販売店にご相談ください。
- サイドエアバッグシステム装備車を廃棄するときは必ずHonda販売店にご相談ください。正しく取り扱わないとサイドエアバッグシステムが思いがけなく作動することがあります。

●SRSエアバッグシステム警告灯（エアバッグシステムとシートベルトプリテンショナー警告灯兼用）

メーター内に組み込まれており、サイドエアバッグユニットがシステムの異常を検出すると点灯します。



エンジンスイッチを“II”にしたときに約6秒間点灯して消えるのが正常です。

アドバイス

- 警告灯が次のような状態になったときは、サイドエアバッグシステムまたは、乗員姿勢検知システムの異常が考えられますので、すみやかにHonda販売店で点検を受けてください。
  - ・運転中に点灯したとき。
  - ・エンジンスイッチを“II”にしても点灯しないとき、あるいは約6秒経過しても消灯しないとき。

必要なときにサイドエアバッグが膨らまないおそれがあります。

シートベルトプリテンショナー

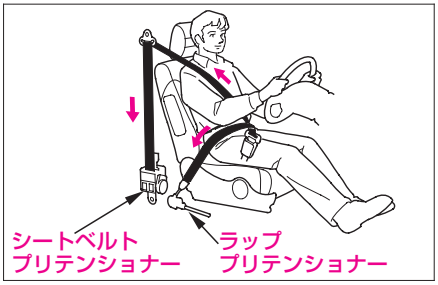
シートベルトプリテンショナーのしくみ

●シートベルト プリテンショナーとは

前方向からの衝突により、前席シートベルトを瞬間的に引き込み、シートベルトの拘束効果をいっそう高める装置です。

●どのように作動するか

エンジンスイッチが“II”のとき、前方向からの衝突により、センサーが一定以上の衝撃を感知するとシステムが作動し、前席シートベルトを瞬間的に引き込み、シートベルトの拘束効果をいっそう高めます。



⚠注意

- シートベルトを着用するときは、必ず次のことをお守りください。守らないとプリテンショナーが十分に効果を発揮しません。
  - シートベルトを正しく着用してください。
    シートベルト　→80ページ
  - 正しい運転(乗車)姿勢をとってください。
    正しい運転姿勢　→60ページ

知 識

- シートベルトプリテンショナーは一度作動すると、再使用できません。作動すると、シートベルトを引き出すことも巻き取ることもできなくなります。Honda販売店で交換してください。
  なお、シートベルトを着用していなくても作動しますので、助手席側も同時に交換してください。

取り扱いについて

⚠注意

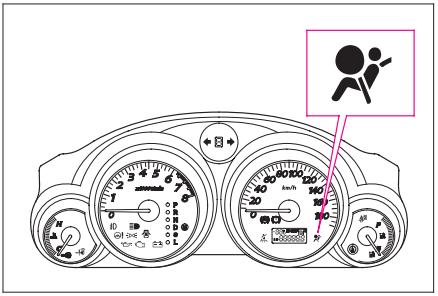
- シートベルト引き込み装置の取り外し、分解などはしないでください。
  不適切に扱うと誤って作動したり、正常に機能しなくなります。

知 識

- シートベルト引き込み装置やセンターコンソール付近の修理、オーディオ等用品の取り付けおよび修理をする場合は、プリテンショナーに影響を及ぼすおそれがありますので、必ずHonda販売店にご相談ください。
- シートベルトプリテンショナー装備車を廃棄するときは、必ずHonda販売店にご相談ください。
  正しく取り扱わないとプリテンショナーとSRSエアバッグシステムが思いがけなく作動することがあります。

●SRSエアバッグシステム警告灯（エアバッグシステムとシートベルトプリテンショナー警告灯兼用）

メーター内に組み込まれており、SRSユニットがシステムの異常を検出すると点灯します。



エンジンスイッチを“II”にしたときに約6秒間点灯して消えるのが正常です。

アドバイス

- 警告灯が次のような状態になったときは、システムの異常が考えられますので、すみやかにHonda販売店で点検を受けてください。
  - ・運転中に点灯したとき。
  - ・エンジンスイッチを“II”にしても点灯しないとき、あるいは約6秒経過しても消灯しないとき。

  必要なときにシートベルトが引き込まれないおそれがあります。

アンチロックブレーキシステム（ABS）

ABSのしくみ

●ABSとは

急制動や滑りやすい路面で制動するとき、車輪のロックを防止することで車両の姿勢を安定させ、ハンドルの効きを確保しようとする装置です。

●作動について

・ブレーキペダルを踏んだとき、ペダルが小刻みに動くことがあります。これはABSが作動しているときの現象で異常ではありません。そのまま、ブレーキペダルを強く踏み続けてください。



・低速（車速約10km/h以下）ではABSは作動せず、普通のブレーキと同じ作動になります。

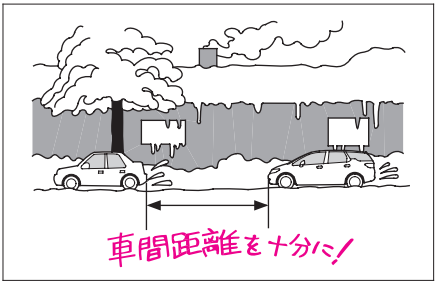
知 識

●エンジン始動後、最初の発進時に、エンジンルームからモーター音等が聞こえることがありますが、これはシステムの動作チェックをしている音で異常ではありません。

運転のしかた

・この装置は制動距離を短くするためのものではありません。ABSを装備していない車両と同様に、路面が滑りやすくなるほど長い制動距離が必要になります。
また、ABSが作動した状態でも車両の姿勢やハンドルの効きには限界がありますので、ハイドロプレーニング現象が起こりやすい雨天時の高速走行などにおいても過信せず、安全運転に心がけてください。

・悪路、砂利道、深い新雪などの路面では、ABSの装備されていない車両に比べて制動距離が長くなることがあります。
このような道路条件では速度は控えめにして車間距離を十分にとって運転してください。



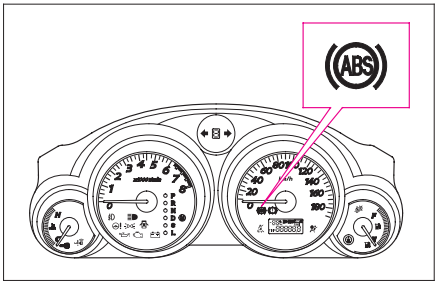
取り扱いについて

知 識

- タイヤは必ず四輪とも同一指定サイズのものをお使いください。サイズ(外径)の異なるタイヤを混用すると、ABSが正常に機能しなくなることがあります。

●アンチロックブレーキシステム(ABS)警告灯

メーター内に組み込まれており、ABSが異常のときに点灯します。



エンジンスイッチを"II"にしたとき点灯し、数秒後に消灯するのが正常です。
また、運転中に数秒間点灯してもすぐ消灯し、その後走行中に点灯しなければ正常です。

アドバイス

- 警告灯が次のような状態になったときは、システムの異常が考えられますので、すみやかにHonda販売店で点検を受けてください。
  - ・運転中に点灯したとき。
  - ・エンジンスイッチを"II"にしても点灯しないとき、あるいは数秒経過しても消灯しないとき。

  なお、この場合でも通常のブレーキとしての性能は確保されています。(ABSとしての作動はしません)
- 警告灯がブレーキ警告灯と同時に点灯したときは、ブレーキ力の配分機能も作動しないため、急ブレーキ時に車両が不安定になる可能性があります。高速走行や急ブレーキを避けて、ただちにHonda販売店で点検を受けてください。

四輪駆動機構(4WD)

タイプ別装備

運転するときは

四輪駆動車(4WD車)は積雪地、砂地、ぬかるみ、急坂路など滑りやすい路面において二輪駆動車(2WD車)に比べて走破性にすぐれていますが、万能ではありません。アクセル、ハンドル、ブレーキの操作は一般の車と同じく慎重に行い、常に安全運転を心がけてください。

4WD車は、オフロードやラリー走行を目的とした車ではありません。必ず、次のことをお守りください。

- 砂地、ぬかるみ等、前輪が空転しやすいところでの連続走行はしないでください。
- 渡河などの水中走行はしないでください。
- ブレーキ性能は2WD車と比べてほとんど差がないので、滑りやすい路面での走行には十分車間距離をとってください。

知 識

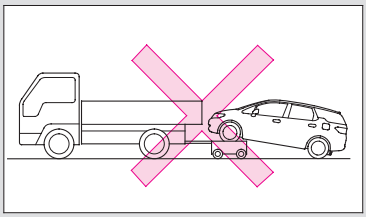
- 4WDの状態で走行中に車輪の空転が続いてシステム内の油温が上昇すると、システム保護のため4WDから2WDに切り換わることがあります。
  しばらくして油温が下がると、4WDに復帰します。

取り扱いについて

アドバイス

- 四輪とも、同一指定サイズ、同一種類、同一銘柄および摩耗差のないタイヤをお使いください。サイズ、種類、銘柄や摩耗度合いの異なるタイヤを混用すると動力伝達装置に悪影響をあたえます。
- けん引される場合、前輪または後輪を台車に載せた(車輪が回転できない)状態でのけん引は、絶対に行わないでください。
  駆動装置が破損したり、車輪が台車からとび出すおそれがあります。

けん引 →262ページ





その他の安全装備

ほかに、次のような安全装備を採用しています。

●シフトロック装置
セレクトレバーの誤操作防止を助けます。
（→25ページ）

●ハイマウントストップランプ
ストップランプを高い位置にも設置し、後方から見えやすくしています。

●後席三点式シートベルト
上半身も拘束する三点式シートベルトを後席にも採用しています。
（→83ページ）

●シートベルトリマインダー（非着用警報装置）
シートベルトの未着用をランプとブザーで知らせ、ベルトの着用を促します。
（→83ページ）

●ブレーキアシスト
緊急制動時に、より大きい制動力を発生させ運転者のブレーキ操作を補助する装置です。
ブレーキペダルを強く踏み込んだときに、ブレーキがより強く効くようになります。

●ドアビーム
側面から外力が加わったときに、ドアの変形を抑える効果があります。

●ロールオーバーバルブ
車が転倒したとき、燃料タンクからの燃料流出を防止します。

●難燃性材料使用の内装
フロアカーペットやシートなどには、燃え広がりにくい素材を採用しています。

●リヤワイパー
雨天時の後方視界の確保に効果があります。
（→135ページ）

4

ドライブを快適にする装備

●エアコン

吹き出し風の調節 ……193
エアコンインデックス ……194
オートエアコン ……196
ヒーター・マニュアル式
　エアコン ……202
エアクリーンフィルター ……208

●オーディオ

上手な使いかた ……210
アンテナ ……212
オーディオインデックス ……213
FM/AMラジオ一体式
　CD/MDステレオ ……214
オーディオリモート
　コントロールスイッチ ……236

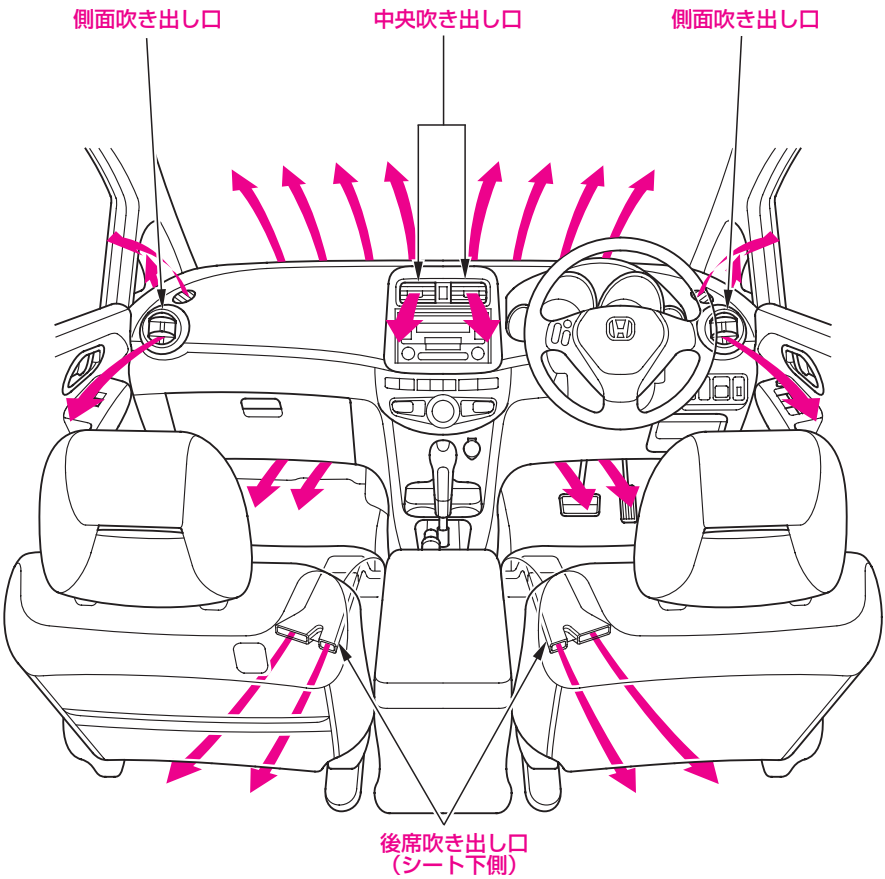
●室内照明

室内灯 ……239
マップランプ ……242
カーゴルーム照明灯 ……243

●室内装備品

サンバイザー ……244
チケットホルダー ……244
アクセサリーソケット ……245
小物入れ ……246
カップホルダー ……249
カーゴフック ……251
グラブレール ……252
コンビニフック ……252
携帯電話接続端子 ……253
AV入力端子 ……254

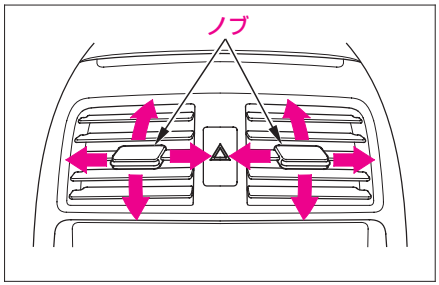
エアコン



吹き出し風の調節

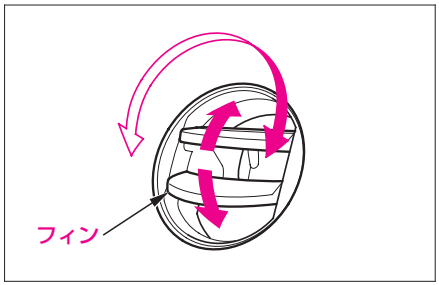
中央吹き出し口

ノブを上下または左右に動かして、吹き出し風の向きを調節します。



側面吹き出し口

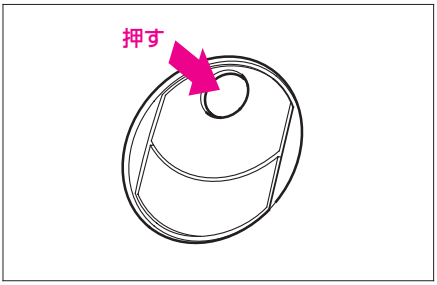
フィンを上下に動かしたり左右に回したりして、吹き出し風の向きを調節します。



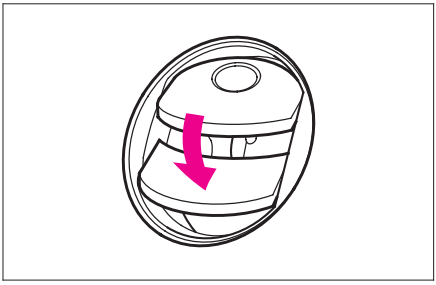
知 識

- 側面ガラスが曇ったときは、吹き出し風がガラスに直接当たるよう両側の吹き出し口の向きを調節すれば、より早く曇りを取ることができます。

送風が必要なときは、フィンの“○”を押して吹き出し口を開けます。

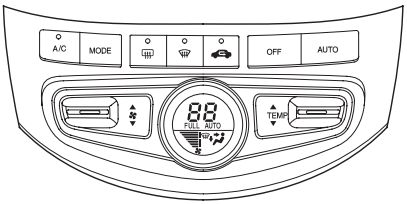


送風を止めるときは、フィンを閉じます。



エアコンインデックス

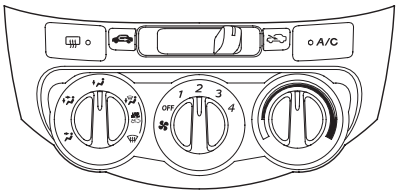
オートエアコン　**タイプ別装備**



- オートエアコンを使うとき ……196
- マニュアルで使うとき ……198
- 前面／側面ガラスの霜や曇りを取りたいとき（デフロスター）……200
- 急速に霜を取りたいとき ……200
- エアコンを常用しないとき ……201
- 温度感知装置 ……201

ヒーター・マニュアル式エアコン

タイプ別装備



- 暖房するとき ……204
- 急速に車内を暖めたいとき ……204
- 曇り止め暖房をしたいとき ……204
- 前面／側面ガラスの霜や曇りを取りたいとき（デフロスター）……205
- 急速に霜を取りたいとき ……205
- 梅雨時など湿度の高いとき ……205
- 冷房するとき ……206
- 急速に車内を冷やしたいとき ……206
- エアコンを常用しないとき ……207

オートエアコン

タイプ別装備

●オートエアコンを使うとき

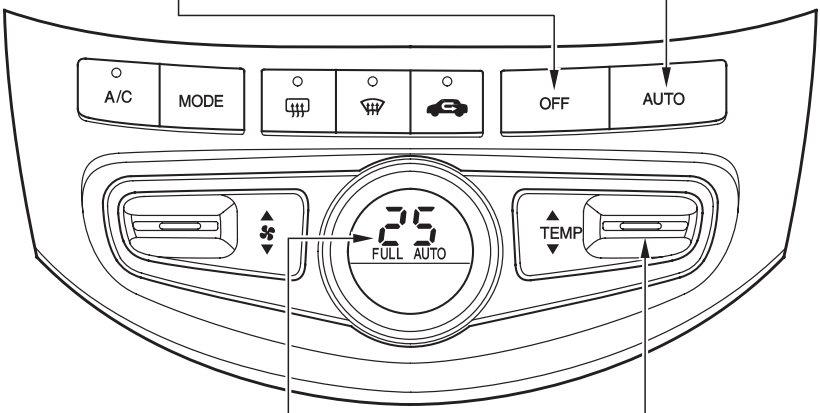
エンジンをかけた状態で使います。

OFFスイッチ

スイッチを押すとエアコン、ファンの作動が停止します。

AUTOスイッチ

スイッチを押すと、オートエアコンが作動します。（“FULL AUTO”が点灯）
風量、吹き出し口の切り換え、エアコンの“ON/OFF”などが自動制御されます。



温度表示

設定温度を表示します。
表示温度は室温設定時の目安となります。

温度調節スイッチ

スイッチを上下に操作して温度を調節します。



通常の使いかた

①AUTOスイッチを押します。
②温度調節スイッチで室内の温度を設定します。

停止するときはOFFスイッチを押します。

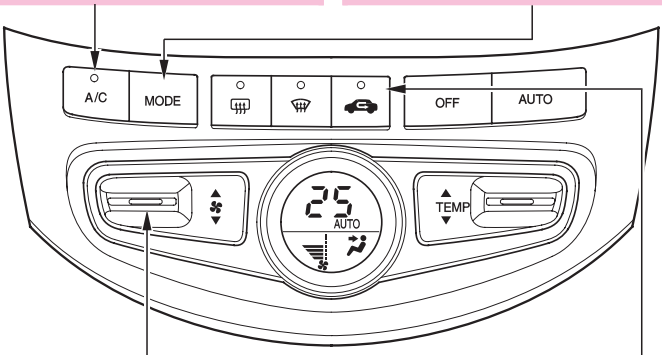
知 識

- 外気温によっては、冷風の吹き出しを防ぐため、オートエアコン作動後一定時間ファンが回転しないことがあります。
- 希望温度に設定したら、温度調節スイッチをむやみに動かさないでください。設定温度への到達時間が長くなることがあります。
- 長時間、冷風を直接体に当てないでください。冷やしすぎは健康上良くありません。
- 炎天下に駐車していたときは、窓を開けて熱気を追い出しながら、冷房を開始してください。
- 設定温度表示で“Lo”は最大冷房を“Hi”は最大暖房を示します。

●マニュアルで使うとき

A/C(エアコン)スイッチ
スイッチを押すたびにエアコンの“ON”(表示灯点灯)“OFF”(表示灯消灯)が切り換わります。
冷房や除湿暖房をするときは“ON”にします。

MODEスイッチ
スイッチを押すたびに吹き出し口が切り換わり(右ページ参照)、それぞれの表示灯が点灯します。



ファンスピード切り換えスイッチ
スイッチを上下に操作してファンスピードを切り換えます。

表示灯	風量
	強 ↕ 弱

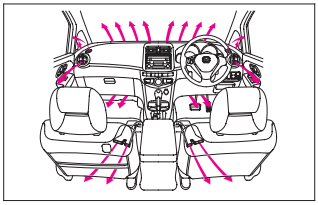
内外気切り換えスイッチ
スイッチを押して外気導入(表示灯消灯)と内気循環(表示灯点灯)を切り換えます。
トンネルや渋滞地域などで汚れている外気を室内に入れたくないときは、内気循環にします。

各スイッチを組み合わせて使うことができます。
“FULL AUTO”(自動)で使用中でも押したスイッチの機能が優先されます。このとき“FULL”の表示は消えますが、押したスイッチの機能以外は自動制御されます。
“FULL AUTO”(自動)に戻すときは、AUTOスイッチを押します。

MODEスイッチ

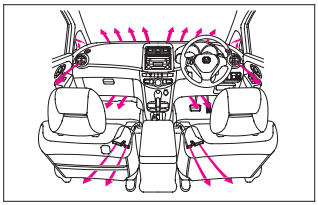
足元への送風と窓ガラスの曇りを取りたいとき





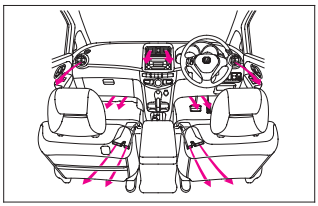
足元に送風したいとき





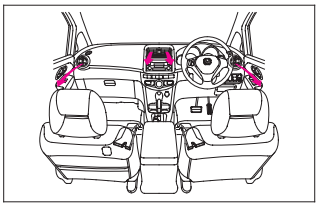
上半身、足元に送風したいとき





上半身に送風したいとき



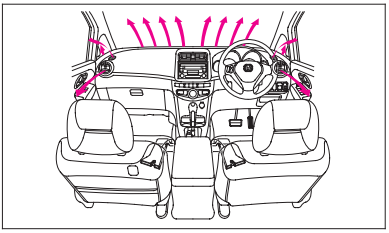


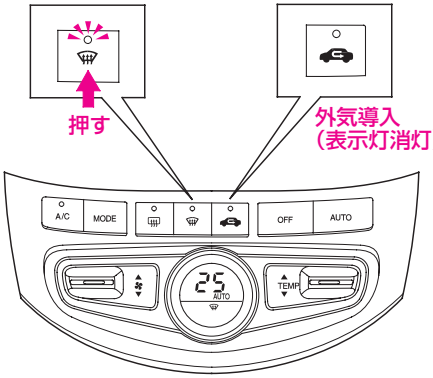
●前面／側面ガラスの霜や曇りを取りたいとき（デフロスター）

デフロスタースイッチを押します。

デフロスタースイッチ

ガラスの曇り取りなどに使用します。スイッチを押すと自動的にエアコンが作動し、外気導入に切り換わります。また、吹き出し口が前面および側面ガラスに切り換わります。

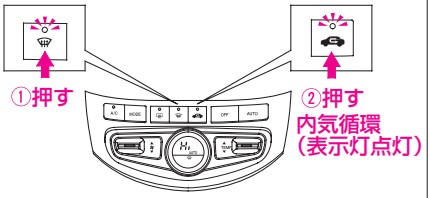




知　識

●デフロスタースイッチを入れているときは、設定温度を最大冷房付近にしないでください。冷風が前面ガラスにあたるとガラスの外側が曇ることがあり、視界の妨げになります。

急速に霜を取りたいとき



知　識

●内気循環で使い続けると車内の湿気で窓ガラスが曇り、視界の妨げになります。一度霜を取った後は外気導入で使ってください。

●エアコンを常用しないとき

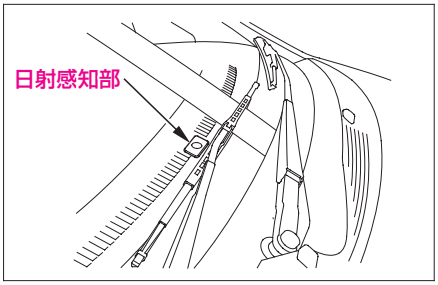
装置各部のオイルをきらさないために、ときどきエンジンを低回転させた状態で数分間冷房または除湿暖房をしてください。

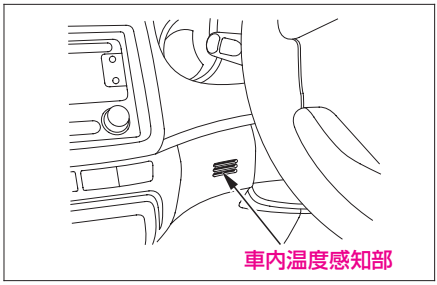
知 識

- 室内の温度が低い場合は、エアコンが作動しないことがあります。このような場合には、内気循環で室内を暖めてからエアコンスイッチを入れると作動します。

●温度感知装置

オートエアコンには、温度感知装置などのセンサーがついています。日射感知部や車内温度感知部の上に物を置いたり、水をかけたりしないでください。車内温度が設定温度とずれることがあります。





ヒーター・マニュアル式エアコン

タイプ別装備

エンジンをかけた状態で使います。

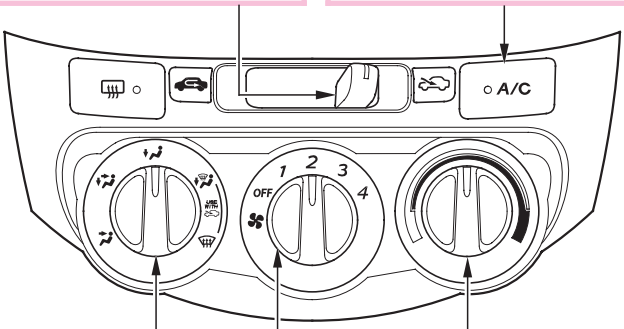
内外気切り換えレバー

通常の暖房時はガラスの曇りを防ぐため外気導入で使い、トンネルや渋滞地域などで外気が汚れているときは一時的に内気循環にしてください。

エアコンスイッチ

ファンスピード切り換えダイヤルが“OFF”以外のとき、スイッチを押すとエアコンが作動します。（表示灯点灯）

冷房や除湿暖房をするときに使います。



吹き出し口切り換えダイヤル

ファンスピード切り換えダイヤル

OFF	停止
1	弱
2	中
3	強
4	最強

温度調節ダイヤル

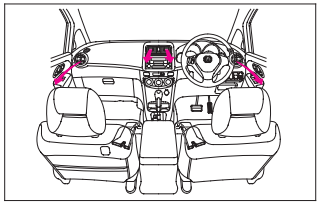
ダイヤルを回して吹き出し風の温度を設定します。

知 識

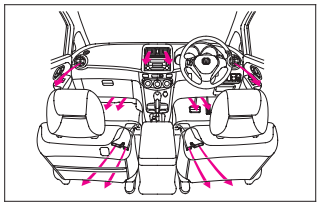
- 吹き出し口切り換えダイヤルを“ ”または“ ”にして、ガラスの曇りを取りたいときは、“ ”が示すように内外気切り換えレバーを外気導入にすると効率よく曇りが取れます。

吹き出し口切り換えダイヤル

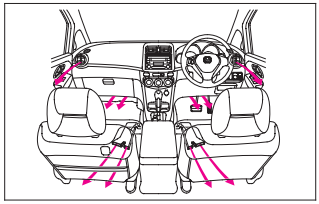
上半身に送風したいとき



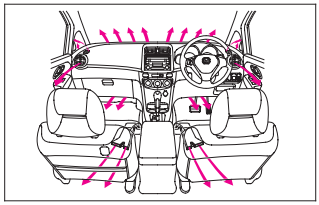
上半身、足元に送風したいとき



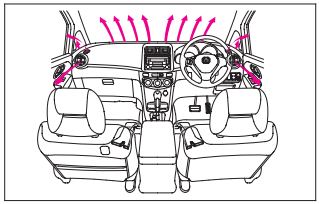
足元に送風したいとき



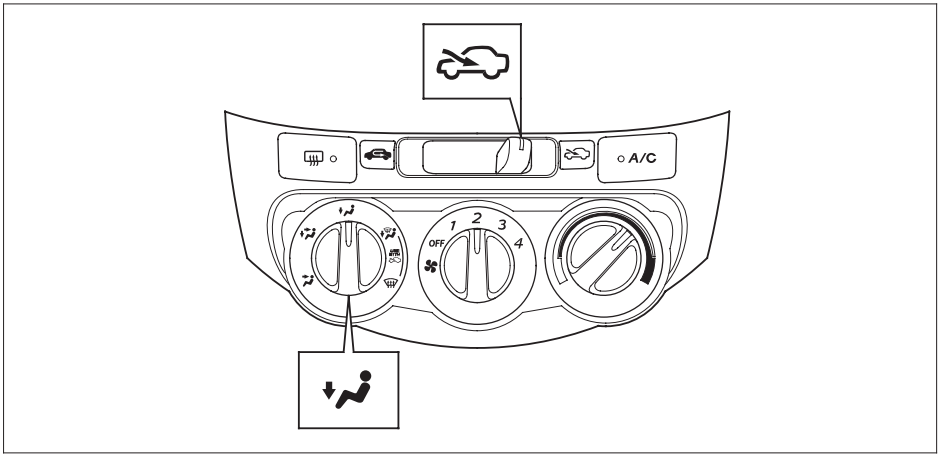
足元への送風と窓ガラスの曇りを取りたいとき



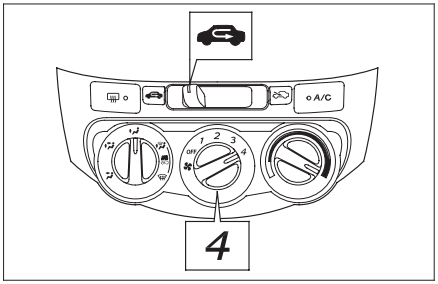
窓ガラスの曇りを取りたいとき



●暖房するとき



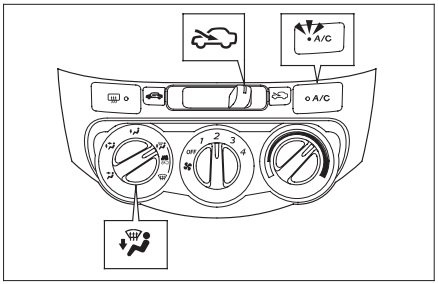
急速に車内を暖めたいとき



知 識

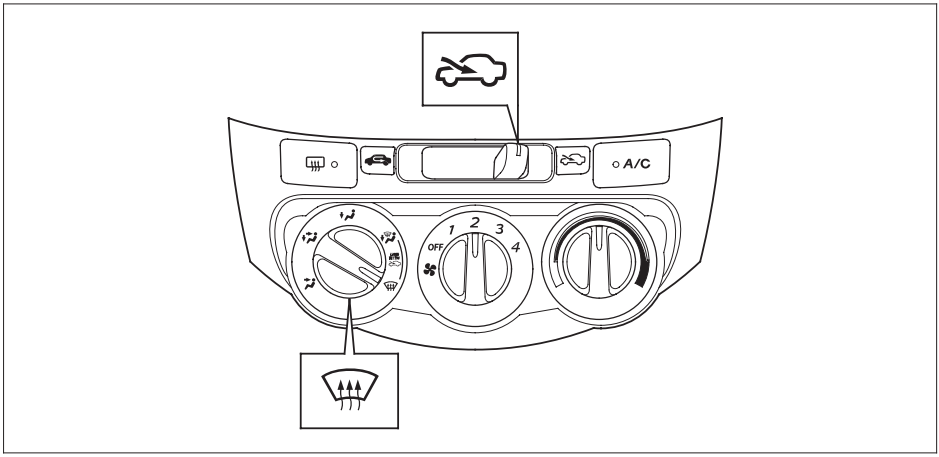
●内気循環で使い続けると車内の湿気で窓ガラスが曇り、視界の妨げになります。一度暖めた後は外気導入で使ってください。

曇り止め暖房をしたいとき

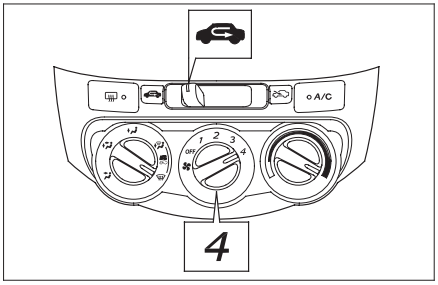


エアコンスイッチを入れると除湿暖房ができます。
春、秋などの雨天でガラスが曇りやすいときに使います。外気が除湿され、乾燥した空気で暖めますので、曇り止めに役立ちます。

●前面／側面ガラスの霜や曇りを取りたいとき（デフロスター）



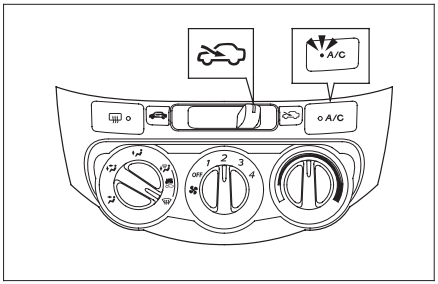
急速に霜を取りたいとき



知　識

●内気循環で使い続けると車内の湿気で窓ガラスが曇り、視界の妨げになります。一度霜を取った後は外気導入で使ってください。

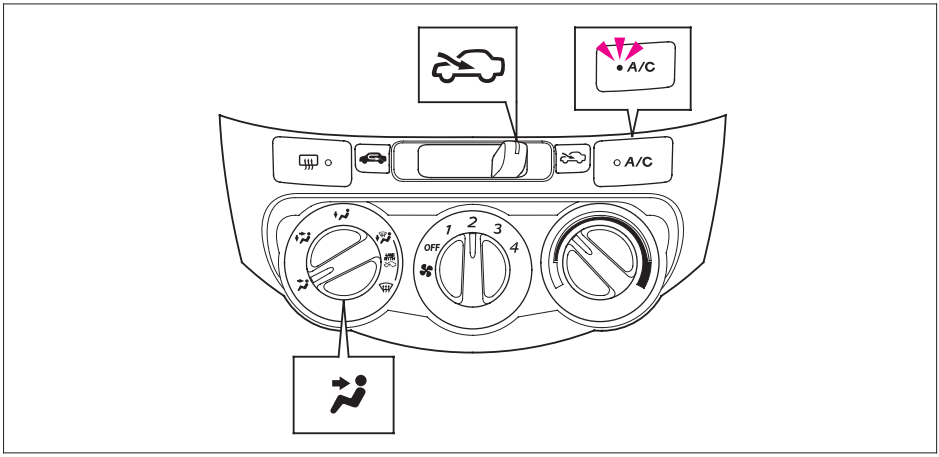
梅雨時など湿度の高いとき



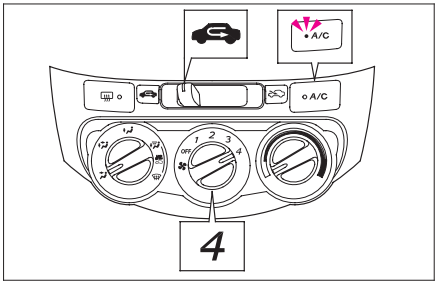
知　識

●エアコンスイッチを入れているときは、温度調節ダイヤルを最大冷房付近にしないでください。冷風が前面ガラスにあたるとガラスの外側が曇り、視界の妨げになります。

●冷房するとき



急速に車内を冷やしたいとき



知 識

- 急速冷房で車内が冷えたら外気導入にしてください。内気循環のまま長時間使うと車内の空気が汚れます。

知 識

- 炎天下に駐車していたときは、熱気を追い出すため窓を開け、冷房を開始してください。
- 長時間、冷風を直接体に当てないでください。冷やしすぎは健康上良くありません。

●エアコンを常用しないとき

装置各部のオイルをきらさないために、ときどきエンジンを低回転させた状態で数分間冷房または除湿暖房をしてください。

知 識

- 室内の温度が低い場合は、エアコンが作動しないことがあります。このような場合には、内気循環で室内を暖めてからエアコンスイッチを入れると作動します。

エアクリーンフィルター

エアコンには、空気中の花粉、粉じんを集じんし、アレルゲンを処理、排気ガス臭も低減するエアクリーンフィルターが取り付けられています。
エアクリーンフィルターの交換は、通常１年または15,000kmごとに行ってください。
ただし、使用条件により異なりますので粉じんの多い場所などでは、早めの交換をおすすめします。
また、芳香剤を使用すると脱臭効果が弱くなったり、脱臭寿命が短くなることがあります。

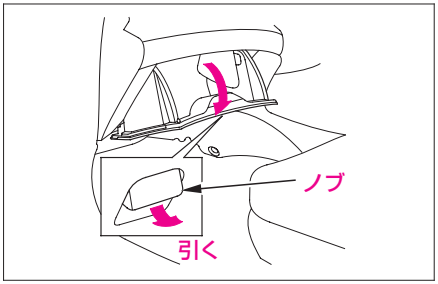
・エアコンの風量が著しく減少したり、ガラスが曇りやすくなったときなどは、フィルターの目詰まりが考えられます。

知 識

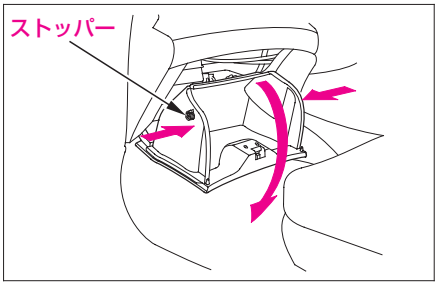
●グローブボックスの内側に交換時期が記載してあります。

●交換のしかた

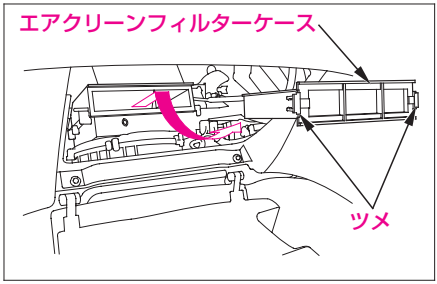
①ノブを引いてグローブボックスを開けます。



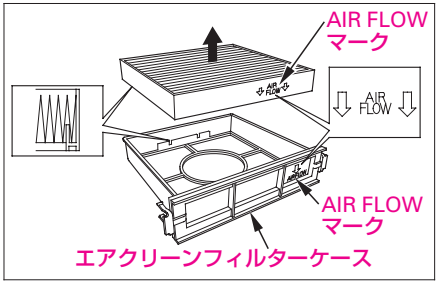
②グローブボックスの両側についているストッパーを内側に押し込んでグローブボックスを下ろします。



③左右にあるツメを引きながら、エアクリーンフィルターケースを引き出します。



④ケースからエアクリーンフィルターを取り出して新品と交換します。交換するときはケースとフィルターの"AIR FLOW"マークの矢印が同じ方向になるように取り付けてください。



知　識

●エアクリーンフィルターを交換するときは、フィルターの取り付け方向に注意してください。取り付け方向を間違えると、フィルターの効果を十分に発揮しません。

オーディオ

上手な使いかた

知 識

- 運転中の音量は車外の音が聞こえる程度の音量でお使いください。車外の音が聞こえない状態では安全運転の妨げとなります。
  また、運転中のオーディオ操作は、安全運転に支障がないようにしてください。
- 車内や車の近くで携帯電話や無線機を使うとオーディオに雑音が入ることがあります。

●ラジオについて

ラジオの受信については、車の走行にともない受信状態が刻々と変わったり、障害物や電車、信号機などの影響により最良な受信状態を維持することが困難な場合があります。

●CD/MDについて

ディスクの変形を避けるため、直射日光や高温多湿を避けてケースに入れ保管してください。
悪路走行などで激しく振動した場合、音とびすることがあります。
寒いときや雨降りのときは、プレーヤー内部に露(水滴)が生じ、正しく作動しなくなることがあります。その場合、ディスクを取り出し、換気または除湿をしてからお使いください。

CD

ディスクの信号面は直接手で触れないでください。指紋等の汚れが付くと、音とびなどをすることがあります。

下記マークのついていないディスクおよび円形以外のディスクは使えません。

・オーディオトラック

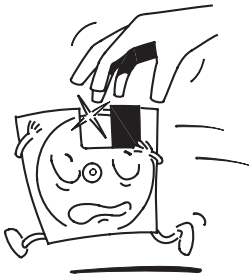
・MP3/WMAトラック（ファイル）

知 識

- ディスクは必ず円形のものをお使いください。円形以外のディスクを使用すると故障の原因となります。

MD

シャッターを無理にあけないでください。こわれることがあります。
また、ディスクの信号面は直接手で触れないでください。指紋等の汚れが付くと、音とびなどをすることがあります。

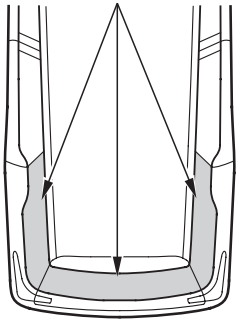


アンテナ

後部右側ウィンドー内側にラジオ用のアンテナ線が、後部左側ウィンドー内側、テールゲートガラス内側にテレビ用のアンテナ線（Hondaインターナビシステム装備車）があります。

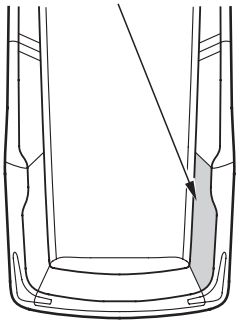
Hondaインターナビシステム装備車

窓ガラスアンテナ



Hondaインターナビシステム非装備車

窓ガラスアンテナ



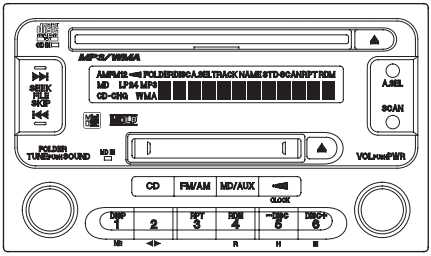
知 識

- アンテナ線は傷つきやすいので、清掃のときはアンテナ線に沿って柔らかい布でふいてください。また、手荷物などで傷つけないようにしてください。

オーディオインデックス

FM/AMラジオ一体式CD/MDステレオ

注文装備



- 電源の入れかた ……214
- 音量調節のしかた ……214
- 音質、バランス調節のしかた ……215
- オーディオモードの切り換え ……215
- ラジオの使いかた ……216
- CD/MP3/WMAプレーヤーの使いかた ……220
- MDプレーヤーの使いかた ……227
- CDチェンジャーコントローラーの使いかた※ ……231
- エラーコードについて ……234
- 時計 ……235

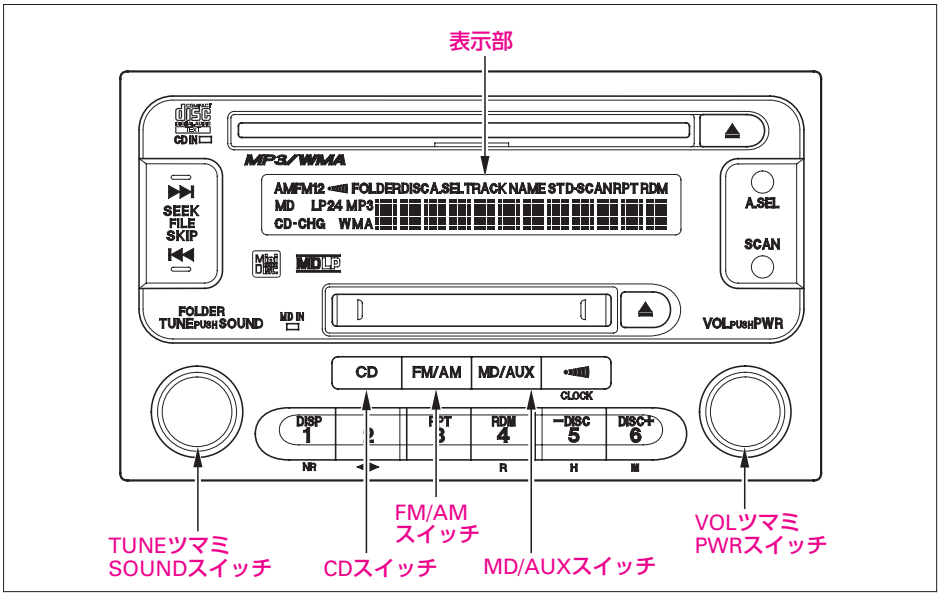
Hondaインターナビシステム装備車のオーディオ・テレビ・DVDの取り扱いについては、別冊のHondaインターナビシステム取扱説明書をご覧ください。

※：Honda純正のオーディオを接続し、操作することができます。詳しくはHonda販売店にご相談ください。

FM/AMラジオ一体式CD/MDステレオ

注文装備

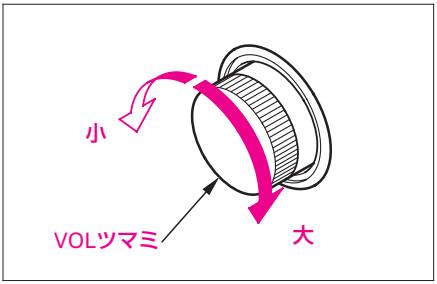
エンジンスイッチが“Ⅰ”または“Ⅱ”のときに使えます。



●電源の入れかた

PWRスイッチを押して、電源を入れます。押すたびに“ON”↔“OFF”になります。また、FM/AMスイッチ、CDスイッチまたはMD/AUXスイッチを押して、電源を“ON”にすることもできます。

●音量調節のしかた

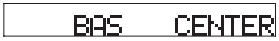


●音質、バランス調節のしかた

SOUNDスイッチを押して切り換え、TUNEツマミ（SOUNDスイッチ兼用）を回して調節します。



低音音質（BAS）



高音音質（TRE）



前後バランス（FAD）



左右バランス（BAL）



解除

SOUNDスイッチを押すたびに切り換わります。

知 識

- 調節後約5秒すぎると自動的に解除されます。
- 調節位置が中央のときに表示部に“CENTER”（センター）を表示します。

●オーディオモードの切り換え

・FM/AMスイッチ



ラジオに切り換わります。

・CDスイッチ



ディスクが入っているときに押すと、CD/MP3/WMA演奏に切り換わります。また、オーディオトラックとMP3/WMAトラック（ファイル）の両方を記録したディスクを演奏しているときに押すとオーディオトラックとMP3/WMAトラックが切り換わります。

・MD/AUXスイッチ

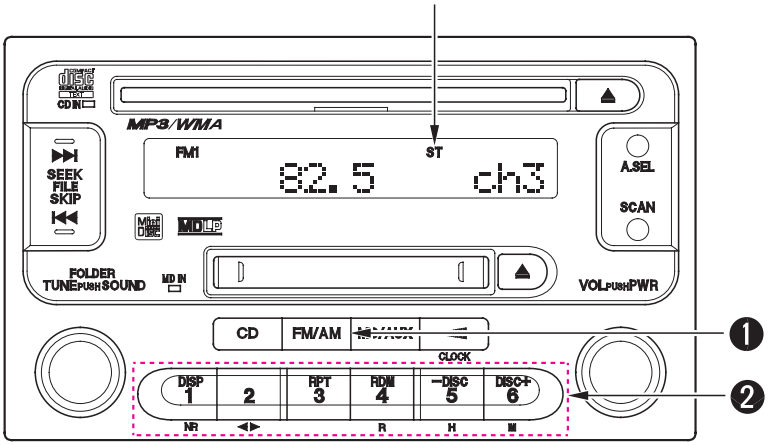


MD（ミニディスク）が入っているときに押すと、MD演奏に切り換わります。Honda純正のオーディオを接続しているときに押すと、それらの演奏に切り換わります。

●ラジオの使いかた

ラジオ放送のききかた

FMステレオ放送が感度よく受信できたときは、“ST”が点灯します。



❶ラジオに切り換え、バンドを選ぶ(FM/AMスイッチ)

スイッチを押して、FM1/FM2/AMを選びます。

❷選局する(ワンタッチ選局スイッチ)

あらかじめ放送局をセットしておくと、ワンタッチで選局できます。
FM12局(FM1、FM2それぞれ6局)、AM6局まで記憶できます。

ワンタッチ選局のセットのしかた

①FM/AMスイッチでFM1/FM2、AMを選びます。
②TUNEツマミ、SEEK/FILE/SKIPスイッチで選局します。



・TUNEツマミを回すと、受信周波数が少しずつ変わります。
・SEEK/FILE/SKIPスイッチを押すと、自動選局になり放送を受信すると止まります。

知 識

●受信電波が弱いときは、自動選局できないことがあります。このようなときは手動で選局してください。

③ワンタッチ選局スイッチのいずれか一つを“ピッ”という電子音がするまで(約2秒間)押し続けます。

知 識

●一度電源が切れた場合(車両のバッテリーを外したとき、ヒューズが切れたときなど)、記憶が消去されます。そのときは再度記憶操作をしてください。

自動で放送局を数秒ずつ聞きたいときは(スキャン)

放送局でどんな番組を放送しているかを知りたいときに、操作します。
A.SEL/SCANスイッチのSCANを押します。(“SCAN”が点滅)



電波の強い放送局が周波数の低い順から選局され、約10秒間つぎつぎと受信します。

解除するときは、スイッチをもう一度押します。他のモードに切り換えたときも解除されます。

自動で放送局を記憶するには（オートセレクト）

放送局の違う地域へ出かけたときなど、セットされた放送局が聞けなくなった場合に操作します。

A.SEL/SCANスイッチのA.SELを押します。（“A.SEL”が点滅）



自動選局された電波の強い放送局が、周波数の低い順からワンタッチ選局スイッチにFM12局、AM 6 局まで自動的に記憶され“A.SEL”が点滅から点灯に変わります。

解除するときは、スイッチをもう一度押します。解除すると、ワンタッチ選局スイッチの記憶は、オートセレクトをする前の状態に戻ります。

知 識

- 放送局が12局または 6 局にみたない場合、残りのスイッチには何も記憶されません。記憶されていないスイッチを押すと、周波数が“ 0 ”と表示されます。
- オートセレクトされた放送局を個別に変更することもできます。

交通情報をきくとき

•))))) スイッチを押すと、ワンタッチで交通情報を受信できます。(“ •))))) ”が点灯)



周波数を切り換えるとき(1620kHz↔1629kHz)
…TUNEツマミまたはSEEK/FILE/SKIPスイッチで切り換えます。

解除するとき

•))))) スイッチをもう一度押します。他のモードに切り換えたときも解除されます。

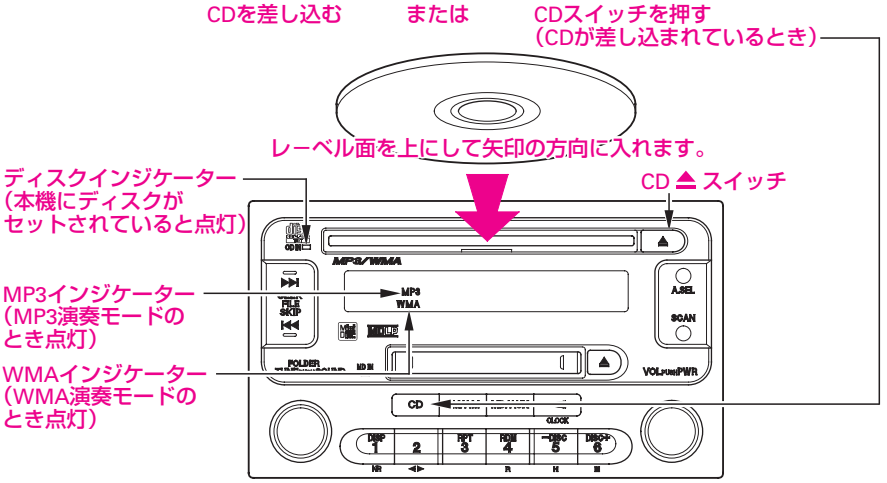
知 識

- •))))) スイッチにあらかじめセットされている受信周波数を変えることはできません。
- •))))) スイッチを使って交通情報を聞いているときは、ワンタッチ選局スイッチによる選局はできません。

●CD/MP3/WMAプレーヤーの使いかた

オーディオトラック、MP3/WMAトラック(ファイル)演奏のききかた

音楽CDやCD-R、CD-RWに記録したオーディオトラック、MP3/WMAトラック(ファイル)を再生できます。



知 識

- 8 cm CDを使用するときはアダプターを使用しないでください。故障の原因になることがあります。
- ディスクやプレーヤーをゴミやほこりから保護するため、ディスクが押し出されたままで約10秒経過すると、自動的に内部に引き込まれます。
- MP3/WMA(ISO※9660のLevel 1、Level 2、Joliet、Romeoで録音されたディスクで、ファイル名の最後に拡張子“mp3”、“wma”が付いているもの)に対応しています。
- オーディオトラックとMP3/WMAトラック(ファイル)の両方を記録したディスクは、オーディオトラック、MP3/WMAトラックの順に再生します。また、CDスイッチを押して再生するトラックを切り換えることができます。(オーディオトラック↔MP3/WMAトラック)
- CD-RおよびCD-RWは録音に使用したレコーダーやディスクの状態によって再生できない場合があります。
- セッションの追加が可能なディスクも再生できます。

※：ISO(国際標準化機構)

CDを取り出すとき

CD ▲スイッチを押して、CDを取り出します。



エンジンスイッチを“0”にした場合でも、CD ▲ スイッチを押せばディスクを取り出すことができます。

オーディオトラック再生時

早送り／早戻し、スキップ／リプレイをするとき

SEEK/FILE/SKIPスイッチを押します。



- 押し続けると、早送り／早戻しになります。
- 短く押すと、スキップ(先の曲の頭出し)／リプレイ(演奏中や前の曲の頭出し)になります。

ききたい曲を探すとき(スキャン)

A.SEL/SCANスイッチのSCANを押します。(“SCAN”が点灯し、トラックナンバーが点滅します)

各トラックの曲の始めを約10秒間つぎつぎに演奏します。



ききたい曲のところでスイッチをもう一度押すと、スキャン演奏の機能は解除されます。

知 識

- すべての曲をスキャン演奏し終ると、スキャン演奏を開始した曲から通常の演奏になります。

演奏中の曲を繰り返しきくとき(リピート)

RPTスイッチを押します。(“RPT”が点灯)



リピート機能を解除するときは、スイッチをもう一度押します。

ディスクの曲順をランダムに演奏するとき

RDMスイッチを押します。（“RDM”が点灯）



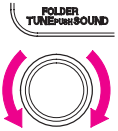
ランダム演奏の機能を解除するには、スイッチをもう一度押します。

演奏中の曲名、ディスクの名称を表示するとき

DISPスイッチを押します。（トラックまたはディスクの名称が約 5 秒間表示）

トラックまたはディスクの名称は12文字まで表示されます。





表示する項目を切り換えるとき

①DISPスイッチを“ピッ”と電子音がするまで（約 2 秒間）押します。

②TUNEツマミを回して表示する項目を切り換えます。（“DISC NAME”↔“TRACK NAME”）

③DISPスイッチを押します。

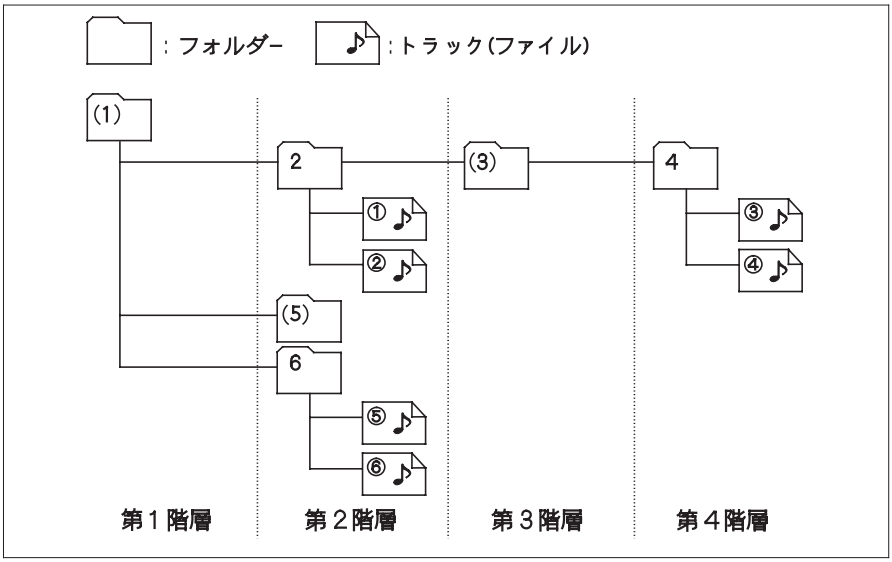
知 識

- CD-TEXTのデータが含まれるCDを再生時、トラック、ディスクの名称を表示できます。
- ディスクにトラックまたはディスクの名称がない場合は“NO TITLE”を表示します。
- 入力されている名称が13文字以上のときはDISPスイッチを押すたびに12文字ずつ表示されます。
- 表示切り換え後、約 5 秒すぎると自動的に解除されます。
  入力されている名称が全角文字（英、数、カタカナ）やひらがな、漢字の場合は“……”で表示されます。

MP3/WMAトラック(ファイル)再生時

MP3トラック(ファイル)の演奏順序について

フォルダーおよびMP3/WMAトラック(ファイル)の再生順序は図の通りです。



ディスク内のすべてのフォルダーにフォルダー番号を付けます。
図のようなフォルダー／トラック(ファイル)構成のディスクの場合、(1)、(3)、(5)のフォルダーはMP3/WMAトラック(ファイル)を含まないため、フォルダー番号は表示されません。

知 識

- 同一階層内のフォルダーやトラック(ファイル)はライティングソフトによってディスクに書き込まれた順序で再生します。
- 最大15階層、合計255トラック(ファイル)まで再生できます。
- ディスクの構成によっては読み込み時間が長くなることがあります。
- 著作権が保護されたWMAトラック(ファイル)は再生することができません。

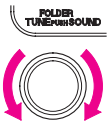
演奏している曲を換えるとき（トラック／フォルダーの切り換え）

SEEK/FILE/SKIPスイッチ、TUNEツマミを操作して切り換えます。



トラック（ファイル）を選ぶ

SEEK/FILE/SKIPスイッチの ►►I ／ I◄◄ を押すとトラック（ファイル）が切り換わります。



フォルダーを選ぶ

TUNEツマミを回すとフォルダーが切り換わります。

ききたい曲を探すとき（トラックスキャン、フォルダースキャン）

A.SEL/SCANスイッチのSCANを押します。



- 押すとトラックスキャンになります。（“SCAN”が点灯し、トラックナンバーが点滅します）
  演奏中のフォルダーの、各トラック（ファイル）の始めを約10秒間つぎつぎに演奏します。
  ききたい曲のところでもう一度押すとトラックスキャン演奏の機能は解除されます。
- “ピッ”という電子音がするまで押すとフォルダースキャンになります。（“D-SCAN”が点灯し、フォルダーナンバーが点滅します）
  各フォルダーの先頭の曲の始めを約10秒間つぎつぎに演奏します。
  ききたいフォルダーのところでもう一度“ピッ”という電子音がするまで押すとフォルダースキャン演奏の機能は解除されます。

知 識

- すべての曲またはフォルダーをスキャン演奏し終ると、スキャン演奏を開始した曲またはフォルダーから通常の演奏になります。

演奏中の曲を繰り返しきくとき（トラックリピート、フォルダーリピート）

RPTスイッチを押します。



- 押すとトラックリピートモードになります。
（“RPT”が点灯）
演奏中の曲を繰り返し演奏します。
機能を解除するには、スイッチをもう一度押します。
- “ピッ”という電子音がするまで押すとフォルダーリピートモードになります。（“D-RPT”が点灯）
演奏中のフォルダー内のトラック（ファイル）を繰り返し演奏します。
機能を解除するには、スイッチをもう一度“ピッ”という電子音がするまで押します。

ディスクの曲順をランダムに演奏するとき

RDMスイッチを押します。

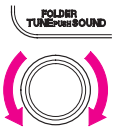


- 押すとフォルダーランダムモードになります。
（“RDM”が点灯）
演奏中のフォルダー内のトラック（ファイル）をランダムに演奏します。
機能を解除するには、スイッチをもう一度押します。
- “ピッ”という電子音がするまで押すとディスクランダムモードになります。（“D-RDM”が点灯）
ディスク内のすべてのフォルダーをランダムに演奏します。
機能を解除するには、スイッチをもう一度“ピッ”という電子音がするまで押します。

演奏中の曲の情報を表示するとき

DISPスイッチを押します。（フォルダーまたはトラック名称、ID3/WMA TAG（曲の情報）が約5秒間表示）



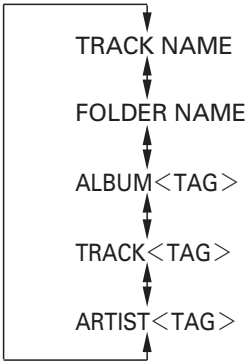


フォルダーまたはトラック（ファイル）の名称、ID3/WMA TAG（曲の情報）は12文字まで表示されます。

表示する項目を切り換えるとき

①DISPスイッチを“ピッ”という電子音がするまで（約2秒間）押します。

②TUNEツマミを回して表示する項目を切り換えます。



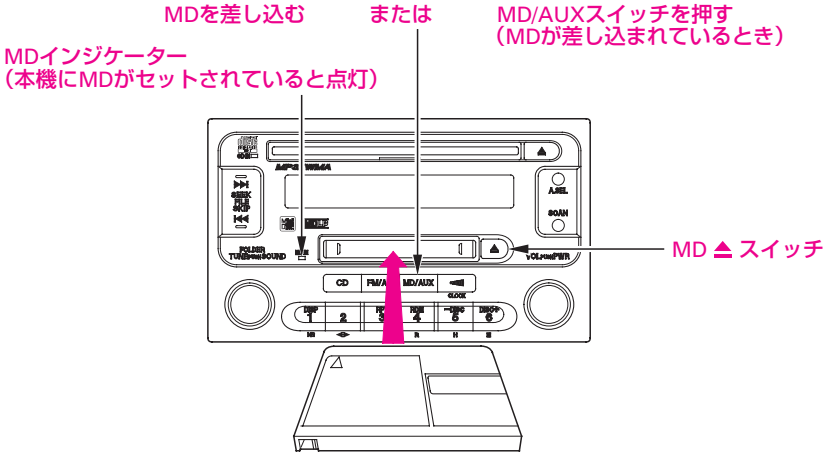
③DISPスイッチを押します。

知 識

- ディスクにフォルダーまたはトラック名称が入力されていない場合は“NO TITLE”を表示します。
- ディスクにID3/WMA TAG（曲の情報）が入力されていない場合は“NO TITLE”を表示します。
- 入力されている名称が13文字以上のときはDISPスイッチを押すたびに12文字ずつ表示されます。
- ファイル名、フォルダー名は最大32文字（Jolietは16文字）まで表示されます。
- ID3 TAG（曲の情報）のVer 1.x、2.xに対応しており、最大32文字まで表示できます。
- WMA TAG（曲の情報）は、最大32文字まで表示できます。
- 入力されている名称が全角文字（英、数、カタカナ）やひらがな、漢字の場合は“……”で表示されます。

●MDプレーヤーの使いかた

MD演奏のききかた



レーベル面を上にして矢印の方向に入れます。

知　識

- MDLP（長時間ステレオ録音）モードに対応しています。
- グループ機能には対応していません。グループ編集されたMDをグループ別に演奏することはできません。

MDを取り出すとき

MD ▲ スイッチを押して、MDを取り出します。



エンジンスイッチを“0”にした場合でも、MD ▲ スイッチを押せばディスクを取り出すことができます。

早送り／早戻し、スキップ／リプレイをするとき

SEEK/FILE/SKIPスイッチを押します。



・押し続けると、早送り／早戻しになります。
・短く押すと、スキップ（先の曲の頭出し）／リプレイ（演奏中や前の曲の頭出し）になります。

ききたい曲を探すとき（スキャン）

A.SEL/SCANスイッチのSCANを押します。（“SCAN”が点灯し、トラックナンバーが点滅します）
各トラックの曲の始めを約10秒間つぎつぎに演奏します。



ききたい曲のところでスイッチをもう一度押すと、スキャン演奏の機能は解除されます。

知 識

- すべての曲をスキャン演奏し終ると、スキャン演奏を開始した曲から通常の演奏になります。

演奏中の曲を繰り返しきくとき（リピート）

RPTスイッチを押します。（“RPT”が点灯）



リピート機能を解除するときは、スイッチをもう一度押します。

ディスクの曲順をランダムに演奏するとき

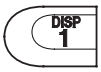
RDMスイッチを押します。（“RDM”が点灯）



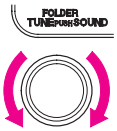
ランダム演奏の機能を解除するには、スイッチをもう一度押します。

演奏中の曲名、ディスクの名称を表示するとき

DISPスイッチを押します。（トラックまたはディスクの名称が約 5 秒間表示）



トラックまたはディスクの名称は12文字まで表示されます。



表示する項目を切り換えるとき

①DISPスイッチを“ピッ”と電子音がするまで（約 2 秒間）押します。
②TUNEツマミを回して表示する項目を切り換えます。
（“DISC NAME”↔“TRACK NAME”）
③DISPスイッチを押します。

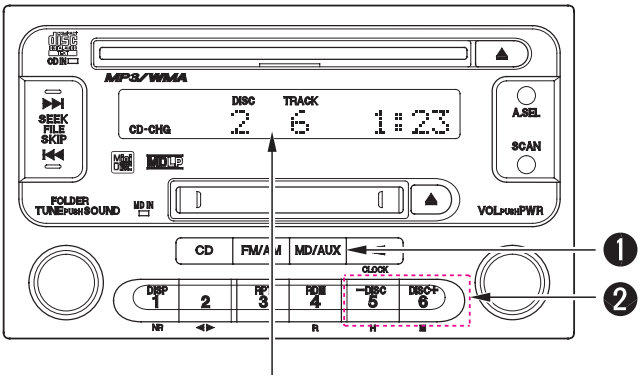
知 識

- ディスクにトラックまたはディスクの名称が入力されていない場合は“NO TITLE”を表示します。
- グループ編集されたMDを再生してもグループタイトルの表示はしません。
- 入力されている名称が13文字以上のときはDISPスイッチを押すたびに12文字ずつ表示されます。
- MDLPで録音されたトラックは、トラック名称の先頭に“LP2”または“LP4”が表示されます。
  また、トラックタイトルが記録されていない場合は“LP2”または“LP4”のみ表示されます。
  （記録状態によっては“LP2”または“LP4”を表示しない場合があります。）
- 表示切り換え後、約 5 秒すぎると自動的に解除されます。

●CDチェンジャーコントローラーの使いかた

Honda純正のCDチェンジャー接続時

ディスク演奏のききかた



演奏中はディスク、トラックナンバーを表示

❶切り換える（MD/AUXスイッチ）

スイッチを押して、切り換えます。スイッチを押すたびに接続されているCDチェンジャー、本機のMDプレーヤーに切り換わります。

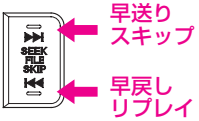
MD　（本体MDプレーヤー）
↓
CD-CHG　（CDチェンジャー）

❷ディスクを選ぶ（DISC－/DISC＋スイッチ）

DISC－スイッチまたはDISC＋スイッチを押すごとに、ディスクが切り換わります。

早送り／早戻し、スキップ／リプレイをするとき

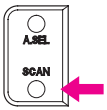
SEEK/FILE/SKIPスイッチを押します。



- 押し続けると、早送り／早戻しになります。
- 短く押すと、スキップ(先の曲の頭出し)／リプレイ(演奏中や前の曲の頭出し)になります。

ききたい曲を探すとき(トラックスキャン、ディスクスキャン)

A.SEL/SCANスイッチのSCANを押します。



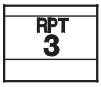
- 押すとトラックスキャンになります。(“SCAN”が点灯し、トラックナンバーが点滅します)
  演奏中のディスクの各トラックの曲の始めを約10秒間つぎつぎに演奏します。
  ききたい曲のところでスイッチをもう一度押すと、トラックスキャン演奏の機能は解除されます。
- “ピッ”という電子音がするまで押すとディスクスキャンになります。(D-SCANが点灯し、ディスクナンバーが点滅します)
  ディスクチェンジャー内のすべてのディスクの先頭の曲の始めを約10秒間つぎつぎに演奏します。
  ききたいディスクのところでスイッチをもう一度“ピッ”という電子音がするまで押すと、ディスクスキャン演奏の機能は解除されます。

知 識

- すべての曲またはディスクをスキャン演奏し終ると、スキャン演奏を開始した曲またはディスクから通常の演奏になります。

演奏中の曲を繰り返しきくとき（リピート）

RPTスイッチを押します。



・押すとトラックリピートモードになります。
（“RPT”が点灯）
演奏中の曲を繰り返し演奏します。
機能を解除するには、スイッチをもう一度押します。
・“ピッ”という電子音がするまで押すとディスクリピートモードになります。（“D-RPT”が点灯）
演奏中のディスクを繰り返し演奏します。
機能を解除するには、スイッチをもう一度“ピッ”という電子音がするまで押します。

ディスクの曲順をランダムに演奏するとき

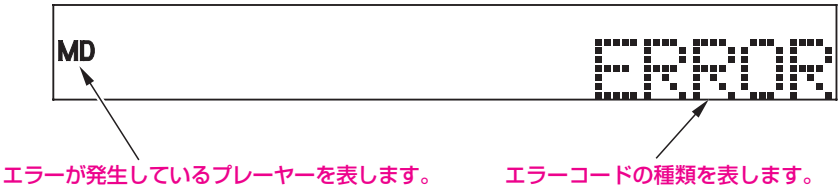
RDMスイッチを押します。



・押すとトラックランダムモードになります。
（“RDM”が点灯）
演奏中のディスクをランダムに演奏します。
機能を解除するには、スイッチをもう一度押します。
・“ピッ”という電子音がするまで押すとディスクランダムモードになります。（“D-RDM”が点灯）
ディスクチェンジャー内すべてのディスクでランダムに演奏します。
機能を解除するには、スイッチをもう一度“ピッ”という電子音がするまで押します。

●エラーコードについて

表示部にエラーコードが表示されたときは、下表にしたがって点検してください。



CD　（本体CDプレーヤー）
MD　（本体MDプレーヤー）
CD-CHG　（CDチェンジャー）

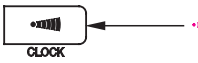
エラーコード	原　因
ERROR	ディスクやディスクマガジンの装着や取り外しができない等、機械的な不具合
HOT	プレーヤー内部の温度上昇による一時停止状態
DISC	ディスクの読み込みができない(露つき、傷、汚れなど)
NO DISC	CDチェンジャー ディスクマガジンにディスクが入っていない
BLANK	MD ディスクに録音されていない

●時計

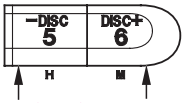
時計は、エンジンスイッチが“Ⅰ”または“Ⅱ”のときに表示されます。それぞれのスイッチを操作すると各動作状態を表示し、動作停止後、時計表示に戻ります。

表示の合わせかた

① (CLOCK)スイッチを時計表示が点滅するまで押します。



②「時」の調整… 5 −DISC(H)スイッチを押します。
「分」の調整… 6 DISC+(M)スイッチを押します。



5 −DISC(H)スイッチ　6 DISC+(M)スイッチ

③ (CLOCK)スイッチをもう一度押します。

時報合わせ…時計表示が点滅しているときに、時報と同時に 4 RDM(R)スイッチを押します。



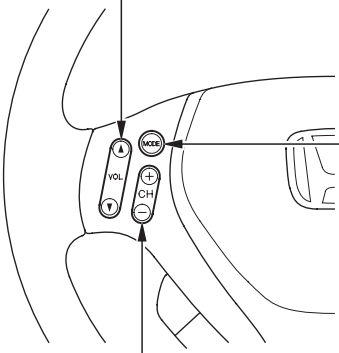
（例）　1 :01 ～ 1 :29の場合… 1 :00
1 :30 ～ 1 :59の場合… 2 :00

オーディオリモートコントロールスイッチ

Hondaインターナビシステム装備車、
FM/AMラジオ一体式CD/MDステレオ装備車

音量調節スイッチ

▲を押す…音量が大きくなります。
▼を押す…音量が小さくなります。



MODEスイッチ

Hondaインターナビシステム装備車

FM1 → FM2 → AM → CD/DVD※1 → SC※3 → TV1 → TV2 → ビデオ → CD-CHG※2 → FM1

FM/AMラジオ一体式CD/MDステレオ装備車

FM1 → FM2 → AM → CD※1 → MD※1 → CD-CHG※2 → FM1

スイッチを押すたびに切り換わります。

CH(チャンネル)スイッチ

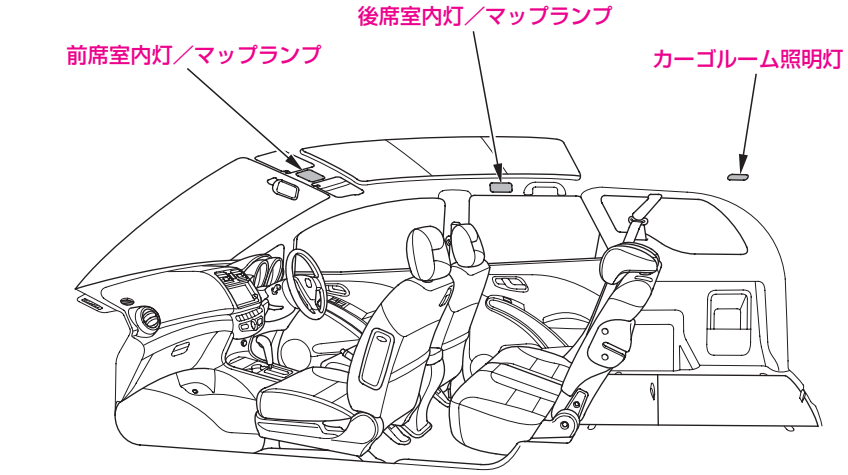
ラジオを聞いているとき
テレビを見ているとき※4
＋を押す…プリセットされている次の放送局を選局します。
－を押す…プリセットされている前の放送局を選局します。
CD、MD※5、SC※3、※4を聞いているとき
＋を押す…スキップ(次の曲の頭出し)します。
－を押す…リプレイ(演奏中や前の曲の頭出し)します。

※1：ディスクがセットされているときに切り換わります。
※2：Honda純正のCDチェンジャーを接続しているときに切り換わります。
※3：SC(サウンドコンテナ)　※4：Hondaインターナビシステム装備車
※5：FM/AMラジオ一体式CD/MDステレオ装備車

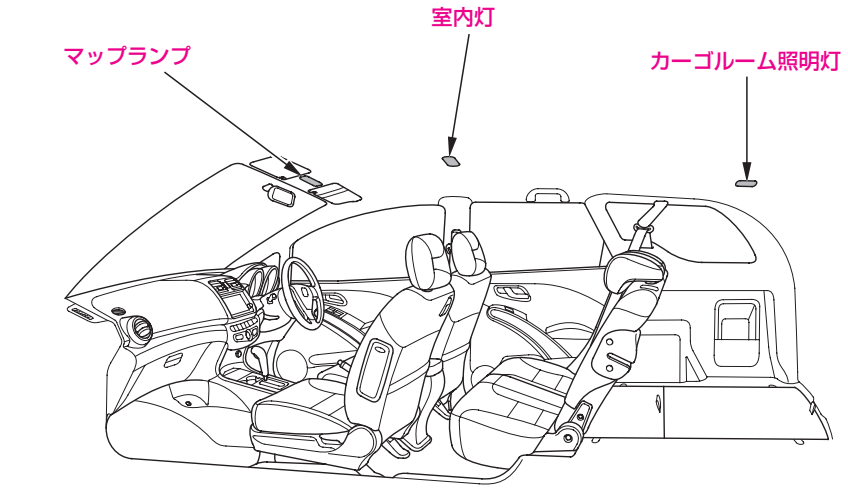


室内照明

スカイルーフ装備車



スカイルーフ非装備車

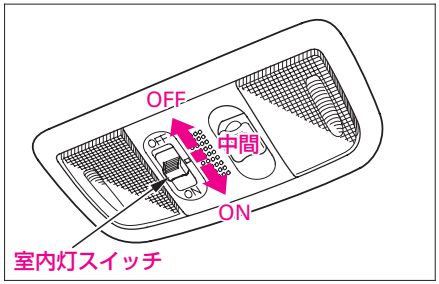


室内灯

●室内灯スイッチ

スカイルーフ装備車

室内灯スイッチで、前席室内灯、後席室内灯を次のように点灯、消灯することができます。



室内灯スイッチが“ON”の位置
各室内灯はドアの開閉に関係なく点灯します。

室内灯スイッチが“中間”の位置
各室内灯はドアを開けると点灯し、閉めると約30秒後に減光しながら消灯します。

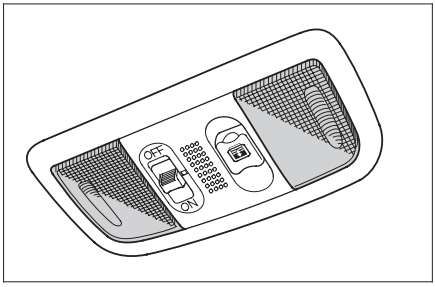
次の場合にも点灯し、その後消灯します。
・運転席ドアを解錠したとき。
（ウエルカムランプ機能）
・エンジンスイッチからキーを抜いたとき。
・Hondaスマートキーシステム装備車は、エンジンスイッチを“0”（プッシュオフ）にしたとき。

知 識
●前席室内灯および後席室内灯のレンズを押して点灯しているときは、室内灯はドアを閉めても消灯しません。

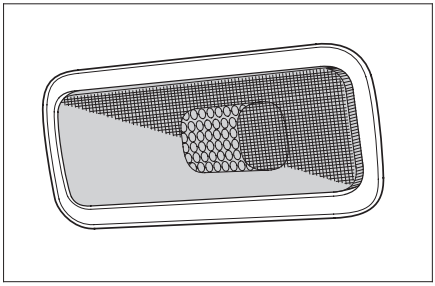
室内灯スイッチが“OFF”の位置
各室内灯はドアの開閉に関係なく消灯します。

知 識
●前席室内灯は、レンズを押して点灯しているときは消灯しません。

前席室内灯



後席室内灯



知 識

- 次の操作を行ったときは、室内灯はすぐに消灯します。
  - ・運転席ドアを施錠したとき。
  - ・エンジンスイッチにキーが差し込まれた状態でドアを閉めたとき。
  - ・Hondaスマートキーシステム装備車は、エンジンスイッチが“0”(プッシュオフ)以外の状態でドアを閉めたとき。
  - ・エンジンスイッチを“II”にしたとき。
- エンジンスイッチにキーが差し込まれているときは、運転席ドアを解錠しても室内灯は点灯しません。
- 室内灯スイッチが“中間”の位置のときにエンジンスイッチにキーを差し込んでいないときは、バッテリー保護のため、ドアを開けたままにしていると約3分後に消灯します。
  ただし、前席室内灯、後席室内灯は、レンズを押して点灯しているときは消灯しません。

●室内灯スイッチ

スカイルーフ非装備車

室内灯スイッチが“ON”の位置

ドアの開閉に関係なく点灯します。

室内灯スイッチが“中間”の位置

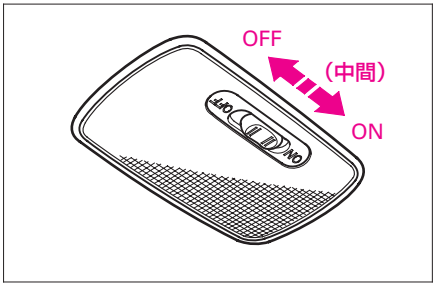
ドアを開けると点灯し、閉めると約30秒後に減光しながら消灯します。

次の場合にも点灯し、その後消灯します。

- 運転席ドアを解錠したとき。（ウエルカムランプ機能）
- エンジンスイッチからキーを抜いたとき。
- Hondaスマートキーシステム装備車は、エンジンスイッチを“0”（プッシュオフ）にしたとき。

室内灯スイッチが“OFF”の位置

ドアの開閉に関係なく消灯します。



知　識

- 次の操作を行ったときは、室内灯はすぐに消灯します。
  - 運転席ドアを施錠したとき。
  - エンジンスイッチにキーが差し込まれた状態でドアを閉めたとき。
  - Hondaスマートキーシステム装備車は、エンジンスイッチが“0”（プッシュオフ）以外の状態でドアを閉めたとき。
  - エンジンスイッチを“II”にしたとき。
- エンジンスイッチにキーが差し込まれているときは、運転席ドアを解錠しても室内灯は点灯しません。
- “中間”の位置のときに、エンジンスイッチにキーを差し込んでいないときは、バッテリー保護のため、ドアを開けたままにしていると約3分後に消灯します。

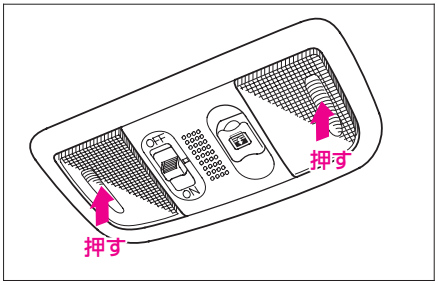
マップランプ

夜間、車を止めて地図などを見るときに便利です。

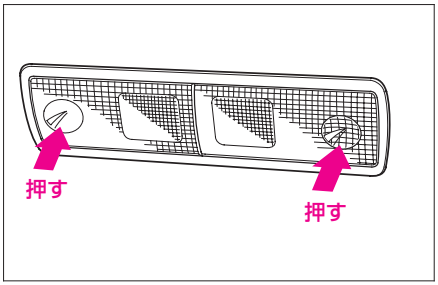
●前席用

レンズを押すと点灯し、もう一度押すと消灯します。

スカイルーフ装備車



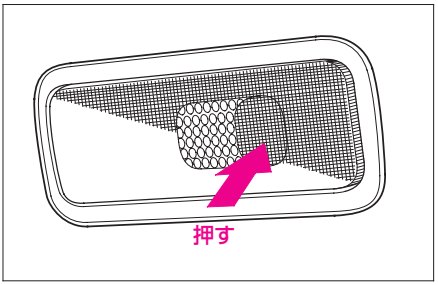
スカイルーフ非装備車



●後席用

スカイルーフ装備車

室内灯スイッチが“中間”の位置のときにレンズを押すと点灯し、もう一度押すと消灯します。



知 識

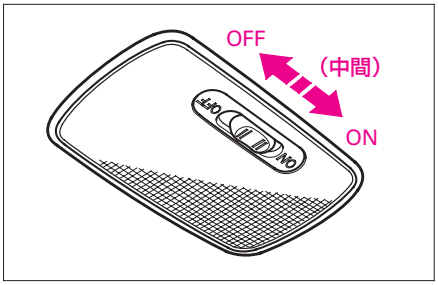
- 次のときは、点灯中にレンズを押しても消灯しません。
  - ・室内灯スイッチが“ON”のとき
  - ・室内灯スイッチが“中間”のときで、ドアが開いているとき

カーゴルーム照明灯

スイッチが“ON”の位置
テールゲートの開閉に関係なく点灯します。

スイッチが“中間”の位置
テールゲートを開けると点灯し、閉めると消灯します。

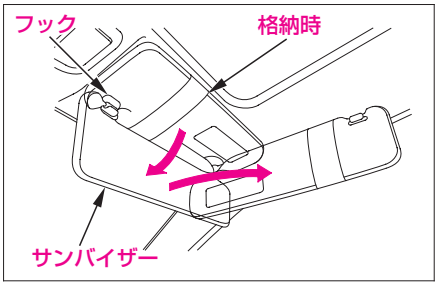
スイッチが“OFF”の位置
テールゲートの開閉に関係なく消灯します。



室内装備品

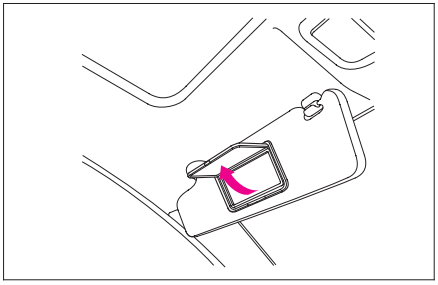
サンバイザー

サンバイザーを横にするときは、フックから外して行います。



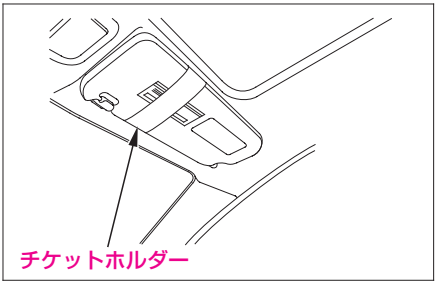
●バニティミラー(化粧鏡)

助手席のサンバイザーに鏡があります。
お化粧のときなどに便利です。



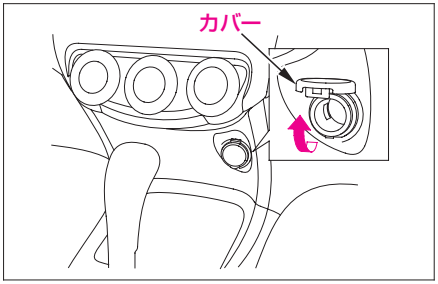
チケットホルダー

運転席側のサンバイザーにあります。



アクセサリーソケット

エンジンスイッチが“I”または“II”のときに、カバーを開けて使用できます。
Honda純正の電気製品の電源を取り出すのに使用します。
（消費電力120W［12ボルト、10アンペア］まで使用できます。）



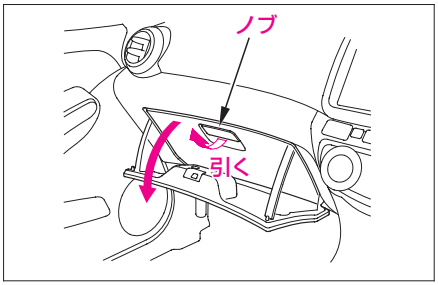
知 識

- Honda純正品以外の電気製品の電源を取り出さないでください。バッテリーあがりやアクセサリーソケットの損傷の原因となります。
- バッテリーあがりを防ぐため、エンジンがかかっている状態でご使用ください。
- シガレットライターは差し込まないでください。発熱するおそれがあります。
- アクセサリーソケットを使わないときは、異物の侵入を防ぐためカバーを閉めてください。

小物入れ

●グローブボックス

ノブを引くと開きます。

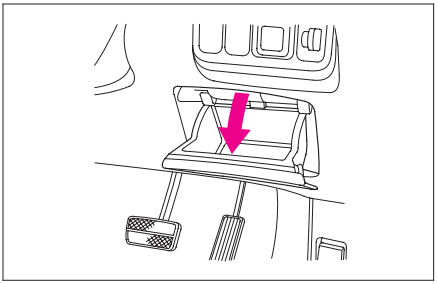


⚠警告

- 走行中は、グローブボックスのフタを必ず閉めてください。
  グローブボックスのフタが開いていると、衝突したときなどにフタにぶつかったり、内部の物がとび出したりして思わぬ事故につながります。

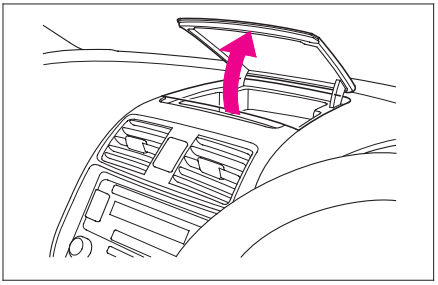
●コインポケット

フタを下げると開きます。小銭を入れておくと有料道路の料金所などで便利です。



●センターアッパーボックス

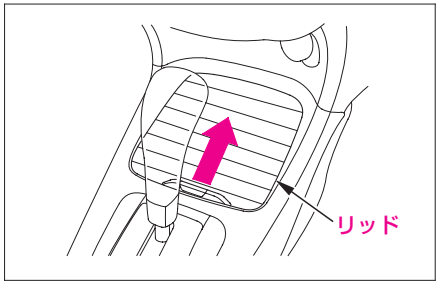
インストルメントパネル中央のフタを開けると、小物入れがあります。



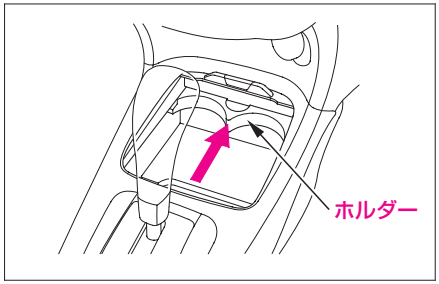
●センターコンソール

フロントコンソールボックス

①リッドを前方へスライドさせて開けます。

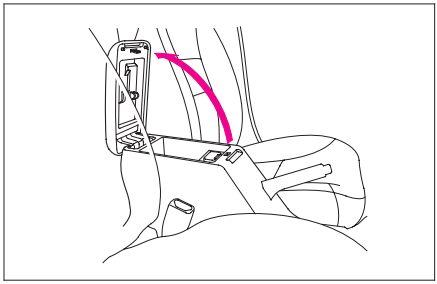


②カップホルダーが出ているときは、ホルダーを前方へ収納させます。

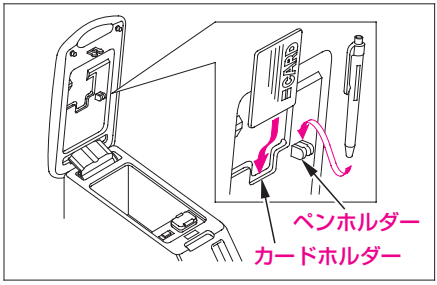


ライトスイッチがOFF以外のときに照明灯が点灯します。

リヤコンソールボックス



リヤコンソールボックスのフタにペンホルダー、カードホルダーがあります。



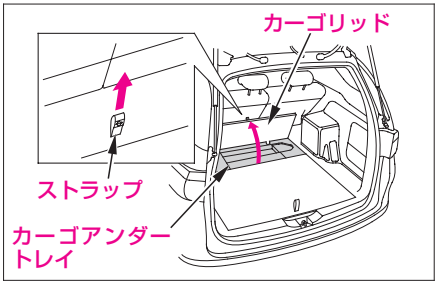
知　識

●カードホルダーには、カード以外の物を入れないでください。
カード以外の物を入れると、取り出せなくなることがあります。

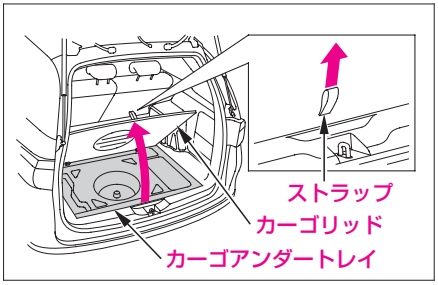
●カーゴアンダートレイ

ストラップを引いて、カーゴリッドを開けます。

前側



後側 タイプ別装備



知 識

- カーゴアンダートレイには、重い物を乗せないでください。

●カーゴサイドポケット

左右にあります。



カップホルダー

カップなどを置くときに使います。

⚠注意

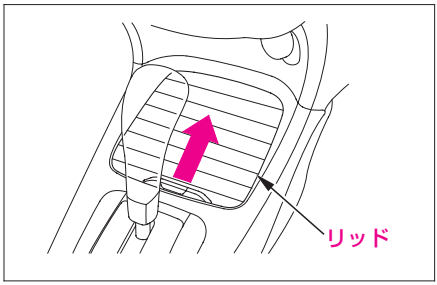
- オーディオやスイッチなどの電装品に飲み物などをこぼさないように注意してください。
  故障の原因となったり、車両火災につながるおそれがあります。
  万一、電装品に飲み物をこぼしたときは、Honda販売店にご相談ください。

知 識

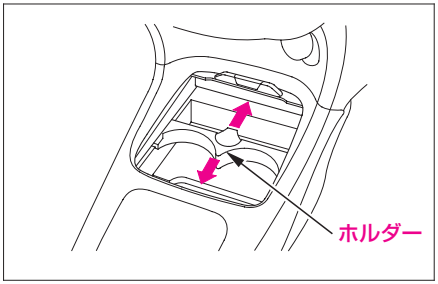
- ドアの開閉や走行中の振動、車の動きなどで飲み物がこぼれることがあります。
  熱い飲み物などはやけどのおそれがありますので注意してください。

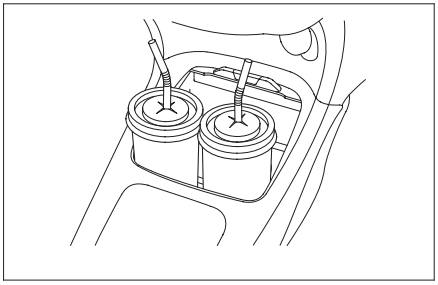
●前席用

フロントコンソールボックスの中にあります。
リッドを前方にスライドさせて開きます。
ライトスイッチがOFF以外のときに照明灯が点灯します。



カップなどの大きさに合わせて、ホルダーの位置を前後に調節することができます。





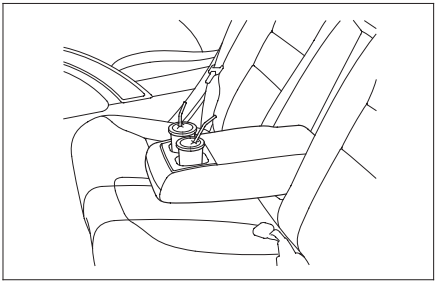
知 識

- ホルダーがフロントコンソールボックス内前方に収納されているときは、後方へ引き出します。
- ホルダーを前方へ収納させるとフロントコンソールボックスが広くなります。

フロントコンソールボックス
→247ページ

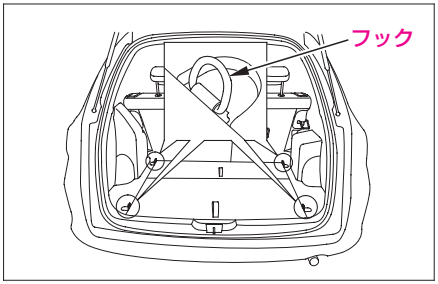
●後席用

アームレストを前に倒して使います。



カーゴフック

荷物を固定するときに使います。



⚠注意

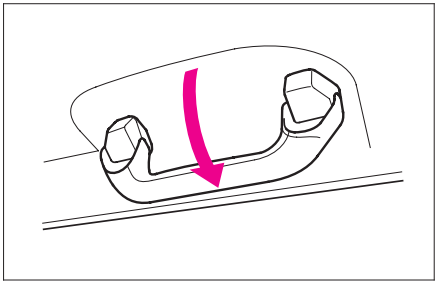
- 走行中は荷物の出し入れはしないでください。
  急ブレーキなどのときに思わぬ事故につながるおそれがあります。

知 識

- カーゴスペースに荷物を置くときは、リヤシートの背もたれの高さを越えないようにしてください。
  後方視界を妨げるばかりでなく、急停止のときなど飛び出すおそれがあります。

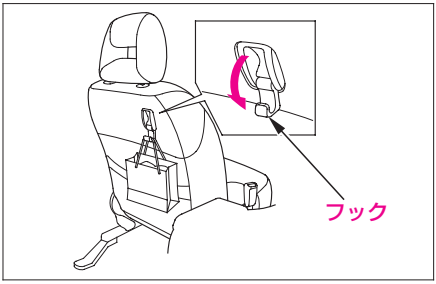
グラブレール

回転させて使います。



コンビニフック

軽い荷物をかけておくのに便利です。
フックを手前に倒して使用します。
使用しないときは、フックを元に戻しておいてください。



知 識

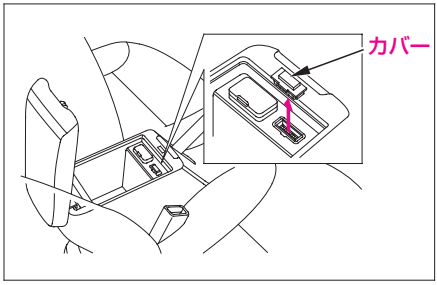
- 重い物（約 3 kg以上）や大きな物をかけないでください。特に、重い物をかけるとフックが外れることがあります。

携帯電話接続端子

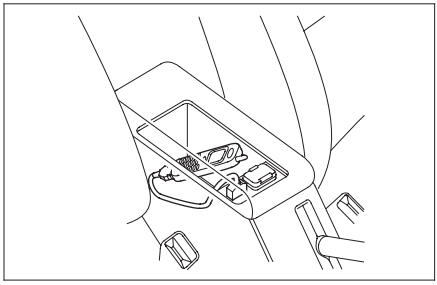
Hondaインターナビシステム装備車

別売りの接続ケーブルを使って、携帯電話をリヤコンソールボックス内にある端子と接続して使います。

接続するときは、カバーを取り外します。



接続した携帯電話は、図のように置いておくことができます。

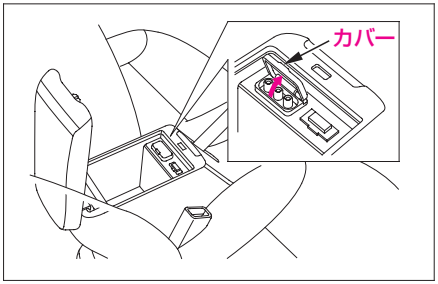


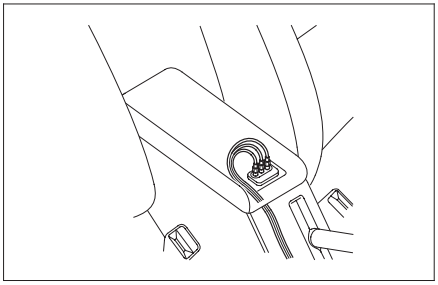
詳細に関しては、別冊のHondaインターナビシステムの取扱説明書をご覧ください。

AV入力端子

Hondaインターナビシステム装備車

リヤコンソールボックス内にあります。使用するときは、カバーを開けて、入力端子にビデオ機器などの端子を差し込みます。





詳細に関しては、別冊のHondaインターナビシステムの取扱説明書をご覧ください。

5

万一のとき

●工具・スペアタイヤ・発炎筒
格納場所 ……256
工具の種類 ……257
発炎筒について ……257

●故障したとき
踏切で動けなくなったとき …258
高速道路で故障したとき ……258
道路で動けなくなったとき …259
故障の修理について ……259

●事故が起きたとき ……260

●けん引
けん引されるとき
（ロープによるけん引）……262
故障車をけん引するとき ……265

●パンクしたとき
ジャッキの取り扱い ……266
応急用スペアタイヤ ……268
タイヤ交換 ……269

●オーバーヒートしたとき
……276

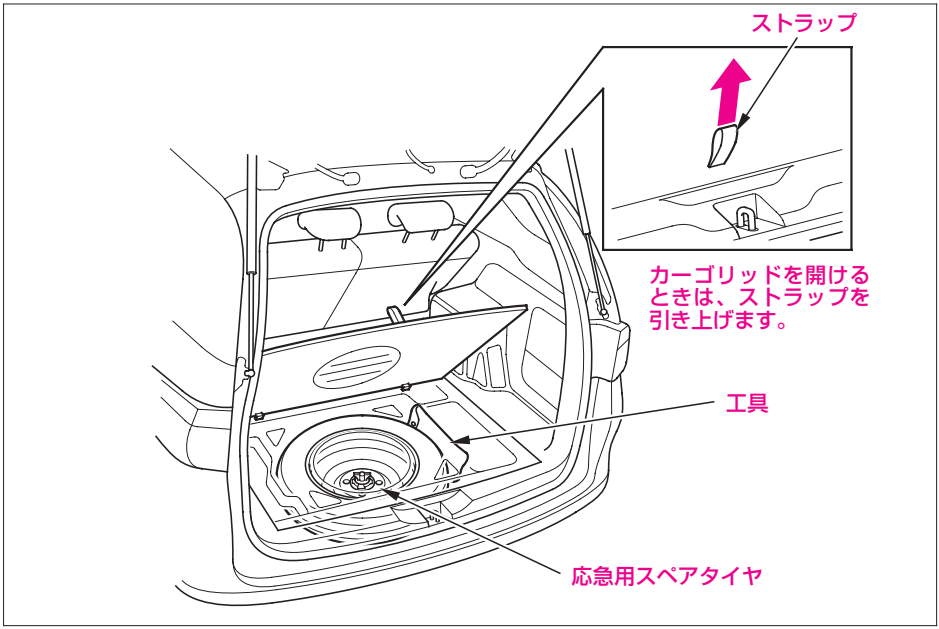
●電気系統が異常のとき
バッテリーあがりのとき ……278
ライト類が点灯しないとき、
電気装置が作動しないとき
……280
テールゲートの解錠が
できないとき ……296
キーの電池が消耗したとき …297
Hondaスマートキーで
エンジンスイッチを
操作できないとき ……298

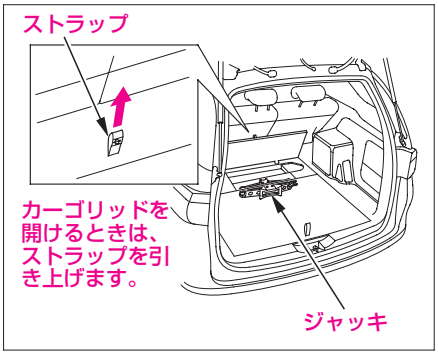
＊全国のHonda販売店およびJAFの電話番号は別冊の「サービス網一覧」に記載してあります。

工具・スペアタイヤ・発炎筒

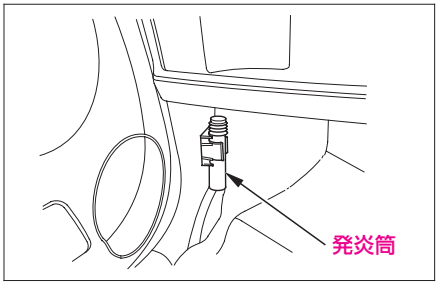
格納場所

●工具・スペアタイヤ



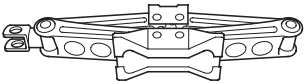


●発炎筒



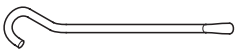
発炎筒は助手席足元にあります。

工具の種類


ジャッキ


マイナスドライバー


グリップ


ジャッキハンドルバー


ホイールナットレンチ
（兼ジャッキハンドル）


アイボルト
（けん引用）

知 識

- 工具の種類、ジャッキ、発炎筒の使いかたなどは万一のとき困らないようあらかじめ確かめておきましょう。
- スペアタイヤ、ジャッキは走行中動かないように、所定の位置にしっかり固定してください。
- 高速道路で故障などにより停止するときは、停止表示器材による表示義務がありますので、停止表示板などを常時携帯するようにしましょう。

発炎筒について

高速道路、踏切などの危険な場所で故障したときに使います。発炎筒に記載されている次のことをよく読んであらかじめ確認しておいてください。

・使いかた　・使用上の注意
・発炎時間　・有効期限

⚠警告

- ガソリンなどの燃えやすい物のそばでは使わないでください。
  火災や爆発のおそれがあります。

⚠注意

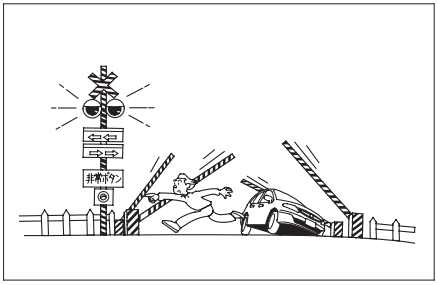
- お子さまにいじらせないでください。いたずらなどにより発炎筒が発火して思わぬ事故ややけどの原因になります。
- 発炎筒を使うとき顔や身体に向けるとやけどなどをすることがあるのでおやめください。
- トンネル内では視界を悪くするので使用しないでください。
  トンネル内では非常点滅表示灯を使ってください。

故障したとき

車を路肩に停め、非常点滅表示灯を点滅させます。必要に応じて停止表示板（または停止表示灯）、発炎筒を使い、後続する車に故障車とわかるようにします。

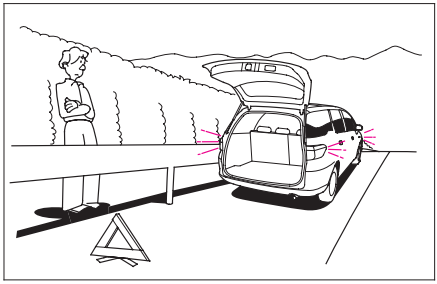
踏切で動けなくなったとき

脱輪などで踏切内で動けなくなったときは、踏切の非常ボタンを押してください。非常ボタンがわからず、緊急を要するときは、発炎筒で合図をしてください。



高速道路で故障したとき

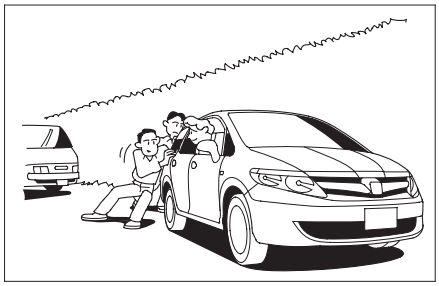
車を路側帯に寄せ、非常点滅表示灯を点滅させ、車両後方に停止表示板（または停止表示灯）を置いて表示してください。法律で義務づけられています。



人は車からおりて、安全な場所に避難してください。

道路で動けなくなったとき

一般道路で動けなくなったときは、付近の人に安全な場所まで押してもらってください。

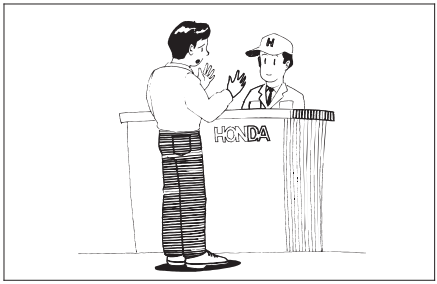


知 識

- この車は、スターターを回して車を動かすことはできません。

故障の修理について

Honda販売店へお申しつけください。



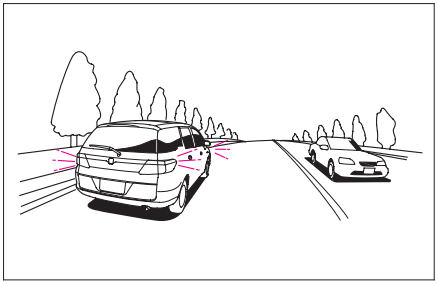
お持ちこみいただければ、簡単なものはその場で修理いたします。長くかかるものは、予定をお知らせします。
お持ちこみのむずかしいときには電話でご連絡ください。
遠出などのときは全国どこでもHonda販売店へご連絡ください。
Honda販売店およびJAFの電話番号については別冊の「サービス網一覧」をご覧ください。

事故が起きたとき

あわてずに次の処置をとります。

1事故の続発を防ぐ。

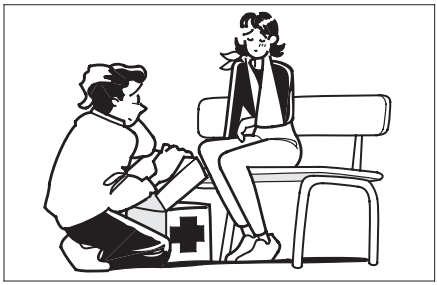
他の交通の妨げにならないような安全な場所(路肩、あき地など)に車を移動させ、エンジンを止めます。



2負傷者がいる場合は、応急手当を行う。

医師、救急車などが到着するまでの間、可能な応急手当を行います。

この場合、とくに頭部に傷などがあるときは、そのままの姿勢で動かさないようにしますが、後続事故の心配があるときは安全な場所に移動させます。



知 識

- 外傷がなくても医師の診断を受けましょう。後になってから後遺症が出るおそれがあります。

3警察へ連絡する。

事故が発生した場所、状況、負傷者や負傷の程度などを警察官に報告し、指示を受けます。



4相手方、事故の状況をメモする。

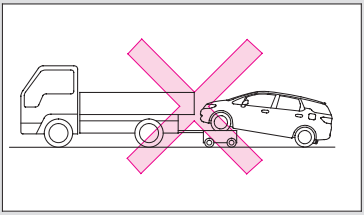
5ご購入された販売店や保険会社へ連絡する。

けん引

けん引は専門業者に依頼し、できるだけ四輪または前輪を持ち上げて行ってください。

アドバイス

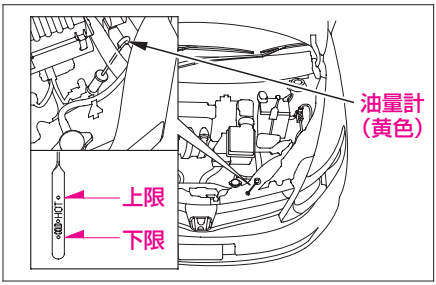
- 車輪が動かないときなど動力伝達装置に異常があると思われるときは、2WD車は四輪または前輪、4WD車は四輪を持ち上げてけん引してください。
- 4WD車の場合、前輪または後輪を台車に載せた(車輪が回転できない)状態でのけん引は、絶対に行わないでください。
  駆動装置が破損したり、車輪が台車からとび出すおそれがあります。



けん引されるとき（ロープによるけん引）

やむをえず四輪を接地させてロープでけん引を行う場合は、次の方法で行ってください。

①トランスミッションオイルの量が目盛りの上限と下限の間にあるかを点検します。



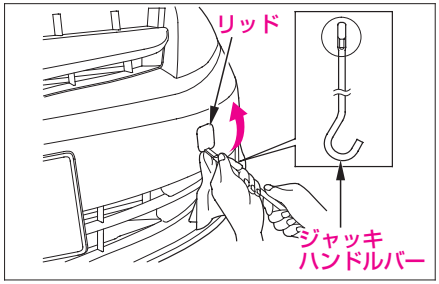
下限より下がっている場合は、四輪または前輪を持ち上げてけん引してください。

②カーゴリッドとカーゴアンダートレイ（タイプ別装備）を開け、工具袋を取り出します。

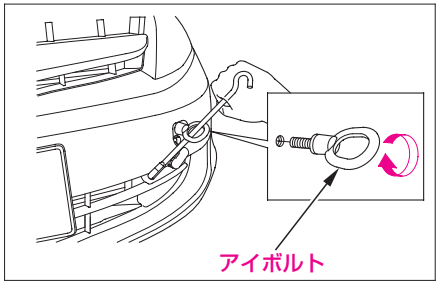
格納場所　→256ページ

③工具袋からジャッキハンドルバーとアイボルトを取り出します。

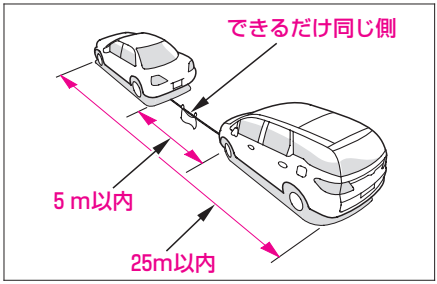
④ジャッキハンドルバーの先でリッドを開けます。



⑤アイボルトがガタつかない程度まで手で締めつけてから、ジャッキハンドルバーなどをかけて確実に締めつけます。



⑥ロープをアイボルトにかけ、ロープ中央部に白い布（0.3m平方以上）を付けます。



⑦エンジンをかけます。
エンジンがかからないときは、エンジンスイッチを“ I ”または“II”にします。

⑧セレクトレバーをN（ニュートラル）にします。

⑨パーキングブレーキを解除し、けん引されます。けん引中は、前の車の制動灯に注意してロープをたるませないようにしてください。

⑩速度30km/h以下、走行距離80km以内でけん引してください。

アドバイス

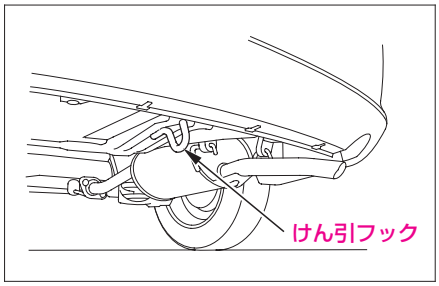
- アイボルトにロープをかけるときは、車体の破損・変形を防ぐために次のことに気をつけてください。
  - ・アイボルトは確実に取り付けてください。
  - ・アイボルト以外のところにロープをかけないでください。
  - ・けん引時にアイボルトに大きな衝撃が加わるような運転をしないでください。
  - ・けん引ロープはできるだけ伸縮性のあるロープを使用してください。

知 識

- エンジンが停止している状態でのけん引は、次のことに気をつけてください。
  - ・ブレーキの倍力装置がはたらかなくなるので、ブレーキの効きが悪くなります。
  - ・パワーステアリングのパワー装置がはたらかなくなるので、ハンドル操作が重くなります。
- 長い下り坂では、ブレーキ部の温度が上がりブレーキが効かなくなるおそれがあります。レッカー車にけん引してもらってください。

故障車をけん引するとき

やむをえず故障車をけん引するときは、自車より重い車のけん引は避けてください。



アドバイス

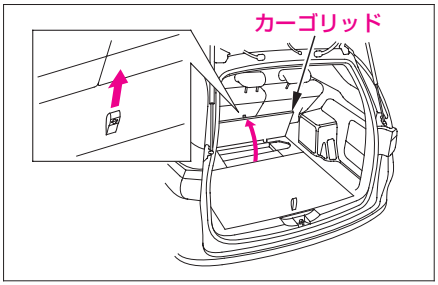
- けん引フックにロープをかけるときは、車体やフックの破損・変形を防ぐために次のことに気をつけてください。
  - ・けん引フック以外のところにロープをかけないでください。
  - ・けん引時にけん引フックに大きな衝撃が加わるような運転をしないでください。
  - ・けん引ロープはできるだけ伸縮性のあるロープを使用してください。
- ワイヤーロープや金属製のチェーンなどを使ってけん引するときは、車体にあたる部分のチェーンに布をまくなどして行ってください。そのままけん引すると、バンパーに傷をつけるおそれがあります。

パンクしたとき

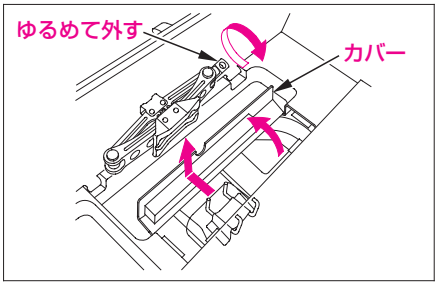
ジャッキの取り扱い

●ジャッキの取り出しかた

①カーゴリッド(前側)を開けます。



②カバーを開け、ジャッキをゆるめて外します。

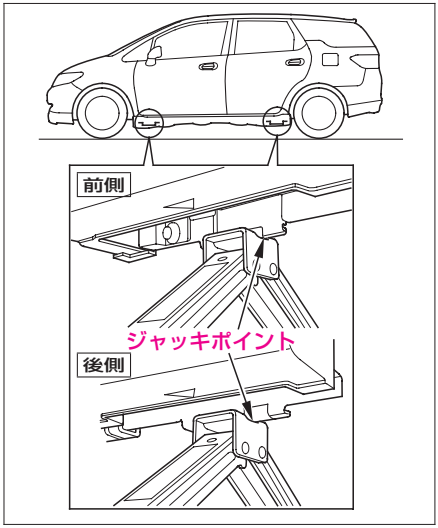


知 識

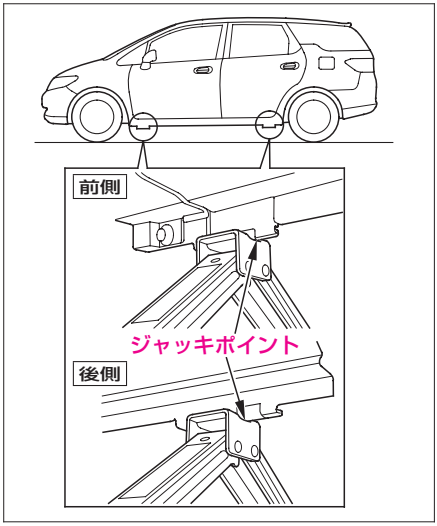
- ジャッキを格納するときはドライバーなどで無理に締めないでください。
  ジャッキ取り付け部が変形するおそれがあります。

●ジャッキをかける位置

サイドスポイラー装備車



サイドスポイラー非装備車

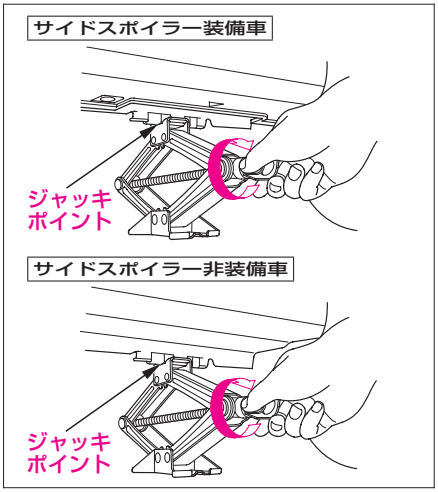


●ジャッキのかけかた

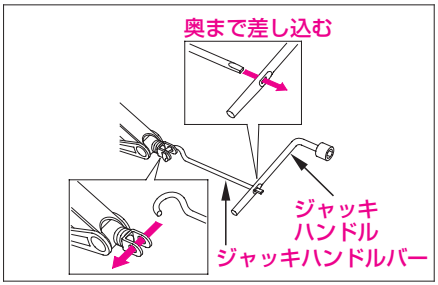
①地面が固い平らなところに車を停めます。

②パーキングブレーキを十分にかけ、交換するタイヤと対角線上にあるタイヤの前後に石などで輪止めをします。

③ジャッキを地面に置き、手で回してジャッキの溝がジャッキポイントに入るまで上げます。



④ジャッキハンドルとジャッキハンドルバーを使って、タイヤと地面が少し離れるまで車体を上げます。



⚠警告

●車がジャッキだけで支えられているときは、不安定な状態にあるので車の下に入ったりしないでください。
万一、ジャッキが外れると、思わぬ事故につながります。

⚠注意

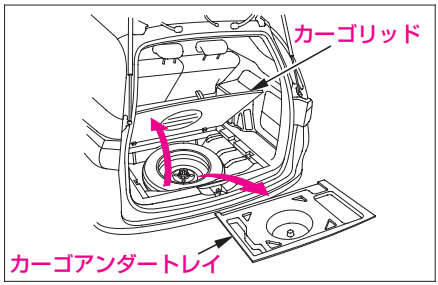
●ジャッキを使うときは安全のため、次のことを必ず守ってください。
- エンジンをかけたままにしない。
- 地面が固い平らなところ以外では使用しない。
- 指定された位置以外にかけない。
- 人や荷物をのせたままにしない。
- ジャッキの上や下に物をいれたりしない。
- タイヤ交換やタイヤチェーン着脱以外には使用しない。

知 識

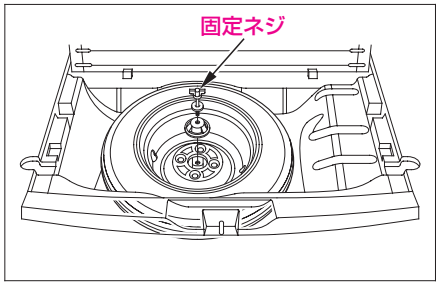
●この車に搭載されているジャッキをお使いください。他のジャッキでは支えられる重量(呼荷重)が不足したり、形状が合わないことがあります。

応急用スペアタイヤ

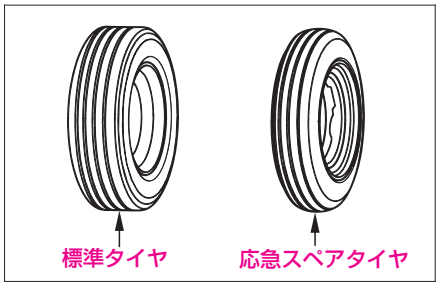
①カーゴリッドを開けます。
②カーゴアンダートレイ（タイプ別装備）を取り出します。



③固定ネジをゆるめて取り出します。



応急用スペアタイヤは、タイヤがパンクしたときの応急用としてのみに使うタイヤです。



お使いになるときは次のことをお守りください。

知 識

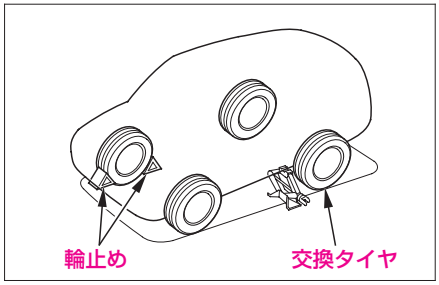
- 空気圧はときどき点検し、指定空気圧でお使いください。
  指定空気圧：
  420 kPa (4.2 kgf/cm²)
- 応急用スペアタイヤを装着したときは、100km/h以下で走行し、できるだけ早く標準タイヤに交換してください。
- 応急用スペアタイヤは標準タイヤと比べて直径が小さいため車高が低くなります。突起物など乗り越えるときは、車の下にひっかけないように注意してください。
- この応急用スペアタイヤとホイールはこの車の専用品です。他のタイヤやホイールと組み合わせたり、他の車に使わないでください。
- 応急用スペアタイヤにはタイヤチェーンは装着できません。
  チェーン装着時に前輪がパンクしたときは、応急用スペアタイヤを後輪に装着し、外した後輪タイヤを前輪に取り付け、これにタイヤチェーンを装着してください。

タイヤ交換

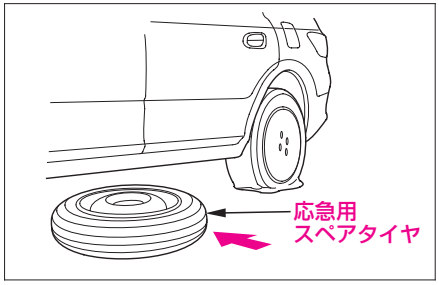
1 はじめに

①車を地面が固く平らで安全な場所に停め、工具類、応急用スペアタイヤを取り出します。

②パーキングブレーキを十分にかけ、交換するタイヤと対角線上にあるタイヤの前後に石などで輪止めをします。



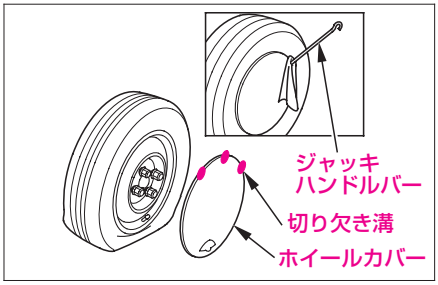
③応急用スペアタイヤは交換するタイヤ近くの車体の下にホイール表面を上にして置きます。



④ **ホイールカバー装備車**

ジャッキハンドルバーの先を切り欠き溝に差し込み、タイヤ側にこじってホイールカバーを外します。

（場所を変えて 2 ～ 3 カ所繰り返すと楽に外れます。）



⚠注意

- ホイールカバーを取り外すときは手などをはさまないように十分注意してください。

知 識

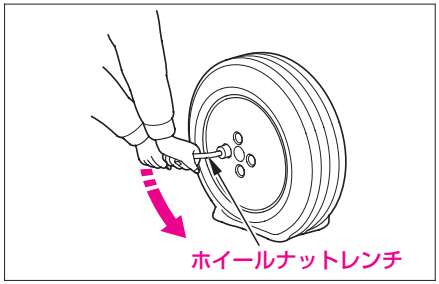
- ホイールやホイールカバーを傷つけないようにジャッキハンドルバーの先端に布等を巻いてください。
- ホイールカバーを取り外すときは、地面に落ちて傷が付かないように手でささえてください。また、ジャッキハンドルバー以外は使用しないでください。

2ジャッキで車体を上げる

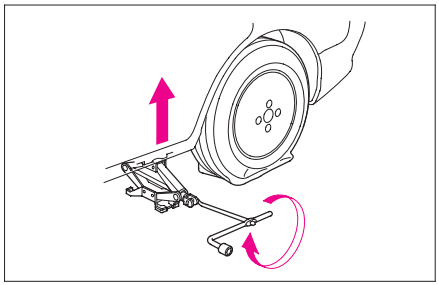
①ジャッキをセットします。

ジャッキをかける位置　→266ページ

②ホイールナットをホイールナットレンチで少し(約１回転)ゆるめます。

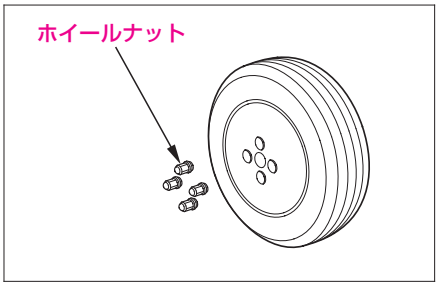


③タイヤと地面が少し離れるまでジャッキで車体を上げます。



3タイヤを交換する

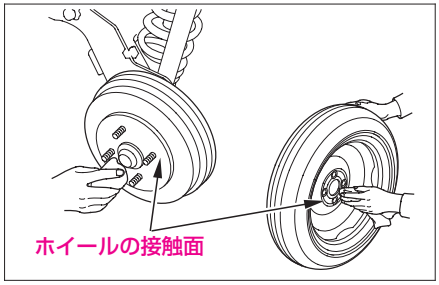
①ホイールナットを外し、タイヤを外します。



知　識

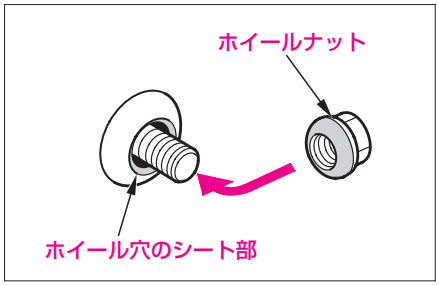
- タイヤを地面に置くときは、ホイール表面を上にして置いてください。
  下にして置くと、ホイールに傷がつくおそれがあります。

②応急用スペアタイヤのホイールの接触面のよごれをふき取ります。



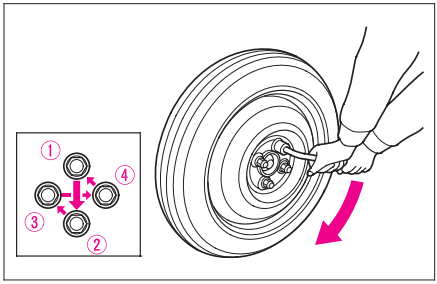
③応急用スペアタイヤを取り付けます。

④ホイールナットがホイール穴のシート部に軽く当たり、ホイールがガタつかない程度までホイールナットを締めます。



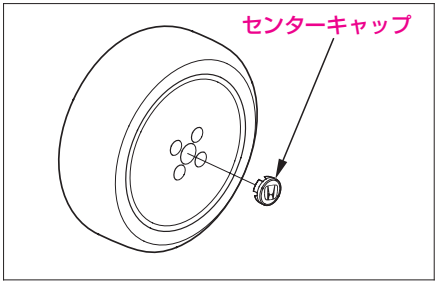
⑤ジャッキをおろし、図の番号順に2～3度にわたり、ホイールナットをしっかり締め付けます。

ホイールナット締め付けトルク:
98－118 N·m (10.0－12.0 kgf·m)

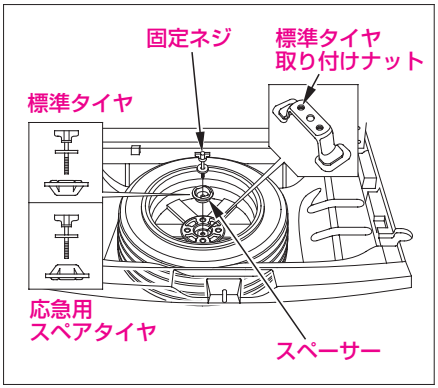


4標準タイヤを収納する

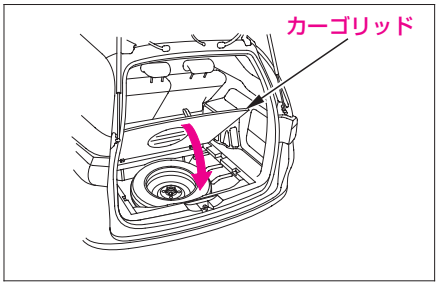
①パンクした標準タイヤにセンターキャップが付いているときは、センターキャップを外します。



②パンクした標準タイヤをしまい、スペーサーを、応急用スペアタイヤを固定していたときとは逆向きにして前側の取り付けナットを使って固定します。



③カーゴリッドを閉めます。



カーゴアンダートレイ装備車

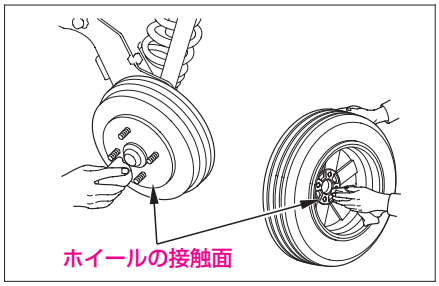
取り出しておいたカーゴアンダートレイはカーゴリッドの上に置きます。

知 識

- 標準タイヤを収納しているときは、カーゴリッドを元の位置に取り付けできません。標準タイヤの上に置いてください。

5標準タイヤを取り付けるときは

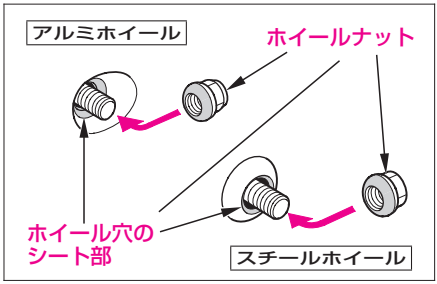
①標準タイヤのホイールの接触面のよごれをふき取ります。



知 識

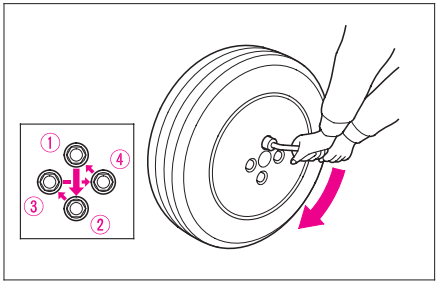
- タイヤを地面に置くときは、ホイール表面を上にして置いてください。
  下にして置くと、ホイールに傷がつくおそれがあります。

②ホイールナットがホイール穴のシート部に軽く当たり、ホイールがガタつかない程度までホイールナットを締めます。



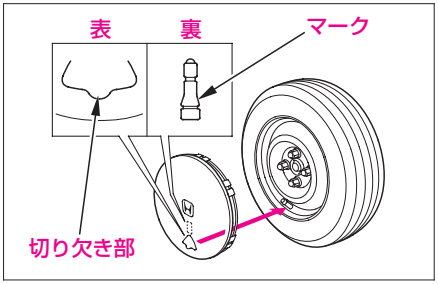
③ジャッキをおろし、図の番号順に2～3度にわたり、ホイールナットをしっかり締め付けます。

ホイールナット締め付けトルク:
98－118 N·m (10.0－12.0 kgf·m)



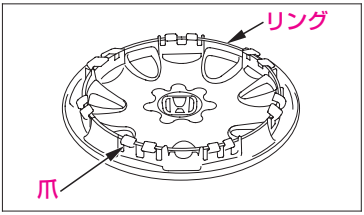
④ **ホイールカバー装備車**

ホイールカバーの切り欠き部（マーク部）がバルブの位置にくるようにし、ホイールカバーの外周を手でたたいて取り付けます。



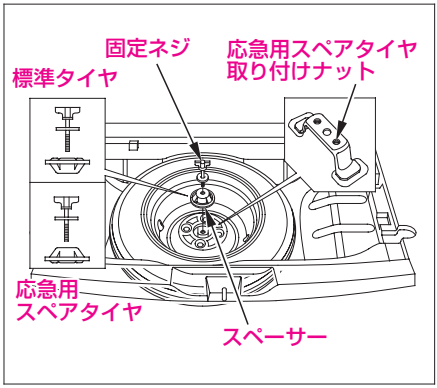
知 識

- ホイールカバーを取り付ける前に、裏面の爪がリングに正しく組み付いていることを確認してください。正しく組み付いていないとホイールカバーが外れる原因となります。また、爪が折れているときはホイールカバーを取り付けないでください。



6 応急用スペアタイヤを収納する

応急用スペアタイヤをしまい、スペーサーを応急用スペアタイヤの向きにして後ろ側の取り付けナットを使って固定します。





アドバイス

- 4WD車は、四輪とも同一指定サイズ、同一種類、同一銘柄および摩耗差のないタイヤをお使いください。
  サイズ、種類、銘柄や摩耗度合の異なるタイヤを混用すると動力伝達装置に悪影響をあたえます。

知 識

- この車専用のホイールをお使いください。
  専用以外のホイールを使うと走行装置やブレーキ装置に支障をきたすおそれがあります。ホイール交換に際しては、必ずHonda販売店にご相談ください。
- レンチを足で踏んだり、パイプなどを使って必要以上に締め付けないでください。トルクがかかりすぎることがあります。
- パンク修理、タイヤの摩耗、リムの変形などでホイールバランスが狂うことがあります。車体の振動などの異常を感じたらHonda販売店で点検を受けてください。
- タイヤ交換は安全のため、地面の固い平らな場所で、他の交通に十分注意して行ってください。必要に応じて停止表示板、非常点滅表示灯を使ってください。
- 必ず同一指定サイズ、同一種類のタイヤを使ってください。指定サイズ以外のタイヤや種類の異なるタイヤを使うと安全性を損ないます。
- 応急用スペアタイヤの空気圧は使うときに調整してください。
  やむをえず、未調整のまま走る場合は、速度を控えめにしてください。

タイヤの空気圧　→339ページ

- アルミホイール装備車
  パンク修理などでホイールを取り付け直したときには、念のため1,000km走行時にホイールナットのゆるみの有無を点検してください。

オーバーヒートしたとき

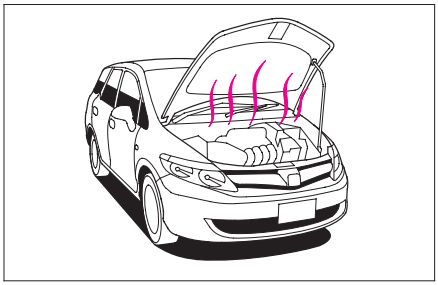
次のようなときは、オーバーヒートです。
・水温計の針が“H”の目盛に入ったり、エンジンの力が急に落ちる。
・エンジンルームから蒸気が立ちのぼっている。

⚠警告

- エンジンルームから蒸気が出ているときは、ボンネットを開けないでください。
  蒸気や熱湯がふき出し、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。
- エンジンが十分に冷え、水温が下がるまでラジエーターキャップを外さないでください。
  冷却水には圧力がかかっているため、蒸気や熱湯がふき出し、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。

●処置のしかた

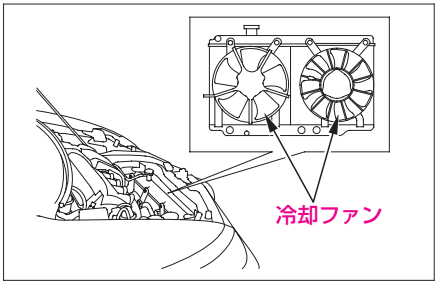
①車を安全な場所に停めます。
②エンジンをかけたままボンネットを開けて風通しをよくします。



知 識

- エンジンルームから蒸気が出ているときは、エンジンを止めます。
  蒸気が出なくなってからボンネットを開け、エンジンをかけてください。

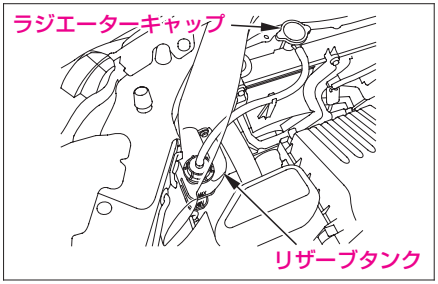
③冷却ファンの作動を確認し、水温計の針が下がってきてからエンジンを止めます。
冷却ファンが作動していないときはすぐにエンジンを止めてください。



アドバイス

- 冷却ファンが作動していない場合は、故障が考えられますので、Honda販売店へご連絡ください。

④エンジンが冷えてから、冷却水量、ホースなどからの水漏れを点検します。



⑤冷却水量が不足していたらラジエーターとリザーブタンクに冷却水を補給します。冷却水がない場合は、応急的に水を補給します。

アドバイス

- エンジンが熱いときに冷却水を入れないでください。急に冷たい冷却水を入れると、エンジンが損傷するおそれがあります。
冷却水はエンジンが冷えてからゆっくりと入れてください。

⑥なるべく早くHonda販売店で点検を受けてください。

電気系統が異常のとき

バッテリーあがりのとき

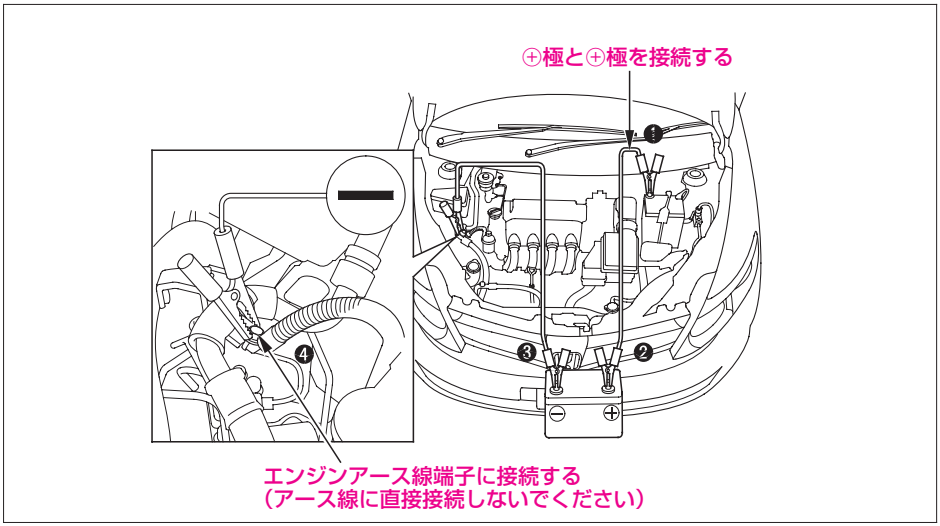
次のようなときは、バッテリーあがりです。
・スターターが回らないか、回っても回転が弱くエンジンがかからない。
・ライトがいつもより極端に暗かったり、ホーンの音が小さい。

●処置のしかた

救援車のバッテリーを利用してエンジンを始動させます。
①ブースターケーブルを次の順番でつなぎます。

1本目
❶自車のバッテリーの⊕端子
❷救援車のバッテリーの⊕端子

2本目
❸救援車のバッテリーの⊖端子
❹自車のエンジンのアース線端子



②救援車のエンジンを始動し、回転数を少し高めにします。
③自車のエンジンをかけます。
④ブースターケーブルをつないだときと逆の順番で外します。
⑤Honda販売店や最寄りのガソリンスタンドなどで点検を受けてください。

⚠警告

- バッテリーを取り扱うときは次のことを必ず守ってください。
  バッテリーから発生する可燃性のガスに引火すると爆発のおそれがあります。
  - バッテリー液が不足しているときは、エンジンの始動または充電を行わないでください。
  - 火気を近づけないでください。
  - 帯電した身体でバッテリーに触れないでください。
  - 換気に十分注意し、換気の悪い場所では充電を行わないでください。
  - バッテリーを充電するときは、すべてのキャップを外してください。
- ブースターケーブルをつなぐときは次のことを必ず守ってください。火花が出て、バッテリーから発生する可燃性のガスに引火すると爆発のおそれがあります。
  - 自車のバッテリーの⊖端子に直接ケーブルをつながないでください。
  - ⊕端子と⊖端子を間違えないでください。
  - ケーブルの先端どうしを接触させないでください。
- バッテリー液は希硫酸です。目や皮ふに付くとその部分が侵されますので十分注意してください。
  万一、付着したときはすぐに多量の水で少なくとも5分間以上洗浄し、飲み込んだときはすぐに多量の飲料水を飲んでください。応急処置後は、専門医の診察を受けてください。

知 識

- バッテリー液が不足しているときは、使用しないでください。
  バッテリー内部の劣化が進むおそれがあります。
- ブースターケーブルのクリップは、エンジン始動時などの振動で外れたりしないように確実に固定してください。また、ブースターケーブルが冷却ファンやベルトに巻き込まれないように十分気をつけてください。
- 救援車には、12Vのバッテリーを装着している車を使用してください。
- バッテリー交換などでバッテリーケーブルを取り外すと、ラジオにセットされた周波数が消去されます。また、バッテリーを取り付けた後は運転席パワーウィンドーのオート作動ができなくなります。その場合は、オート作動の機能を復帰させてください。

パワーウィンドーはさみ込み防止機構　→55ページ

ライト類が点灯しないとき、電気装置が作動しないとき

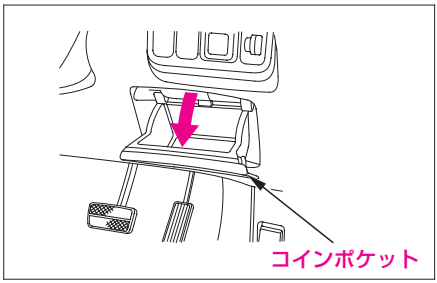
バッテリーがあがっていないときは、ヒューズ切れや電球(バルブ)切れが考えられます。

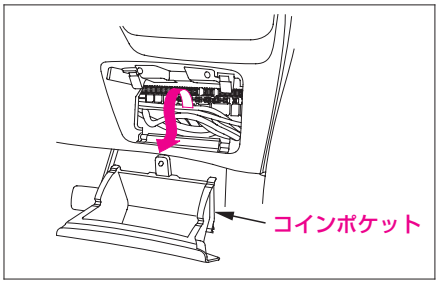
①エンジンスイッチを“0”の位置にします。
②ヒューズが切れていないかを点検します。
・故障の状況から点検すべきヒューズをヒューズボックスの表示と取扱説明書で確認し、点検します。
③必要に応じて、ヒューズや電球を交換します。

●ヒューズの点検、交換

運転席足元のヒューズボックス

コインポケットを開け、持ち上げながら手前に引いて取り外します。



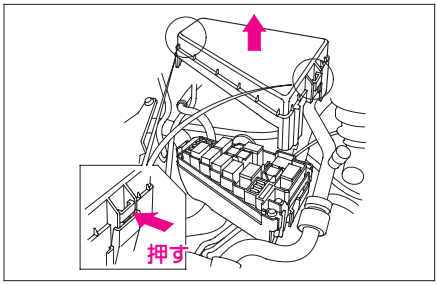


・各ヒューズの装備と容量

	表示	装備	容量
1		後退灯	10A
2		イグニッションコイル	15A
3		メーター	7.5A
4		方向指示器	10A
5	−	−	−
6		フロントワイパー／ウォッシャー	20A
7		サイドエアバッグシステム	7.5A
8	−	−	−
9		リヤデフロスター	20A

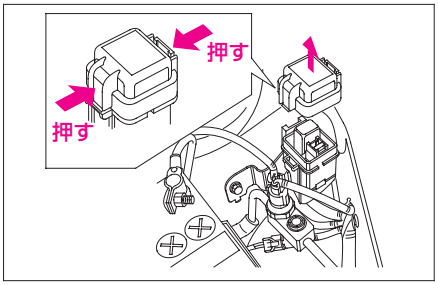
	表示	装備	容量
10		エアコン／リモコンミラー	7.5A
11		フューエルポンプ	15A
12		リヤワイパー／パワーウィンドー	10A
13		SRSエアバッグシステム	10A
14		ECU	15A
15	RR L	パワーウィンドー後席左側	20A
16	RR R	パワーウィンドー後席右側	20A
17	AS	パワーウィンドー助手席	20A
18		—	10A
19		スカイルーフサンシェード	20A
20	—	—	—
21		ヒーテッドドアミラー	7.5A
22	—	—	—
23	—	—	—
24		イグニッションコイル	15A
25		ABSユニット	7.5A
26		オーディオ	7.5A
27		アクセサリーソケット	15A
28		ドアロック	20A
29	DR	パワーウィンドー運転席	20A

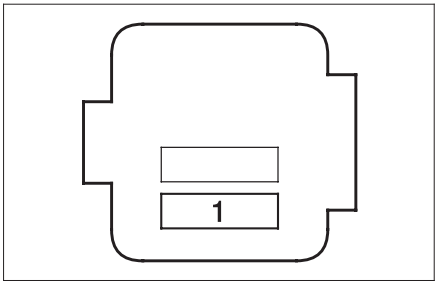
エンジンルーム内のヒューズボックス



・各ヒューズの装備と容量

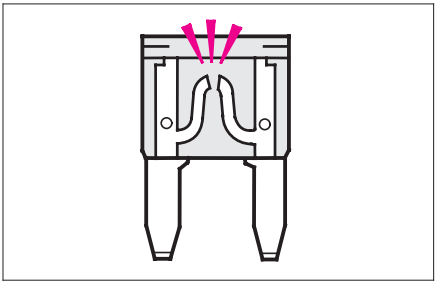
	表示	装備	容量
1		バッテリー	80A
2		EPS	60A
3		イグニッション	50A
4		ABSユニット	30A
5		ヒーターモーター	40A
6		メインヒューズ	40A
7	R	右側ヘッドライト	20A
8		オプション	30A
9		車幅灯	10A
10		冷却ファン	30A
11		冷却ファン(コンデンサーファン)	30A
12		バックアップ	15A
13	L	左側ヘッドライト	20A
14		非常点滅表示灯	10A
15		ABSユニット	20A
16		ホーン／制動灯	10A





	表示	装備	容量
1	ﾗﾝﾌﾟ	フォグライト	20A

ヒューズが切れているとき



ヒューズボックスの表示に従い規定容量のヒューズに交換します。

アドバイス

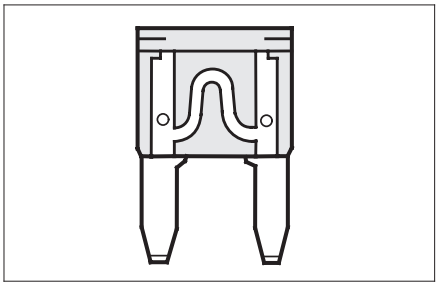
- 規定容量のヒューズ以外の物は絶対に使わないでください。
  配線コードなどを焼損させる原因となります。

知 識

- 交換しても、またヒューズが切れる場合は、電気系統の異常が考えられますので、Honda販売店で点検を受けてください。
- オーディオのヒューズが切れると、ラジオにセットされた周波数が消去されます。
- 運転席パワーウィンドーのヒューズが切れると、ヒューズを交換した後も運転席パワーウィンドーのオート作動ができなくなります。その場合は、オート作動の機能を復帰させてください。

パワーウィンドーはさみ込み防止機構　→55ページ

ヒューズが切れていないとき



- ライト類が点灯しないときは、電球切れが考えられます。
  電球を点検し、切れているときは交換してください。

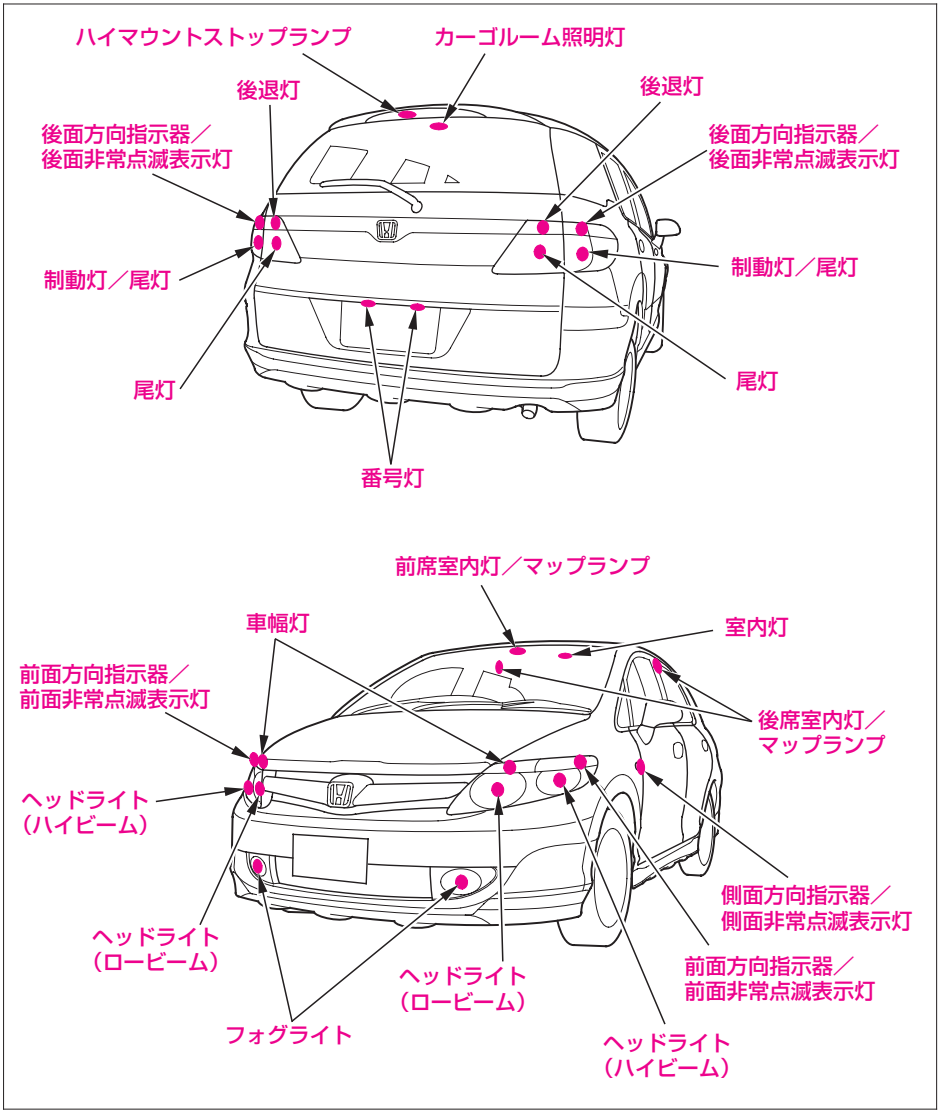
知 識

- 電球が切れていない場合は、電気系統の異常が考えられますので、Honda販売店で点検を受けてください。

- ライト類以外の電気装置が作動しないときは、電気系統の異常が考えられますので、Honda販売店で点検を受けてください。

●電球(バルブ)の交換

ヒューズが切れていないのにライト類が点灯しないときは、電球切れが考えられます。
電球を点検し、切れているときは交換してください。





知 識

- ランプ本体やレンズを外すときは、ボディに傷を付けないように注意してください。
- 電球を交換するときはワット(W)数の違う物を使わないでください。
  電球のワット数　→336ページ
- ハロゲンバルブはガラス球内部の圧力が高いため、落としたり、物をぶつけたり、傷をつけたりすると破損してガラスがとび散ることがあります。
  取り扱いには十分に注意してください。
  また、ハロゲンバルブの電球の表面に手などが、触れないようにしてください。使用時電球が高温になるため、油などが付着すると寿命が短くなります。触れた場合は、中性洗剤の薄い水溶液を柔らかい布に含ませてよくふき取ってください。
- ヘッドライト、制動灯などのランプは、雨天走行や洗車などの使用条件によりレンズ内面が一時的に曇ることがあります。これはランプ内部と外気の温度差によるもので、雨天時などに窓ガラスが曇るのと同様の現象であり、機能上の問題はありません。
  ただし、レンズ内面に大粒の水滴がついているときやランプ内に水がたまっているときは、Honda販売店にご相談ください。

ヘッドライト(ロービーム)について

ディスチャージヘッドライト装備車

ヘッドライトの電球切れの点検、交換は必ずHonda販売店で行ってください。

⚠注意

- ディスチャージヘッドライトは高電圧を使用しており、不適切な取り扱いや分解を行うと感電するおそれがあります。

ヘッドライト(ロービーム)

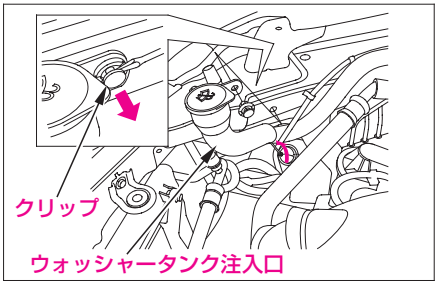
ハロゲンヘッドライト装備車

ハロゲンバルブを使用していますので、取り扱いに注意してください。

ハロゲンバルブについて　→285ページ

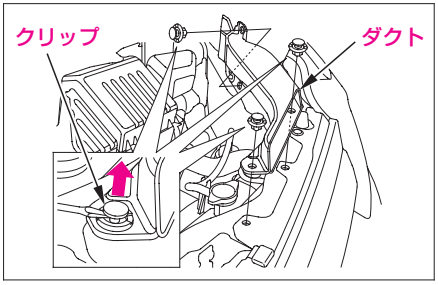
① **右側**

クリップを外して、ウォッシャータンクの注入口を外します。

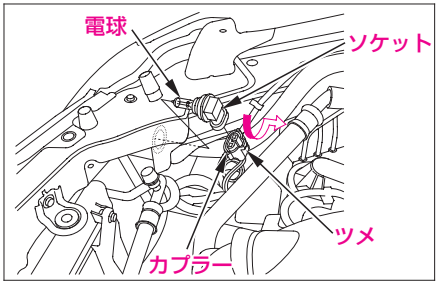


左側

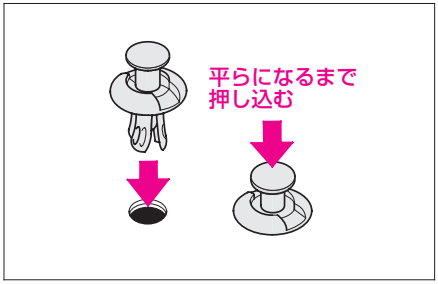
クリップを外して、ダクトを外します。



②ソケットを左へ回して外し、カプラーのツメを押しながら電球を抜き取ります。



ウォッシャータンクの注入口を固定するときは、クリップの中央部のピンを起こしたままウォッシャータンクの注入口に差し込み、ピンを平らになるまで押し込みます。

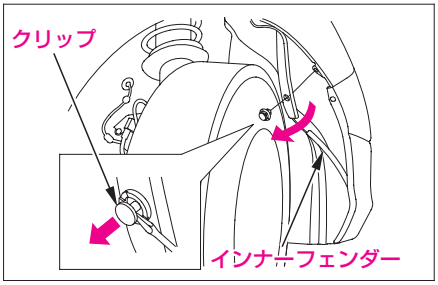


ヘッドライト(ハイビーム)

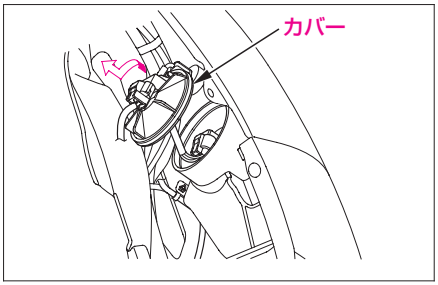
ハロゲンバルブを使用していますので、取り扱いに注意してください。

ハロゲンバルブについて　→285ページ

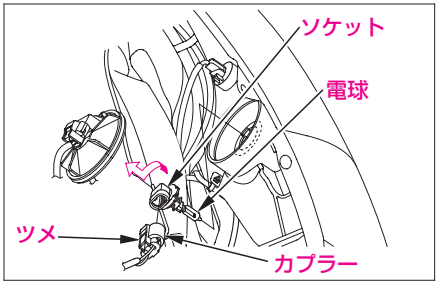
①交換する側と反対にハンドルをいっぱいに切ります。
②クリップを外してインナーフェンダーをめくります。



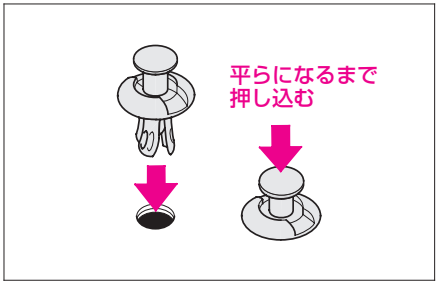
③カバーを左へ回して外します。



④ソケットを左へ回して外し、カプラーのツメを押しながら電球を抜き取ります。



インナーフェンダーを固定するときは、クリップの中央部のピンを起こしたままインナーフェンダーに差し込み、ピンを平らになるまで押し込みます。



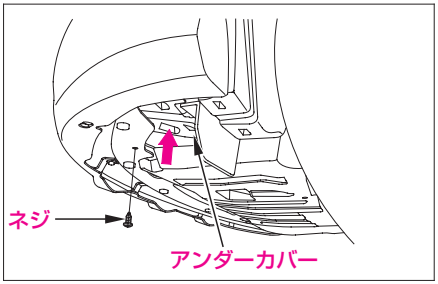
フォグライト

注文装備

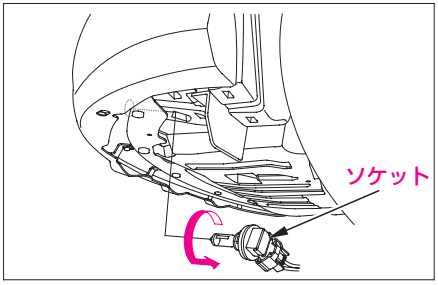
ハロゲンバルブを使用していますので、取り扱いに注意してください。

ハロゲンバルブについて　→285ページ

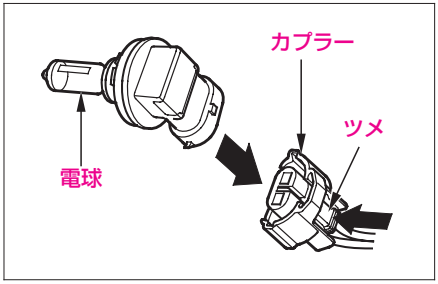
①ネジを外し、アンダーカバーを上へ押し込みます。



②ソケットを左へ回して外します。



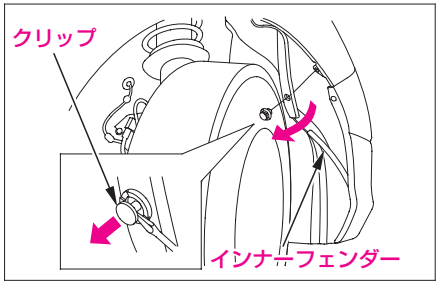
③カプラーのツメを押しながら電球を抜き取ります。



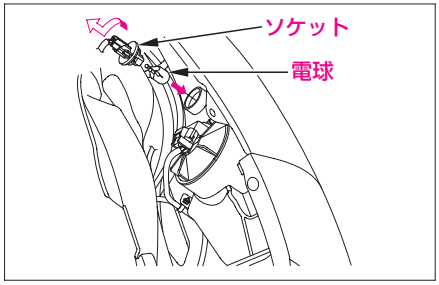
前面方向指示器／前面非常点滅表示灯

①交換する側と反対にハンドルをいっぱいに切ります。

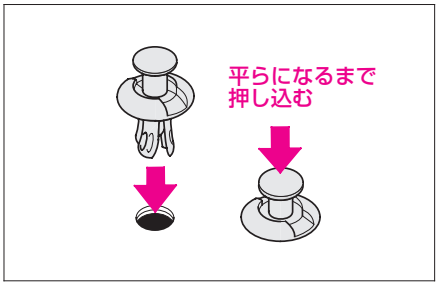
②クリップを外してインナーフェンダーをめくります。



③ソケットを左へ回して外し、電球を抜き取ります。



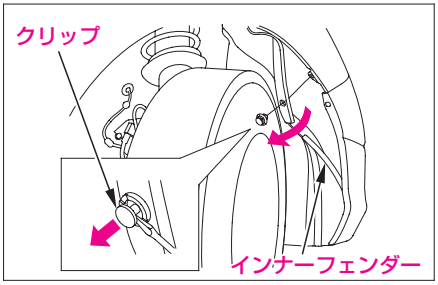
インナーフェンダーを固定するときは、クリップの中央部のピンを起こしたままインナーフェンダーに差し込み、ピンを平らになるまで押し込みます。



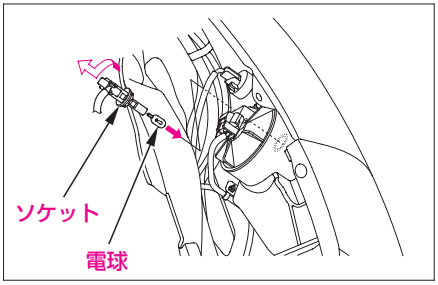
車幅灯

①交換する側と反対にハンドルをいっぱいに切ります。

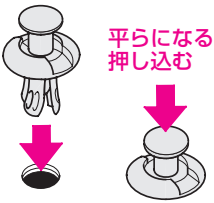
②クリップを外してインナーフェンダーをめくります。



③ソケットを左へ回して外し、電球を抜き取ります。

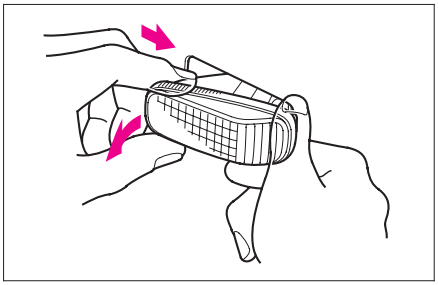


インナーフェンダーを固定するときは、クリップの中央部のピンを起こしたままインナーフェンダーに差し込み、ピンを平らになるまで押し込みます。

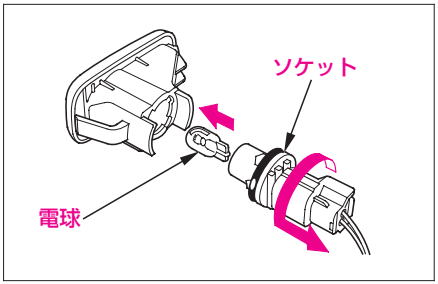


側面方向指示器／側面非常点滅表示灯

①ランプ本体を後方に押して外します。

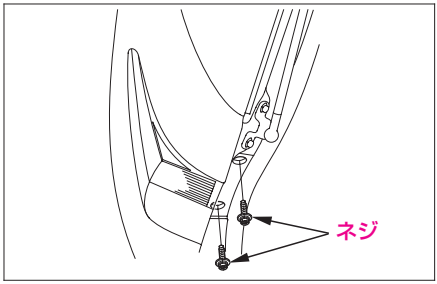


②ソケットを左へ回して外し、電球を抜き取ります。

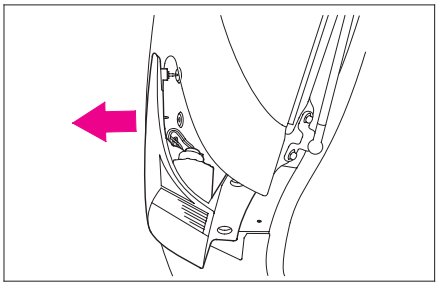


制動灯／尾灯、後面方向指示器／後面非常点滅表示灯

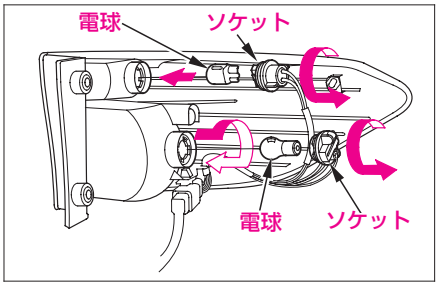
①ネジを外します。



②ランプ本体を外側にずらすようにして外します。



③ソケットを左へ回して外し、後面方向指示器／後面非常点滅表示灯は電球を抜き取ります。制動灯／尾灯は電球を押しながら左へ回して抜き取ります。

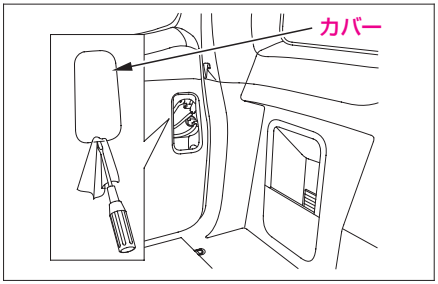


ハイマウントストップランプ

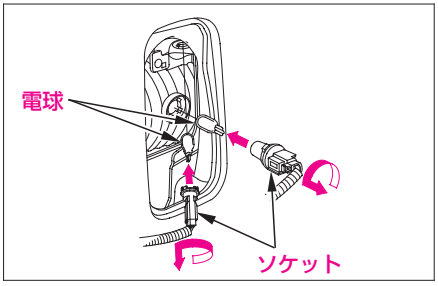
電球切れの点検、交換は、Honda販売店にご相談ください。

尾灯、後退灯

①ドライバーの先端に布などを巻き、カバーを外します。

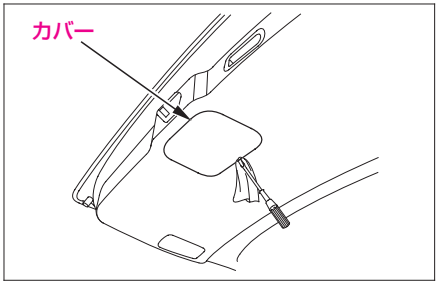


②ソケットを左へ回して外し、電球を抜き取ります。

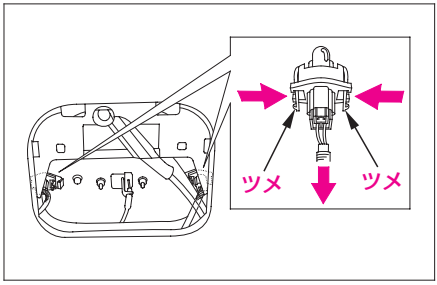


番号灯

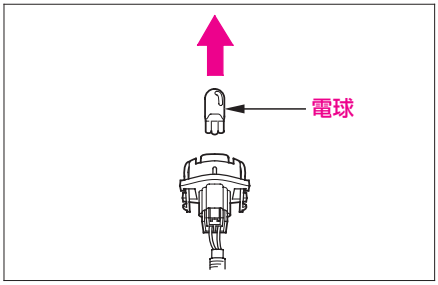
①ドライバーの先端に布などを巻き、カバーを外します。



②ツメを押しながら、ライト本体を取り外します。



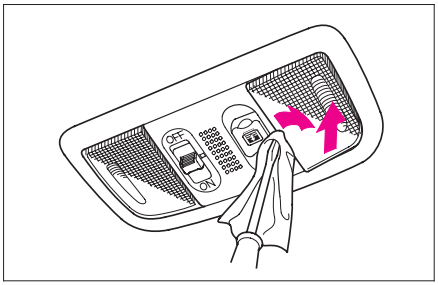
②電球を抜き取ります。



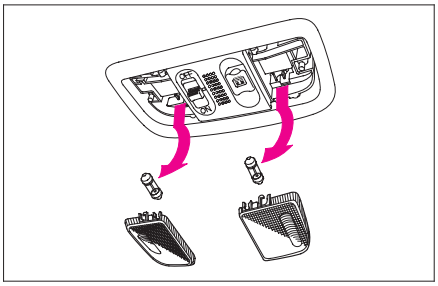
前席室内灯／マップランプ

スカイルーフ装備車

①レンズを押してすきまを作り、ドライバーを差し込んでレンズを外します。



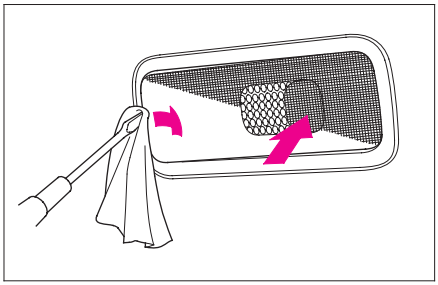
②電球を抜き取ります。



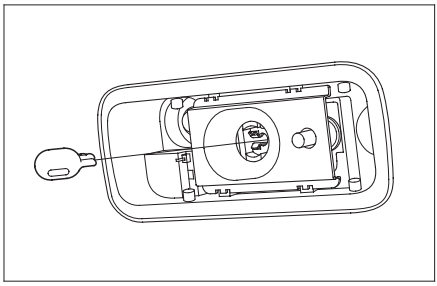
後席室内灯／マップランプ

スカイルーフ装備車

①レンズを押してすきまを作り、ドライバーを差し込んでレンズを外します。

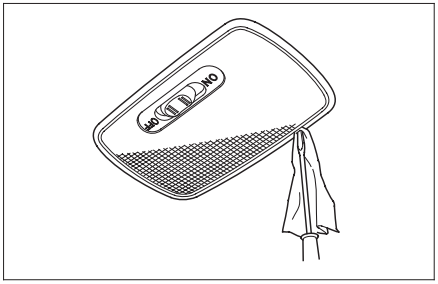


②電球を抜き取ります。

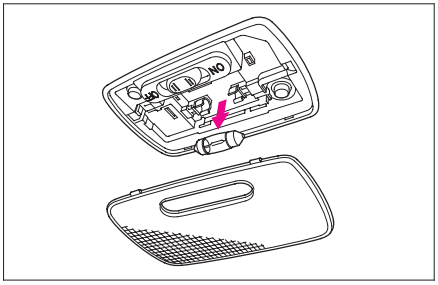


室内灯 **スカイルーフ非装備車**

①レンズを外します。

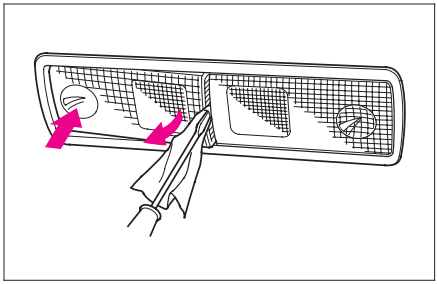


②電球を抜き取ります。

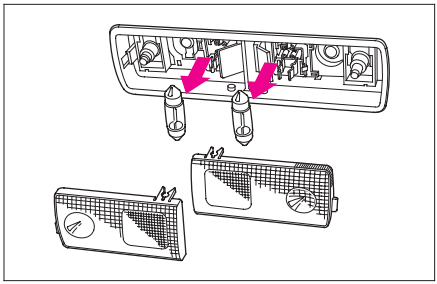


マップランプ **スカイルーフ非装備車**

①レンズを押してすきまを作り、ドライバーを差し込んでレンズを外します。

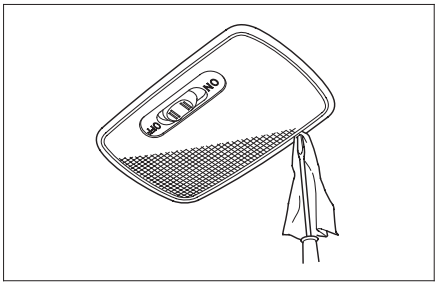


②電球を抜き取ります。

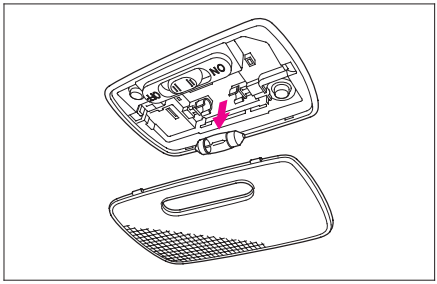


カーゴルーム照明灯

①レンズを外します。



②電球を抜き取ります。

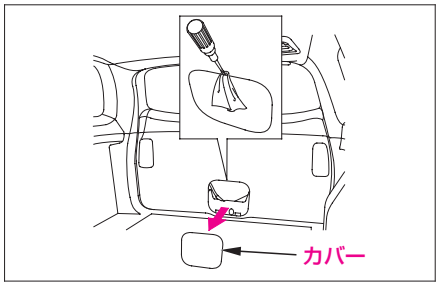


テールゲートの解錠ができないとき

万一、テールゲートが解錠できなくなった場合は、応急処置としてテールゲート解錠シリンダーにキーなどを差し込み矢印の方向に回して解錠してください。

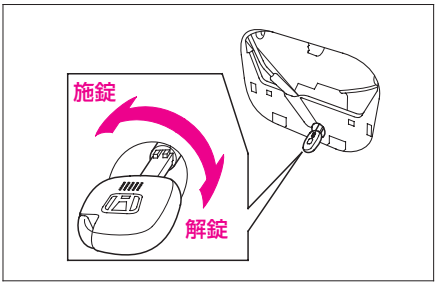
▼

①テールゲートのカバーにドライバーを図のように差し込んでカバーを外します。



②シリンダーにキーなどを差し込み右の方向に回し、テールゲートを解錠します。

テールゲートの開閉　→49ページ



テールゲート解錠シリンダーを左に回すと施錠します。

知　識

- 応急処置後はHonda販売店で点検を受けてください。

キーの電池が消耗したとき

電池交換の際は、破損などのおそれがあるため、Honda販売店での交換をおすすめします。

⚠注意

- 電池および取り外した部品は、お子さまが飲み込まないように注意してください。
  飲み込むと、傷害を受けるおそれがあります。

知 識

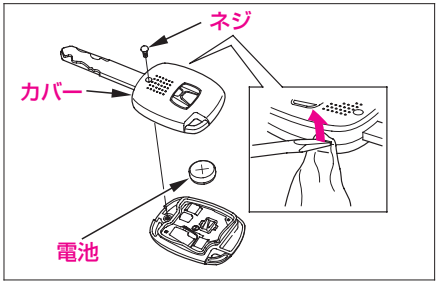
- 液漏れなどを防ぐため、電池の⊕極と⊖極は正しく取り付けてください。
- 電池交換の際は、カバーを確実に取り付けてください。確実に取り付けられていないと、耐水性能の低下や故障の原因となります。
- 電池はHonda販売店または時計店、カメラ店などでお求めください。

●キーレスエントリー一体キーの電池交換

キーレスエントリー一体キー装備車

使用電池・・・・・・・・・ボタン電池CR1220

ネジを外して、カバーに傷を付けないようにマイナスドライバーに布を巻いてカバーを外し、電池を交換します。

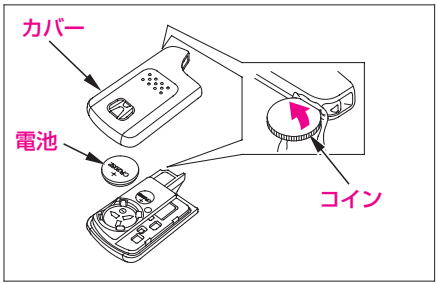


●Hondaスマートキーの電池交換

Hondaスマートキーシステム装備車

使用電池 ・・・・・・・・ボタン電池CR2032

①内蔵キーを取り出します。
内蔵キーの取り出しかた　→39ページ
②カバーに傷を付けないようにコインに布を巻いてカバーを外し、電池を交換します。



Hondaスマートキーで エンジンスイッチを 操作できないとき

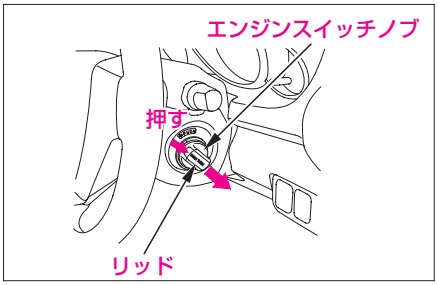
Hondaスマートキーシステム装備車

Hondaスマートキーによるエンジンスイッチの操作や、エンジンの始動ができない場合は、内蔵キーを使ってエンジンスイッチの操作や、エンジンの始動をすることができます。

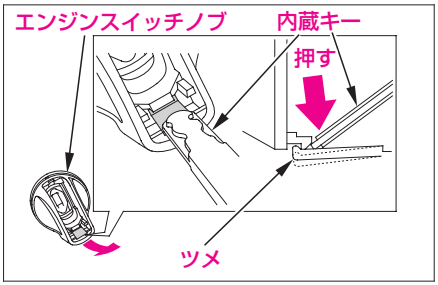
内蔵キーの取り出しかた　→39ページ

●内蔵キーの差し込みかた

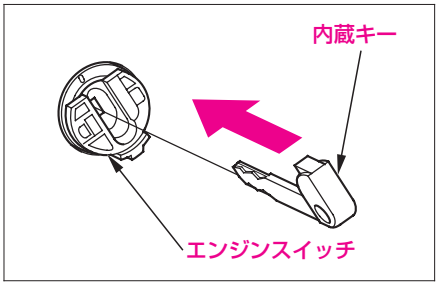
①リッドの上端を押しながら、リッドを外します。



②エンジンスイッチノブの内側のツメを、内蔵キーの先端で押して、エンジンスイッチノブを外します。



③エンジンスイッチに内蔵キーを図の向きで差し込みます。

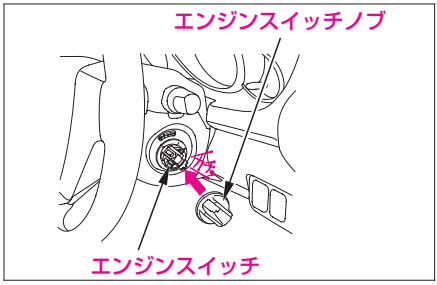


キーを使ったエンジンスイッチの操作

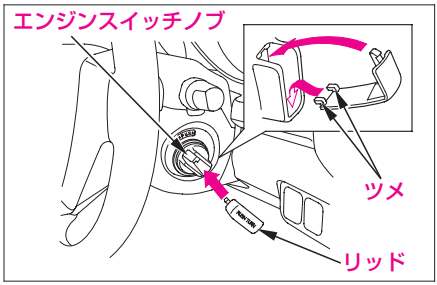
→120ページ

エンジンスイッチノブの取り付け

①エンジンスイッチにエンジンスイッチノブを取り付けます。



②リッドのツメをエンジンスイッチノブに引っかけて、取り付けます。



6

車の手入れ

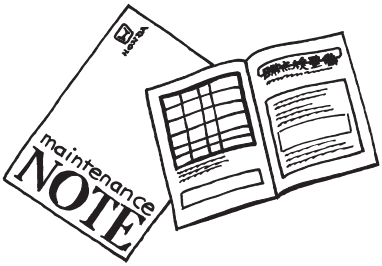
●点検・整備について……300

●日常の手入れ
外装の手入れ……303
内装の手入れ……307
タイヤについて……310
アルミホイールについて……312

●車にあった部品の使用……314

点検・整備について

車は走行するにしたがい、また時間が経過するとともに部品の劣化や摩耗などが進んでいき、適切な点検整備を行わないと、安全・快適に乗っていただけなくなるばかりか大気汚染や騒音の増加などを引き起こすことがあります。
このようなことから点検整備が必要であり、ドライバー(運転者)は点検整備を実施することが法律でも義務づけられています。



詳しくは、別冊のメンテナンスノートに記載してありますので、よくお読みになり必ず点検整備を行ってください。

●点検整備の種類

日常点検

日常の車の使用状況に応じて、お客様の判断で適時行う点検で、お客様自身で実施が可能な項目となっています。
点検時期の目安としては長距離走行前や洗車時、給油時などに実施します。



法定定期点検

年間走行距離が10,000km程度の標準的な使用を前提に、12か月および24か月毎に実施する点検です。
法律で定められているものと、Hondaが指定するものがあります。



その他

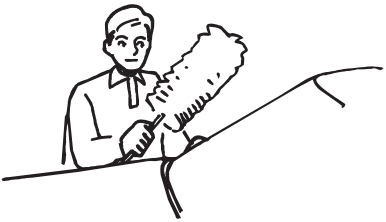
新車時の無料点検や定期交換、厳しい使われかたをしたときの点検整備があります。



日常の手入れ

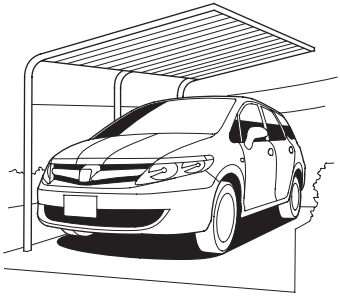
走行後は

- 塗装面に付着したほこりを毛ばたきなどではらい落としましょう。
- とび石などによる塗装面の傷は錆の原因となります。見つけたら早めに補修してください。



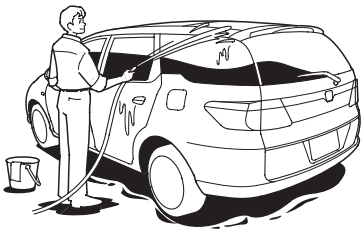
保管、駐車は

- 風通しのよい車庫や、屋根のある場所をおすすめします。



洗車を忘れずに

- 少なくとも月に一度は洗車しましょう。
- 次の場合は、必ず洗車してください。
  - 凍結防止剤を散布した道路を走行したとき、海岸地帯を走行したとき。
    錆の原因となるので車体の下回り、フェンダーの内側を念入りに洗ってください。
  - コールタール、ばい煙、鳥のふん、虫、樹液などがついたとき。
    化学変化で塗装面にむらができるので、中性洗剤で洗ってから水で完全に流し、必要に応じてポリシングワックス(ワックス乳液)で磨いてください。
    ポリシングワックスは、Honda純正ケミカル用品をお使いください。

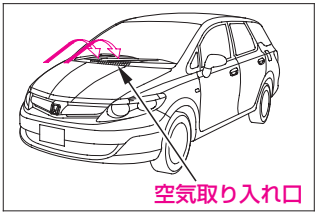


外装の手入れ

●洗車のしかた

・十分に水をかけながら、下回り、足まわりの汚れを落とします。
・塗装面は屋根から順に下のほうへ水をかけながら、スポンジかセーム皮のような柔らかい物で洗います。
・汚れがひどいところは中性洗剤で洗い、さらに水で完全に洗い落とします。
・水が乾かないうちに拭き取ります。

●ボンネットの裏のインシュレーターには、直接水をかけて洗わないでください。
●故意に空気取り入れ口やエンジンルーム内の電気部品に水をかけないでください。
故障のもとになります。



自動洗車機を使うとき

・ドアミラーを格納して洗車してください。
・ホイールカバー装備車は、自動洗車機のホイール専用ブラシを使わないでください。十分水をかけスポンジまたはセーム皮のような柔らかい物で洗ってください。

●自動洗車機を使うと、ブラシの傷がつき光沢が失われたり、劣化を早めることがあります。

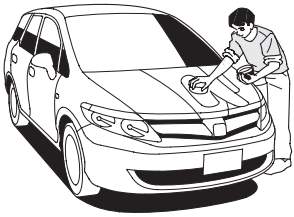
高圧洗浄機を使うとき

洗車ノズルと車体の距離を十分に離して洗車してください。
ウィンドーまわりは、特に注意して行ってください。近づけすぎると室内へ水が侵入することがあります。
エンジンルームには水をかけないでください。
故障の原因になります。

●ワックスをかけるとき

月に一回程度または水をはじかなくなったときに行います。
洗車したあと、日陰か車体表面が体温以下になっているときにワックスをかけます。

・ワックスはHonda純正ケミカル用品をお使いください。



●みがき粉(コンパウンド)入りのワックスは使わないでください。
塗装面に細かい傷が残ることがあります。

●樹脂塗装部品(バンパーなど)の手入れ

ガソリン、オイル、ラジエーター液、バッテリー液などが付着すると、しみの発生や塗膜がはがれる原因となります。
すみやかに柔らかい布で拭き取ってください。

●樹脂塗装部品の傷の補修をする場合は、Honda販売店にご相談ください。不適当な塗料を使うと塗膜を傷めます。

●ガラスの手入れ

ガラスの油膜を取るときは、ガラスクリーナーをお使いください。

・ガラスクリーナーはHonda純正ケミカル用品をお使いください。

はっ水ガラスについて

タイプ別装備

前席ウィンドー（ドアガラス）にはっ水膜がコーティングしてあり、水滴をはじきます。

知 識

●水滴をはじく効果の持続時間には限りがありますが、できるだけ長持ちさせるために次のことをお守りください。

・前席ウィンドーが汚れているときは、水洗いをするか柔らかい湿った布などでふき取ってください。
また、泥などの汚れがひどいときは、前席ウィンドーの開閉をなるべく行わないでください。

・みがき粉（コンパウンド）入りガラスクリーナーやワックス、洗剤等は使わないでください。

・金属製の物で霜取りなどを行わないでください。

・自動洗車機を使うときは、先に泥などの汚れを落してから行ってください。

知 識

●ガラスクリーナーを使うと一時的に水はじきが悪くなることがありますが、水洗いをすれば元に戻ります。

●水はじきが悪くなったときは、補修できますのでHonda販売店にご相談ください。

ガラスの清掃をするとき

ガラスの内側に電熱線やアンテナ線が装着されていますので、これに沿って柔らかい布で拭いてください。

●アクアクリーンミラー（親水ミラー）の回復作業

タイプ別装備

ミラー表面に汚れなどが付着して、一時的に親水効果が低くなることがありますが、異常ではありません。数日間の日射をすることで親水効果が回復しますが、早く回復させたいときは次の回復作業を行ってください。

・点検

ミラー表面に散水し、水滴にならず薄い水膜（親水状態）になることを確認します。親水状態になっていない場合は、洗浄作業を行います。親水状態になっている場合は、紫外線照射を行います。

・回復作業

①ミラー表面を水洗いし、汚れを落とします。
②水を含ませたきれいな布で、汚れを落とします。
③それでも汚れが落ちない場合は、純正ガラスクリーナーや家庭用中性洗剤などを使用して、柔らかい布を使ってミラー表面を洗浄後、十分な水で洗浄剤を洗い流してください。

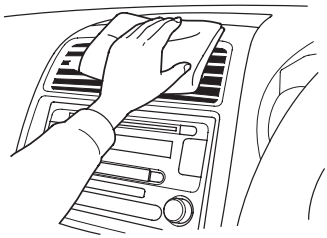
・紫外線照射

屋外に車両を５～９時間ほど放置し、ミラー表面に太陽の光を当てます。

内装の手入れ

①中性洗剤の水溶液を柔らかい布に軽く含ませて、汚れを落とします。
・飲食物などをこぼしたときは、すぐに汚れを落としてください。
②真水を含ませた柔らかい布で、残った洗剤分をきれいに拭き取ります。
③直射日光を避け、風通しのよい日陰で乾燥させます。

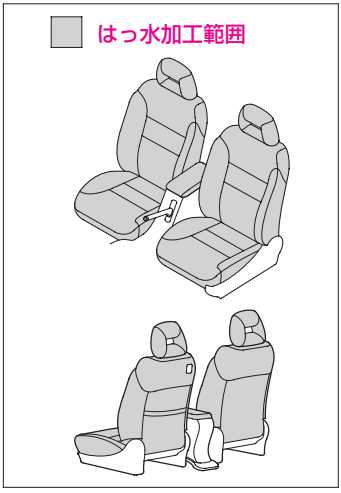
- 室内に水をかけないでください。オーディオやスイッチなどの電装品に水がかかると故障の原因となります。
- プレイングボード付きカーゴ※（注文装備）は水洗いしないでください。
  雪や水でぬれたときは乾いた布で拭き取ります。
  ※：カーゴリッドの表面が樹脂製のもの



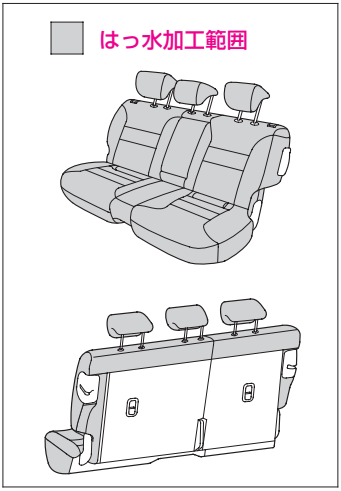
● **はっ水シート装備車**

シート、ドア内側のはっ水部分を手入れするときは、真水を含ませたきれいな布で汚れを拭き取ります。洗剤を使用するとはっ水効果が低下しますので使用しないでください。シート、ドア内側のはっ水範囲は下図の通りです。

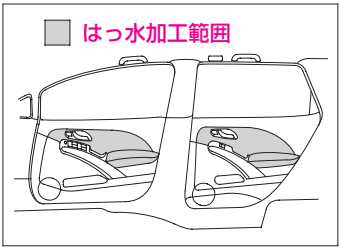
フロントシート



リヤシート



ドア内側



●ケミカル類、液体芳香剤について

取扱方法や成分を確認の上、取り扱いには十分にご注意ください。

⚠注意

●オーディオやスイッチなどの電装品にシリコン系のスプレーを塗布しないでください。故障の原因となったり、車両火災につながるおそれがあります。
万一、電装品にシリコン系のスプレーを塗布したときは、Honda販売店にご相談ください。

●ケミカル類、液体芳香剤はその成分によっては、樹脂部品、布材の変色、しみ、ひび割れを起こすことがあります。
次のことに注意してください。
・ベンジン、ガソリンなどの有機溶剤や酸、アルカリ性の溶剤は使わないでください。
また、ケミカル類には、これらの成分が含まれているおそれがあります。
・ケミカル類を使用したあとは、必ず乾いた布で軽く拭き取ってください。
また、使用した布はそのまま樹脂部品、布材の上に長時間放置しないでください。
・液体芳香剤はこぼさないように、容器を確実に固定してください。
芳香剤の使用にあたっては固形タイプのものをおすすめします。

タイヤについて

タイヤの異常摩耗、亀裂、損傷および指定外の空気圧は、乗り心地、操縦性、タイヤの寿命を損ないます。また、摩耗したタイヤは雨天時の高速走行で通常よりもハイドロプレーニング現象を起こしやすくなります。

・安全のため、こまめに点検を行ってください。
　また、必ず同一指定サイズ、同一種類のタイヤをお使いください。

⚠警告

●次のようなタイヤは使わないでください。
　コントロールを失うことがあり、思わぬ事故につながります。
　・摩耗限度を超えたタイヤ。
　・指定空気圧に調整されていないタイヤ。
　　タイヤの空気圧
→339ページ

⚠注意

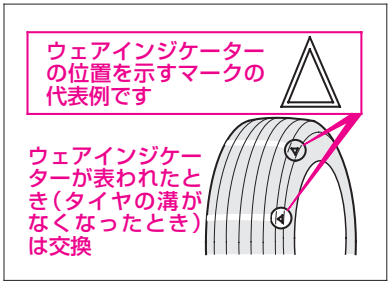
●タイヤの空気圧を調整するときは、規定圧力を守ってください。
　空気を入れ過ぎると、タイヤが破裂しけがをするおそれがあります。

●4WD車は、四輪とも同一指定サイズ、同一種類、同一銘柄および摩耗差のないタイヤをお使いください。サイズ、種類、銘柄や摩耗度合の異なるタイヤを混用すると動力伝達装置に悪影響を与えます。

摩耗限界表示（ウェアインジケーター）

ウェアインジケーターが表れたらタイヤを交換してください。

・ウェアインジケーターは、タイヤの接地面にあり、他の部分より溝が1.6mmだけ浅くなっています。



●位置交換（タイヤローテーション）

5,000kmごとにタイヤの位置を交換します。

・同じ位置で長く走ると偏摩耗し、タイヤの寿命を縮めるだけでなく走行性、制動力にまで悪影響を与えます。

- ●応急用スペアタイヤは、位置交換に使わないでください。
- **195/55R15 84Vのタイヤ装備車**

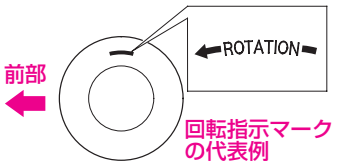
  前輪と後輪でタイヤの空気圧が異なるので、位置交換後は必ず空気圧を調整してください。

  タイヤの空気圧　→339ページ
- **195/55R15 84Vのタイヤ装備車**

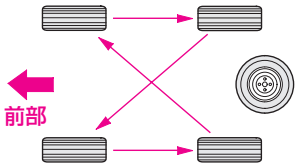
  標準装着のタイヤは、回転方向が指定されています。タイヤの側面に回転方向を指定する矢印がありますので、タイヤを交換する際は回転方向に注意してください。

タイヤ回転指示マーク

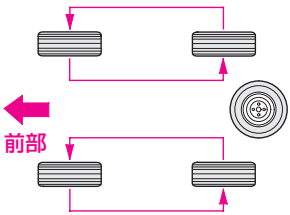
タイヤの性能上、回転方向が指定されているタイヤには、タイヤ側面に回転指示マークがあります。
回転指示マークが前部へ向くように取り付けてください。



回転指示マークがないタイヤの場合



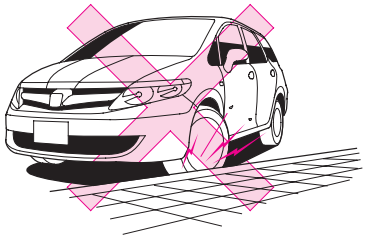
回転指示マークがあるタイヤの場合



アルミホイールについて

アルミホイール装備車

アルミホイールは一般的なスチールホイールと取り扱いかたが異なります。
アルミホイールの特性を維持するため、必ず次のことをお守りください。



●取り扱い

- この車専用のホイールをお使いください。専用以外のホイールを使うと、走行装置やブレーキ装置に支障をきたすおそれがあります。ホイール交換に際しては、必ずHonda販売店にご相談ください。
- パンク修理などでホイールを取り付け直した際には、念のため1,000km走行時にホイールナットのゆるみの有無を点検してください。
- アルミホイールは傷つきやすいので歩道の縁石などに乗り上げたり、すり当てたりすることを避けてください。
- バランスウェイトやバルブはHonda純正のアルミホイール専用品をお使いください。ホイールに傷をつけたり、機能を損なうことがあります。
- タイヤチェーンを装着するときは、正しく装着してください。ホイールに対して片寄ったり、ゆるかったりするとホイールに傷をつけるおそれがありますので注意して装着してください。



●手入れ

- アルミホイールは、塩分や汚れを嫌いますので、海水や道路凍結防止剤などが付いたときには、スポンジに中性洗剤を含ませ、汚れを早めに落としてください。
- ホイールの光沢を維持するため、時々ワックスがけをしてください。
- アルミホイールは傷つきやすいので、砂入り石鹸や硬いブラシを使わないでください。高速洗車機（ホイール専用ブラシ付きの物）によるホイールの洗浄は避けてください。
- スチーム洗浄などで、熱湯がホイールに直接かからないようにしてください。
  光沢を失うおそれがあります。

車にあった部品の使用

車の性能、品質を維持するために、Honda車に最も適したHonda純正部品をお使いください。
純正部品は厳しい検査を実施し、Honda車に適合するように作られています。
お求め、装着に際しては、Honda販売店にご相談ください。

・純正部品には下のマークがついています。

HONDA
GENUINE PARTS

・Honda純正部品以外の車の性能や機能に適さない部品を使用しないでください。
適正な性能や機能を発揮しなかったり、思わぬ事故のもとになったりすることがあります。
・車の改造はしないでください。
不正改造は、法律に触れることはもちろん思わぬ事故を起こす場合があります。

7

車との上手なつきあいかた

●積雪・寒冷時の取り扱い
運転するまえ……316
運転するとき……318
駐車するとき……322
冬期の手入れ……324

●こんなときは
雨の日の運転……326
夏場の取り扱い……328

●環境にやさしい省エネドライブをするために……330

積雪・寒冷時の取り扱い

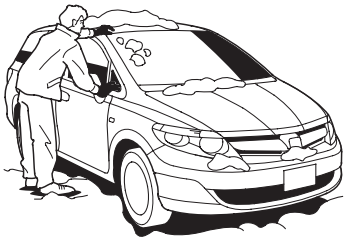
運転するまえ

●車に積もった雪や着氷は取り除く

屋根に積もった雪

走行時に屋根に積もった雪がすべり落ち視界の妨げになるなど危険です。走行する前に取り除いてください。

・氷結している部分を無理に取り除くと塗装などを傷めます。氷が溶けてから取り除いてください。



ガラス面の雪や霜

雪や霜を落として視界を確保してください。

・プラスチックの板などを使うとガラスに傷をつけずに落とすことができます。

・**アクアクリーンミラー装備車**
ドアミラーに付着した雪や霜は、ヒーテッドドアミラースイッチを“ON”にするか、温水や水道水を使って溶かしてください。
解氷剤を使ったり、プラスチックの板を使って削り落とすと、ミラー表面に傷が付き、親水効果を失います。

ヒーテッドドアミラー

→77ページ

足まわりの着氷

足まわりなどに氷塊が付着している場合は、部品を損傷しないように十分注意して取り除いてください。

●凍結しているとき

ドアの凍結

無理に開けるとドアまわりのゴムがはがれたりするので、お湯をかけて氷を溶かしてから開けてください。

・ドアキー穴部には、お湯をかけないでください。凍結すると、キーが差し込めなくなります。



お湯をかけたあとは、凍結防止のために水分をよく拭き取ってください。

ワイパーの凍結(ガラス面が着氷、積雪しているとき)

ワイパーブレード(ゴム部)を損傷したり、モーターの故障となりますので、氷や雪を取り除いてから動かしてください。

寒冷地用ワイパーブレードを装着する際は、Honda販売店にご相談ください。

寒冷時以外は通常のワイパーブレードに戻してください。

●乗車するとき

靴にこびりついた雪をよく落としてから、乗車してください。

・ペダル類を操作するときに滑ったり、室内の湿気が多くなりガラスが曇ったりすることがあります。



運転するまえに

ペダル類やハンドルの動きが円滑かどうか確認してください。

運転するとき

●雪道や凍結路では、たいへん滑りやすくなっているので、速度を落とし車間距離を十分とって運転しましょう。
また、ハンドルやブレーキの操作は特に慎重にしてください。
・急加速、急減速、急ブレーキや急ハンドルは横すべりを起こして方向性を失います。

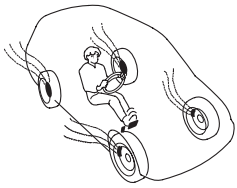


●冬用タイヤ、タイヤチェーンを装着して走行してください。
タイヤチェーンについて
→320ページ
・冬用タイヤを装着するときは、四輪とも同じ種類のものに交換してください。
・地区条例により違いがありますので、その地区の条例に従ってください。

●冬用タイヤを装着したときには、安全のため高速走行は避けてください。

●ブレーキの効きについて

ブレーキ装置に付着した雪や水が凍結し、ブレーキの効きが悪くなることがあります。
その際には、前後の車に十分注意して、ブレーキペダルを軽く踏みながら低速で走行し、ブレーキのしめりを乾かしてください。



- ブレーキの効きが回復しないときは、ブレーキ系統に異常が考えられますので、ただちにHonda販売店で点検を受けてください。

●ウォッシャー液を噴射するとき

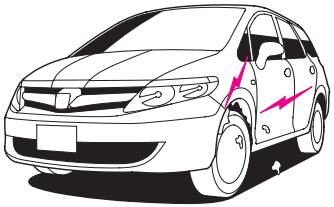
先にデフロスターを使ってフロントガラスを暖めてからウォッシャー液を噴射します。

⚠注意

- 寒冷時はフロントガラスが暖まるまでウォッシャー液を噴射しないでください。
  ウォッシャー液が凍りついて視界の妨げとなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

●ハンドルのきれについて（タイヤまわりの着氷）

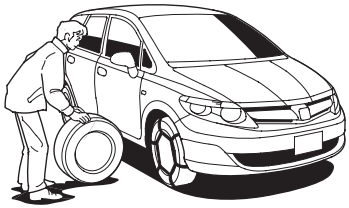
フェンダー裏側に付着した雪が氷結し、次第にたい積してハンドルのきれが悪くなることがあります。
ときどき確認し、着氷が大きくなる前に取り除いてください。



●パンクしたとき（タイヤチェーン装着時）

前輪がパンクしたときは、応急用スペアタイヤを後輪に付け、外した後輪タイヤを前輪に付けてタイヤチェーンを装着します。

・応急用スペアタイヤには、タイヤチェーンは装着できません。



●タイヤチェーンについて

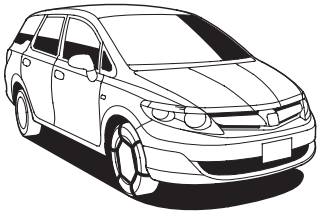
推奨タイヤチェーン

フェンダーやホイール表面を傷つけるおそれがありますので、Honda純正スチールチェーンをお使いください。
お求めはHonda販売店へお申し付けください。

●タイヤチェーンはタイヤに合った適正な物をお使いください。
推奨タイヤチェーン以外の物を使うと、ブレーキ配管やフェンダーなどを破損するおそれがあります。

標準的なタイヤチェーンの取り付けかた

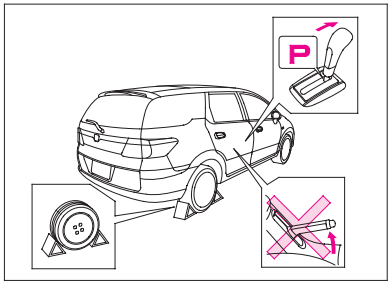
タイヤチェーンは、駆動輪の前輪に装着してください。
4WD車の場合も前輪駆動を主とした四輪駆動なので、チェーンは前輪に装着してください。
後輪には、タイヤチェーンを装着しないでください。



- タイヤチェーンに付属の取扱説明書にしたがって、正しく取り付けてください。
- タイヤチェーンは平らな所で他の交通に十分注意して取り付けてください。
  必要に応じて非常点滅表示灯などを使ってください。
- タイヤチェーンを取り付けたときには、安全のため雪道、凍結路では30km/h以下の速度で運転してください。
  なお乾燥路面ではタイヤチェーンを装着したままで走行するのは避けてください。チェーンの摩耗を早めます。
- 応急用スペアタイヤには、タイヤチェーンは装着できません。
  チェーン装着時に前輪がパンクしたときは、応急用スペアタイヤを後輪に装着し、外した後輪タイヤを前輪に取り付け、これに標準タイヤ用のタイヤチェーンを装着してください。

駐車するとき

パーキングブレーキの凍結を防ぐために、パーキングブレーキは使わないでください。
セレクトレバーを[P]に入れます。
石などで輪止めをしておきます。



●屋外に駐車するとき

- エンジンの冷えすぎを防ぐために、車の前部を風下や日の当たる方向に向けて停めてください。
  - ・エンジンが冷えすぎると始動しにくくなることがあります。
- 落雪や積雪を避けるために、軒下や樹木の下などには停めないでください。
  - ・車の屋根などがへこむことがあります。
  - ・**スカイルーフ装備車**
    スカイルーフのガラスが破損するおそれがあります。
- ワイパーアームは起こしてください。
  - ・雪の重みでアームの取り付け部がこわれることがあります。

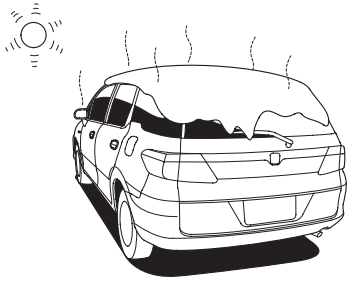
ワイパーアームの起こしかた
→327ページ

●長期間使わないで屋外におくとき

塗装面の保護とドアまわりの凍結を防ぐために、ボディカバーを使ってください。

⚠注意

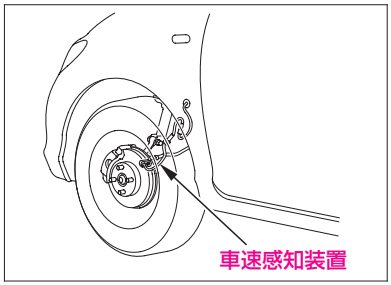
- 格納するとき、エンジン部を毛布で覆ったり、ラジエーターのまわりに段ボールや新聞紙をはさみ込んだりしないでください。
  そのまま走行すると、火災のおそれがあります。



冬期の手入れ

●雪道走行後の手入れ

・フェンダー裏側や足まわりに付着した泥、雪は周囲の部品を損傷しないように取り除いてください。足まわり（前、後輪の 4 か所）に車速感知装置が取り付けてありますので、傷をつけないように特に注意してください。



・積雪時には道路に凍結防止剤がまかれていることがあります。錆の原因になりますので、走行後はすぐに洗車してください。特に下回りは念入りに行ってください。

●点検・整備

バッテリーについて

気温が下がるとバッテリーの性能が低下し、エンジン始動に支障をきたすことがありますので、液量、比重の確認をし、必要に応じて液の補給や補充電をしてください。

エンジンオイルについて

冬期はオイルの劣化が激しくなります。
冬期に主として短距離、または市街地を運転される方は、早めに交換してください。

冷却水について

冷却水の凍結を防ぐために点検してください。

ウォッシャー液について

ウォッシャー液の凍結を防ぐために、ウォッシャー液の濃度を上げてください。

- 点検方法はメンテナンスノートを参照し、交換はHonda販売店にご相談ください。

こんなときは

雨の日の運転

雨の日は視界が悪くなるうえ、窓ガラスが曇ったり、路面が滑りやすくなるなど悪条件が重なるので通常より注意深い運転が必要です。

- 急加速、急ブレーキや急ハンドルを避け、晴れの日よりも速度を落とし、車間距離を十分にとって運転しましょう。
- ハイドロプレーニング現象に注意しましょう。
- 雨の降り始めの舗装道路は滑りやすいので特に気を付けましょう。
- 冠水路などの深い水たまりは走行しないでください。
  エンジンの破損や電装品の故障および車両故障につながるおそれがあります。

⚠警告

- 滑りやすい路面では、急加速、急ブレーキや急ハンドルは避けてください。
  車のコントロールを失い思わぬ事故につながります。

ハイドロプレーニング現象とは

路面が水でおおわれているところを高速で走行したときに、タイヤと路面の間に水の膜ができ、タイヤが浮いた状態になることをいいます。

- このような状態になると、ハンドルやブレーキが効かなくなり、非常に危険です。

●ガラスの曇りをとりたいとき

ガラスが曇って外が見にくいときは、エアコンのデフロスターを使って曇りをとります。

リヤガラスの曇りは

リヤデフロスタースイッチを押して、曇りをとります。

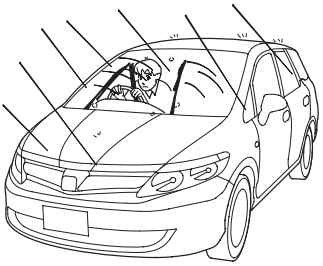
●ガラスの油膜をとりたいとき

油膜があると、雨の夜は対向車のライトなどが乱反射します。
ガラスクリーナーを使ってガラスの表面をきれいにします。

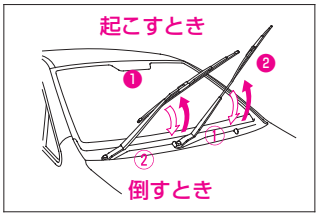
・ガラスクリーナーはHonda純正ケミカル用品をお使いください。

●ワイパーの拭きむらがあるとき

ワイパーブレードのラバーが傷んでいると、拭きむらが出て視界の妨げとなります。また、ガラス面を傷つけることがありますので、早めに交換してください。



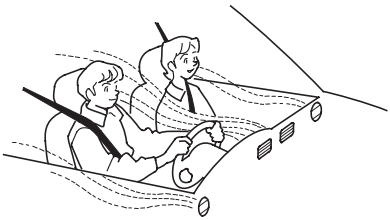
●ワイパーアームを起こしたり倒したりするときは、図の順に行ってください。



夏場の取り扱い

●エアコンの上手な使いかた

・冷媒(ガス)が不足していると、冷房性能が低下します。
夏になる前に点検、補充をしておきましょう。
・室内温度が高いときは、窓を開けて熱気を逃がしてからエアコンをかけましょう。
・エアコンの冷やしすぎは健康上良くありません。



●炎天下に駐車するときは

・ボディーに覆いをかけたり、ハンドルやシートにタオルなどをかけて、室内温度の上昇を抑えましょう。
・フロントガラスにアルミ光沢性の日除けバイザーを使うと、反射光が集光し、インストルメントパネルなどが変色、変形することがあります。

●海から帰ってきたときは

海に出かけた後は車も塩分を浴びています。錆の原因になりますので早めに洗車してください。下回りも念入りに洗いましょう。

●オーバーヒートを防ぐために

冷却水の量が不足しないように、こまめに点検します。

・走行中、水温計の針が“H”の目盛に入った場合は、オーバーヒートのおそれがあります。安全な場所に停車してエンジンを冷やしてください。

オーバーヒートしたとき
→276ページ

環境にやさしい省エネドライブをするために

●点検整備をきちんとし、タイヤの空気圧を適正にしましょう。

■適正空気圧で50km走ると50kPa {0.5kgf/cm²} 減のときに比べてガソリン 150ccの節約。

▲CO_2 1250g削減(650km／月)

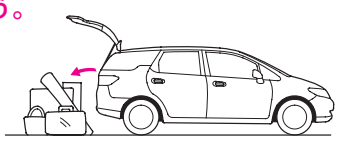


●タイヤの空気圧が低下すると走行抵抗が増加し、燃費に大きく影響します。また、冬用タイヤや幅広タイヤを装着したときも同様に燃費に影響します。

●不必要な荷物は降ろして走行しましょう。

■10kgの荷物を降ろして50km走ると、ガソリン 15ccの節約。

▲CO_2 130g削減(650km／月)



●エアコンは少し控えめにしましょう。

室内温度が高いときは、窓を開けて熱気を逃がしてからエアコンをかけましょう。

■エアコンを 6 分停止して、ガソリン 70ccの節約。

▲CO_2 1340g削減(3 時間／月)

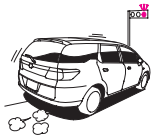


●エアコンは冷媒を循環するため、コンプレッサーをエンジンで駆動しており、エンジンに大きな負荷が発生します。それを補うため、燃料消費が多くなります。

●ヘッドライトやリヤデフロスターは電力を多く消費するため、不必要なときはスイッチを“OFF”にしてください。

●発電機はエンジンで駆動しており、消費電力が増加すると発電量が増加し、エンジンの負荷が大きくなり、それを補うため、燃料消費が多くなります。

●空ぶかしはしないようにしましょう。



■空ぶかしを1回やめて、ガソリン 6ccの節約。
▲CO_2 1150g削減(300回／月)

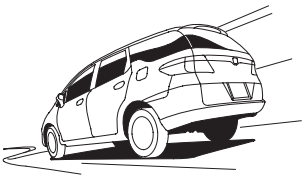
●長時間停車するときは、エンジンを停止してください。また、長すぎる暖機運転をしないようにしましょう。



■5分間のアイドリングを止めて、ガソリン65ccの節約。
▲CO_2 420g削減(10回／月)

●変速位置の選択は、走行速度や坂の勾配に合わせて適切に行ってください。

・通常はDで走行します。
・下り坂で速度が出すぎてしまうときは、Sにして、エンジンブレーキを使います。
Sのままで速度が出すぎるときはLにし、さらに強いエンジンブレーキを使用してください。
Lタイプで7速マニュアルシフトモードのときには、変速段を一段ずつ落としてください。



●下り坂などでエンジンブレーキを使う目的で、より低速のギヤを有効に使うと、燃料カットの時間が長くなり、燃費が良くなることがあります。

●経済速度について

・高速道路では100km/hを80km/hにして燃費10～30%の節約。
・一般道路では法定速度(40～60km/h)の範囲で一定走行すると燃費は良くなります。

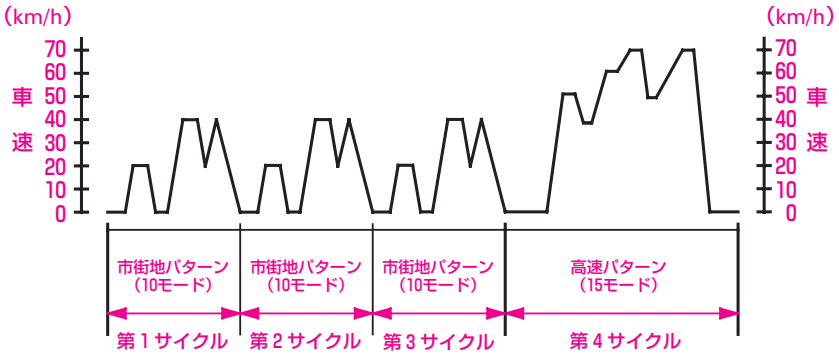
参考資料＊社団法人日本自動車工業会：「あしたへECO－MOTION」参照
《対象車種2.0L乗用(AT)の燃費＝11.7km/l(10・15モード)が計算ベース》

●10・15モード燃費について

10・15モード燃費とは

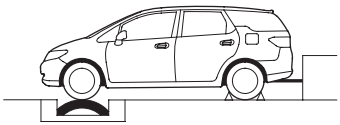
東京都内の幹線道路における平均的な走行形態の10モードと、高速走行や渋滞など大都市における走行形態を反映させた15モードを図のように
・市街地パターン(10モード)を３回
・高速パターン(15モード)を１回
の計４サイクルで走行したときの排出ガス量(g/km)を測定します。
このときに消費した燃料を10・15モード燃費(km/l)として表示しています。

＊計測走行距離　4.2km、平均時速　23km/h



10・15モード燃費と実走行燃費との違い

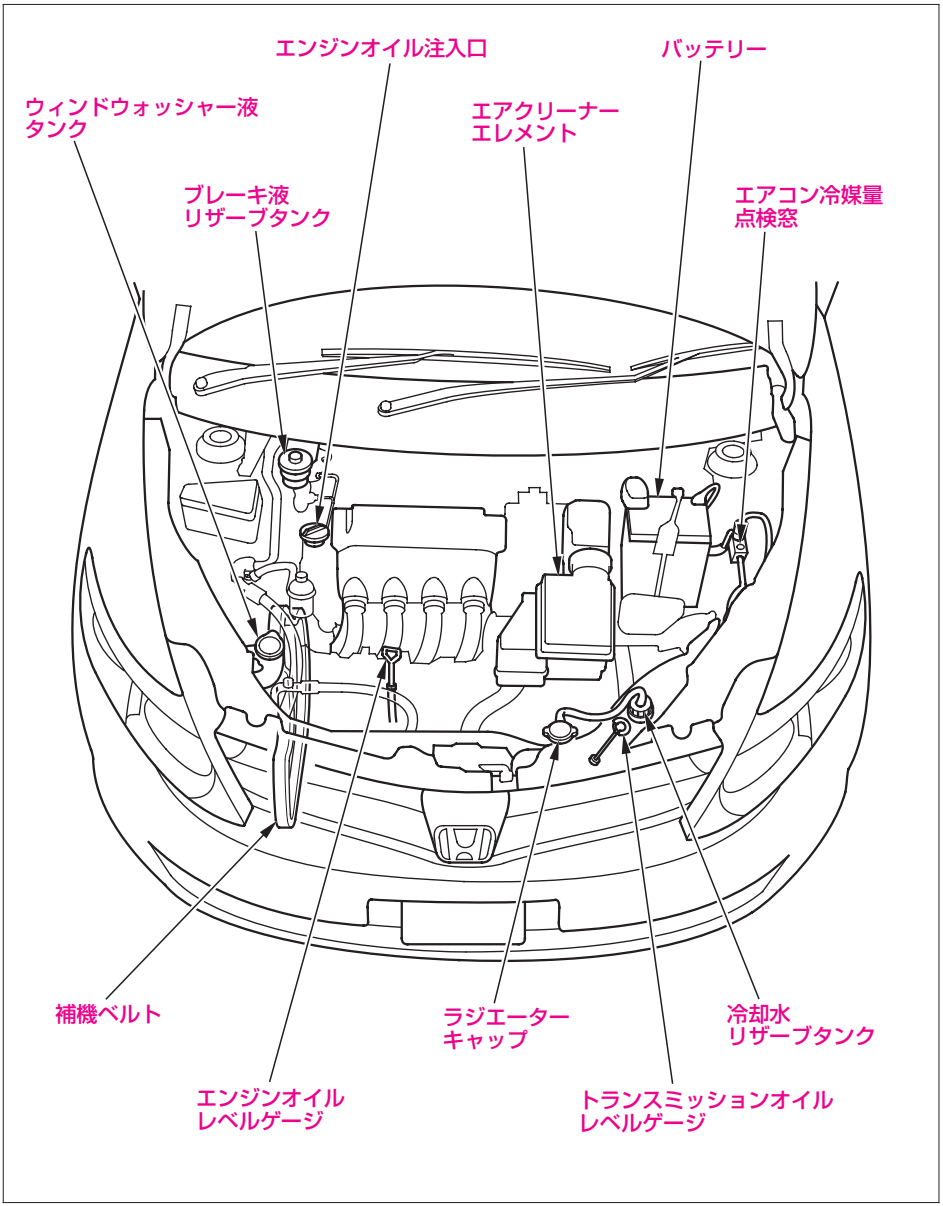
10・15モード燃費は図のようにシャーシダイナモメーター上で定められた試験条件のもとで行われた燃費値です。
実際の走行時には気象、道路、車両、運転、整備などの状況が異なってきますので、それに応じて燃費が異なります。



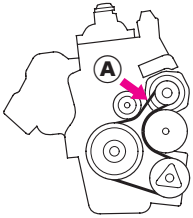
10・15モード燃費の計測方法(国土交通省認可時 測定条件)

- 完全暖機状態　60km/h 15分暖機後モード測定
- 走行抵抗設定　車両(空車)状態＋110kg(2名乗車分)
- 搭載電気機器"OFF"状態
- エアコン"OFF"で測定

サービスデータ


エンジンオイル注入口
バッテリー
ウィンドウォッシャー液
タンク
エアクリーナー
エレメント
ブレーキ液
リザーブタンク
エアコン冷媒量
点検窓
補機ベルト
ラジエーター
キャップ
冷却水
リザーブタンク
エンジンオイル
レベルゲージ
トランスミッションオイル
レベルゲージ

点検整備については「メンテナンスノート」も合せてご覧ください。

項　目		サービスデータ	
ベルトのたわみ量	 ⬇の位置を押す Ⓐ：補機ベルト （発電機、ウォーターポンプ、エアコンディショナー）		
	補機ベルト	2.0－4.5 mm｛約98N（10kgf）の力｝	
点火プラグ※	タイプ	NGK	IZFR6K13
		DENSO	SKJ20DRM13
	電極のすき間（基準値）	1.2－1.3 mm	

※：イリジウムプラグを使用していますので、次のことに注意してください。
- イリジウム合金チップの微粒子膜を損傷するおそれがあるので、ワイヤーブラシ等による清掃は行わないでください。
- プラグギャップは調整できません。基準値をこえているものは交換してください。（清掃はクリーナーにて20秒以下で行ってください。）

項目		サービスデータ	
ブレーキペダル	遊び	1－5 mm	
	床板とのすき間	101 mm {約196N(20kgf)の力}	
	カーペットとのすき間（参考値）	85 mm {約196N(20kgf)の力}（ペダル踏面右端）	
パーキングブレーキ	引きしろ	7－8ノッチ {約196N(20kgf)の力}	
バッテリー	容量／タイプ	ナビゲーションシステム装備車	28AH(5)／38B19L
		ナビゲーションシステム非装備車	27AH(5)／34B17L
電球（バルブ）	W（ワット）数	ヘッドライト（ロービーム）…… 12V－35W※1 12V－55W※2 ヘッドライト（ハイビーム）…… 12V－60W※3 フォグライト…… 12V－55W※3 前面方向指示器／前面非常点滅表示灯 …… 12V－21W（橙色） 車幅灯…… 12V－5W 側面方向指示器／側面非常点滅表示灯 …… 12V－5W（橙色） 後面方向指示器／後面非常点滅表示灯 …… 12V－21W（橙色） 番号灯…… 12V－5W 制動灯／尾灯…… 12V－21/5W 尾灯…… 12V－5W 後退灯…… 12V－16W(18W) ハイマウントストップランプ…… LED 前席室内灯／マップランプ…… 12V－8W 後席室内灯／マップランプ…… 12V－5W 室内灯…… 12V－8W マップランプ…… 12V－8W カーゴルーム照明灯…… 12V－8W	

※1：ディスチャージヘッドライト装備車
※2：ハロゲンヘッドライト装備車
※3：ハロゲンバルブ

⚠注意

- ディスチャージヘッドライトのバルブを交換する場合は、必ずHonda販売店で行ってください。
  ディスチャージヘッドライトは高電圧を使用しており、不適切な取り扱いや分解を行うと感電するおそれがあります。

項目		サービスデータ	
エアクリーナーエレメント	タイプ	湿式	
エンジンオイル	推奨オイル	Honda純正オイル（4サイクル四輪車用） ウルトラLEO-SM（API SM/GF-4級SAE 0W-20）※ ウルトラLTD-SM（API SM/GF-4級SAE 5W-30） ウルトラMILD-SM（API SM/GF-4級SAE 10W-30） ウルトラGOLD-SM（API SM級SAE 5W-40）	
	規定量	オイル交換時	3.4ℓ
		オイル、オイルフィルター同時交換時	3.6ℓ

※：0W-20は、最も省燃費性に優れたオイルです。

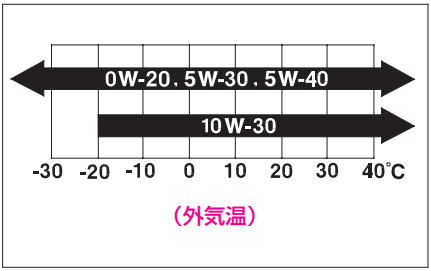
推奨エンジンオイル

Honda純正エンジンオイルまたはAPI SL級以上か、オイル缶にAPI CERTIFICATION（エーピーアイ　サーティフィケーション）マークの入ったエンジンオイルをお使いください。



API CERTIFICATIONマーク

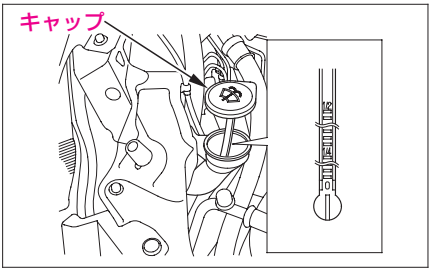
市販のエンジンオイルは、外気温に応じた粘度のものを下表にもとづきお使いください。



項目		サービスデータ	
燃料	指定燃料	無鉛レギュラーガソリン（無鉛ハイオクも使用可能）	
	タンク容量	42 ℓ	
トランスミッションオイル	指定液	Honda純正ウルトラHMMF	
	規定量（交換時）	2WD車	3.2 ℓ
		4WD車	3.3 ℓ
デファレンシャルオイル（4WD車）	指定液	Honda純正ウルトラDPSF	
	規定量（交換時）	1.0 ℓ	
冷却水	指定液	Honda純正ウルトラｅクーラント	
	規定濃度	50%	
	規定量（交換時リザーブタンク0.4ℓ含む）	4.0 ℓ	
ブレーキ液	指定液	Honda純正ウルトラブレーキフルードDOT 3 またはDOT 4	
ウォッシャー液	タンク容量	2.0 ℓ	

ウォッシャー液の量の点検

ウォッシャー液の量は、キャップに付いているウォッシャー液レベルゲージにより確認します。



L(2WD車)

項目 / タイヤサイズ		タイヤ空気圧 kPa(kgf/cm²)		リムサイズ※	
		前輪	後輪	スチールホイール	アルミホイール
標準タイヤ	195/55R15 84V	230 (2.3)	220 (2.2)		15×6JJ
応急用スペアタイヤ	T125/70D14 93M	420 (4.2)		14×4T	

L(4WD車)

項目 / タイヤサイズ		タイヤ空気圧 kPa(kgf/cm²)		リムサイズ※	
		前輪	後輪	スチールホイール	アルミホイール
標準タイヤ	185/65R14 86S	220 (2.2)			14×5½JJ
応急用スペアタイヤ	T135/70D15 99M	420 (4.2)		15×4T	

G(2WD車)

項目 / タイヤサイズ		タイヤ空気圧 kPa(kgf/cm²)		リムサイズ※	
		前輪	後輪	スチールホイール	アルミホイール
標準タイヤ	185/65R14 86S	220 (2.2)		14×5½JJ	
	195/55R15 84V	230 (2.3)	220 (2.2)		15×6JJ
応急用スペアタイヤ	T125/70D14 93M	420 (4.2)		14×4T	

G(4WD車)

項目 / タイヤサイズ		タイヤ空気圧 kPa(kgf/cm²)		リムサイズ※	
		前輪	後輪	スチールホイール	アルミホイール
標準タイヤ	185/65R14 86S	220 (2.2)		14×5½JJ	14×5½JJ
応急用スペアタイヤ	T135/70D15 99M	420 (4.2)		15×4T	

タイヤの溝の深さ	1.6 mm 以上
位置交換時期(タイヤローテーション)	5,000 km ごと

※：この車専用のホイールをお使いください。
専用以外のホイールを使うと、走行装置やブレーキ装置に支障をきたすおそれがあります。
ホイール交換に際しては、必ずHonda販売店にご相談ください。

- **185/65R14 86Sタイヤ装備車**
  15インチのサイズのタイヤを装着しないでください。
  タイヤと車体が干渉するおそれがあります。

名称	排気量(cm³)	車体形状	乗車定員(人)	タイプ	
エアウェイブ	1,496	4 ドア ステーション ワゴン	5	L	2WD
					4WD
				G	2WD
					4WD

さくいん

赤色文字の項目は、万一のときの処置についてのものです。

ア

アームレスト ····· 67
ISO FIXテザータイプチャイルドシート
　固定装置 ····· 94
アクアクリーンミラー ····· 78
　親水効果の回復作業 ····· 306
アクセサリーソケット ····· 245
雨の日の運転 ····· 326
アルミホイールについて ····· 312
アンチロックブレーキシステム(ABS)
　運転のしかた ····· 186
　ABSのしくみ ····· 186
　警告灯 ····· 187
　取り扱いについて ····· 187
アンテナ ····· 212

イ

イグニッション(エンジン)
　キー ····· 36
　スイッチ ····· 118
イモビライザーシステム ····· 58
　表示灯 ····· 108
イルミネーションコントロール ····· 102

ウ

ウィンカー
　スイッチ ····· 132
　電球の交換 ····· 289・291
　表示灯 ····· 106
　W(ワット)数 ····· 336
ウィンドー
　パワーウィンドー ····· 54
ウエルカムメーター照明 ····· 103
ウエルカムランプ ····· 239・241
ウォッシャー液
　スイッチ ····· 133
　タンクの容量 ····· 338
　冬期の手入れ ····· 325
　補給 ····· 338
動けなくなったとき ····· 258・259
運転のしかた ····· 138

エ

エアクリーナーエレメント ····· 337
エアクリーンフィルター ····· 208
エアコン ····· 192
　インデックス ····· 194
　オートエアコン ····· 196
　ヒーター・マニュアル式エアコン ····· 202
　吹き出し風の調節 ····· 193
　ベルト ····· 335
AV入力端子 ····· 254
SRSエアバッグシステム
　SRSエアバッグシステムの効果を
　　十分に発揮させるために ····· 168
　SRSエアバッグシステムのしくみ ···· 164
　お子さまを乗せるときは ····· 169
　警告灯 ····· 171
　作動しないとき ····· 167
　作動するとき ····· 166
　取り扱いについて ····· 170
FM/AMラジオ一体式CD/MDステレオ ··· 214
MDプレーヤーの使いかた ····· 227
エレクトリックパワーステアリング(EPS)
　警告灯 ····· 116
エンジンオイル・フィルター
　オイル量 ····· 337
　冬期の手入れ ····· 324
エンジンキー(キー) ····· 36
エンジンスイッチ ····· 118
　警告ブザー ····· 126
エンジンのかけかた ····· 138
エンジンブレーキ ····· 20
エンジンルーム ····· 334

オ

応急用スペアタイヤ
格納場所 …… 256
空気圧 …… 339
サイズ …… 339
収納のしかた …… 274
スペアタイヤについて …… 268
オーディオ
インデックス …… 213
FM/AMラジオ一体式
CD/MDステレオ …… 214
エラーコードについて …… 234
上手な使いかた …… 210
リモートコントロールスイッチ …… 236
オートエアコン …… 196
オートマチックトランスミッション
運転のしかた …… 154
オイル …… 338
セレクトレバー …… 144・150
マルチマチック …… 22・144・150
オーバーヒートしたとき …… 276
オドメーター …… 100
温度感知装置 …… 201

カ

カーゴアンダートレイ …… 248
カーゴサイドポケット …… 248
カーゴフック …… 251
カーゴルーム照明灯
使いかた …… 243
電球の交換 …… 295
W(ワット)数 …… 336
カードホルダー …… 247
外気温表示 …… 101
外装の手入れ …… 303
学童用(ジュニア)シート …… 17・86
カップホルダー …… 249
ガラスの手入れ …… 305
換気 …… 15
環境にやさしい省エネドライブを
するために …… 330
寒冷時の取り扱い …… 316

キ

キーの種類 …… 36
キー …… 37
キーレスエントリー一体キー …… 37
Hondaスマートキー …… 38
内蔵キー …… 39
キー閉じ込み防止装置 …… 48
キー抜き忘れ警告ブザー …… 119
キーレスエントリー …… 37
キーの電池が消耗したとき …… 297
キックダウン …… 22

ク

曇り取り(デフロスター) …… 200・205
グラブレール …… 252
クリープ現象 …… 22
車にあった部品の使用 …… 314
グローブボックス …… 246

赤色文字の項目は、万一のときの処置についてのものです。

ケ

警告灯
　警告灯類 …… 110
　電球切れの点検 …… 117
携帯電話接続端子 …… 253
ケミカル類 …… 309
けん引
　けん引されるとき …… 262
　故障車をけん引するとき …… 265

コ

コインポケット …… 246
工具(ツール)
　格納場所 …… 256
　種類 …… 257
後席室内灯 …… 240
　電球の交換 …… 293
　W(ワット)数 …… 336
後席マップランプ …… 242
　電球の交換 …… 293
　W(ワット)数 …… 336
高速道路で故障したとき …… 258
後退灯(バックランプ)
　電球の交換 …… 292
　W(ワット)数 …… 336
後部ワイパー(リヤワイパー)
　スイッチ …… 135
故障したとき …… 258
故障の修理について …… 259
固定専用バー …… 94
小物入れ …… 246
こんなときは …… 326
コンビニフック …… 252

サ

サービスデータ …… 334
サイドエアバッグシステム
　お子さまを乗せるときは …… 181
　警告灯 …… 183
　サイドエアバッグシステムの効果を
　　十分に発揮させるために …… 177
　サイドエアバッグシステムのしくみ …… 172
　サイドエアバッグ自動停止表示灯 …… 181
　作動しないとき …… 176
　作動するとき …… 174
　乗員姿勢検知システム …… 179
　取り扱いについて …… 182
サンシェード …… 56
　はさみ込み防止機構 …… 57
三点式シートベルト …… 83
サンバイザー …… 244

シ

CDチェンジャーコントローラーの
使いかた ····· 231
CD/MP3/WMAプレイヤーの使いかた ··· 220
シート
アレンジインデックス ····· 62
カーゴスペースの作りかた ····· 72
正しい運転姿勢 ····· 60
フラットシート ····· 70
フロントシート ····· 64
リヤシート ····· 66
シートベルト ····· 80
種類 ····· 82
ショルダーアンカー ····· 88
チャイルドシート固定機構 ····· 92
着用のしかた ····· 87
非着用警告灯 ····· 114
リマインダー(非着用警報装置) ····· 83
シートベルトプリテンショナー
警告灯 ····· 185
シートベルトプリテンショナーの
しくみ ····· 184
取り扱いについて ····· 184
事故が起きたとき ····· 260
室内照明 ····· 238
室内灯(ルームランプ)
使いかた ····· 239
電球の交換 ····· 293・294
W(ワット)数 ····· 336
室内灯スイッチ ····· 239・241
シフトスイッチ ····· 146
シフトロック装置 ····· 25・157
霜取り・曇り止め
前面／側面ガラス ····· 200・205
ジャッキの取り扱い ····· 266
車幅灯(ポジションランプ)
電球の交換 ····· 290
W(ワット)数 ····· 336
充電警告灯 ····· 113
樹脂塗装部品 ····· 304
ジュニア(学童用)シート ····· 17・86
純正部品 ····· 314
親水ミラー ····· 78

ス

水温計 ····· 99
スイッチの使いかた ····· 118
スカイルーフ
サンシェードの開閉 ····· 56
はさみ込み防止機構 ····· 57
スノータイヤ(冬用タイヤ) ····· 318
スパークプラグ(点火プラグ) ····· 335
スピードメーター ····· 99
スペアタイヤ
格納場所 ····· 256
空気圧 ····· 339
サイズ ····· 339
収納のしかた ····· 274
スペアタイヤについて ····· 268

赤色文字の項目は、万一のときの処置についてのものです。

セ

制動灯(ブレーキランプ)
　電球の交換 …… 291
　W(ワット)数 …… 336
整備 …… 300
積雪・寒冷時の取り扱い
　運転するとき …… 318
　運転するまえ …… 316
　駐車するとき …… 322
　冬期の手入れ …… 324
セキュリティーシステム
　イモビライザーシステム …… 58
セレクトレバー
　操作 …… 144・150
　ポジション表示灯 …… 107
洗車 …… 303
前照灯(ヘッドライト)
　上向きと下向きの切り換え …… 130
　上向き(ハイビーム)表示灯 …… 106
　追越合図(パッシング) …… 130
　オートレベリング機能 …… 130
　スイッチ …… 129
　電球の交換 …… 285
　ヘッドライトレベリングダイヤル …… 131
　W(ワット)数 …… 336
前席室内灯 …… 239
　電球の交換 …… 293
　W(ワット)数 …… 336
前席マップランプ …… 242
　電球の交換 …… 293
　W(ワット)数 …… 336
センターアッパーボックス …… 246
センターコンソール …… 247

ソ

速度計 …… 99
その他の安全装備 …… 189

タ

タイヤ
　位置交換(ローテーション) …… 311
　ウェアインジケーター …… 310
　応急用スペアタイヤ …… 268
　空気圧 …… 339
　タイヤを交換するときは …… 269
　サイズ …… 339
　スノータイヤ …… 318
　チェーン …… 320
　点検 …… 310
タコメーター …… 99
正しい運転姿勢 …… 60

チ

チェーン …… 320
チケットホルダー …… 244
チャイルド(幼児用)シート …… 17・86
チャイルドシート固定機構
　付きシートベルト …… 92
チャイルドシート固定装置 …… 94
チャイルドプルーフ …… 48
駐車
　坂道 …… 27
　積雪・寒冷時の取り扱い …… 322
駐車ブレーキ(パーキングブレーキ)
　警告灯 …… 112
　積雪・寒冷時の取り扱い …… 322
　操作 …… 142
　戻し忘れ警告ブザー …… 143
チルトステアリング …… 74

テ

テールゲート
解錠ができないとき ····· 296
開閉 ····· 49
開閉警告灯 ····· 115
施錠・解錠 ····· 41
テザーアンカー ····· 94
デファレンシャルオイル ····· 338
デフロスター ····· 200・205
点火プラグ ····· 335
電気系統が異常のとき ····· 278
電気装置が作動しないとき ····· 280
電球(バルブ)
交換 ····· 284
W(ワット)数 ····· 336
点検・整備について ····· 300
電動リモコンドアミラー ····· 76

ト

ドア
開閉警告灯 ····· 115
施錠・解錠 ····· 41
積雪・寒冷時の取り扱い ····· 317
ドアミラー ····· 76
冬期の手入れ ····· 324
道路で動けなくなったとき ····· 259
時計 ····· 235
塗装の手入れ ····· 302
トランスミッション
オイルの容量 ····· 338
警告灯 ····· 114
トリップメーター ····· 100

ナ

内装の手入れ ····· 307
内蔵キー ····· 39
夏場の取り扱い ····· 328
7速モード
7速オートシフトモード ····· 146・147
7速マニュアルシフトモード ·· 146・148

ニ

日常の手入れ ····· 302
乳児用(ベビー)シート ····· 17・86

ネ

燃費表示計 ····· 100
燃料(ガソリン)
指定燃料 ····· 52・338
タンク容量 ····· 52・338
燃料計 ····· 99
燃料残量警告灯 ····· 114
補給口 ····· 52

赤色文字の項目は、万一のときの処置についてのものです。

ハ

パーキングブレーキ
　警告灯 …… 112
　積雪・寒冷時の取り扱い …… 322
　操作 …… 142
　戻し忘れ警告ブザー …… 143
ハイドロプレーニング現象 …… 326
ハイビーム表示灯 …… 106
ハイマウントストップランプ …… 189
はさみ込み防止機構
　パワーウィンドー …… 54
　サンシェード …… 56
ハザードランプ(非常点滅表示灯)
　スイッチ …… 137
　電球の交換 …… 289・291
　W(ワット)数 …… 336
発炎筒
　格納場所 …… 256
　発炎筒について …… 257
バックミラー(後写鏡)
　使いかた …… 75
はっ水ガラス …… 305
はっ水シート …… 308
バッテリー
　充電 …… 279
　冬期の手入れ …… 324
　バッテリーあがり …… 278
　容量 …… 336
バニティミラー(化粧鏡) …… 244
ハロゲンバルブについて …… 285
パワーウィンドー …… 54
パワーステアリング(EPS)警告灯 …… 116
パワードアロック(オートドアロック) …… 41
パンク
　積雪・寒冷時の取り扱い …… 319
　パンクしたとき …… 266
番号灯(ライセンスランプ)
　電球の交換 …… 292
　W(ワット)数 …… 336

ヒ

PGM-FI警告灯 …… 113
ヒーター・マニュアル式エアコン …… 202
ヒーテッドドアミラー …… 77
非常点滅表示灯(ハザードランプ)
　スイッチ …… 137
　電球の交換 …… 289・291
　W(ワット)数 …… 336
尾灯
　電球の交換 …… 291・292
　W(ワット)数 …… 336
ヒューズ …… 280
表示灯 …… 104

フ

フォグライト
　スイッチ …… 132
　電球の交換 …… 288
　点灯表示灯 …… 106
　W(ワット)数 …… 336
吹き出し風の調節 …… 193
踏切で動けなくなったとき …… 258
フューエルリッド …… 53
プラグ …… 335
ブレーキ
　液 …… 338
　警告灯 …… 112
　積雪・寒冷時の取り扱い …… 319
　倍力装置 …… 20
　ペダル …… 336
ブレーキアシスト …… 189
フロントコンソールボックス …… 247
フロントシート …… 64
分離収納式シートベルト …… 84・89

へ

ヘッドライト
上向きと下向きの切り換え …… 130
上向き(ハイビーム)表示灯 …… 106
追越合図(パッシング) …… 130
オートレベリング機能 …… 130
スイッチ …… 129
電球の交換 …… 285
ヘッドライトレベリングダイヤル …… 131
W(ワット)数 …… 336
ヘッドレスト …… 65・66
ベビー(乳児用)シート …… 17・86
ベルトのたわみ量 …… 335
ペンホルダー …… 247

ホ

ホイールサイズ …… 339
芳香剤 …… 309
補機ベルト …… 335
方向指示器(ウィンカー)
スイッチ …… 132
電球の交換 …… 289・291
表示灯 …… 106
W(ワット)数 …… 336
ホーンスイッチ …… 137
Hondaスマートキー …… 121
エンジンスイッチ …… 118
エンジンスイッチを
操作できないとき …… 298
電池交換 …… 297
ドア、テールゲートの施錠・解錠 …… 41
Hondaスマートキーシステム警告灯 …… 117
ホンダマルチマチック …… 22・144・150
ボンネット …… 50

マ

マップランプ
使いかた …… 242
電球の交換 …… 293・294
W(ワット)数 …… 336
窓ガラスアンテナ …… 212
マルチマチック …… 22・144・150
万一のとき …… 255

ミ

ミラー
ドアミラー …… 76
ルームミラー …… 75

ム

無線装置 …… 29

メ

メーター(計器類) …… 98

ユ

油圧警告灯 …… 113
雪道走行後の手入れ …… 324

ヨ

幼児用(チャイルド)シート …… 17・86
四輪駆動機構(4WD)
運転するときは …… 188
取り扱いについて …… 188

赤色文字の項目は、万一のときの処置についてのものです。

ラ

ライト消し忘れ警告ブザー …… 129
ライトスイッチ …… 129
ライト点灯表示灯 …… 106
ライト類が点灯しないとき …… 280
ラジオの使いかた …… 216

リ

リムサイズ …… 339
リモートコントロールドアミラー …… 76
リヤコンソールボックス …… 247
リヤシート …… 66
リヤデフロスター …… 135
リヤワイパー …… 135

ル

ルームミラー(防眩式室内後写鏡) …… 75

レ

冷却水(ラジエーター液)
　水量 …… 338
　冬期の手入れ …… 325

ワ

ワイパー
　スイッチ …… 133
　積雪・寒冷時の取り扱い …… 317
ワックスがけ …… 304

A

ABS(アンチロックブレーキシステム)
- 運転のしかた ····· 186
- ABSのしくみ ····· 186
- 警告灯 ····· 187
- 取り扱いについて ····· 187

A/C(エアコン) ····· 192
- インデックス ····· 194
- オートエアコン ····· 196
- ヒーター・マニュアル式エアコン ···· 202
- 吹き出し風の調節 ····· 193
- ベルト ····· 335

AT(オートマチックトランスミッション)
- 運転のしかた ····· 154
- オイル ····· 338
- セレクトレバー ····· 144・150
- マルチマチック ····· 22・144・150

AV入力端子 ····· 254

C

CDチェンジャーコントローラーの
- 使いかた ····· 231

CD/MP3/WMAプレーヤーの使いかた ··· 220

E

ELR付き三点式シートベルト ····· 82
ELR・ALR付き三点式シートベルト ····· 82
EPS(エレクトリックパワーステアリング)
- 警告灯 ····· 116

F

FM/AMラジオ一体式CD/MDステレオ ··· 214

H

Hondaスマートキー ····· 121
- エンジンスイッチ ····· 118
- エンジンスイッチを
  - 操作できないとき ····· 298
- 電池交換 ····· 297
- ドア、テールゲートの施錠・解錠 ····· 41

Hondaスマートキーシステム警告灯 ···· 117

I

INT(間欠ワイパー) ····· 134
ISO FIXテザータイプチャイルドシート
- 固定装置 ····· 94

M

MDプレーヤーの使いかた ····· 227
MIST(ワイパースイッチ) ····· 134

P

PGM-FI警告灯 ····· 113
PRESS(シートベルトバックル) ····· 88・91

S

SRSエアバッグシステム
- SRSエアバッグシステムの効果を
  - 十分に発揮させるために ····· 168
- SRSエアバッグシステムのしくみ ···· 164
- お子さまを乗せるときは ····· 169
- 警告灯 ····· 171
- 作動しないとき ····· 167
- 作動するとき ····· 166
- 取り扱いについて ····· 170

T

TRIP(トリップメーター) ····· 100

W

W数(ライト類の電球のワット数) ····· 336

お車についてのお問い合わせ、ご相談は、まず、Honda販売店にお気軽にご相談ください。

お問い合わせ、ご相談は、全国共通のフリーダイヤルで下記のお客様相談センターでもお受け致します。

本田技研工業株式会社　お客様相談センター

フリーダイヤル　　0120-112010（イイフレアイオ）

受付時間　9：00～12：00　13：00～17：00
〒351-0188　埼玉県和光市本町 8 － 1

所在地、電話番号などが変更になることがありますのでご了承ください。

お車に関してお問い合わせいただく際は、お客様へ正確、迅速にご対応させていただくために、あらかじめ、お手元にお車の車検証をご準備いただき、下記の事項をご確認のうえ、ご相談ください。

①車検証記載事項　車両型式、車台番号、エンジン型式、登録番号、登録年月日
②車種名、タイプ名、走行距離　③ご購入年月日　④販売店名

エアバッグシステム故障診断記録装置について

この車には、エアバッグシステムを制御するためのコンピューターが搭載されており、衝突によりセンサーが一定以上の衝撃を感知したときには次の内容をデータとして記録します。

・エアバッグシステムの故障診断情報
・エアバッグの作動に関する情報
・助手席乗員の有無（サイドエアバッグシステム装備車）

これらのデータはお車を所有されるかたのものであり、次の場合を除き、利用されることはありません。

・エアバッグシステムを点検、修理するとき
・お車の所有者または使用者の同意があるとき
・裁判所の命令等、法的強制力を持つ要請があるとき

こんなことでお困りのとき

●キーレスエントリーまたはHondaスマートキーで解錠しても、自動で閉まってしまう

・キーレスエントリーまたはHondaスマートキーで解錠してから、ドア、テールゲートを開けないまま、約30秒たっていませんか。

キーレスエントリーで施錠・解錠するとき →42ページ
Hondaスマートキーで施錠・解錠するとき →44ページ

●エンジンスイッチが回せない

“0”から“I”に回らないとき（ハンドルロックの解除）

・ハンドルを左右に動かしながらキーを回してください。

エンジンスイッチ（キーを使った操作） →119ページ

・Hondaスマートキーシステム装備車

ハンドルを左右に動かしながらエンジンスイッチを回すか、エンジンスイッチノブを押し直してゆっくり回してください。

エンジンスイッチ（Hondaスマートキーを使った操作） →121ページ

“I”から“0”に回らないとき

・セレクトレバーがPに入っていますか。

キーを抜くとき →119ページ
Hondaスマートキーでエンジンスイッチを“0”に回すとき →124ページ

●エンジンがかからない

・セレクトレバーがPかNに入っていますか。
・イモビライザーシステム表示灯が点滅していませんか。

イモビライザーシステムについて →58ページ

・Hondaスマートキーシステム装備車

Hondaスマートキーに異常はありませんか。

エンジン始動の作動範囲 →122ページ

・ガソリンが入っていますか。（メーター内の燃料計で確認してください。）
・バッテリーがあがっていませんか。

バッテリーあがりのとき →278ページ

●セレクトレバーがPから動かせない

・ブレーキペダルを踏んでから操作していますか。
（操作できないときは、キーをシフトロック解除穴に差し込み、押しながらセレクトレバーを動かしてください。）

セレクトレバーが動かないとき →157ページ

・エンジンスイッチを“II”にしてから操作していますか。

シフトロック装置の正しい理解を →25ページ

●パワーウィンドーの開閉ができない

・パワーウィンドーのメインスイッチが“OFF”になっていませんか。

パワーウィンドー →54ページ

●ドアを開けるとブザーが鳴る

「ピピピピ」とブザーが繰り返し鳴り続けるときは

・キーをエンジンスイッチに差し込んだままになっていませんか。

キー抜き忘れ警告ブザー　→119ページ

・Hondaスマートキーシステム装備車

エンジンスイッチノブを“0”(プッシュオフ)以外にしていませんか。

エンジンスイッチ警告ブザー　→126ページ

「ピー」とブザーが鳴り続けるときは

・ライトを消し忘れたままになっていませんか。

ライト消し忘れ警告ブザー　→129ページ

●後席ドアが室内から開けられない

・チャイルドプルーフが施錠されていませんか。

チャイルドプルーフ　→48ページ

●キーを閉じ込めてしまった

・Honda販売店またはJAFへご連絡ください。

●水温計の針が“H”の目盛に入った
●エンジンルームから蒸気が立ちのぼっている

・オーバーヒートのおそれがあります。

(安全な場所に停車して、エンジンを冷やしてください。)

オーバーヒートしたとき　→276ページ

●走行中にブレーキを踏むと金属的な摩擦音がする

・ブレーキパッドが摩耗して使用限界になっているおそれがあります。

(Honda販売店で点検を行ってください。)

●走行中にブレーキを踏むと、ペダルが振動する

・アンチロックブレーキシステム(ABS)が作動したものと思われます。

ABSのしくみ　→186ページ

●走行するとブザーが鳴る

ブザーが鳴り、シートベルト非着用警告灯が点滅しているときは

・運転席シートベルトを着用していますか。

(運転席シートベルトを着用してください。)

シートベルトリマインダー　→83ページ

ブザーが鳴り、ブレーキ警告灯が点灯しているときは

・パーキングブレーキを完全に解除していますか。

(パーキングブレーキを完全に解除してください。)

パーキングブレーキ戻し忘れ警告ブザー　→143ページ

HONDA

The Power of Dreams

万一、異常や故障などの不具合が生じた場合は、
Honda 販売店で点検整備を受けてください。
各所在地、電話番号については、別冊の「サービス網一覧」
をご覧ください。

インターネットでも取扱説明情報をお伝えしております。
Digital Owner's Manual のホームページ
http://www.honda.co.jp/manual/

30SLA611
00X30-SLA-6112

Ⓞ (HC) .6
© 2007 本田技研工業株式会社